都城市所在

おおくぼ

大窪第1遺跡

西久保地区河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2016

宮崎県埋蔵文化財センター

都城市所在

おおくぼ

大窪第1遺跡

西久保地区河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2016

宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県教育委員会では、西久保地区河川改修事業に伴い、都城市高城町有水に所在する大窪第1遺跡の発掘調査を平成25年度に実施しました。本書は、その発掘調査の記録を掲載した報告書です。

今回報告する大窪第1遺跡は、大淀川右岸の河岸段丘上に位置し、縄文時代後晩期から平安時代までの遺構と遺物が確認されています。なかでも古墳時代の集落跡内では鞴の羽口や金床石といった鋳造関係の遺物が、また平安時代では多量の土師器とともに土師器焼成土坑といった生産遺構がみつかり、大淀川と共に暮らした人々の生活が明らかになるなど貴重な調査成果を得ることができました。

今回の調査で得られた多くの成果は、今後、当地域の歴史を解明する上で非常に貴重な資料になるものと考えられます。

本書が学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財保護に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関をはじめ、地元の方々に心より厚くお礼申し上げます。

平成28年3月

宮崎県埋蔵文化財センター 所 長 岩 切 隆 志

- 1. 本書は、西久保地区河川改修事業に伴い宮崎県教育委員会が実施した、宮崎県都城市高城町有水 1223 - 36 ほかに所在する大窪第1遺跡の発掘調査報告書である。
- 2. 発掘調査は、国土交通省九州地方整備局宮崎河川国道事務所の依頼を受け、宮崎県教育委員会が主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが平成25(2013)年4月10日から平成26(2014)年3月14日まで実施した。
- 3. 現地調査に関する図面作成および写真撮影については日髙広人、津曲健、吉永登志孝が行い、一部 を木場正浩、野崎一人、松林豊樹、二方和也、飯田博之、福田泰典、山元清春、永野一美の協力を得た。
- 4. 整理作業については当センターで行い、本書に係わる業務のうち、遺構と遺物のデジタル整理作業については、日高、木場、二方、小久保守が、遺物観察表及び計測表作成等については、日高、木場、二方、小久保、高橋浩子が行った。また遺物の写真撮影については日高が行った。
- 5. 石器の石材同定については赤崎広志の協力を得た。
- 6. 鉄製品の保存処理および実測については、柳田晴子が行った。
- 7. 空中写真撮影業務は有限会社ふじた、基準点測量等の測量業務については南日本総合コンサルタント株式会社、自然科学分析は株式会社古環境研究所、石器実測委託は株式会社アーキジオ大分にそれぞれ委託した。
- 8. 本書で使用した方位については、国土座標第Ⅱ系(世界測地系)の座標北、国土地理院発行地図は 真北を指す。またレベルは海抜絶対高である。
- 9. 本書で使用した土層断面および土器の色調については農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖(2008年版)』に拠る。
- 10. 本書に使用した位置図は、国土地理院発行の5万分の1図(野尻)をもとに作成した。
- 12. 挿図の縮尺は各図に示している。
- 13. 本書に掲載している遺物のうち、遺物番号 697 ~ 707 については未掲載資料である。
- 14. 本書の執筆は分担して行い、第Ⅲ章1節の土器は吉本正典、それ以外を日高が執筆し、編集は日 高が行った。
- 15. 出土遺物および記録類は、宮崎県埋蔵文化財センターにおいて保管している。

本 文 目 次

序文	
例言	

第Ⅰ章 は	はじめに
第1節	調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第2節	調査の組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第3節	遺跡の位置と環境・・・・・・・・・・・・・・・・3
第Ⅱ章 調	現査の概要
第1節	調査の方法と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	遺跡の層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
为 C 即	夏喇叭眉刀
第Ⅲ章 誹	計画を表現しています。 1987年 198
第1節	縄文時代後晩期の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・14
第2節	弥生時代の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・35
第3節	古墳時代の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
第4節	古代以降の遺構と遺物・・・・・・・・・・・56
第IV章 自]然科学分析
第1節	顔料分析(蛍光X線分析) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
第2節	種実同定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・118
第3節	樹種同定 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
第4節	放射性炭素年代測定 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
2D 크 디	

挿 図 目 次

第 1 図	遺跡位置図 ・・・・・・ 5	第 38 図	弥生時代~古墳時代遺物分布図 ・・・・・・ 52
第2図	調査区配置図 8	第 39 図	土師器実測図 1 ・・・・・・ 53
第 3 図	VII層上面の地形とトレンチ配置図 ・・・・・ 10	第 40 図	土師器実測図 2 ・・・・・・ 54
第 4 図	土層柱状図 ・・・・・・11	第41図	土師器実測図3および鉄製品実測図 ・・・・・・ 55
第 5 図	A 区遺構分布図 · · · · · 12	第 42 図	SE 1 実測図および出土遺物実測図・・・・・・ 57
第 6 図	B区遺構分布図 ·····13	第 43 図	土坑 (SC) 実測図 1 · · · · · 59
第 7 図	土坑実測図 ・・・・・・15	第 44 図	土坑 (SC) 実測図 2 および焼土実測図 1 ・・・・・・ 60
第 8 図	土坑内出土遺物実測図 1 ・・・・・・16	第 45 図	土坑 (SC) 実測図3および焼土実測図2・・・・・・・61
第 9 図	土坑内出土遺物実測図2 ・・・・・・17	第 46 図	土坑出土遺物実測図 1 ・・・・・・・・・・62
第 10 図	縄文時代後晚期遺物分布図 … 18	第 47 図	土坑出土遺物実測図 2 ・・・・・・・・・・・63
第11図	縄文土器実測図 1 ・・・・・ 19	第 48 図	土坑出土遺物実測図3 ・・・・・・・・・ 64
第 12 図	縄文土器実測図 2 ・・・・・・22	第 49 図	土坑出土遺物実測図 4 ・・・・・・・・・・65
第13図	縄文土器実測図323	第 50 図	土坑出土遺物実測図 5 ・・・・・・・・・・66
第 14 図	縄文土器実測図 4 ・・・・・・24	第 51 図	土坑出土遺物実測図 6 ・・・・・・・・・・・ 67
第 15 図	縄文土器実測図 5 ・・・・・・25	第 52 図	焼土出土遺物実測図 ・・・・・・・・・ 67
第 16 図	縄文土器実測図 6 ・・・・・ 26	第 53 図	SZ 1 実測図······69
第 17 図	縄文土器実測図727	第 54 図	SZ 1 出土遺物実測図・・・・・・ 71
第 18 図	縄文石器実測図 1 ・・・・・ 29	第 55 図	古代遺物分布図 · · · · · 72
第 19 図	縄文石器実測図 2 · · · · 30	第 56 図	土師器実測図 1 ・・・・・・ 74
第 20 図	縄文石器実測図331	第 57 図	土師器実測図 2 ・・・・・・・・・75
第21図	縄文石器実測図 4 ・・・・・ 32	第 58 図	土師器実測図3 ••••• 76
第 22 図	縄文石器実測図533	第 59 図	土師器実測図 4 · · · · · · 77
第 23 図	縄文石器実測図 6 · · · · · 34	第 60 図	土師器実測図 5 ・・・・・・ 78
第24図	SA 5 実測図および出土遺物実測図 ・・・・・ 36	第61図	土師器実測図 6 ・・・・・・・・ 79
第 25 図	弥生土器実測図 1 ・・・・・ 37	第 62 図	土師器実測図 7 ・・・・・・・・・81
第 26 図	弥生土器実測図 2 · · · · · 38	第 63 図	土師器実測図8 ・・・・・・82
第 27 図	弥生土器実測図3および石器実測図・・・・・・39	第 64 図	土師器実測図 9 ・・・・・・・・・・83
第 28 図	SA 1 実測図および出土遺物実測図 ・・・・・・ 41	第 65 図	土師器実測図 10 ・・・・・・84
第 29 図	SA 2 実測図 ······ 42	第 66 図	土師器実測図 11 ・・・・・・85
第 30 図	SA 2 出土遺物実測図 1 · · · · 43	第67図	須恵器実測図1 ・・・・・・86
第31図	SA 2 出土遺物実測図 2 · · · · · 44	第 68 図	須惠器実測図 2 ・・・・・・・・・87
第 32 図	SA 3 実測図 ······ 45	第 69 図	瓦質土器および土製品実測図 ・・・・・・ 88
第 33 図	SA 3 出土遺物実測図 1 · · · · 46	第 70 図	鉄製品および滑石製品・石製品・軽石製品実測図
第 34 図	SA 3 出土遺物実測図 2 · · · · 47		89
第 35 図	SA 3 出土遺物実測図 3 · · · · 48	第71図	曆年較正結果 1 ・・・・・・・125
第 36 図	SA 4 実測図 · · · · · 49	第72図	曆年較正結果 2 ・・・・・・126
第 37 図	SA 4 出土遺物実測図 · · · · · 50		

写 真 目 次

与具 Ⅰ	SA 3から田工した	. 亦巴彻塊与具 ******	117	与具 4	倒性미止武科与与	₹ I	128
写真 2	赤色物の顕微鏡写真	草 ······	117	写真5	樹種同定試料写真	Į2·····	129
写真3	種実同定試料写真		127				
			表目	一岁	7		
第1表				第 22 著		>表 4 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
第2表		1		第 23 著		§表 5 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
第3表	縄文土器観察表	2	91	第 24		§表 6 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
第4表	縄文土器観察表	3	•••• 92	第 25		終表7・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第5表	縄文土器観察表	4	•••• 93	第 26	表 古代土師器観察	§表 8 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	108
第6表	縄文土器観察表	5	•••• 94	第 27 ā	表 古代土師器観察	終表 9 ••••••	109
第7表	縄文時代石器計	測表 1 ••••••	•••• 94	第 28 🤻	表 古代土師器観察	終表 10 ⋅・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	110
第8表	縄文石器石器計	測表 2 ・・・・・・・・・・・・・・・	95	第 29	表 古代土師器観察	終表 11 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	111
第9表	弥生土器観察表	1	95	第 30 ā	表 古代土師器観察	終表 12 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	112
第 10 表	長 弥生土器観察表	2	96	第 31 書	表 古代土師器観察	沒表 13 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	113
第 11 表	長 弥生時代石器計	測表 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	97	第 32 表	表 古代土師器観察	§表 14 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	114
第 12 表	長 古墳時代土師器	観察表 1 ••••••	97	第 33 🤻	表 古代土製品計測	測表 ⋅・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	115
第 13 表	長 古墳時代土師器	観察表 2 ••••••	98	第 34 🧎	表 古代鉄製品計測	測表 ⋅・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	115
第 14 表	長 古墳時代土師器	観察表 3 ••••••	99	第 35 ā	表 古代滑石製品記	 	115
第 15 表	長 古墳時代土師器	観察表 4 ・・・・・・・・・・・・・・・	100	第 36 🤻	表 古代石製器計測	測表 ••••••	115
第 16 表	長 古墳時代土製品	計測表 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	100	第 37 暑	表 赤色物の蛍光〉	<線分析結果 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	116
第 17 表	長 古墳時代鉄製品	計測表 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	101	第 38 🤻	表 炭化種実同定約	吉果 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	118
第 18 表	長 古墳時代石器計	測表 •••••	101	第 39 🤻	表 樹種同定結果・		121
第 19 表	長 古代土師器観察	表1	101			弋測定試料一覧 ••••••	
第 20 表	長 古代土師器観察	表2	102			弋測定結果 ••••••	
		表3					
			図 版	目	次		
図版 1 ・	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	135	図版 4	•••••	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	138
	月1遺跡調査区			A 🗵	上層断面	B区土層断面	
図版 2 ・	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	136	作業原	風景	S A 1	
	月1遺跡遠景1				1 埋甕	S A 2	
図版3	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	137	SA	2遺物出土状況1	SA2遺物出土状況:	2
ΛÞ		₽∀					

図版 5 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	139 図版 12146
SA2内横穴状遺構 SA3	SA2・SC1の金床石 SA3出土遺物1
SA3遺物出土状況1 SA3遺物出土状況2	SA3出土遺物2 SA3出土遺物3
S A 4 S A 5	SA4出土遺物
S E 1 S C 1	図版 13 ・・・・・147
図版 6 ・・・・・・	・・・・140 古墳時代土師器(甕) 古墳時代土師器(壺)
SC4遺物出土状況 SC4	古墳時代土師器(高坏)
SC5白色粘土堆積状況 SC5	古墳時代土師器(小型壺・小型鉢・須恵器)
S C 6 S C 9	鉄製品
S C 14 遺物出土状況 S C 14	図版 14 ・・・・・148
図版7 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	・・・・141 SE1・SC1出土土器 SC5出土遺物
S C 17 S C 20	SC6・11・12・焼土出土遺物
S C 21 S C 24	SC13出土遺物 SC14出土遺物
SZ1 検出状況 SZ1 遺物出土状況 1	図版 15 · · · · · · · 149
SZ1遺物出土状況2 SZ1完掘状況	SC4出土遺物1
図版8 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	····142 図版 16······150
S C 17・24 出土遺物 S C 20・21 出土遺物 1	SC4出土遺物2 SZ1出土遺物1
S C 20・21 出土遺物 2 縄文土器 1	図版 17 · · · · · · 151
	e e sant
縄文土器 2 縄文土器 3	SZ1出土遺物2
縄文土器 2縄文土器 3縄文土器 4縄文土器 5	S Z 1 出土遺物 2 図版 18 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
縄文土器 4 縄文土器 5 縄文土器 6	図版 18 · · · · · · 152
縄文土器 4 縄文土器 5 縄文土器 6	図版 18 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
縄文土器 4 縄文土器 5 縄文土器 6 図版 9	図版 18 ・・・・・ 152 古代土師器 (环) ・・・・ 143 図版 19 ・・・・ 153 古代土師器 (高台付境・鉢・赤彩のある土器・黒色土器)
縄文土器 4 縄文土器 5 縄文土器 6 図版 9 縄文土器 7 縄文土器 8	図版 18・・・・・152 古代土師器 (坏)・・・・143 図版 19・・・・・153 古代土師器 (高台付境・鉢・赤彩のある土器・黒色土器) 図版 20・・・・154
縄文土器 4縄文土器 5縄文土器 6図版 9縄文土器 7縄文土器 8縄文土器 9縄文土器 10縄文土器 11石鏃・石錐・両面加工石	図版 18・・・・・152 古代土師器 (坏)・・・・143 図版 19・・・・・153 古代土師器 (高台付境・鉢・赤彩のある土器・黒色土器) 図版 20・・・・154
縄文土器 4縄文土器 5縄文土器 6図版 9縄文土器 7縄文土器 8縄文土器 9縄文土器 10縄文土器 11石鏃・石錐・両面加工石	図版 18 - 152 古代土師器 (环) - 153 古代土師器 (高台付境・鉢・赤彩のある土器・黒色土器) 図版 20 - 154 古代土師器 (甕・甑) - 155
縄文土器 4縄文土器 5縄文土器 6図版 9縄文土器 7縄文土器 8縄文土器 9縄文土器 10縄文土器 11石鏃・石錐・両面加工石掻器・削器石匙・楔形石器・尖頭器	図版 18 - 152 古代土師器 (环) - 153 古代土師器 (高台付境・鉢・赤彩のある土器・黒色土器) 図版 20 - 154 古代土師器 (甕・甑) - 155
縄文土器 4縄文土器 5縄文土器 6図版 9縄文土器 7縄文土器 8縄文土器 9縄文土器 10縄文土器 11石鏃・石錐・両面加工石	図版 18 152 古代土師器 (环) 153 古代土師器 (高台付境・鉢・赤彩のある土器・黒色土器) 図版 20 154 古代土師器 (甕・甑) 3 古代土師器 (甕・甑) 3 古代土師器 (甕・甑) 3 古代土師器 (変・甑) 155 古代土師器 (布痕土器)
縄文土器 4縄文土器 5縄文土器 6図版 9縄文土器 7縄文土器 8縄文土器 9縄文土器 10縄文土器 11石鏃・石錐・両面加工石	図版 18 152 古代土師器 (环) 153 古代土師器 (雨台付境・鉢・赤彩のある土器・黒色土器) 図版 20 154 古代土師器 (甕・甑) 3 古代土師器 (甕・甑) 3 古代土師器 (変・甑) 155 古代土師器 (布痕土器) 古代土師器 (布痕土器) 古代須恵器 (环・高台付境)
縄文土器 4縄文土器 5縄文土器 6図版 9縄文土器 7縄文土器 8縄文土器 9縄文土器 10縄文土器 11石鏃・石錐・両面加工石	図版 18 152 古代土師器 (环) 153 古代土師器 (雨台付境・鉢・赤彩のある土器・黒色土器) 図版 20 154 古代土師器 (甕・甑) 3 古代土師器 (甕・甑) 3 古代土師器 (変・甑) 155 古代土師器 (布痕土器) 古代須恵器 (环・高台付境) 図版 22 156
縄文土器 4 縄文土器 5 縄文土器 6 図版 9 縄文土器 7 縄文土器 8 縄文土器 9 縄文土器 10 縄文土器 11 石鏃・石錐・両面加工石 技器・削器 図版 10 石斧・敲石・石錘 S A 5 出土遺物 弥生土器 1 弥生土器 2 弥生土器 3	図版 18 152 古代土師器 (环) 153 古代土師器 (系) 153 古代土師器 (高台付境・鉢・赤彩のある土器・黒色土器) 図版 20 154 古代土師器 (甕・甑) 3・石核 図版 21 155 155 16人土師器 (布痕土器) 古代須恵器 (坏・高台付境) 図版 22 156 古代須恵器 (鉢・甕・壺) 古代瓦質土器 (坏・高台付境)
縄文土器 4 縄文土器 5 縄文土器 6 図版 9 縄文土器 7 縄文土器 8 縄文土器 10 石鏃・石錐・両面加工石	図版 18

第 I 章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

大淀川は、霧島山麓に広がる都城盆地を経て、宮崎平野を貫流し日向灘に注ぐ九州屈指の河川である。この流域では、昔から人々に豊かな恵をもたらしている反面、時には激しい水流となって洪水等の災害をもたらしている。宮崎市や都城市等の市街部等では大淀川堤内側の地盤高が洪水時の河川水位に比べて低い地形を呈しているため、近年においても平成2年、平成5年、平成9年、平成16年・17年と内水被害が頻発している。特に平成17年9月の台風14号に伴う洪水では床上浸水約3,830戸、床下浸水約870戸にのぼる被害を受け、大淀川上流域にあたる都城市高崎町縄瀬地区や高城町有水地区でも甚大な被害を受けていた。このため国土交通省九州地方整備局宮崎河川国道事務所(以下「宮崎河川国道事務所」)では、これらの地区の洪水時の越水対策として堤防の築堤整備を行うとともに、流下能力の向上対策として河道掘削を計画していた。

宮崎河川国道事務所では、同事業が平成23年度に計画が実施段階へ向けて具体化したことにより、宮崎県教育庁文化財課(以下、文化財課)に埋蔵文化財の有無について照会を行っている。文化財課では、該建設予定対象域(対象面積約15,000㎡)が周知の埋蔵文化財包蔵地である大窪第1遺跡に隣接していることから事前に遺跡の有無と内容を確認するための調査が必要であると判断して協議を開始した。平成25年1月には、宮崎河川国道事務所から対象地の用地引き渡しの連絡を受け、同年1月29日から31日にかけて確認調査を実施した。

その結果、縄文時代後晩期や弥生時代後期、古代(平安時代)等の遺物や遺構が確認し、約 10,000 ㎡の範囲について遺跡の存在が確実となったことから、引き続き、計画変更等の埋蔵文化財保護の方策について協議を行ったが、前述の通り、当該地は台風による浸水被害地域でもあり、地元住民からも早期の事業完了を望んでいることから工事区全域にわたり現状保存が困難という結論に至り、発掘調査による記録保存の措置をとることになった。

平成 25 年 4 月 3 日付けで宮崎河川国道事務所より、調査経費の見積り依頼があり、平成 25 年 4 月 4 日付けで回答を行い、平成 25 年 4 月 9 日付けで委託契約を交わした。本発掘調査は宮崎県教育委員会が主体となって、宮崎県埋蔵文化財センターが平成 25 年 4 月 15 日から平成 26 年 3 月 14 日まで実施した。

第2節 調査の組織

発掘調査及び整理作業・報告書作成については以下の組織で実施した。

調査主体 宮崎県教育委員会

調査機関 宮崎県埋蔵文化財センター

平成 25 年度 発掘調査

宮崎県埋蔵文化財センター

所 長 向井 大蔵

副所長 長津 宗重

総務課長 坂上 恒俊

総務課総務担当リーダー 副主幹 高園 寿恵

調査第二課長 菅付 和樹

調査第二課調査第四担当リーダー 副主幹 松林 豊樹

調查第二課調查第四担当主查日高広人(調查担当)調查第二課調查第四担当主查津曲健(調查担当)調查第二課調查第四担当主查吉永登志孝(調查担当)

宮崎県教育庁文化財課

埋蔵文化財担当 主 査 堀田 孝博(事業調整)

平成 26 年度 整理作業

宮崎県埋蔵文化財センター

所 長 岩切 隆志

副所長兼総務課長 長津 宗重

総務課総務担当リーダー 副主幹 安藤 忠洋

調査課長 菅付 和樹

調査課調査第二担当リーダー 主 幹 吉本 正典

調査課調査第二担当 主 査 日高 広人(整理担当)

宮崎県教育庁文化財課

埋蔵文化財担当 主 査 二宮 満夫(事業調整)

平成27年度 整理·報告書作成

宮崎県埋蔵文化財センター

所 長 岩切 隆志

副所長兼調査課長 菅付 和樹

総務課長 上谷 正隆

総務課総務担当リーダー 副主幹 安藤 忠洋

調査課調査第二担当リーダー 主 幹 吉本 正典

調査課調査第三担当リーダー 副主幹 日髙 広人(整理・報告書担当)

宮崎県教育庁文化財課

埋蔵文化財担当 主 査 松本 茂(事業調整)

第3節 遺跡の位置と環境

1. 地理的環境

大窪第1遺跡は、宮崎県都城市高城町有水に所在する。人口が約17万人、市域面積が約650㎡と県内では宮崎市に次ぐ規模である都城市は宮崎県の南西部に位置し、都城盆地のほぼ中央を占めている。

都城盆地は、北西に高千穂峰(標高 1,174 m)を有する霧島山火山群をはじめ、西に瓶台山(標高 534 m)や白鹿岳(標高 604 m)が属する高隈山地、東から南にかけて東岳(標高 898 m)や柳岳(標高 968 m)が連なる鰐塚山地に囲まれている。また盆地中央部には、大淀川が多くの支流と合流しながら南から北へと貫流し、低地を取り囲むように成層シラス台地やシラス台地群が発達している。

当遺跡が含まれる西久保地区は、西に大淀川、南にその支流の有水川、東に高尾山(標高 351 m)・岩骨岳(標高 372 m)が連なる岩骨山地、北に轟丘陵地に挟まれるように田辺-有水台地群が形成されているほか、河川近くでは河岸段丘が発達している。遺跡は河岸段丘上に立地し、東に広がる成層シラス・シラス台地との接続付近には北と西の両側から低地が入り込み、また北流する大淀川が遺跡付近で東に向きを変えることで北西に突き出した扇状を呈した地形となっている。現況では段丘上で畑地が、低地には水田が広がっている。なお、調査地との標高は約 131 m、西に隣接する大淀川とは、比高差は8 mを測る。

2. 歷史的環境

当遺跡の所在する高城町域では、これまでにも多くの調査が行われており、旧石器時代から中世にかけての遺跡が確認されている。ここでは周辺地域の歴史的環境について、時代別に概観していきたい(第1図)。

旧石器時代

都城地域では当該期の調査事例が少ないものの雀ヶ野第3遺跡(高城町)で後期旧石器時代末から縄 文時代草創期にかけて細石刃や細石核(野岳・休場型)、有舌尖頭器が出土している。

縄文時代

早期では、高八重遺跡(高城町)で集石遺構とともに妙見式土器が確認されているほか、平松遺跡(高崎町)では平栫式土器や塞ノ神式土器期の集落跡が検出されている。また雀ヶ野第3遺跡では押型文土器群や桑ノ丸式土器、手向山式土器、平栫式土器や塞ノ神式土器等が集石遺構とともに出土している。

後期になると調査事例が多くなり、高城町細井地区遺跡群のうち山城第1遺跡で竪穴建物跡59軒等が確認されており、出土土器から指宿式期、草野式・市来式期、黒色磨研土器期の3時期に分かれる。また同遺跡群内の上原第1遺跡では市来式期・丸尾式期の竪穴建物跡が、上原第3遺跡では指宿式期・納曽式期のかに晩期の孔列文期の竪穴建物跡が検出されている。

弥生時代

当該期の調査事例は少なく、中期では、朴木遺跡(高崎町)で石蓋土壙墓 11 基確認されており、そのうちの1 基から副葬品として多量の磨製石鏃が出土している。後期では、城ヶ尾遺跡(高城町)の竪穴建物跡 3 軒、様屋敷第 2 遺跡(高崎町)でも 1 軒、上示野原遺跡で後期終末から古墳初頭のものが 1 軒確認されている。

古墳時代

この時期になると高城町では、有水地区をはじめ、南部の石山地区、さらに南東部の大井手地区に高城町古墳群(県指定)が造営されている。そのうち石山地区では円墳2基(高城町古墳16・17号墳)の北側では、高取原地下式横穴墓が1基、香禅寺遺跡では地下式板石積石室や地下式横穴墓が各1基確認されている。大井手地区では、本格的な墳丘調査は行われていないが、周辺の牧ノ原遺跡群では地下式横穴墓や箱式石棺墓、木棺直葬墓、土壙墓が多数検出されている。また高崎町では高崎塚原古墳(県指定高崎町古墳)をはじめ、横尾地下式横穴墓群や原村地下式横穴墓群、鵜ノ原地下式横穴墓群などの地下式横穴墓が確認されている。

一方、集落については、上原第1遺跡や山城第1遺跡で古墳時代中期の竪穴建物跡が確認されている。 古代

古代(平安時代)の調査事例のうち、城ヶ尾遺跡では掘立柱建物跡 1 棟を確認し、土師器・須恵器・製塩土器等の遺物が出土している。また山城第 1 遺跡第 3 次調査でも、掘立柱建物跡 1 軒が検出されており、柱穴への一括廃棄と考えられる土器集積遺構が確認されている。真米田遺跡(高城町)では大型掘立柱建物跡をはじめとする掘立柱建物跡および柵列を合計 28 棟、楕円形周溝墓 1 基、土師器焼成土坑や井戸跡を含む土坑を 71 基、溝状遺構 13 条等が確認されており、風字硯や中国産の貿易陶磁器や国内産の緑釉陶器の出土から在地有力者の居宅跡あるいは公的施設の一部と考えられている。

古代~中世にかけての遺跡としては、七日市前遺跡(高城町)が挙げられる。七日市遺跡では、掘立柱建物跡 5 棟と古代の溝状遺構、中世の土坑等が確認されている。土坑内からは、近辺に存在したと伝えられる高称寺(時宗)との関連を窺わせる錫杖も出土している。

中世

南北朝期になると高城町でも高城(月山日和城)はじめとする中世城郭が造営されるようになる。高城は、南九州の典型とも言える群郭式の城で大規模な堀で独立させた7つの曲輪で構成されており、肝付兼重が南朝方の拠点として、北朝方の畠山直顕と争う等、庄内の乱まで激しい争奪戦が繰り広げられていた。

大窪第1遺跡周辺に目を向けると、遺跡南側台地上には、応永年間(1400年頃)に島津豊久によって築かれた下之城(三俣下城)やその支城須田木城(古城)が確認されているほか、大淀川を挟んだ西岸の丘陵上に柳の城、北側山上には元亀2年(1571年)に伊東義祐が伊東加賀守を配した木場城(ともに高崎町)が見られる。なお、明応4年(1495年)に伊東氏が三俣院を手中に治めた際、下之城に福永丹波守を配するなど、この地が戦略上の要所であったことが窺える。

引用・参考文献

宮崎県 1981『小林・西諸県地域 土地分類基本調査 野尻』

高城町教育委員会 1989『城ケ尾遺跡』 高城町文化財調査報告書第1集

高城町教育委員会 2004『細井地区遺跡群』高城町文化財調査報告書第14集

高城町教育委員会 2005『雀ヶ野遺跡群』 高城町文化財調査報告書第 18 集

高城町教育委員会 2005『高取原地下式横穴墓』 高城町文化財調査報告書第 19 集

高城町教育委員会 2005『牧ノ原遺跡群』 高城町文化財調査報告書第 20 集

宮崎県教育委員会・南九州城郭談話会 1999『宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書Ⅱ』解説編

都城市教育委員会 2013『平松遺跡』都城市文化財調査報告書第 108 集

都城市教育委員会 2014『真米田遺跡・七日市前遺跡』都城市文化財調査報告書第 111 集

1:大窪第1遺跡 2:下ノ城 3:須田木城 4:上原第1遺跡 5:上原第2遺跡 6:上原第3遺跡 7:山城第1遺跡 8:高八重遺跡 9:(県)高城町古墳14号 10:(県)高城町古墳15号 11:(県)高城町古墳19・20号 13:(県)高城町古墳21・22号 14:高取原地下式横穴墓 15:香禅寺遺跡 16:横尾地下式横穴墓群 17:原村上地下式横穴墓群18:(県指定)高崎町古墳(高崎塚原古墳) 19:鵜ノ原地下式横穴墓 20:柳の城 21:木場城 22:すかしの城 23:朴木遺跡 24:上示野原遺跡 ※(県):県指定史跡

遺跡位置図 (1/50,000)

第1図

第Ⅱ章 調査の概要

第1節 調査の方法と経過

工事は、調査対象地の中央付近で二分割し、同時進行していくため、調査区については下流側をA区、 上流側をB区に設定し、それぞれの工事工程を勘案して、A地区をさらに三分割(南からA1・A2・ A3区)、B区は二分割(北からB1・B2区)した。

平成25年4月の協議では、A区に河川敷に降りる工事用道路を設置する必要が生じたため、工事用道路をA3区に設置、A1区及びA2区南半分に排土を置き、A2区から調査を行うことになった。またB区では法肩の工事を急ぐためB2区北側に工事用道路を設置し、B1区の調査から行うことになった。またA区の一部には竹や立木等が残された状態になっており、伐採作業や工事用道路設置が終わるのを待って、本調査を開始することとなった。なお、4月15日には竹の抜根作業及び土質試験の立ち会いを行っている。

調査は、国土座標(X=、Y=)を起点に $10 \text{ m} \times 10 \text{ m}$ がリッドを $1 \text{ 単位として調査区全体に覆う ように設定し、南北方向にアルファベット(北より A.B.C…)、東西方向に算用数字(東より <math>1.2.3\cdots$)を付したものを組み合わせてグリッド名(例:A1 グリッド)とした。遺構番号や遺物取り上げ番号については、同時並行で調査を行うことで番号の重複が想定されたことから、それぞれの地区で番号を付けている。なお遺構番号については、両地区併せて報告することから、整理作業時に連番に振り直した。掘り下げについては、基本的に表土(I 層)から高原スコリア層(III 層)まで重機による掘削を行った後、

照色土層(IV層)から人力による掘り下げを行っているが、A区南端や中央部のように表土下がすぐ霧島御池軽石層(VII層)を確認したところも認められた。面的な掘り下げを行うに先だち、地形に沿ってトレンチを設定して掘り下げ、土層の観察や遺構・遺物の有無とその広がりを確認しながら、グリッドごとに掘削、遺構・遺物を確認した時点で、周辺に拡張する方法をとった。なお、遺構検出は、上記以外にも黒色土層(VI a 層)及び霧島御池軽石層(VII層)上面で行っているが、なかにはにぶい黄褐色土層(V a 層)上面で検出したものもある。

遺構実測は、基本的に土坑等を縮尺 1/10、竪穴建物跡及び柱穴、溝状遺構の土層断面等を縮尺 1/20 での手測り実測による図化を行ったが、溝状遺構や柱穴の一部については、トータルステーションを用いて記録した三次元座標を基にデジタル図化も行っている。

また出土遺物のうち、包含層のものについては、基本的にトータルステーションを用いて三次元座標の記録を行っているが、遺物集中箇所については、別途、縮尺 1/10 で図化作業を行っている。

写真撮影は関しては、基本的に35mmの小型フィルムカメラでカラーリバーサルフィルムとモノクロフィルムを用いて撮影したほか、デジタルカメラでも記録を行っている。なお、遺構の一部については、6×6cmの中判フィルムカメラも使用して撮影を行った。また空中写真については、VII層上面で撮影を行っている。

以下、調査区ごとに調査の経過を説明していきたい。

平成25年5月7日からA2区及びB1区の表土剥ぎを行い、その後5月15日から作業員を雇用して掘り下げ作業を開始した。

開始してまもなく、A区側の工事計画の変更に伴い、早急にA1区の工事を行う必要が生じた。こ

のため急遽6月からA1区に変更して行うことになった。A1区については6月3日から重機による表土剥ぎを行い、人力による包含層掘削後、W層上面で遺構検出を行い、遺構の掘り下げを行った。7月18日に空中写真撮影、22日に調査を終了した。

A 2区については、7月8日から調査を再開し、29日からA 2区南側の表土剥ぎを行った。調査では、南北に延びる埋没谷が入る関係で堆積が厚く、そこから古代の土師器等が多量に出土するなど時間を要した。11月8日に空中写真撮影し、調査を終了した。

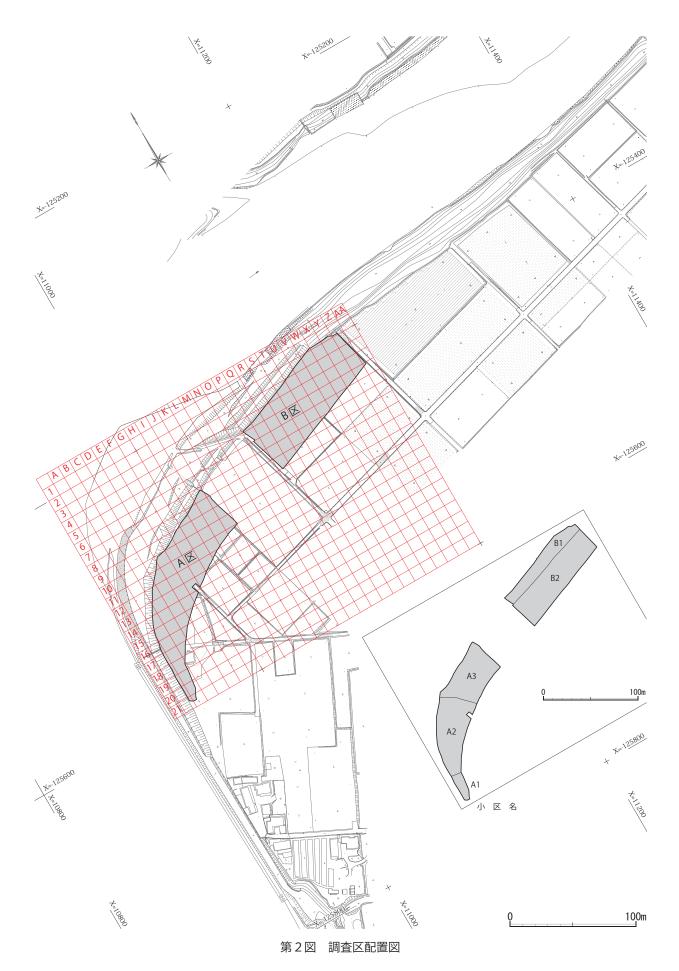
B1区については、前述の通り、5月15日から作業員を入れて包含層掘り下げを行った。竪穴建物跡や溝状遺構、土坑、ピット群を検出し、8月28日に空中写真撮影、29日に終了した。

B2区は9月6日からの重機による表土剥ぎ、18日から包含層掘削作業を開始した。表土剥ぎ作業中に、今度はB区側の工事計画が変更され、12月に調査区北側に新たな工事用道路を作る必要がでてきた。このため、北側の調査を優先して進めることになり、北側については11月29日に空中写真撮影、12月2日に地形測量を行い、3日に調査を終了した。残り南側については、2月4日に空中写真撮影を行い、遺構実測及び土層断面実測を10日に終了した。12日からはトレンチを7箇所(BTr1~7)設定し、重機を使ってVII層除去作業を行った。さらにBTr2・5についてはX層上面まで掘削を行い、うちBTr5の一部についてはX層の層厚を確認するため、さらに掘り下げたが湧水のため、それ以上の掘削を断念した。BTr2についてもその後の降雨で水没したため、掘り下げを行えなかった。残りの5箇所については黒色土(VIII層)以下の掘り下げを行ったが、IX層中またはX層上面で水がしみ出し始めたため調査を断念した。遺物や遺構等は確認されなかった。2月28日に重機や水中ポンプを使って埋め戻しを行い、同日終了した。

なお、調査で検出した遺構の一部については、埋土中で炭化物が多量に認められたことから、センターに埋土を土嚢袋に入れて持ち帰り、平成 26 年度にフローテーションによる選別作業を行った。

	区 名	平成 25 年									平成 2	平成 26 年		
- 1년 12		2 名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	1 6/37/22													
Α	2		5/7…		7/8				11/8					
	3								11/11				3/14	
	1		5/7…				8/29							
В	2	北					9/6…			12/3				
	2	南					9/6…	10/6					2/28	

第1表 調査工程表



第2節 遺跡の層序

本遺跡の基本層序は、A・B区の層序を組み合わせて設定した。

I層:2層に分層でき、Ia層は現表土、Ib層は現代の造成土である。

Ⅱ層:やや硬質でしまりが有る黒褐色土で、霧島高原御鉢スコリアを散漫に含む。旧耕作土である。

Ⅲ層:霧島高原御鉢スコリア層(1235年)である。

IV層:やや硬質でしまりが有る黒色土で、スコリア(霧島高原御鉢スコリアか)の有無で2層に分層 (a、b)できる。そのうちa層では3㎜以下のスコリアを僅かに含む。b層はB区の南側~東側のみで確認できる。遺物包含層である。

V層:やや硬質でしまりが有るにぶい黄褐色〜黒褐色土で5mm以下の霧島御池軽石を僅かに含む。2層に分層(a:にぶい黄褐色、b:黒褐色土)でき、b層はVI層との漸移層でa層より粘性がある。 B区では、ほとんど確認できなかった。遺物包含層である。

VI層: 粘性が強く、しまりが有る黒色土~黒褐色土層で、霧島御池軽石の含有量により、さらに2層に 分層(a、b)でき、下位にいくほど同軽石の含有量が多い。両地区で確認できるが、b層について はA区の谷間で存在しない箇所も認められた。遺物包含層である。

Ⅷ層:霧島御池軽石層(約4,600年前)

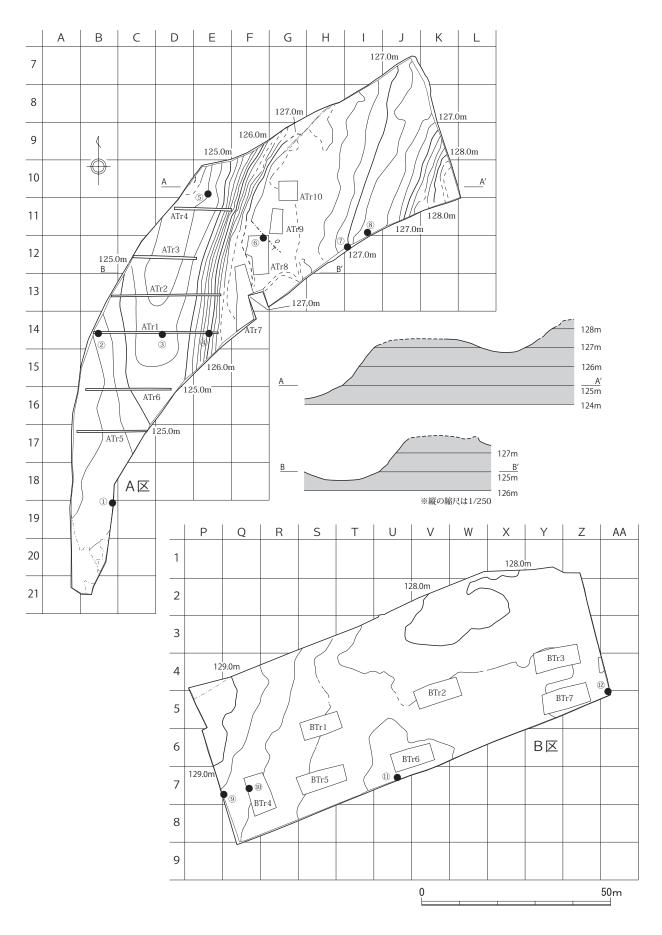
Ⅷ層:細粒で粘性が強く、しまりが有る黒色土層。無遺物層。

IX層:水気を帯び、細粒で粘性が強く、しまりが有る暗褐色土。鬼界アカホヤ火山灰粒を散漫に含む。 B区では全てのトレンチ (B Tr $1 \sim$ B Tr 7) で確認した。無遺物層。

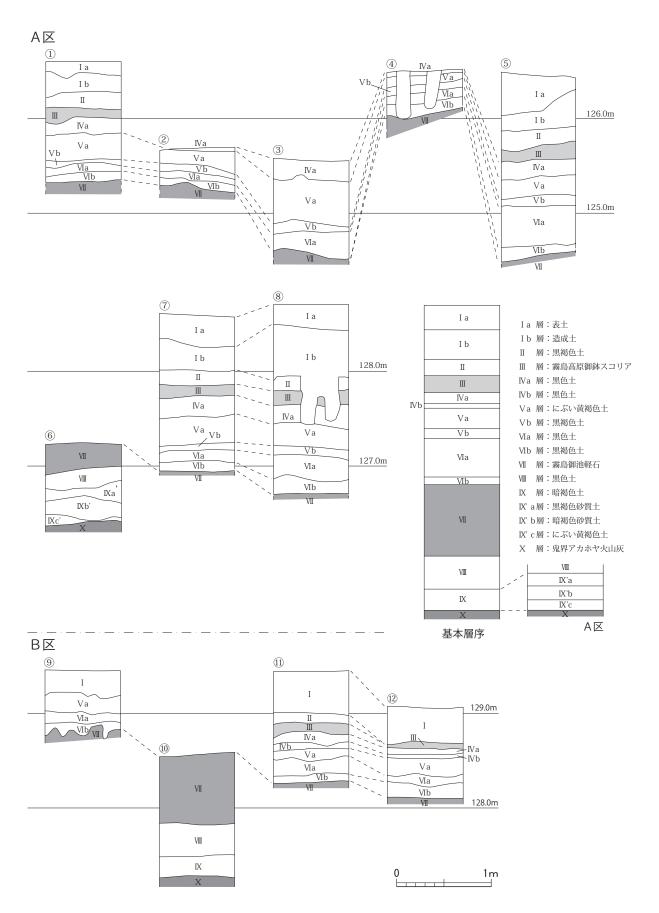
IX '層: A区では、B区のものより砂質が強く、別途設定した。色調より3層に分層(a: 黒褐色砂質 土、b: 暗褐色砂質土、c: にぶい黄褐色砂質土) に分層した。下位にいくほど鬼界アカホヤ火山 灰粒の含有量が多く、しまりが強くなる。いずれも無遺物層である。

X層: 鬼界アカホヤ火山灰(約7.400年前)

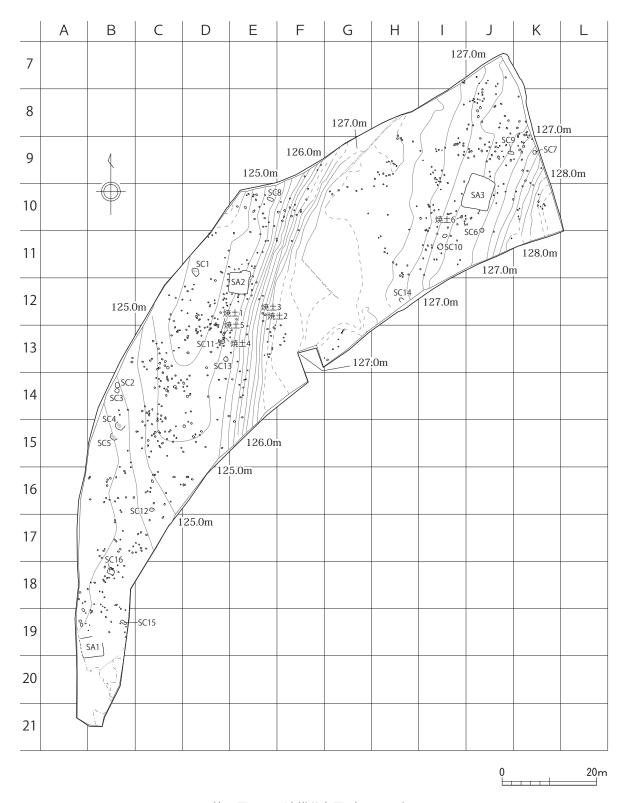
遺物包含層は、両区ともIVa 層 \sim VIb 層 overall 配 overall を overall 配 overall を overall 配 overall ov



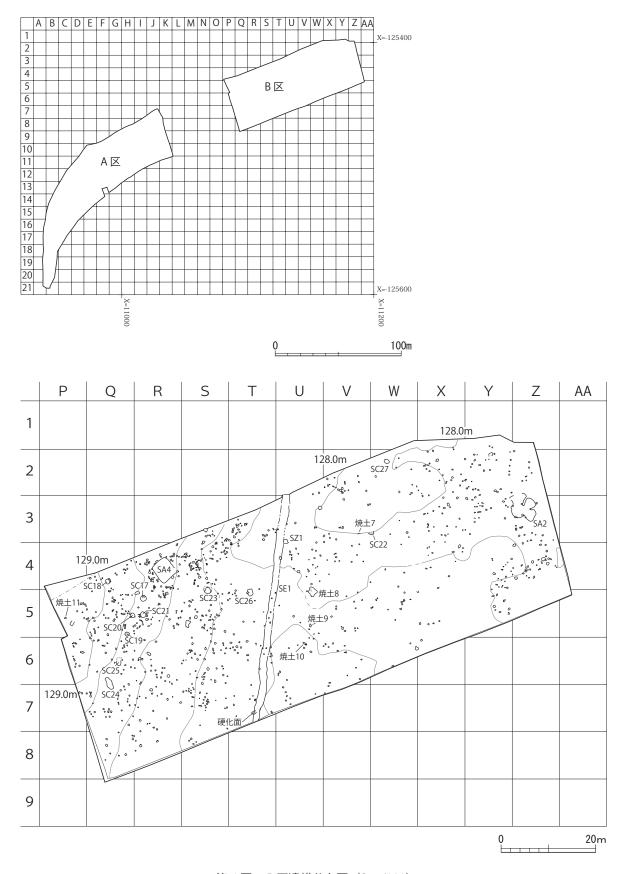
第3図 VII層上面の地形とトレンチ配置図 (S=1/1,000)



第 4 図 土層柱状図 (S=1/40)



第5図 A区遺構分布図 (S=1/800)



第6図 B区遺構分布図(S=1/800)

第Ⅲ章 調査の記録

第1節 縄文時代後晩期の遺構と遺物

本遺跡では、A 区及びB 区の両方で縄文時代の遺物が約 1,500 点確認されており、そのうちB 区が約 86% を占める。また当該期の遺構は、B 区で土坑 9 基(S C $17 \cdot 18 \cdot 20 \cdot 21 \cdot 23 \cdot 24 \sim 27)を <math>V$ 四層上面で確認した。埋土は、いずれも御池軽石を含む黒褐色土で、2 層から 3 層に分層される。なお、 V 四層上面で検出したピットのうち、一部で弧状に巡るものも認められた。

1. 遺構

(1) 土坑

17号土坑(SC17)(第7図、第8図1・2)

B区R5グリッド北西部で検出した。規模は1.2 m×1.18 mの円形に近いプランを呈し、検出面からの深さは0.59 mである。北東側はピットに切られている。遺物は、遺構上部から中程にかけて出土している。また炭化物も認められたことから、埋土をサンプリングし、フローテーションによる選別作業を行ったが、種実等は確認されなかった。

出土した遺物のうち、1は小振りな鉢の器形で、器面に磨きを施す黒色磨研土器系の精製品である。 口縁部の肥厚帯とその下部、および胴部の屈曲部に細い沈線を巡らせる。2は深鉢の口縁部であろう。 外面は粗めのナデ調整である。

18号土坑(SC18)(第7図、第8図3)

B区Q4グリッド南部中央で検出した。南東約8.5 m先には、17号土坑が位置する。土坑の東側はピット3基に切られているが中場から底面の形状より、楕円形プランを呈しているものと考えられる。また東側の中場には、テラスが認められる。規模は $1.03 \text{ m} \times 0.8 \text{ m} + \alpha$ 、検出面からの深さは約0.4 mである。

遺物は、遺構上部から中程にかけて出土している。3は断面三角形の刻目のない突帯の部位で、晩期 土器の鉢か深鉢の口縁部近くと推測される。

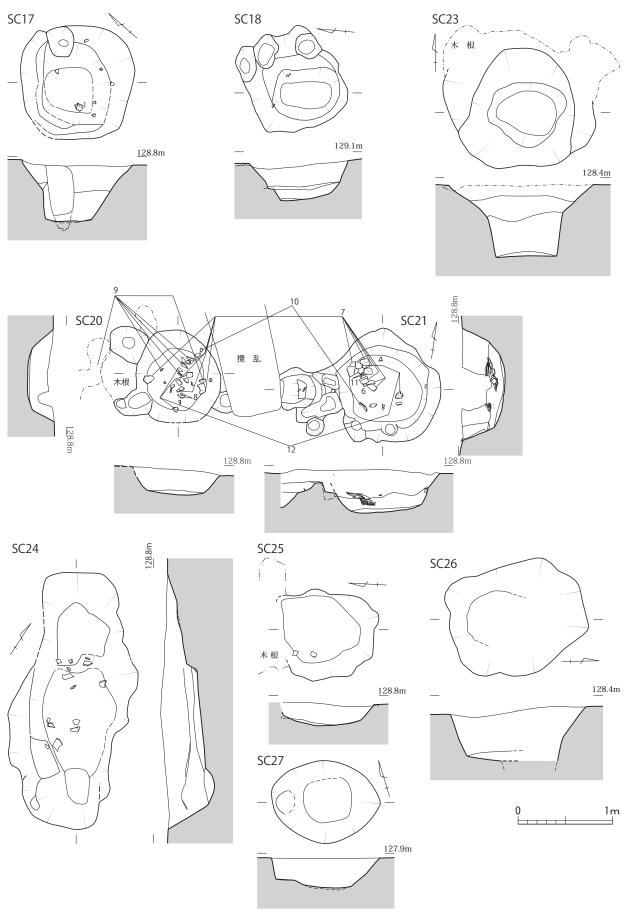
20号土坑(SС 20)(第7図~第9図5~7・9~12・14)

B区Q5グリッド中央東側からR5グリッドにかけて検出した。東へ約1 m先には、21号土坑が位置する。規模は $0.98 \text{ m} \times 0.9 \text{ m}$ の楕円形プランを呈し、検出面からの深さは0.27 mである。西側や東側は、ピットや木根等に切られている。

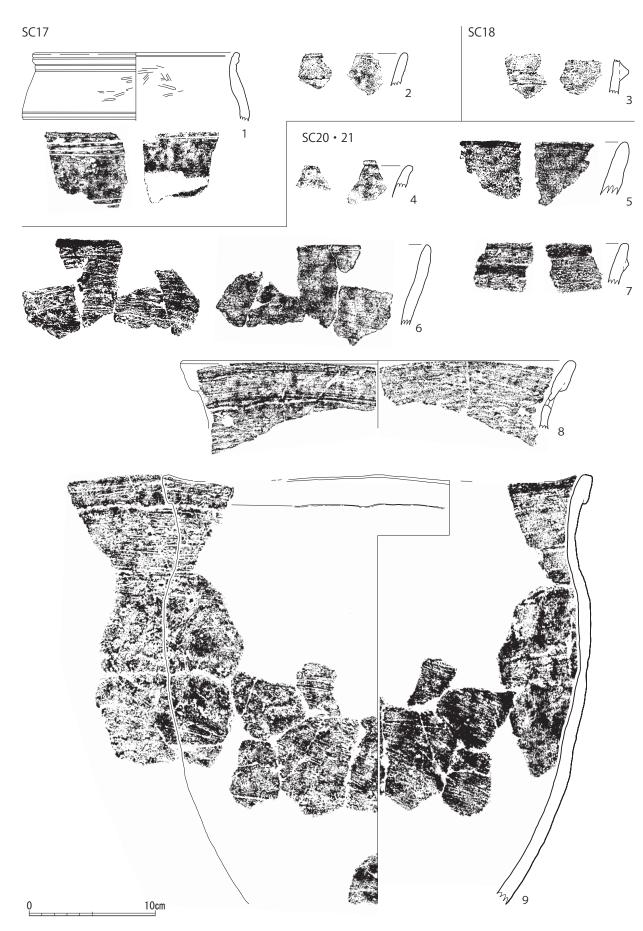
遺物は、遺構上部から下部にかけて出土している($5\sim7\cdot9\sim12\cdot14$)。そのうち6や $9\cdot10\cdot12\cdot14$ の遺物については、後述する 21 号土坑内の土器片と接合関係にある。 $11\cdot12$ は晩期の浅鉢で、同一個体の可能性がある。外面にミガキを施し、黒褐色の色合いとなる。胴部は稜線を形成して屈曲する。口縁部内面には明瞭な沈線を巡らせる。11 には補修孔が認められる。また 12 の口縁部と胴部には、リボン状、あるいはヒレ状の突起が付される。14 は平底の精製浅鉢ないしは鉢であろう。薄手で、外面はよく研磨されて黒色を呈する。

21号土坑(SC21)(第7図~第9図4・6・8~10・12~14)

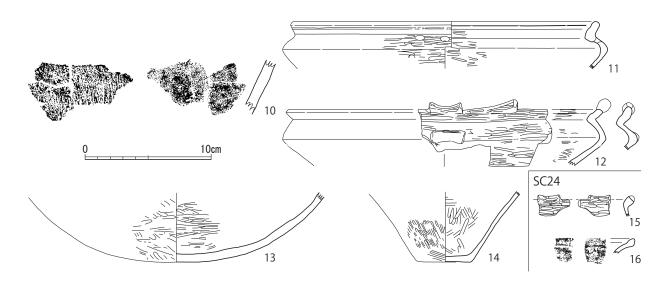
B区R 5 グリッド中央西側で検出した。規模は $1.25 \text{ m} \times 1.07 \text{ m} + \alpha$ の楕円形プランを呈し、検出



第7図 土坑実測図 (S=1/40)



第8図 土坑内出土遺物実測図1 (S=1/3)



第9図 土坑内出土遺物実測図2 (S=1/3)

面からの深さは 0.45 mで、20 号土坑と比べ一回り大きい。なお西側は、ピット等に切られている。

遺物は、遺構中部から下部にかけて出土している($4\cdot 6\cdot 8\sim 10\cdot 12\sim 14$)。8 は晩期土器の深鉢。口縁部に肥厚帯を巡らせる。肥厚帯の下に補修孔とみられる穴が認められる。外面・内面とも粗い条痕を施す。内面はケズリ状となる。二次的な火熱を受けたためか変色している箇所がある。9 は晩期の深鉢で口縁部に幅約 2cm 肥厚帯を巡らせる。13 は浅鉢の底部か。外・内面にミガキを施す。ただし単位は粗大で、タッチも 14 などと比較すると粗い。

23 号土坑 (SC 23) (第7図)

B区S 4 グリッド中央南側から S 5 グリッドにかけて検出した。西へ約 12 m先には、17 号土坑が位置する。規模は $1.67~\text{m}\times 1.32~\text{m}+\alpha$ の楕円形プランを呈し、検出面からの深さは 0.74~mである。断面形は底面から中場にかけてまっすぐに伸び、中場から上場にかけて外方向へと開く。なお北側は、木根等に切られている。遺物等は確認されていないが、埋土の特徴や周辺の遺物出土状況より当該期のものとした。

24 号土坑 (SC 24) (第7回、第9回 15·16)

B区Q6グリッド中央南側からQ7グリッドにかけて検出した。北東へ約3.5 m先には、25号土坑が位置する。規模は2.72 m×1.26 mの長楕円形プランを呈し、検出面からの深さは、最深で0.5 mを測る。また北側には $0.64m \times 0.54$ m不整形のテラスを有し、底部南側には窪みが見られることからピットや別土坑と複数切り合っている可能性も考えられたが、土層断面では判断できなかった。

遺物は遺構上部から中部で確認されている。15 と 16 は晩期の浅鉢。15 は玉縁状の口縁部突帯を巡らせる。当該期の土器の特色であるリボン状の突起を付す。16 も同様の口縁部突帯が認められる。なお出土した土器片のうち、Q 6・Q7 グリッド等で出土している組織痕土器(99・100)と接合するものも確認されている。

25 号土坑 (SC 24) (第7図)

B区Q6グリッド中央で検出した。北側は木根等に切られている。規模は $1.0 \text{ m} + \alpha \times 0.96 \text{ m}$ で底面の形状から楕円形プランを呈すると思われる。検出面からの深さは、0.26 mである。遺物は遺構上部で縄文晩期の土器小片が確認されている。

26号土坑(SC26)(第7図)

B区T 4 グリッド中央南側からT 5 グリッドにかけて検出した。西へ約 7.8 m先には、23 号土坑が位置する。規模は $1.48 \text{ m} \times 1.2 \text{ m}$ の楕円形プランを呈し、検出面からの深さは 0.58 mである。底面の北側は、ピットに切られている。遺物等は確認されていないが、埋土の特徴や周辺の遺物出土状況より当該期のものとした。

27号土坑(SC27)(第7図)

B区W 2 グリッド中央よりやや北西部寄りで検出した。他の遺構の分布から離れており、26 号土坑とは約 39 m離れている。規模は $1.18~\text{m}\times 0.88~\text{m}$ の楕円形プランを呈し、検出面からの深さは 0.3~mを測る。南側にはテラスを有する。遺物等は確認されていないが、埋土の特徴や周辺の遺物出土状況より当該期のものとした。

2. 包含層の遺物

(1) 土器(第11図~第17図17~105)

包含層から出土した縄文土器は、後期から晩期にかけての時期に属するものである。後期に属する土 器はほとんどが小破片であり、数量的にも晩期に属するもののが多い。以下、特徴的な個体について所 見を記す。

後期(第11図17~33)

17の外面文様は、沈線による区画を意図するもので、縄文の施文は認められないが、磨消縄文系の影響を受けた後期前葉の土器の特徴とみられる。

20・21 と 23・24 は貝殻文系に属する土器で、外面の口縁部に貝殻腹縁による横方向に連続する圧痕文を施す。

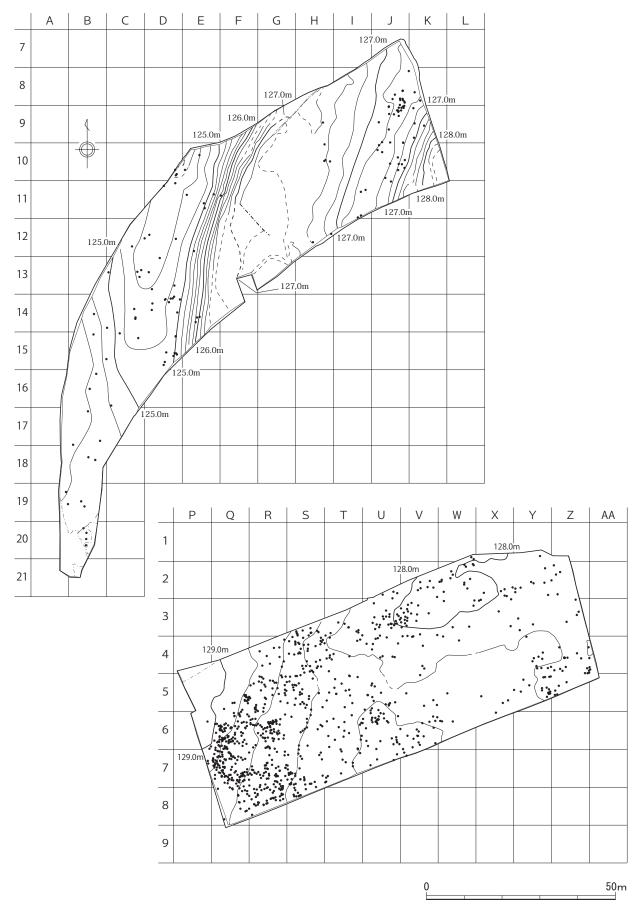
22 は北久根山式に特徴的な口縁部を肥厚させる深鉢。波状口縁となる。口唇部には刻目が入る。外面には斜方向の短沈線文を施す。

25~29 は口縁端部を肥厚させ、外面に横方向の沈線文を施す。28 と 29 には肥厚させた文様面の下部に列点文を施文する。いずれもミガキ調整がなされる。31 は頸部が屈曲し、おそらくは球形に近い胴部が付く深鉢か鉢と思われる。頸部には列点文を施し、胴部の沈線間には複節の縄文が認められる。32 も同様の特徴を有する口縁下部~頸部にかけての破片である。33 も同種の胴部で細い沈線の間に不明瞭ではあるが縄文が施されている。

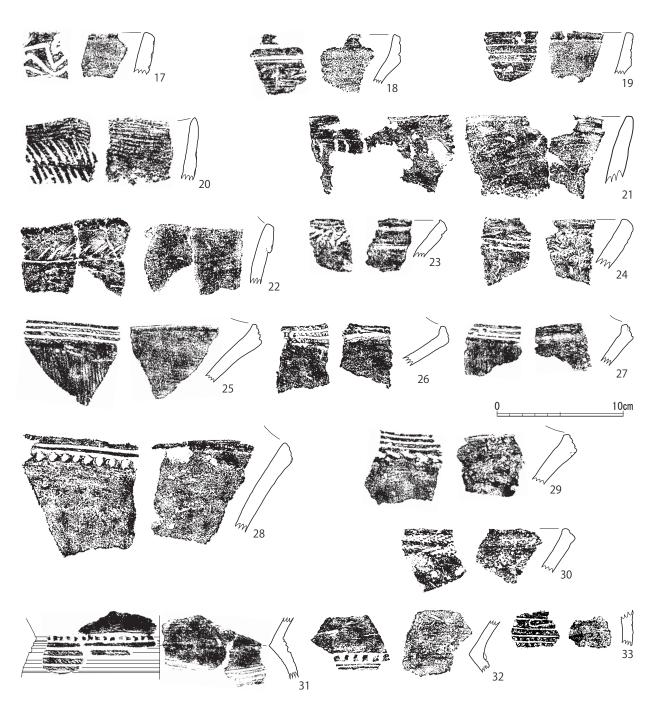
晚期(第12図~第17図34~105)

34 は胴部の張る器形の深鉢で、口縁部は直線的に外に開く。わずかに頸部近くが厚くなり、頸部に段が形成される。口縁部も含めて外面は粗いナデ調整が施される。内面も調整は丁寧ではなく、特に胴部には接合痕が明瞭に残る。35 も同種の深鉢。36 は深鉢の肩部~胴部にあたる。外面の肩部以上は比較的丁寧なナデ調整が施されるが、胴部は粗めの貝殻条痕が施される。ただし、器面の全面がケズリ状の調整によって多孔質となるという訳ではなく、部分的にはミガキ状の調整による光沢も発している。色調は、当該期の深鉢に多い黒褐色系ではなく、黄色味が強い。37 は鈍く「く」字形に屈曲する深鉢で、外面は貝殻条痕を施す。

40 と 42 は口縁部が内湾する器形を呈する。鉢であろう。42 は口縁部外面の上部は接合の痕跡が明



第 10 図 縄文時代後晩期遺物分布図 (S=1/1,000)



第 11 図 縄文土器実測図 1 (S=1/3)

瞭に観察できる。内面はミガキ調整がなされる。

43 は、全体形は不明だが、胴部が鈍く屈曲する深鉢であろう。口縁端部にはいわゆる鰭状の突起が付く。また、屈曲部付近に横方向の瘤状の短い突帯が付く。外面口縁部と内面の屈曲部以下には貝殻条痕が施される。44 は口縁部がほぼ直に立ち上がる鉢であろう。屈曲部が認められ、丸味を帯びて底部に至るのであろう。口縁端部に鰭状突起が付く。

45 と 58 は口縁部が内折する。深鉢あるいは鉢と考えられる。おそらくは後期後葉の土器に顕著な口縁部文様帯の残存形であろう。ただし、器面はミガキや丁寧なナデ調整がなされるが、外面に文様は認められない。

46~50は口縁部に肥厚帯を巡らせる深鉢ないしは鉢である。46は口縁部の肥厚部が蒲鉾状となり、図面ではあまり明瞭でないが、下部に鈍い段が形成される。外面に主に横方向の貝殻条痕が施される。47も特徴は似るが、肥厚部の幅は狭い。48は傾きから判断して鉢であろう。外面の上半部は横方向のミガキが施され、部分的に光沢を発する。下半部はやや粗めの工具によるナデ調整となる。49は肥厚部の幅が広く、下端は三角突帯状となる。肥厚部の下半部以下にススが付着している。50は肥厚部の幅は狭く、高さもわずかなものである。

 $51\sim57$ は刻目のない突帯が巡る深鉢、あるいは鉢である。このうち $51\sim53$ は上述の肥厚部を形成する一群と特徴的に近い。 $54\sim57$ は肥厚帯の中位付近をなでつけることによって、その下端部に断面三角形の突帯状の高まりを形成する。なお 57 については、外面に付着する炭化物について年代測定を行ったところ、 14 C 年代(AMS)は、 2805 ± 20 年 BP(暦年代:B C $1007\sim907$ 年)の測定値を得ている。

 $59 \sim 64$ は孔列文を施す深鉢、ないしは鉢である。孔列は、いずれも外面からの刺突によるもので、内面まで貫通しない。59 は胴下部のわずかな屈曲から、鉢に近い形状であった可能性が指摘できる。孔列文の近くは細めの工具によるナデ、それ以下はミガキ状のナデ調整である。60 は断面「D」字形の突帯を巡らせ、その下部に孔列文を施す。62 は内面に接合痕が明瞭に残る。外面はススが付着し、加熱による変質が認められる。64 は、46 などと同様の口縁部の特徴(肥厚帯)を有するものである。外面からの刺突により内面が瘤状に隆起している。外面は粗いナデ調整である。

65 と 66 は、刻目突帯を巡らせるものである。65 は胴部で屈曲する器形で、屈曲部の接合面で割れている。突帯の断面は三角形であるが、ところによっては断面「D」字形となる。器面には指頭によると目される凹部が認められる。

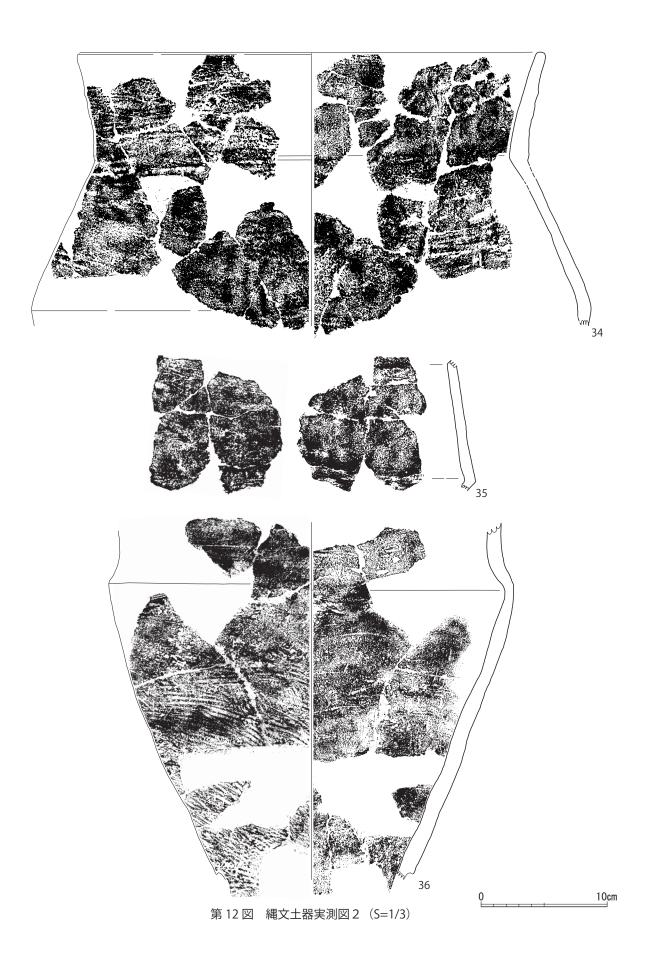
 $67 \sim 75$ は深鉢、鉢の底部。67 は底面の小さなもの、68 は上げ底となるもので、これらについては後期後葉に属する可能性が高い。 $72 \sim 74$ は円盤状の底面が外方に張り出す形状で、黒川式期に特徴的な個体である。

76~97 は当該期の浅鉢である。そのほとんどが、器面が磨かれた精製品である。76 は晩期前葉の特徴を有する。文様は認められない。77 は胴部が球形を呈するもので、口縁部に外面、内面とも沈線が入る。胴部の最大径部付近とそのわずかに上部に接合痕が認められる。幅 11mm ほどの粘土紐であることがわかる。78 も、おそらくは 77 同様の器形になると思われるが、口縁部外面には沈線はなく、内面におそらくはその痕跡である段を形成する。78 もやはり同じような特徴を有するが、内面は沈線が巡る。80~83 は、浅鉢でも胴部が稜を成して屈曲する一群である。80 は内面に沈線を施す。82 は外面に沈線が巡り、内面は明瞭な段が形成される。84 と 85 は口縁部の端部がわずかに立ち上がり、その外面に沈線を巡らせる。後期末葉~晩期前葉に顕著な口縁部文様帯の痕跡であろう。82 よりも編年的に古期段階の資料であると考えられる。87 と 88 は、口縁部の立ち上がりが消失したもので、その痕跡として、紐状の粘土を貼り付けた突帯が口縁端部に巡る。

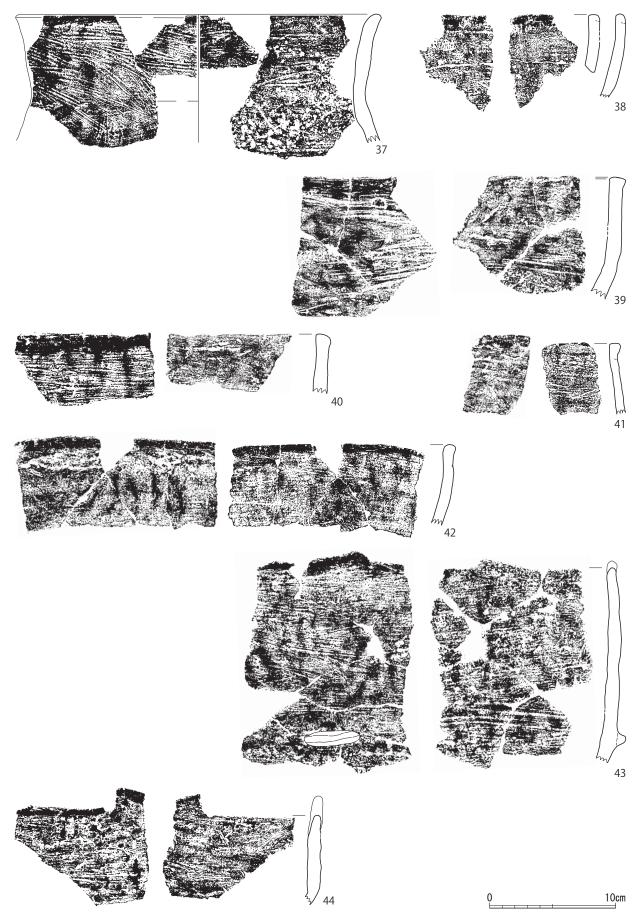
 $89 \sim 91$ や $96 \cdot 97$ は、波状口縁のおそらくは(95 のような)平底となる浅鉢であろう。編年的に、刻目突帯文期に下る資料である。そのうち 92、93 には赤彩が施される。

98 は口縁部が内湾する鉢。外面は粗めのナデ調整である。

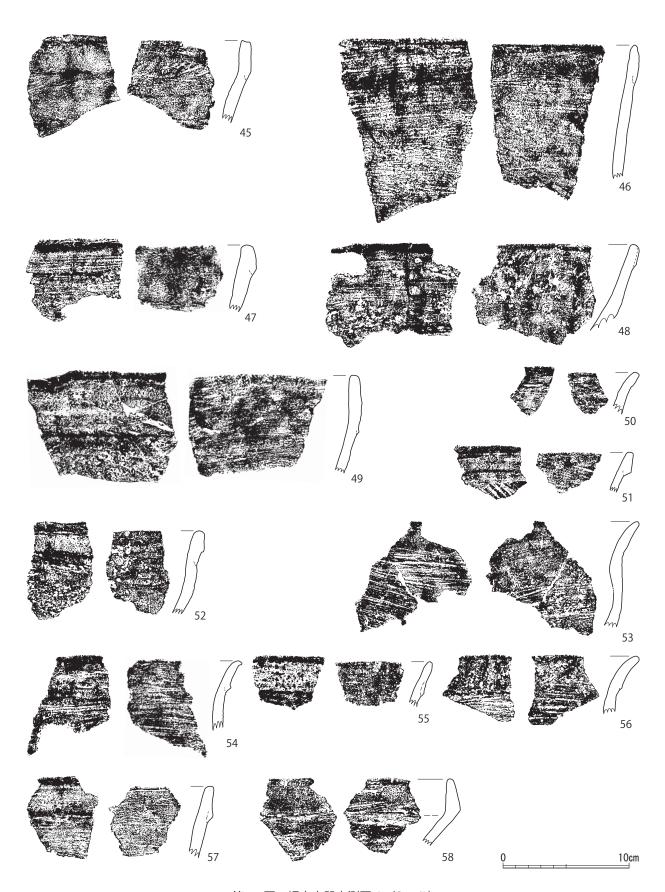
99~105は底部に蓆目の圧痕が残るもので、「組織痕土器」と称される一群である。99と100は



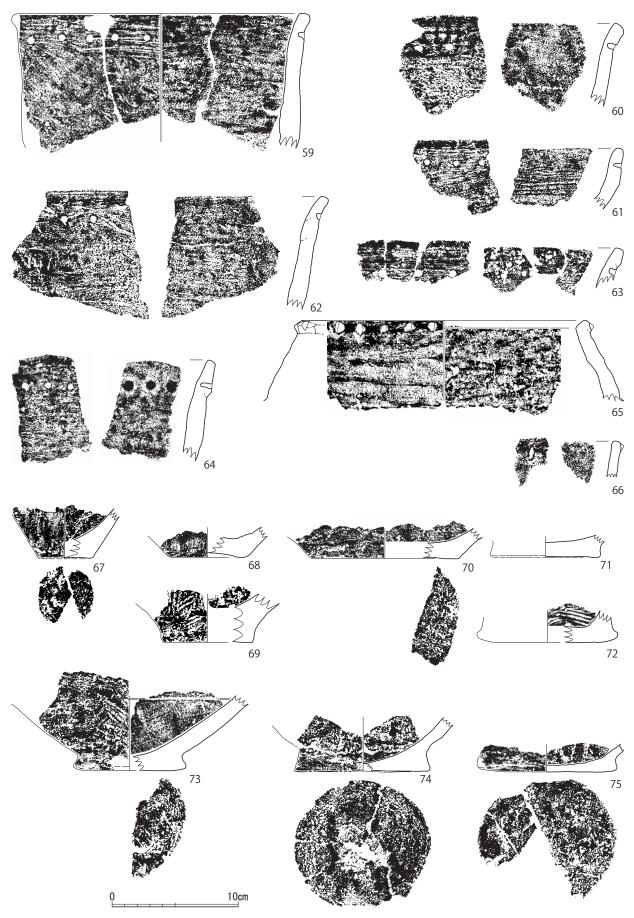
- 22 -



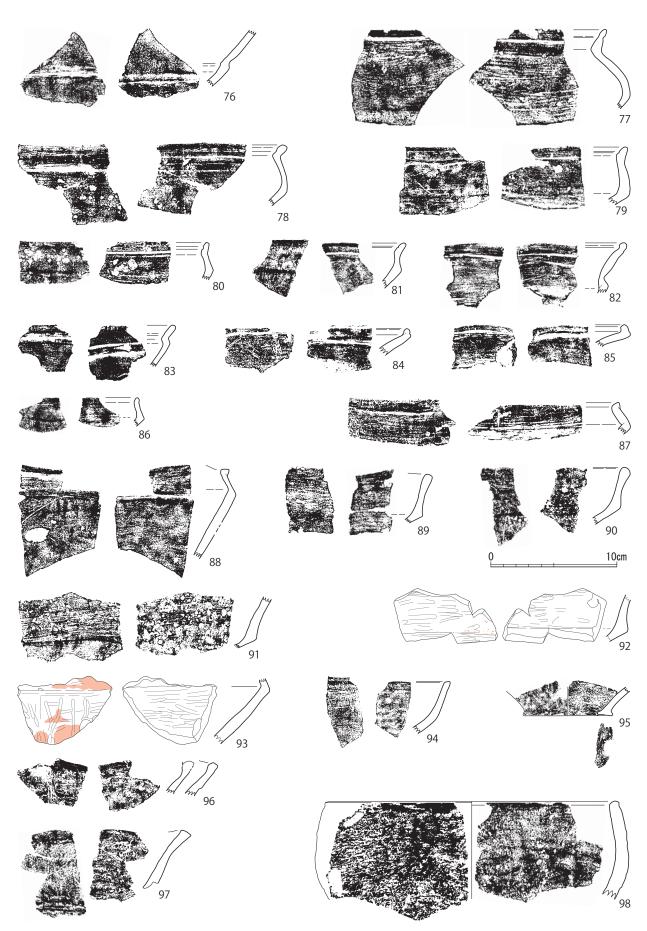
第 13 図 縄文土器実測図 3 (S=1/3)



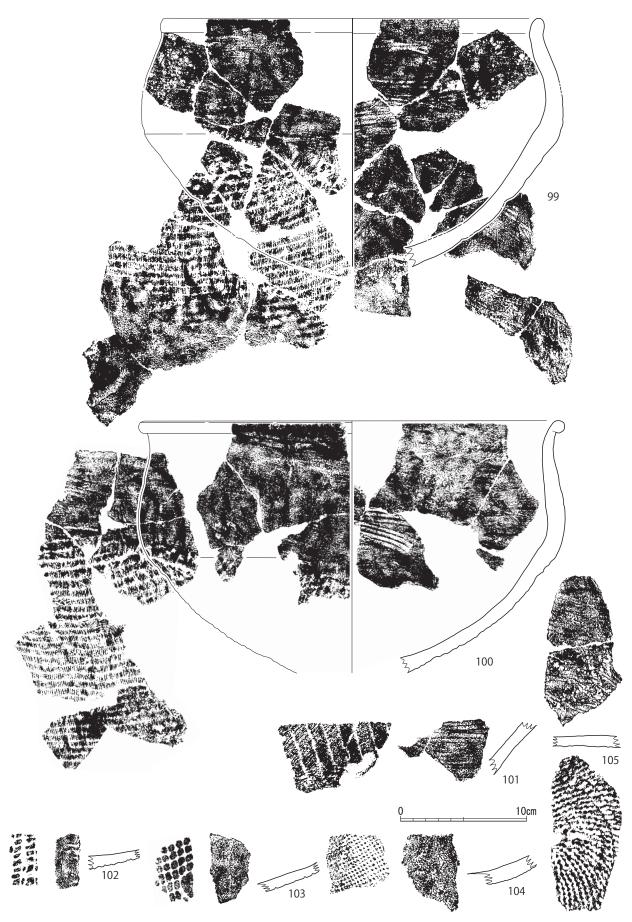
第 14 図 縄文土器実測図 4 (S=1/3)



第 15 図 縄文土器実測図 5 (S=1/3)



第 16 図 縄文土器実測図 6 (S=1/3)



第 17 図 縄文土器実測図 7 (S=1/3)

下底を除く器形の状況がわかる好資料である。99 は口縁部が肥厚し、胴部で屈曲する。屈曲部以下に 蓆目の圧痕が認められる。内面の下半部は丁寧な調整が施される。100 も特徴は99 とほほ同じである が、口縁の肥厚部がより高く、粘土紐貼り付けの痕跡が明瞭である。

(2) 石器(第18図~第23図106~175)

石器については、A・B区のVa層からVIa層にかけて出土している。石材については、チャートをはじめ、黒曜石や安山岩、ホルンフェルス、頁岩、砂岩、凝灰岩等が利用されているが、頁岩や砂岩、凝灰岩については、後の時代の利用もあることから時期を特定できないものもみられた。また黒曜石については、腰岳産や姫島産、竜ケ水・三船産のものが認められるほか、ガラス質安山岩については多久産の可能性があるものがみられる。

 $106 \sim 122$ は石鏃である。 B区で 18 点出土し、利用石材はチャート製が 9 点($109 \sim 113 \cdot 116 \cdot 117 \cdot 121 \cdot 122$)と多く、黒曜石 5 点($106 \cdot 107 \cdot 115 \cdot 120$ ほか)、 頁岩(114)、砂岩(119)、ホルンフェルス(108)、ガラス質安山岩(118)である。 5 ち 17 点を図化した。 $106 \sim 110$ は、基部が平基のもので、 106 は正三角形、 $107 \sim 109$ は二等辺三角形、 110 は五角形を呈する。 110 は、基部が平基のもので、 106 は正三角形、 $107 \sim 109$ は二等辺三角形、 110 は五角形を呈する。 110 は 大端及び縁周に加工を施すが、両面ともに素材時の剥離痕を大きく残す。また 110 は細かな調整が入り、比較的丁寧な作りである。 $111 \sim 120$ 、 122 は基部に抉りを有するもので、 $111 \sim 112$ は 正三角形、 $113 \sim 119$ は二等辺三角形、 $120 \cdot 122$ は、 五角形を呈する。 $111 \sim 112$ は で、 $111 \sim 112$ は $111 \sim 1$

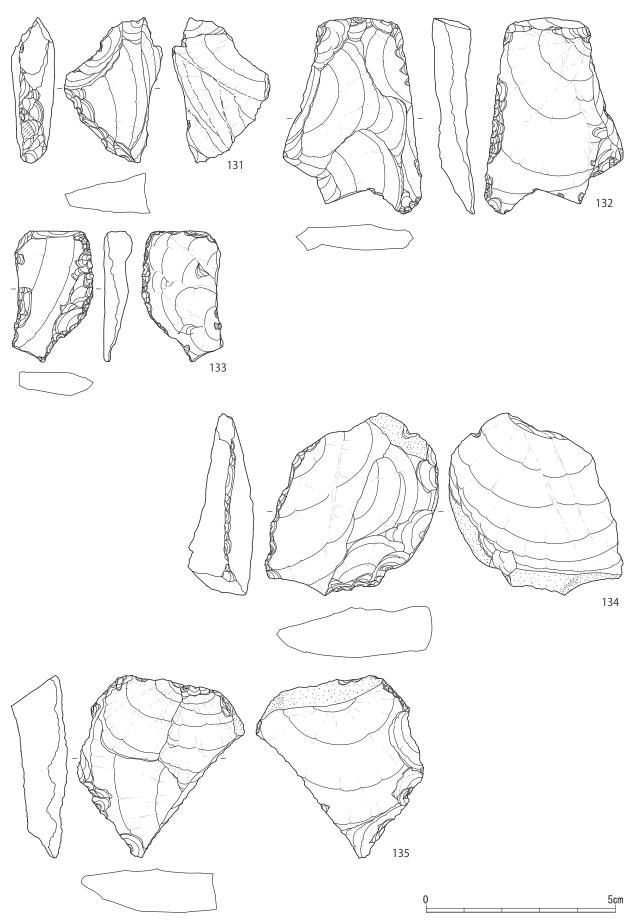
長い錐部を有する。一部礫面を残す。125・127 は菱形、126 は逆五角形を呈し、短い錐部を有する。 128 は B 区出土の両面加工石器でチャート製である。打面部を残し、縁周に加工を施している。

 $129 \sim 137$ はスクレイパーで、 5 点が A 区、 4 点が B 区出土である。石材は砂岩($129 \cdot 131 \cdot 132 \cdot 134 \sim 136$)、流紋岩(130)、チャート(133)である。このうち $129 \sim 131$ は掻器、 $132 \sim 137$ は削器である。そのうち掻器については、129 のように両面に礫面を大きく残し、両面からの加工により刃部を作り出していものや 130 のように横長の剥片を利用し、主要剥離面からの加工により刃部を作り出しているもの等がある。削器のうち $132 \cdot 134 \cdot 136$ は、一側縁に直線的な刃部を作り出しているのに対し、 $133 \cdot 135$ は弧状の刃部である。137 は両側縁に刃部を持つ。また $132 \cdot 134$ 以外は両面から加工を施している。

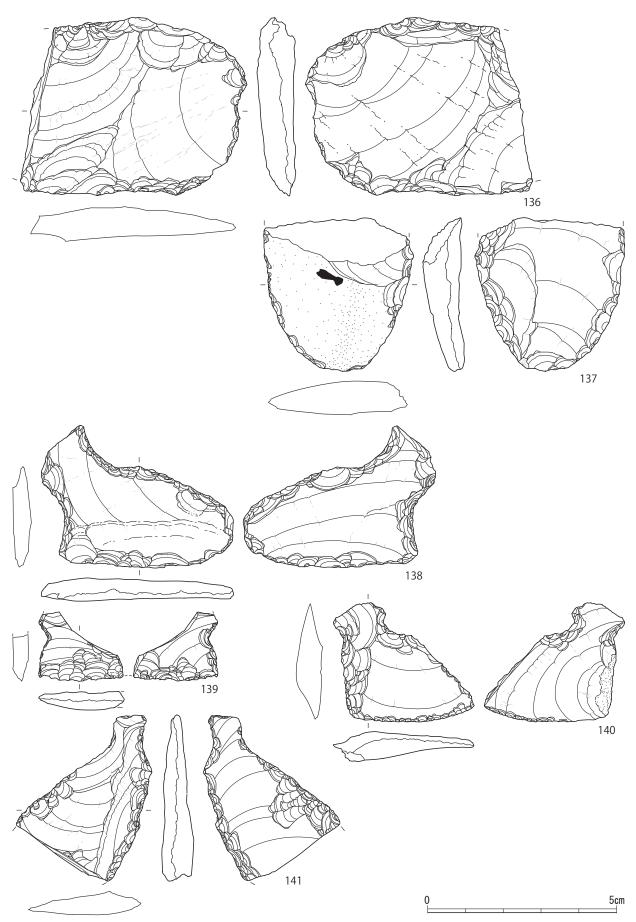
 $138 \sim 141$ は石匙である。うち A 区 2 点・B 区 2 点で確認されている。石材は、ガラス質安山岩(139・140)、ホルンフェルス(138)、黒色チャート(141)である。うち $138 \sim 140$ は横型の石匙で、つまみ部の反対側の下縁に両面から加工を行い、刃部を作り出す。141 は縦型の石匙で、縦長剥片を素材にして両側縁から加工を行い、刃部を作出している。横型・縦型とも縁辺のみの加工で、両面とも素



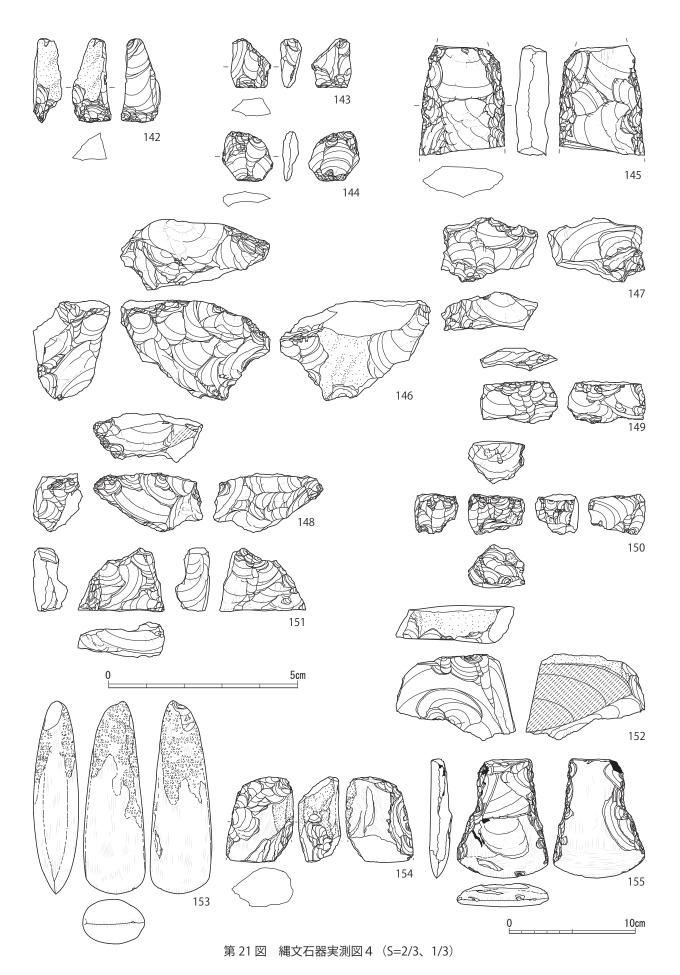
第 18 図 縄文石器実測図 1 (S=2/3)

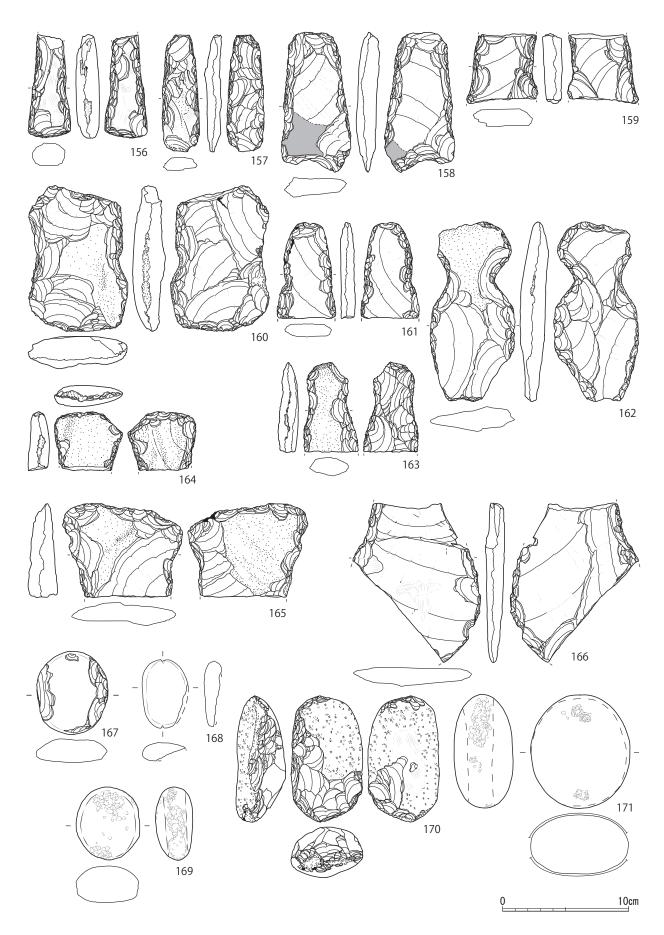


第19図 縄文石器実測図2 (S=2/3)

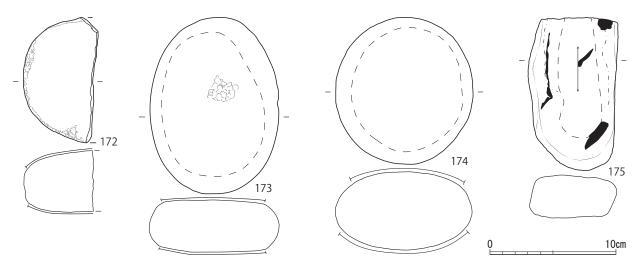


第 20 図 縄文石器実測図 3 (S=2/3)





第 22 図 縄文石器実測図 5 (S=1/3)



第 23 図 縄文石器実測図 6 (S=1/3)

材時の剥離痕が認められる。

 $142 \sim 144$ は楔形石器で、B区出土。 3 点の図化を行った。石材は黒曜石(142)、チャート(143・ 144)である。いずれも上下両端に並行する剥離痕が認められる。

145 は尖頭器でB区出土。石材は頁岩の可能性がある。先端・基部ともに欠損しているが、両側縁に両面から加工を施している。

 $146 \sim 150$ は石核である。 6 点図化した。出土の内訳は、 A 区 3 点、 B 区 3 点で石材はチャート $(147 \sim 149)$ 、泥岩 (146)、黒曜石 (150)、ホルンフェルス (152) である。上面を打面に設定して、同一方向から剥片剥離を行うもの (149) や上下面を打面にして二方向から作業を行うもの $(147 \cdot 150 \cdot 152)$ 。打面を転移させながら剥片剥離を行うもの $(146 \cdot 148 \cdot 151)$ が認められる。

 $153 \sim 166$ は石斧である。利用石材はホルンフェルス($153 \cdot 155 \sim 159$)や砂岩($154 \cdot 160 \cdot 162 \sim 164$)、輝石安山岩($161 \cdot 165 \cdot 166$)がある。また図化していないが、石斧調整剥片も出土しており、石斧製作を行っていたものと考えられる。 $153 \sim 157$ は磨製石斧である。そのうち 153 は乳房状を呈し、表裏両側縁の基部側に敲打痕が認められる。154 は再加工品である。155 は扁平で撥状を呈する。 $158 \sim 166$ は打製石斧である。158 は長方形に近い形状で、刃部付近は、再加工が行われている。また両面刃部付近に摩滅が認められる。 $160 \sim 166$ は、側縁に抉り部を持つ有肩石斧である。抉り部には敲打による整形が認められる。多くのものが浅い抉りを有するが、162 や $165 \cdot 166$ のように抉りが深いものもある。166 は刃部が膨らみ、丸みを帯びる。

167 は砂岩製の礫器である。両側縁に加工が入るが、そのうち右側縁側は両面からの加工により刃部を作出している。

168 は砂岩製の切目石錘である。長軸両端に表裏両面から擦り切りによる切目が入る。

169・170 は敲石である。そのうち 169 は砂岩製で熱を受け赤化している。表面や側縁に敲打痕が認められる。170 はホルンフェルス製で左側縁や上下に敲打痕が認められる。

 $171 \sim 174$ は磨石である。うち 174 は溶結凝灰岩製、他は砂岩製である。楕円形・円形を呈し、いずれも表裏両面に磨面が認められるが、 $171 \sim 173$ のように敲打痕が認められるものもある。

175 は砂岩製の砥石である。表面中央は使用により、やや凹みが認められる。

第2節 弥生時代の遺構と遺物

本遺跡では、A区及びB区の両方で弥生時代の遺物が約450点確認されており、そのうちB区が約92%を占める。また当該期の遺構は、B区で竪穴建物跡1軒(SA5)を検出した。

1. 遺構

(1) 竪穴建物跡

5号竪穴建物跡(SA5)(第24図176~179)

B区の北東部、Z3グリッド北西部からZ2・Y3グリッドにかけてW 層上面で検出した。円形を基調とする間仕切り住居(花弁状住居)と考えられる。検出面の関係からか、間仕切り部分の残りが悪く、浅いところでは検出面からの深さが5 cmのところもある。また南から西にかけては、間仕切りが確認できなかった。残存している箇所より、規模は直径5 m規模になるものと考えられる。床面中央は円形(直径2.8 m)の掘り込みがある。その部分には、10 cmの厚さで貼床(御池軽石を含む黒色土)が認められた。柱穴のうち、円形の掘り込みと間仕切りの境で検出した4 本(深さ0.58 ~ 0.84 m)が主柱穴になると考えられる。柱間距離は東西方向に2.1 ~ 2.3 m、南北方向に1.7 ~ 2.2 mを測る。床面積は17.5 ㎡ + α である。遺物は少なく、櫛描波状文を有する複合口縁壺の口縁部(176)や高坏の裾部(177・178)、砥石(179)等が出土している。

2. 包含層の遺物

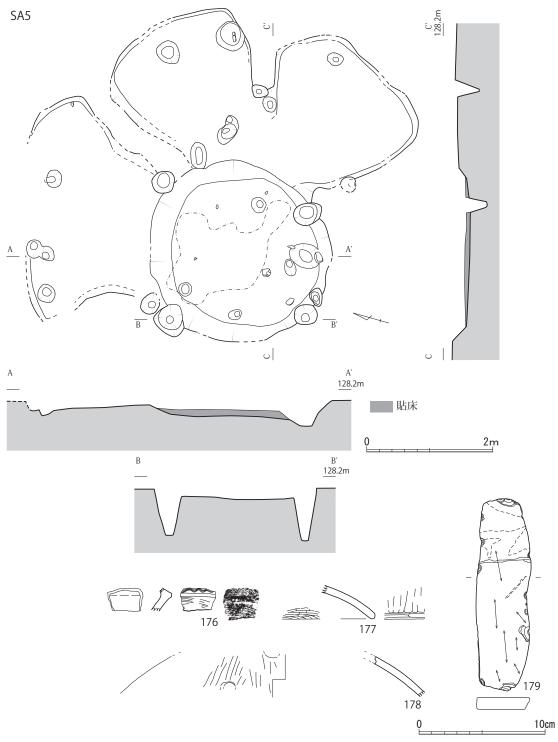
当該期の遺物は、Va層~VIa層で出土している。そのうちB区では、南東部や中央南部、南西部で 比較的まとまって前期~後期の遺物が出土している。

(1) 土器 (第25図~第27図180~199)

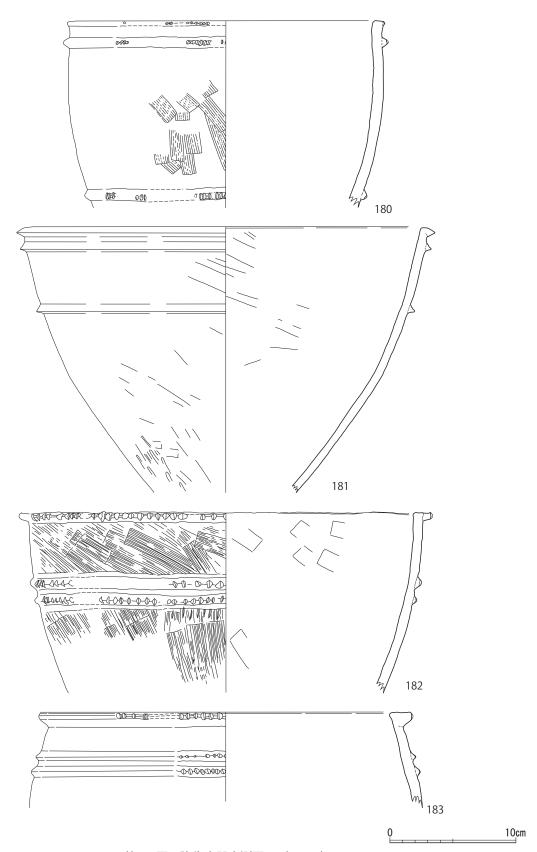
 $180 \sim 192$ は甕である。そのうち $180 \sim 182 \cdot 184$ については、B区U 6 グリッドを中心に出土している。また $188 \sim 190 \cdot 192$ は A区で出土している。

 $180\sim192$ は甕である。180 は砲弾型の器形で口縁端部に刻目が施されているほか、そのすぐ下位と胴部下半に 2条の刻目突帯が巡る。調整は外面にハケ目が施されている。181 も砲弾型の器形を呈するが、180 に比べ底部に向かって急にすぼまる。口唇部とそのすぐ下位、胴部上半に断面三角形の貼付突帯が 3条巡る。調整は外面に工具によるナデ調整やミガキが、内面は工具によるナデ調整が見られる。 $182\cdot183$ は逆 L 状の口縁をもつもので、突帯には刻目が施されている。また胴部に断面三角形の刻目突帯が 2条巡る。182 の外面には斜め方向や縦方向のハケ目が顕著に入る。 $184\sim187$ は、口縁部のやや下がった位置に断面三角形の突帯をもつもので、そのうち $184\cdot185$ には、刻目をもつ。188 は胴部が膨らみ、口縁部が S 字状に外反するもので、底部に向かってすぼまる。底部は上げ底ぎみで端部は外方へやや張り出している。器面にはハケ目が施され、頸部や底部付近には指頭痕が認められる。189 は、「く」の字に強く外反する口縁をもち、器面にはミガキが施されている。 $190\sim192$ は底部の資料である。そのうち 192 は、端部が張り出し、底面は内湾していて不安定である。

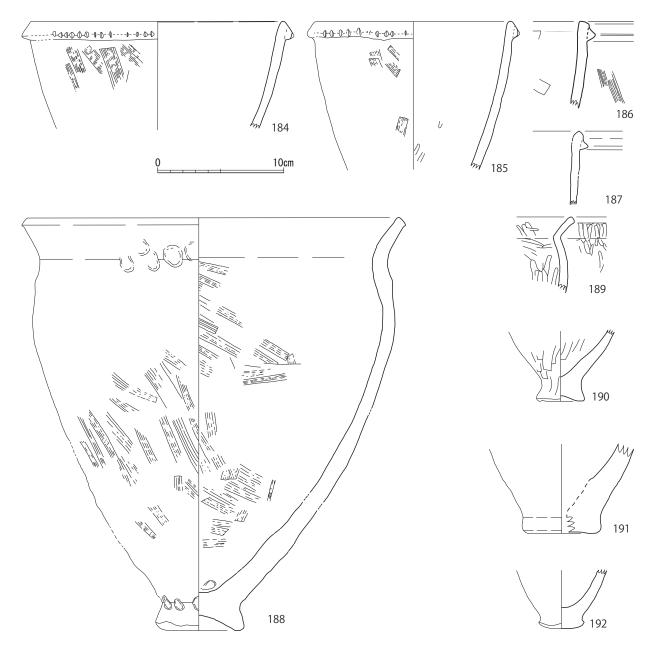
 $193 \sim 199$ は壺である。193 は口縁部と頸部の境には、削り出しによる段をもち、頸部と胴部の境に突帯が 1 条巡る。外面にはミガキが施されている。また内面には炭化物が付着している。194 は複合口縁で、外面に櫛描波状文が施されている。 $195 \cdot 196$ は同一個体と考えられる。大きく開く口縁部を持ち、球状に膨らむ胴部には、2 条の刻目突帯が巡る。底部は上げ底ぎみである。器面の風化が著しく、



第24図 SA5実測図 (S=1/60) および出土遺物実測図 (S=1/3)



第 25 図 弥生土器実測図 1 (S=1/3)



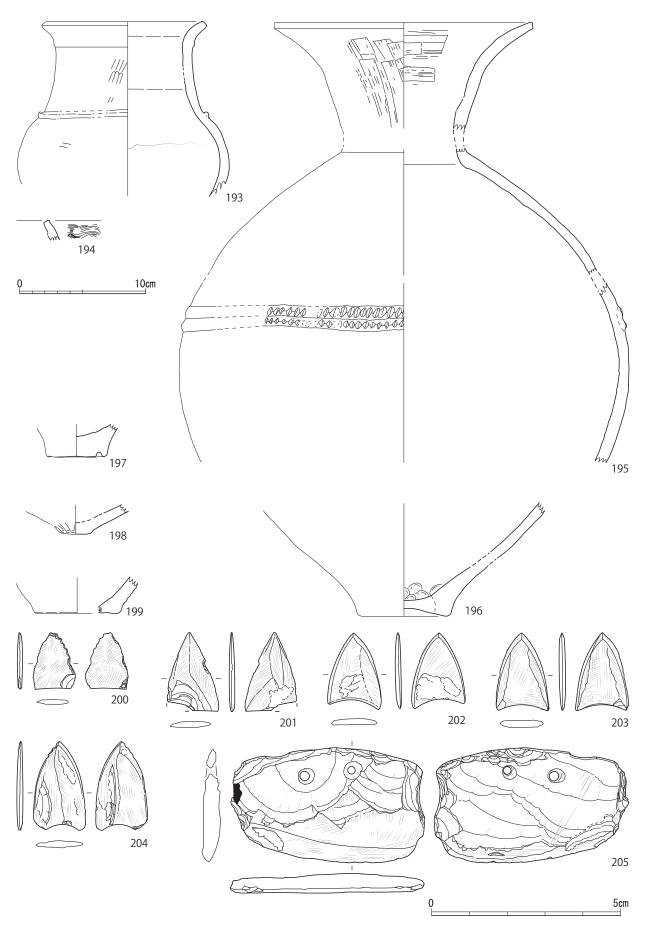
第 26 図 弥生土器実測図 2 (S=1/3)

口縁部外面に縦方向のハケ目、内面に横方向のハケ目が認められる。 $197 \sim 199$ は底部である。その うち 198 は平底で、円盤状の粘土を貼りつけて成形したものである。

(2) 石器 (第27図200~205)

当該期の石器と思われるものは磨製石鏃と石庖丁のみで数は少ない。そのうち $200 \sim 205$ は磨製石鏃である。利用石材は、緑色頁岩($200 \cdot 202 \sim 204$)、頁岩(201)である。いずれも二等辺三角形を呈し、平基のもの($200 \cdot 201$)と浅い抉りを有するもの($202 \sim 204$)が認められる。また研磨により先端部から両側縁に稜をもつもの($202 \sim 204$)も認められる。さらに浅い抉りを有するものの中には、 $202 \cdot 203$ のように脚端が尖りぎみのものや 204 のように丸みがあるものも認められる。

205 は頁岩製の石庖丁である。全体形は長方形を呈し、背部・刃部ともやや外湾する。右側縁は再加工によりやや内湾している。



第 27 図 弥生土器実測図 3 (S=1/3) および石器実測図 (S=2/3)

第3節 古墳時代の遺構と遺物

本遺跡では、A区及びB区の両方で古墳時代の遺物が約1,800点確認されており、そのうちA区が約74%を占め、縄文時代や弥生時代の主体がB区だったのに対し、A区へと主体が移る。当該期の遺構は、竪穴建物跡が4軒(A区3軒、B区1軒)確認されている。

1. 遺構

(1) 竪穴建物跡

1号竪穴建物跡(SA1)(第28図206~210)

SA1は、A区の南西部、A19~B20グリッドにかけて \mbox{VII} 層上面で検出したが、遺構の北東部及び西部側は撹乱により削平を受けている。遺構規模は $4.43~\mbox{m} imes 4.28~\mbox{m}$ の方形プランを呈し、検出面からの深さ $0.17~\mbox{m}$ を測る。

主柱穴は3本(深さ $0.36\sim0.42\,\mathrm{m}$)確認されており、残りは北東部の撹乱部分に存在していたものと考えられる。柱間距離は東西方向に $2.1\,\mathrm{m}$ 、南北方向に $1.6\,\mathrm{m}$ を測る。床面積は $16.6\,\mathrm{m}^{\prime}+\alpha$ である。中央付近には土器埋設炉があり、 $0.45\,\mathrm{m}\times0.43\,\mathrm{m}$ 、深さ $0.18\,\mathrm{m}$ の円形プランの小土坑内に口縁部を打ち欠いた甕(206)が設置されている。

遺物は、他に甕の口縁部(207)や埦(208・209)、台石片(210)等が出土している。206 は、頸部付近から底部の資料で尖底に近い丸底を有する。接合痕が顕著に認められ、外面には指頭痕がみられる。207 は短い口縁部をもち、口径よりも胴部径が大きい。また208 は、遺構南西部で、ほぼ完形で据え置かれた状態で出土している。口縁部が直立しながら立ち上がり、外面にはミガキ調整が施されいる。また内面はナデ調整で部分的に指頭痕が認められる。

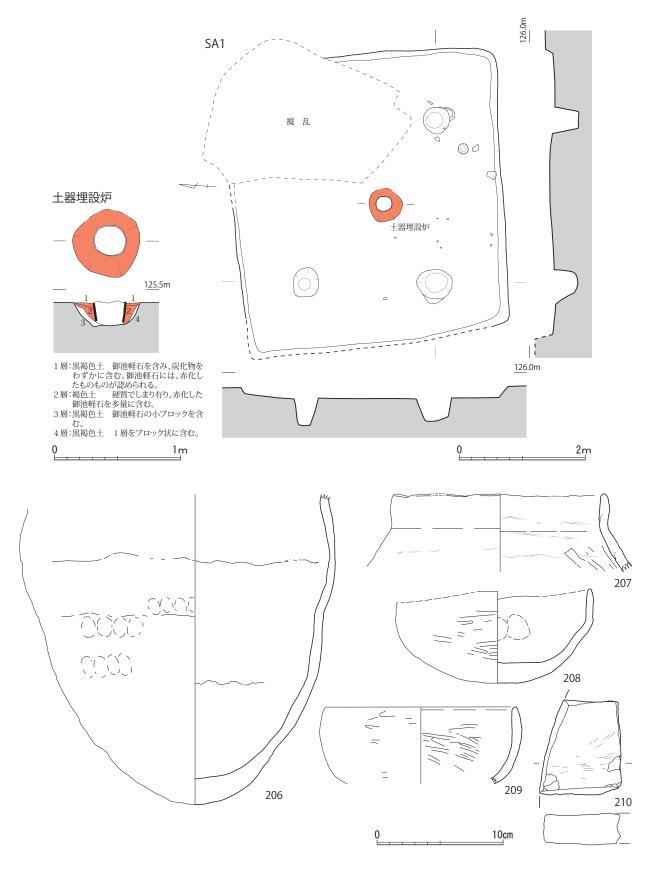
2号竪穴建物跡(SA2)(第 29 図~第 31 図 211 ~ 244)

SA2は、A区の中央部、D 11~E 12 グリッドにかけてVb層で検出した。南西約79 m先にはSA1、北東約48 m先にはSA3が位置する。遺構の規模は4.41 m×4.15 mの方形プランを呈し、検出面からの深さは、東壁で0.83 m、西壁で0.32 mを測る。また遺構の北東部には、1.93 m×1.17 mの長方形の張り出しが認められるほか、張り出し部近くの東壁には、横穴状の施設(横穴状遺構)が認められる。また南壁中央には0.87 m×0.75 m、深さ0.14 mの楕円形プランの土坑が配置されている。

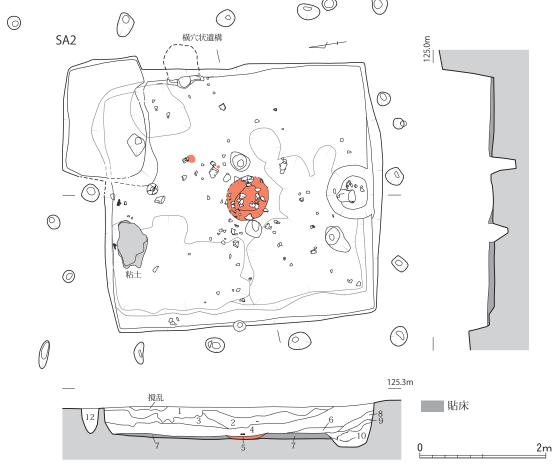
主柱穴は 2本(深さ 0.31 m、0.43 m)確認されており、柱間距離は 1.2 mを測る。また遺構周辺では、北側は不明瞭だが、西から東にかけて柱穴(深さ $0.15\sim0.41$ m)が 1.1 m~ 1.7 m間隔で巡る。床面中央には、0.72 m× 0.62 mの楕円形を呈する地床炉が配置されている。床面積は張り出し部と合わせて 17.3 m になる。

遺構北西部の床面には、 $0.7 \text{ m} \times 0.5 \text{ m}$ の範囲に厚さ 6 cmの灰黄褐色粘質土が未焼成のまま、溜められていた。また床面全体に $3 \text{ cm} \sim 8 \text{ cm}$ の厚みで貼床が認められる。貼床下の状況については、北西隅から南西隅を通り、南壁中央に設置されている土坑までの範囲に西壁から $0.2 \sim 0.4 \text{ m}$ 、南壁から 0.15 mの幅で L 字状段差がつく。また北東端の張り出しの下には、本来の遺構のコーナー部分を確認することができる。

遺物は、甕(211)や小型丸底壺(212)、高坏(213~219)、小型の鉢(220)、鞴羽口(221・222)、砥石(223)、金床石(224)等が出土している。そのうち211は頸部のくびれは弱く、口縁部に向かって緩やかに外反する。また底部は平底である。土坑内で横向きに倒れた状態で出土している。

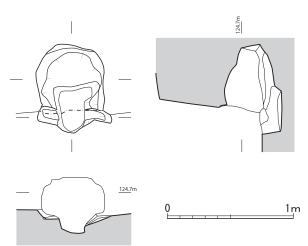


第28図 SA1実測図 (S=1/30、1/60) および出土遺物実測図 (S=1/3)

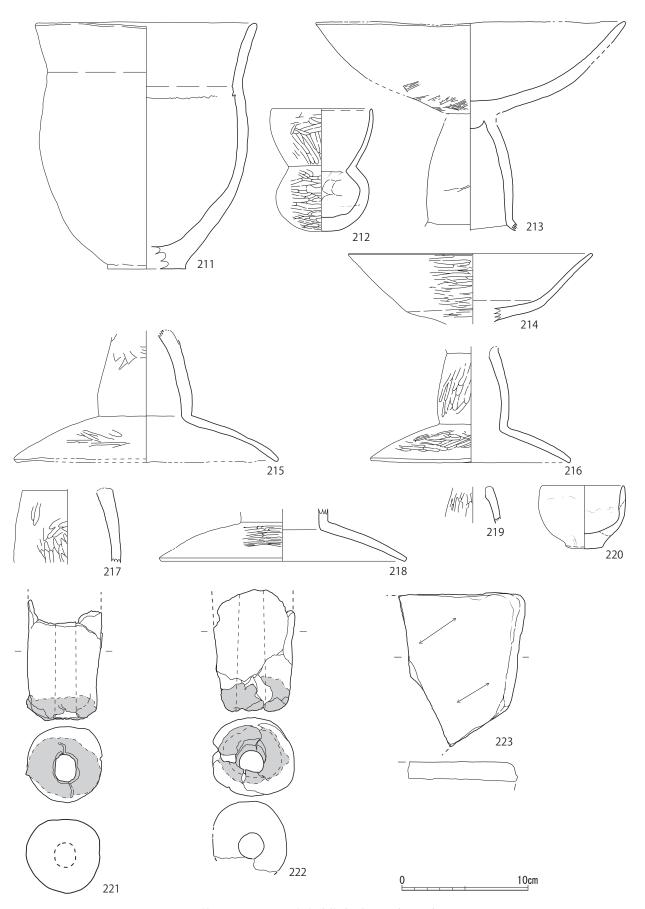


横穴状遺構

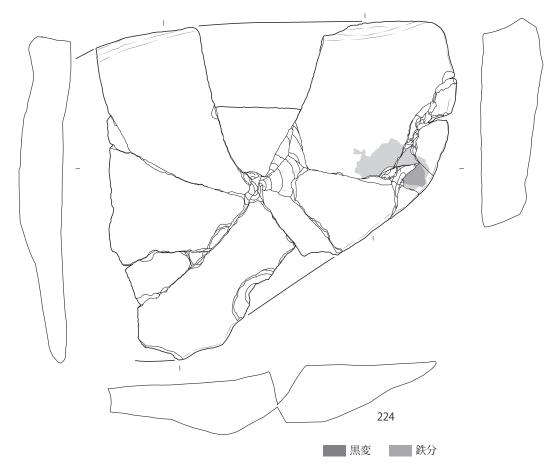




第29図 SA2実測図(S=1/60、1/30)



第 30 図 S A 2 出土遺物実測図 1 (S=1/3)



第31図 SA2出土遺物実測図2 (S=1/4)

212 は遺構の西側テラス付近で出土している。口径が胴部径よりも大きく、口縁部と胴部〜底部の長さがあまり変わらない。また口縁部は内湾しながら立ちあがる。外面にはミガキ調整が顕著にみられる。

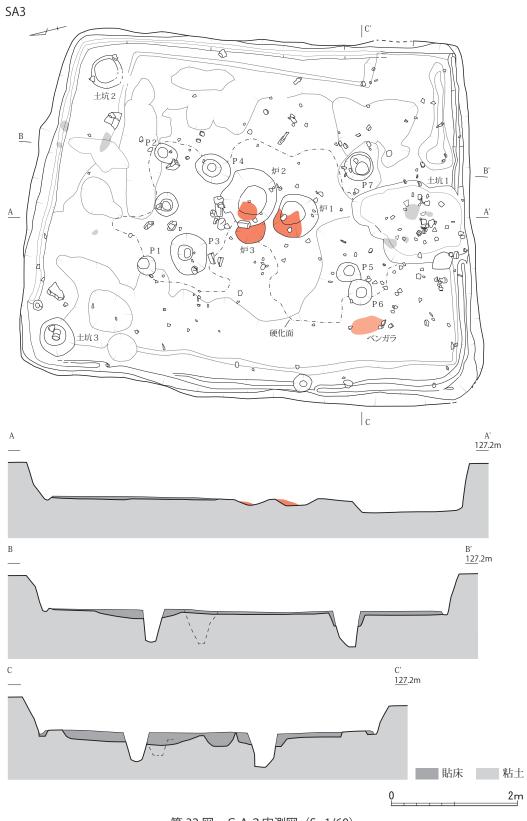
213 は坏部の稜が弱く、口縁部は内湾しながら立ちあがる。脚柱部はエンタシス状を呈する。それに対して 214 は、坏部に稜が入り、外反しながら立ちあがる。215・216 はエンタシス状の脚柱部を持ち、裾部は内湾しながら開く。どちらも外面にはミガキ調整が施されているが、216 は特に顕著である。また 216 は遺構北側で直立した状態で確認されている。217・219 は脚柱部、218 は裾部の資料である。220 は、平底の底部を持ち、直立しながら立ちあがる。

221・222は、鞴羽口の先端で、どちらも熱によりひび割れをおこしているほか、溶解物が付着している。2点とも地床炉の南西部で確認されている。

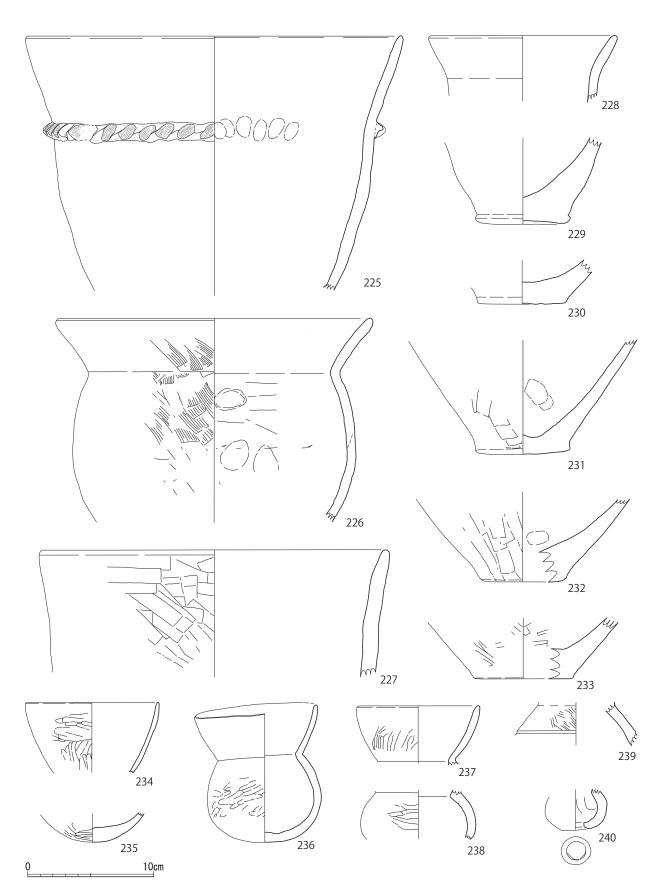
224 については B 15 グリッドや D 12・E 12 グリッドで出土したものと接合している。また鉄分が付着している縁辺部については、敲打の際に、衝撃に耐えられず、剥片状に割れている。

横穴状遺構については、奥行きが $0.54~\mathrm{m}$ 、幅 $0.54~\mathrm{m}$ 、高さは最大で $0.45~\mathrm{m}$ 、奥壁で $0.16\mathrm{m}$ を測る。断面形はドーム状を呈する。入口付近から内部にかけて深さ $0.1~\mathrm{m}$ の落ち込みが認められるほか、入口付近には、建物跡壁面と並行して長さ $0.57~\mathrm{m}$ 、横幅 $8\sim14\mathrm{cm}$ の溝が認められる。内部での遺物等出土はみられなかった。

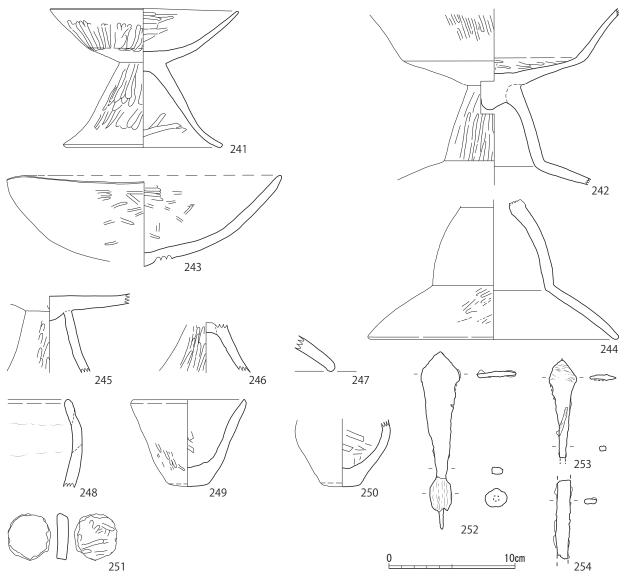
また灰黄褐色粘質土付近で出土した炭化材については、古環境研究所で分析を行い、樹種はセンダン



第32図 SA3実測図(S=1/60)



第 33 図 S A 3 出土遺物実測図 1 (S=1/3)



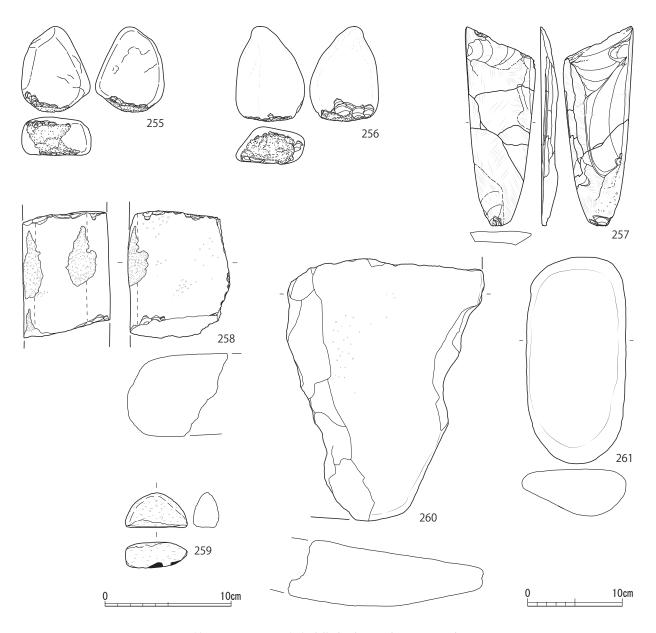
第34図 SA3出土遺物実測図2 (S=1/3)

3号竪穴建物跡(SA3)(第32図~第35図225~261)

SA3は、A区の北東部、J9~J10・I10グリッドにかけてVb層~VIa層上面で検出した。遺構は、西側が開く台形プランを呈しており、一辺の長さが、北5.33 m、東6.04 m、南5.7 m、西が7.33 mで本遺跡のなかで最大である。検出面からの深さは、0.58 mを測る。床面積は35.23㎡である。

床面壁際に幅 $7\sim18$ cm、深さ $5\sim10$ cmの壁帯溝が認められ、ほぼ四方を巡る。また南壁中央には、不整な楕円形プランの土坑 $1~(1.75~\text{m}\times1.3~\text{m}$ 、深さ 0.19~m)配置されている他、円形の小土坑が北東隅(土坑 $2:0.5~\text{m}\times0.41~\text{m}$ 、深さ 0.38~m)及び北西隅(土坑 $3:0.61~\text{m}\times0.53~\text{m}$ 、深さ $0.3~\text{m}+\alpha$)が配置されている。

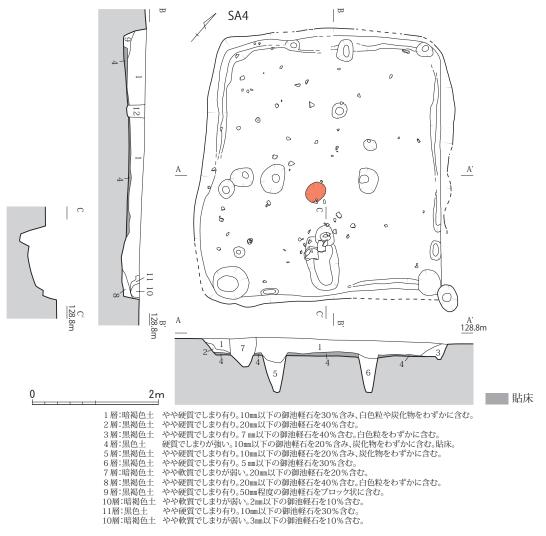
床面には南壁中央の土坑1から南西隅を通り、土坑3付近まで壁面から0.18 m~0.46 mの幅でL



第 35 図 S A 3 出土遺物実測図 3 (S=1/3、1/4)

状の地山(\mbox{W} 層)が残る。また北壁の中央部から北東隅を通り、南壁から北に $1.5\mbox{ m}$ の付近までの範囲 に $0.13\mbox{ m}\sim 0.82\mbox{ m}$ の幅で L 状の地山が残る。床面中央は比較的平坦で、貼床は壁面に接するテラス との間にある窪地を中心に $4\mbox{ cm}\sim 16\mbox{cm}$ の厚さで認められる。また中央付近は硬化面が発達している。 地床炉は、遺構中央で 3 基近接して確認されている。炉 1 ($0.75\mbox{ m}\times 0.6\mbox{ m}$ 、深さ $0.15\mbox{ m}$) は単独 で設置されているが、炉 3 ($4.8\mbox{ m}\times 3.2\mbox{ m}+\alpha$) は炉 2 ($9.1\mbox{ m}\times 8.3\mbox{ m}$ 、深さ $0.18\mbox{ m}$)に切られて いる。その炉 3 の上には硬化面が認められる。

確認された柱穴のうち 7 本(P 1 ~ P 7)は、主柱穴になると考えられる。そのうち P 3 ~ P 5 については、硬化面下もしくは貼床下で確認されており、時期差が認められる。壁面に接するテラスの存在から遺構を拡張した可能性が認められ、おそらく I 期は P 3 ~ P 5 、 P 7 の 4 本(深さ 58 ~ 84cm)が主柱穴となり、 II 期が P 1 ・ P 2 ・ P 6 ・ P 7 の 4 本(深さ 58 ~ 84cm)が主柱穴になると考えられる。 I 期の柱間距離は、東西方向に $1.5 \sim 1.6$ m、南北方向に $2.4 \sim 2.6$ mを測る。また II 期の柱間



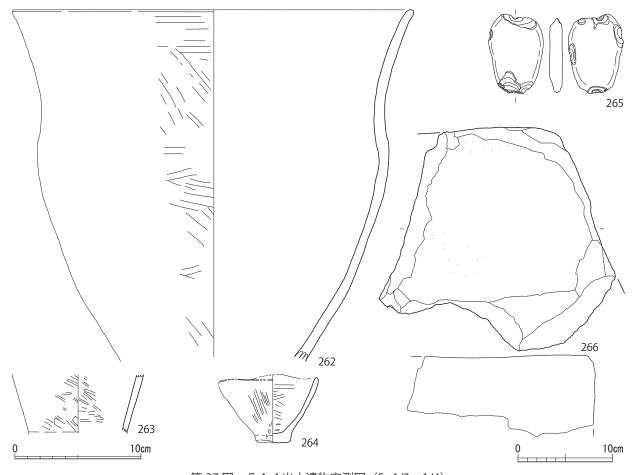
第36図 SA4実測図(S=1/60)

距離は、東西方向に $1.8 \sim 2.0$ m、南北方向に $3.2 \sim 3.5$ mを測る。地床炉は I 期に炉 2 ・ 炉 3 、 II 期 に炉 1 が伴うものと考えられる。

遺物は、甕(225~233)や壺(234~240)、高坏(241~247)、鉢(248~250)、土器片加工品(251)、鉄製品(252~254)、敲石(255·256)、砥石(257·258)、軽石製品(259)、台石(260·261)等が出土している。また建物北西部の貼床内から $0.53~\text{m}\times0.27~\text{m}$ の範囲で赤色物の小塊(パイプ状ベンガラ)が多量に出土している。

225 は口縁部が緩やかに外反しながら開き、頸部に刻目突帯をもつ。刻目には布目圧痕がみられる。また突帯付近の内面には、指頭痕が認められる。226 は頸部の屈曲が強く、外反しながら大きく開く。外面にはハケ目調整が認められる。227 は、口縁部が直行ぎみに立ちあがる。調整は工具によるナデ調整が施されている。229 \sim 233 は底部の資料である。全て平底である。そのうち 229 は円盤状の粘土を貼りつけて成形している。232 には外面に工具ナデが顕著に見られる。

 $234 \cdot 235$ は小型の壺で同一個体である。 $236 \sim 238$ は小型丸底壺である。そのうち、236 は口径 が胴部径よりもわずかに大きいが、胴部~底部ほうが口縁部よりも長い。口縁部は内湾しながら立ちあ がる。外面にはミガキ調整が施されている。土坑 3 内で出土している。240 はミニチュア土器で焼成後に、底部外面から穿孔が施されている。



第 37 図 S A 4 出土遺物実測図(S=1/3、1/4)

241 は完形の資料である。遺構北西端で脚部、中央西側で坏部が出土している。241 は短い口縁部 にラッパ状の脚部をもつ。内外面ともミガキ調整が施されており、外面には縦方向、内面には横方向に 入る。242 は、坏部に明瞭な稜の入り、口縁部に向かって大きく外反する。またエンタシス状の脚柱 部を有し、裾部は内湾しながら開く。243 は坏部の稜が弱く、口縁部は内湾しながら立ちあがる。244 もエンタシス状の脚柱部をもち、角度を付けながら内湾する裾部を有する。

249・250 は小型の鉢で、どちらも平底をもつ。そのうち 249 は口縁部に向かって外方に開くのに対し、250 は内湾しながら立ちあがる。 251 は、土器片加工品で周囲を打ち欠いて、整形している。外面にはミガキが認められる。

252・253 は圭頭鏃で、そのうち 252 には茎部に木質を残す。254 はヤリガンナの茎部か。

255・256 は砂岩製の敲石で、端部の敲打痕が顕著にみられる。257 は頁岩製の砥石である。258 は砂岩製の砥石で、表裏左側面に砥面がみられ、稜付近に敲打痕が明瞭に入る。260・261 は砂岩製の台石である。261 は、一部で研磨らしき痕跡が認められたため台石としたが、同規模の石が遺構中央でまとまって出土している。259 は軽石製品である。半円状に整形されている。

4号竪穴建物跡(SA4)(第36図・第37図262~266)

S A 4 は、B 区の北西部、R 4 グリッドに位置し、VII層上面で検出した。規模は $4.29~\text{m} \times 3.9~\text{m}$ の 方形プランを呈し、検出面からの深さは、0.36~mを測る。床面積は 14.5~mである。

主柱穴は2本(深さ0.61 m、0.64 m)確認されており、柱間距離は1.4 mを測る。遺構の中央には、

 $0.28~\text{m}\times 0.36~\text{m}$ の楕円形プランの浅い地床炉が設置されている。床面壁際には、幅 $9\sim 13~\text{cm}$ 、深さ $3\sim 6~\text{cm}$ の壁帯溝が南西側以外の三方を巡る。遺構南側中央には $0.86~\text{m}\times 0.5~\text{m}$ 、深さ 0.24~mの楕円形の土坑が見られる他、南西隅には $0.56~\text{m}\times 0.51$ 、深さ 0.32~mの円形の土坑が認められる。また床面には $4~\text{cm}\sim 6~\text{cm}$ の厚みで貼床が認められる。

遺物は、甕(262)や壺(263)、小型の鉢(264)や石錘(265)、台石(266)等が出土している。262は、楕円形土坑内出土で、口縁部~底部付近の資料である。胴部はあまり張らずに口縁部に向かって緩やかに外反する。264は建物南西部で伏せた状態で出土している。完形品で、底部は平底で内湾しながら外方へ開く。265は砂岩製で両端に両面から加工を行い、紐掛け部を作出している。266は262同様、土坑内出土で全体的に火を受け、赤化している。

また炭化材が確認されており、炭化材の一部について分析を行い、樹種はスダジイで 14 C 年代 (AMS) は、 1700 ± 20 年 BP (暦年代:AD257 \sim 285、 $290\sim295$ 、 $321\sim400$ 年) の測定値を得ている。

なお、埋土の一部については、フローテーションによる選別作業を行ったところ、サンショウ属の種子やタデ属の果実、アカザ属の種子、ミズキ核片、クマノミズキ核片、アオツヅラフジの種子、アカネ科の種子、エゴマの果実が確認されている。

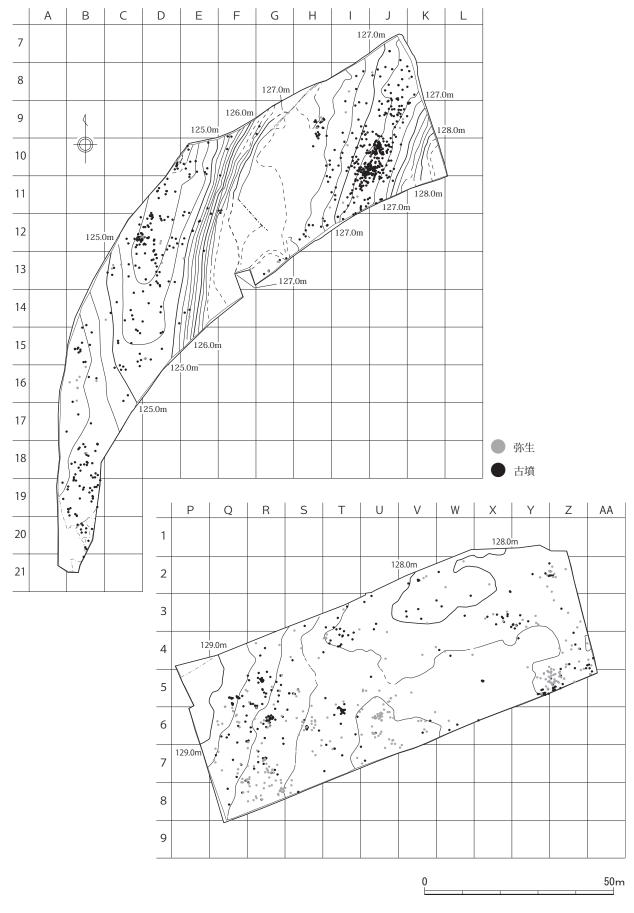
2. 包含層の遺物

(1) 土器 (第39図~第41図267~301)

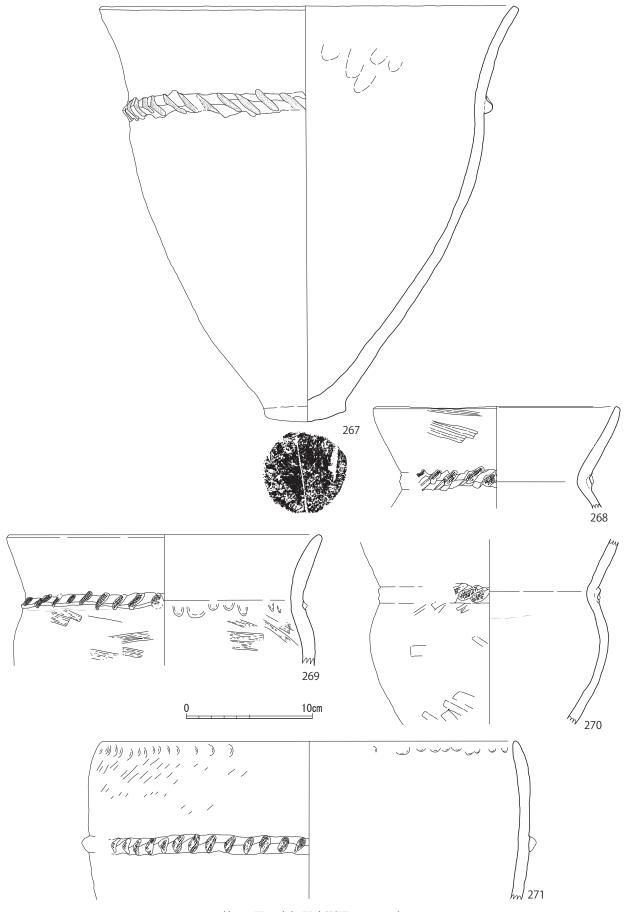
 $267 \sim 283$ は甕である。そのうち $267 \sim 271$ は頸部に刻目突帯をもつ一群で刻目には、布目圧痕がみられる。271 のみ B 区で、他は A 区出土である。そのうち 267 は完形品で、 A 区の S A 3 の南、 I 11 や J 11 グリッドで出土している。胴部は、あまり張らず、口縁部が緩やかに外反する。底部は丸みがあり不安定である。また底面には線刻が入る。

268・270 は頸部のくびれが強い。そのうち 268 は、頸部のくびれが強く、口縁端部がやや内湾する。 突帯には、ヘラ状工具による刻目を入れた後、布目圧痕を加えている。なお、口縁部外面には斜め方向 のハケ目が施されている。270 は胴部の張りが強い。271 は、胴部が張らず口縁部に向かって、内湾 しながら立ちあがる。口縁端部両面には指頭痕が認められる。272 は胴部があまり張らずに、底部へ 向かってすぼまる。風化が著しく、調整については不明だが、一部でナデ調整が認められる。273 は、頸部が屈曲し、球状の胴部をもつ。調整は内外面ともハケ目が認められる。274 ~ 283 は底部の資料である。そのうち 274 ~ 281 は平底で、274 は上げ底ぎみである。275 は丸みを帯び、底面の稜が不明瞭である。279・280 には、縦方向の工具ナデが顕著である。282・283 は脚台を有するものである。282 は断面形が逆 U字状を呈し、283 は、断面台形を呈する。

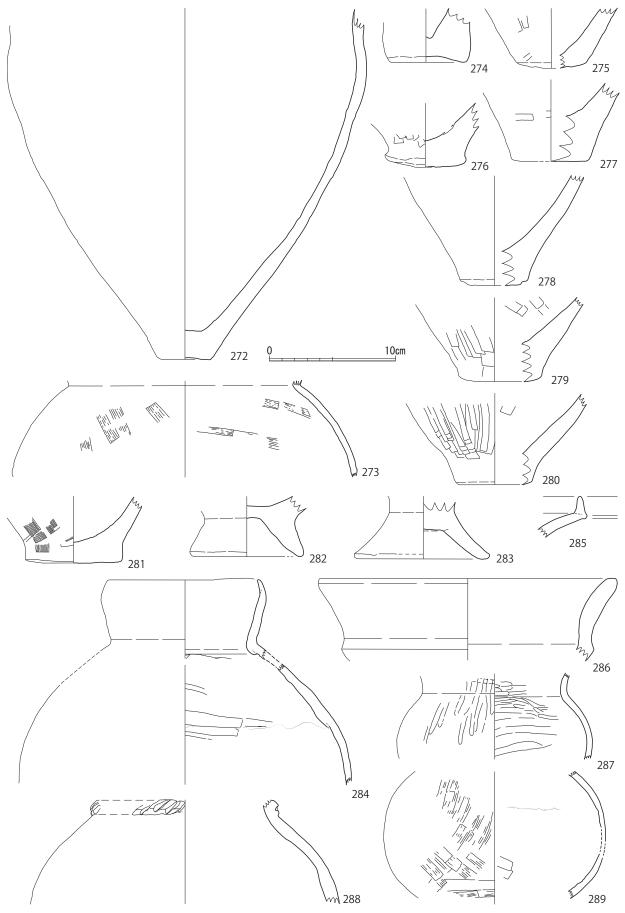
285~294 は、壺の資料である。284 は直口壺で、内湾する口縁部をもつ。内面には接合痕が顕著に認められる。285・286 は二重口縁壺の口縁部で、285 は「く」の字に屈曲するのに対して、286 は屈曲部から外方に外反する。288 は頸部に刻目突帯を有する。287 は、頸部の屈曲が弱い。調整はミガキ調整で、外面は縦方向、内面は横方向に施されている。289 は球状の胴部をもち、外面にはハケ目調整が施されている。290 は、球状の胴部に丸底の底部をもつ。292 は底部に脚台を有する。293・



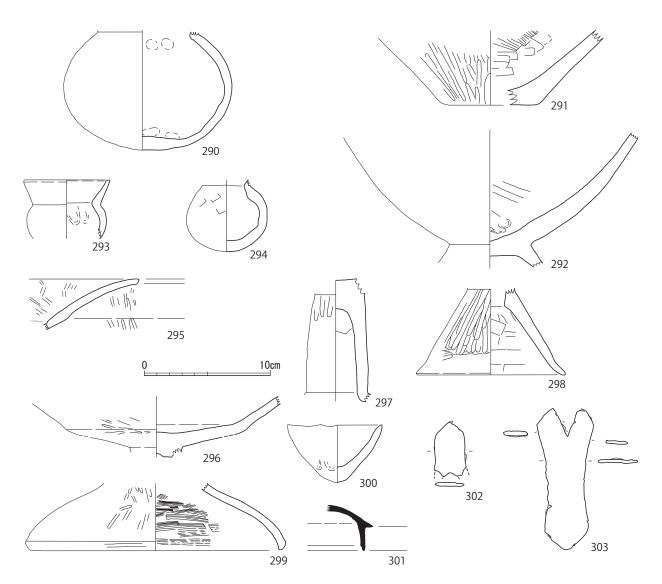
第 38 図 弥生時代~古墳時代遺物分布図(S=1/1,000)



第 39 図 土師器実測図 1 (S=1/3)



第 40 図 土師器実測図 1 (S=1/3)



第41図 土師器および鉄製品実測図1(S=1/3)

294 は小型の壺である。

 $295 \sim 299$ は高坏の資料である。そのうち $295 \cdot 296$ は坏部、 $297 \sim 299$ は脚部である。295 は 外反しながら大きく開く。297 は、脚柱部あまり膨らまず、裾部との境に明瞭な稜をもつ。298 はラッパ状に開き、ミガキ調整が顕著である。299 は、塊状に開く裾部で外面には縦方向のミガキ調整、内面には横方向のハケ目調整が施されている。

300 は小型の鉢である。尖底ぎみで口縁端部が尖る。 301 は須恵器有蓋高坏の蓋で、天井部と体部の境に明瞭な段をもち、口縁部は直立し、端部に段を有する。時期的には陶邑編年のTK 23~TK 47 段階に相当すると考えられる。

(2) 鉄製品 (第 41 図 302 · 303)

当該期の鉄製品は2点確認されている。302はB区出土。柳葉形の鉄鏃で脚部は欠損している。303は不明鉄製品でA区出土である。長さ11.2cmの板状で、一端が二股に分かれる。

第4節 古代以降の遺構と遺物

本遺跡では、A区及びB区の両方で古代の遺物が4,600点以上確認されており、そのうちA区が約90%を占める。また当該期及び時期不明の遺構が、B地区で溝状遺構1条、両地区で土坑18基(A区16基、B区2基)、焼土11基(A区6基、B区5基)、性格不明遺構1基を検出した。なお、図化していないが近世の薩摩焼(甕・壺・鉢、)関西系鉢、寛永通宝等も出土している。

1. 遺構

(1) 溝状遺構 (SE、第42 図 304・305)

SE1は、B区中央のVa層で検出した。断面形は台形状を呈し、やや直線的に北北東から南南東にかけてへと走る。確認された範囲では、全長約 48~m、溝幅は 1.14~m~ 1.66~mで検出面からの深さは最深 0.65~mを測り、わずかだが北側のほうが低くなる。また南端では硬化面(2.15~m× 0.57~m、最大厚み 8~cm)が認められ、SE1が埋没後に形成されたものと考えられる。遺物は、坏(304)や鉄鏃の茎部と思われる鉄製品(305)が出土している。

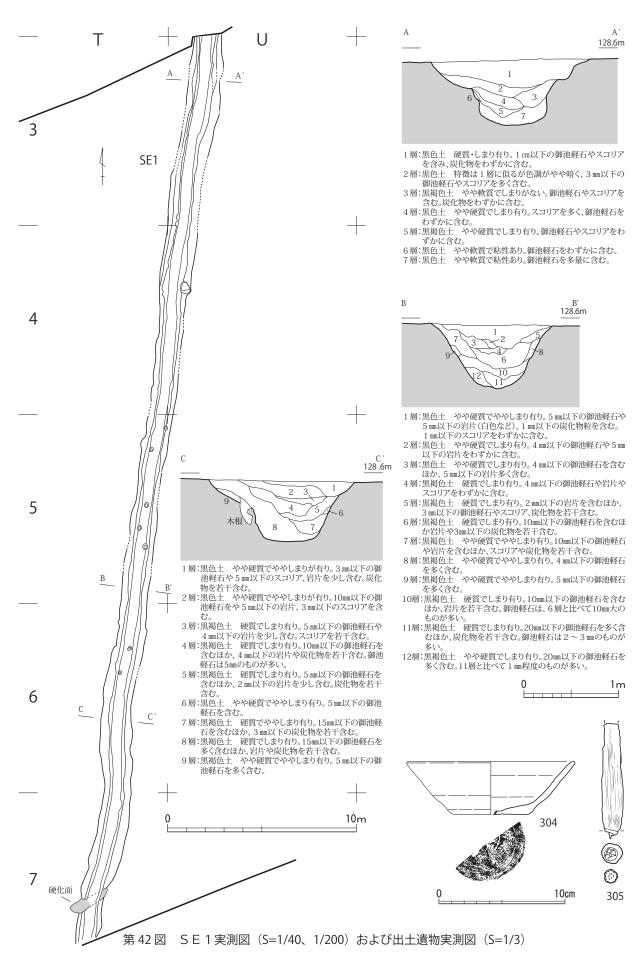
(2) 土坑(SC、第43図~第51図306~403)

土坑は 18 基(A区 16 基、B区 2 基)が確認されている。土坑の中には焼土を有するものが 9 基確認されている。 V b 層から W 層にかけて検出を行った。

SC1は、A区D 11 グリッド南西端、VI b 層で検出した。規模は $1.84 \text{ m} \times 1.34 \text{ m}$ の不整な楕円形プランを呈し、検出面からの深さは 0.2 mである。遺構北側には焼土が認められる。遺物は坏($306 \cdot 307$)、境(308)、甕(309)、須恵器の甕(310)、金床石(311)や炭化材等が出土している。そのうち金床石は、11 号土坑や焼土 5 のものと接合関係にある。炭化材は、古環境研究所の分析によれば、炭化材の一部はセンダンで 14 C 年代(AMS)は、 1220 ± 20 年 BP(暦年代:AD721 ~ 741 、 $766 \sim 882$ 年)の測定値を得ている。

SC2・SC3は、A区B 14 グリッド中央北寄りに隣接し、VI b 層で検出した。SC2の規模については $0.98~\text{m}\times 0.91~\text{m}$ の隅丸方形プランを呈し、検出面からの深さは 0.15~mである。SC3は、直径 0.92~mの円形プランを呈し、検出面からの深さは 0.12~mである。どちらも埋土は 1~eでにぶい黄褐色土が堆積していた。遺物は確認されていない。

SC4・SC5は、A区B15 グリッド中央北側に位置する。トレンチを挟み、両遺構が近接する。そのうち、SC4は、VIa層で検出した。北側は撹乱によって削平を受けている。遺構の規模については $1.9 \text{ m} \times 1.36 \text{ m} + \alpha$ の楕円形プランを呈するものと考えられる。検出面からの深さは 0.43 m である。埋土は 9 層からなり、大きくは焼土粒を含む黒褐色土と焼土とに分かれる。また遺構上やその周辺には褐灰色粘質土を含む暗褐色土の溜まりが認められた。遺物は、坏($312 \sim 327$)や高台付埦($328 \sim 346$)、注口土器(347)、耳坏様土器(348)、赤彩のある土器(349)、黒色土器($350 \sim 351$)、高台付鉢(352)、甕($353 \sim 362$)、甑(363)、小壺(364)、布痕土器(365)、須恵器の甕(366)、壺($367 \cdot 368$)、土製品($369 \cdot 370$)、軽石製品($371 \cdot 372$)、焼成粘土塊、炭化材・炭化種子等が多量に出土しており、番号を付けて取り上げたものだけでも約 400 点にのぼる。焼成粘土塊にはスサ入りのものも出土している。当初は埋土と地山の判別ができず、ある程度掘り下げた時点で遺構を検出しているため、遺物が遺構周辺にも広がることから、本来は現状の遺構規模よりも大きい可能性がある。



なお、313 や 330 は S C 5 の土器片と接合するほか、後述する包含層の遺物で掲載した 448 や 457、462、629 (S C 5 も接合) のものと接合する。

出土した炭化材一部については分析の結果、クスノキ科で ¹⁴ C 年代 (AMS) は、1300 ± 20 年 BP (暦年代: AD663 ~ 719、742 ~ 767 年)の測定値を得ている。また埋土の一部についてフローテーションによる選別作業を行ったところ、クマノミズキの核片やイネ・ムギ類の果実、ササゲ属の子葉、モモの核片が確認された。

SC5は、Vb~Ⅵa層にかけて検出。北側はトレンチに切られている。 $1.58 \text{ m} \times 0.92 \text{ m} + \alpha$ の円形もしくは楕円形プランを呈するものと考えられる。検出面からの深さは0.35 mである。埋土は、埋土は7層からなり、大きくは焼土粒を含む暗褐色~黒褐色土とにぶい黄橙色や褐灰色粘質土を含む褐灰色土、焼土とに分かれる。

遺物は、坏(373 ~ 377)、高台付埦(378 ~ 381)、赤彩のある土器(383)、甕(384)、炭化材等が確認されている。また出土した炭化材一部についてはコナラ属アカガシ亜属で 14 C 年代(AMS) は、 1190 ± 20 年 BP(暦年代:AD775 ~ 866 年)の測定値を得ている。

SС6は、A区J 10~J 11 グリッド中央に位置する。検出層はVI a 層で規模は $0.94 \text{ m} \times 0.88 \text{ m}$ の円形プランで、検出面からの深さは 0.2 mである。埋土は、焼土粒を多量に含む褐色土、暗褐色土に分層でき、褐色土中から甕($385 \cdot 386$)や焼成粘土塊等が出土している。

SC7は、A区 K 9 グリッドに位置し、<math>VI a 層で検出した。規模は、直径 0.82 mの円形プランで、 検出面からの深さは 0.15 mである。

SC8は、A区E12 グリッドに位置し、Va層で検出した。規模は $1.4 \text{ m} \times 0.65 \text{ m}$ の長楕円形プランで、検出面からの深さは 0.26 m で、端部にピットが 2 基確認されているが切り合い関係は不明である。遺物は、土器小片が出土している。

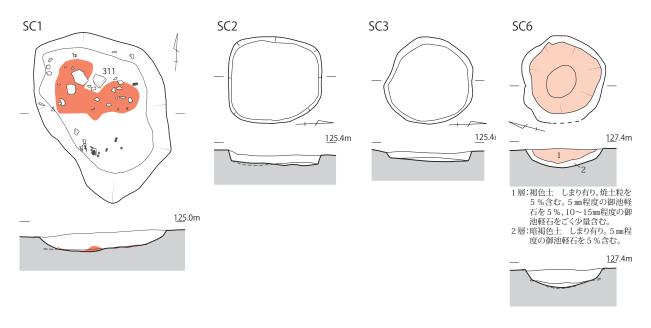
SС9は、A区J9~K9グリッドにかけてVIa層で検出した。規模は $1.32 \text{ m} \times 0.58 \text{ m}$ の長楕円 形プランで、検出面からの深さは 0.2 m。全体的に焼土粒を含む暗褐色土が堆積していたが、東端部に 焼土粒が密集している。遺物は確認されなかった。

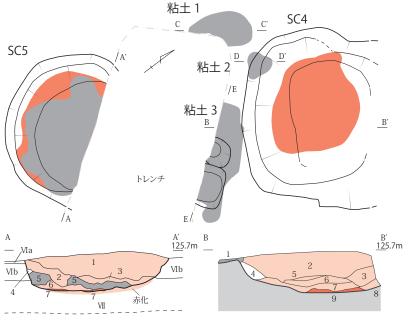
SС 10 は、A区 I 11 グリッドのVII層上面で検出した。規模は $1.2 \text{ m} \times 1.1 \text{ m}$ の不整な円形プランで、 検出面からの深さは 0.32 m。東西をピットに切られている。遺物は確認されていない。

S С 11・S С 13 については、A 区 D 13 グリッドのVI a 層で検出した。そのうちS С 11 の遺構規模は $1.08 \text{ m} \times 0.76 \text{ m}$ の楕円形プランで、検出面からの深さは最深で 0.24 mを測る。またS С 13 については $1.1 \text{ m} \times 0.93 \text{ m}$ の楕円形プランで、検出面からの深さは最深で 0.18 mを測る。どちらも埋土に焼土もしくは焼土粒が見られる。遺物はS С 11 で布痕土器 (387) や軽石製品 (388)・金床石 (311)等、S С 13 で高台付埦 (392) や甕 (393) 等が出土している。なお、同グリッドには焼土 1 や焼土 4・ 5 も確認されている。

S C 12 は、A区 C 16 グリッドのVI a 層で検出した。規模は $1.45 \text{ m} \times 0.74 \text{ m}$ の楕円形プランで、検出面からの深さは 0.14 m。焼土を伴い、高台付埦(389)や甕(390)、須恵器の埦(391)等が遺構上部で出土している。

S C 14 は、A区H 12 グリッドのVI a 層で検出した。南側は撹乱により削平されている。遺構の規模は $0.81~\mathrm{m}\times0.72~\mathrm{m}+\alpha$ の楕円形プランになる可能性がある。検出面からの深さは、最深で $0.14~\mathrm{m}$



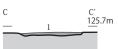


- 1層:暗褐色土 ややしまり有り。焼土粒や炭化物、 10mm以下の御池軽石を多量含む。
- 10m以下の御池軽白を多重さむ。 2層:黒褐色土 ややしまり有り。10m以下の御池軽石を含み、焼土粒や炭化物を少量含む。 3層:黒褐色土 ややしまり有り。粘性が2層より強い。10m以下の御池軽石を含み、焼土粒や炭 化物を少量含む。
- 化物を少量含む。
 4層:黒褐色土 ややしまりが弱い。御池軽石をわずかに含む。
 5層:褐灰色土 にぶい黄橙色や褐灰色の粘土をブロック状に多量に含む。御池軽石や焼土粒・炭化物をわずかに含む。
 6層:暗褐色土 ややしまり有り。10㎜以下の御池軽石や焼土粒や炭化物を含む。

7層:焼土

- 1層:褐灰色土 粘性が強く、褐灰色粘質土ブロックを 多量に含み、御池軽石や焼土粒・炭化物をわずか

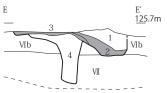
- 4層:黒褐色土 ややしまり有り。5 mm以下の御池軽石 や炭化物をわずかに含む。
- 5層:黒褐色土 しまり有り。焼土粒や炭化物をわずかに
- 含む。 6層:黒褐色土 しまり有り。5 mm以下の御池軽石や焼 土を含み、炭化物を多量に含む。 7層:黒褐色土 しまり有り。5 mm以下の御池軽石や焼
- 、四・派响也上 しより有り。5 mm以下の御池軽石や焼土粒をかなり多量に含む。 8層:黒褐色土 しまり有り。5 mm以下の御池軽石や焼土地・炭化物を多量に含む。 9層:焼土



1 層: 褐灰色土 粘性が強く、褐灰色粘質土プロックを 多量に含み、御池軽石や焼土粒・炭化物をわずか に含む。



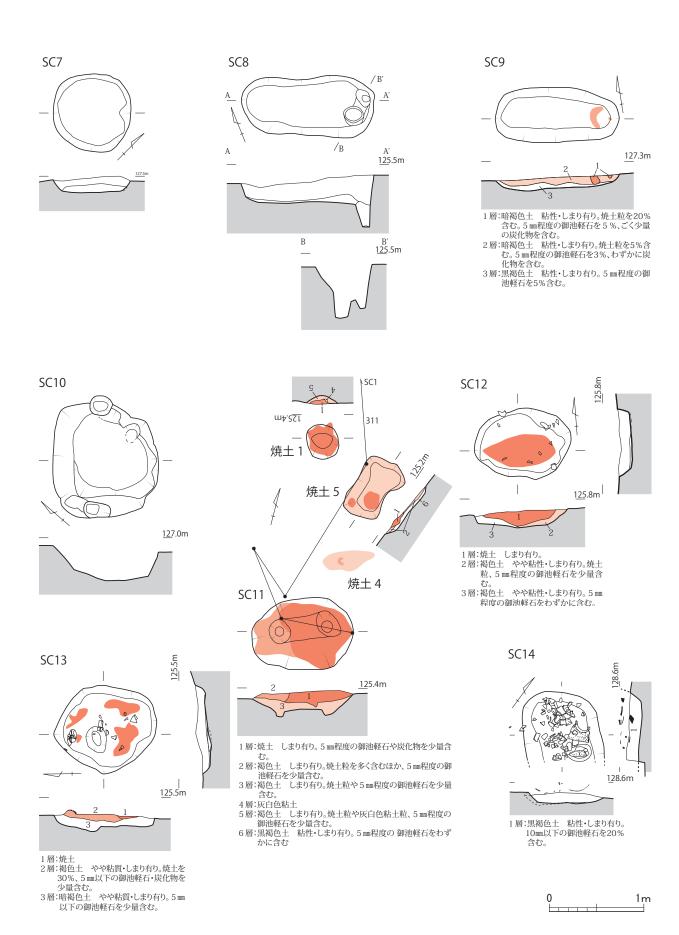
1層:褐灰色土 粘性が強く、褐灰色粘質土ブロックを 多量に含み、御池軽石や焼土粒・炭化物をわずか



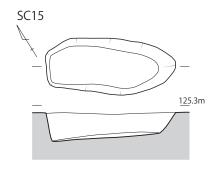
- 1層:暗褐色土 やや軟質でしまり有り。炭化物や 5 mm
- 以下の御池軽石を少量含む。 以下の御池軽石を少量含む。 2層:暗褐色土 やや軟質ややしまり有り。5 m以下の 御池軽石や褐灰色粘質土粒、炭化物を少量含む。 3層褐灰色土 粘性が強く、褐灰色粘質土ブロックを 多量に含み、御池軽石や焼土粒・炭化物をわずか に含む。 4層:黒褐色土 やや軟質でしまり有り。御池軽石をに
- 多く含む。

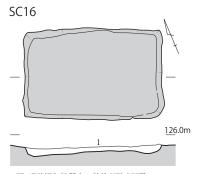


第 43 図 土坑 (SC) 実測図 1 (S=1/40)



第44図 土坑 (SC) 実測図2および焼土実測図1 (S=1/40)



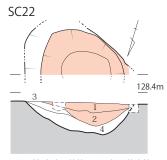


1層:明黄褐色粘質土 粘性が強く硬質。



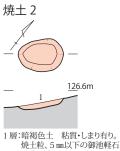
1層:暗褐色土 粘性・しまり有り。焼土 粒をわずかに含む。御池軽石を1% 含む。

2層:暗褐色土 粘性・しまり有り。焼土 粒を少量含む。御池軽石を5%含

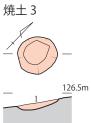


1層: 暗褐色土 粘性・しまり有り。焼土粒を少量、5 mm以下の御池軽石を5%合む。5 mm以下の炭化物を若干含む。2層: 暗褐色土 粘性・しまり有り。焼土粒を多量、5 mm以下の炭化物を含む。10 mm以下の炭化物を含む。3層: 暗褐色土 粘性・しまり有り。5 mm以下の炭化物を含む。

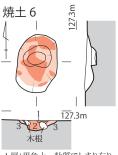
- 下の御池軽石を1%含む。 4層:黒褐色土 粘性・しまり有り。5 m以 下の御池軽石を1%含む。



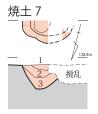
を少量含む。



1層:暗褐色土 粘質・しまり有り。 焼土粒、5 m以下の御池軽石 を少量含む。

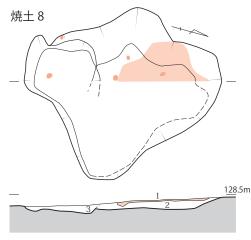


1 層: 黒色士 粘質でしまり有り。 焼土粒を若干含む。 2 層: 焼土 3 層: 暗褐色土 やや粘質・しまり 有り。焼土粒を多量、炭化物 を若干含む。

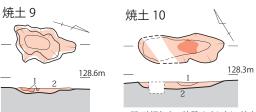


- 1層:黒褐色土 やや軟質でしまりがない、焼土粒を多く含み、炭化物を含む。 2層:黒褐色土 やや軟質でしまりがない。焼土粒をわずかに
- 会み、炭化物を含む。 3層:黒褐色土 やや粘質・しまり 有り。焼土粒、炭化物を若干 含む。

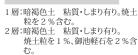
焼土 11



- 1 層: 黒色土 粘質でしまり有り。1~2 mmの炭化物を部分的に多く含み、御池軽石を3%含む。焼土粒を多く含む。 2 層: 暗褐色土 粘性有り。1~2 mmの御池軽石を3%含む。一部炭化物・焼土粒を含む。 3 層: 暗褐色土 2層に特徴が同じだが、2と比べしまりがある。



やや粘質・しまり 有り。焼土粒を少量含む。

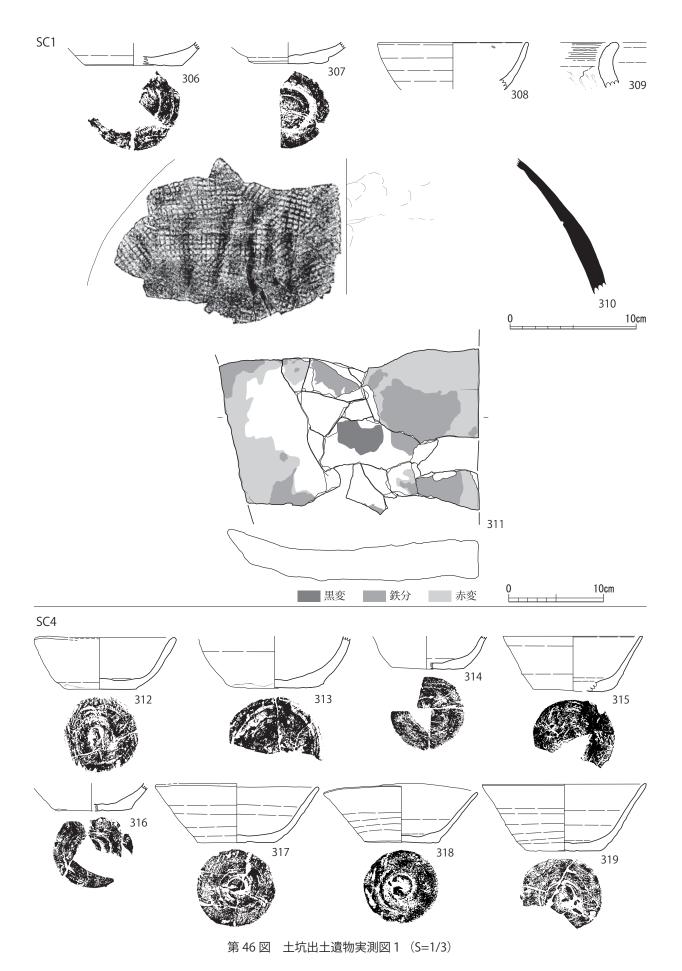




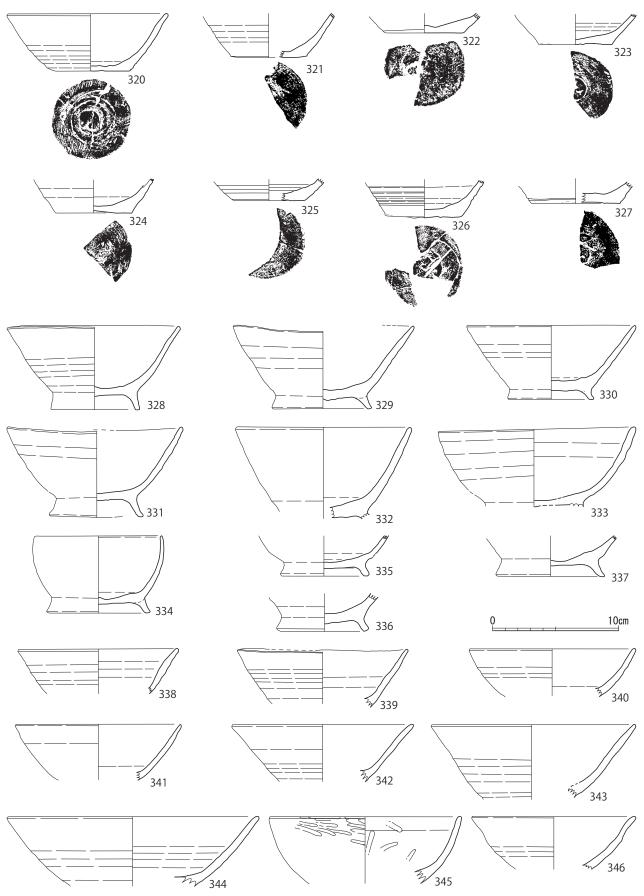
129.2m



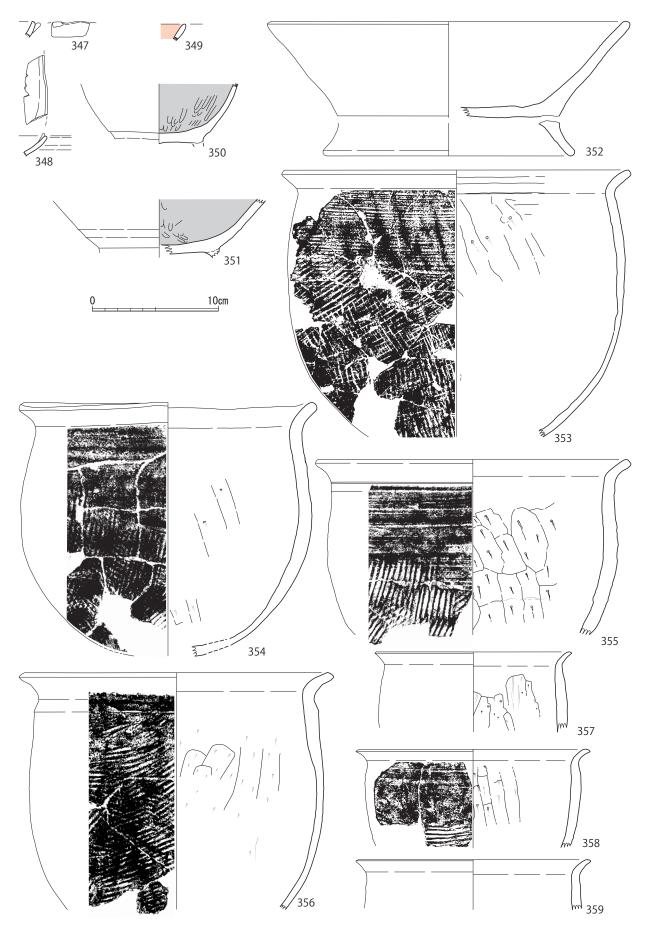
1層:焼土 2層:暗褐色土



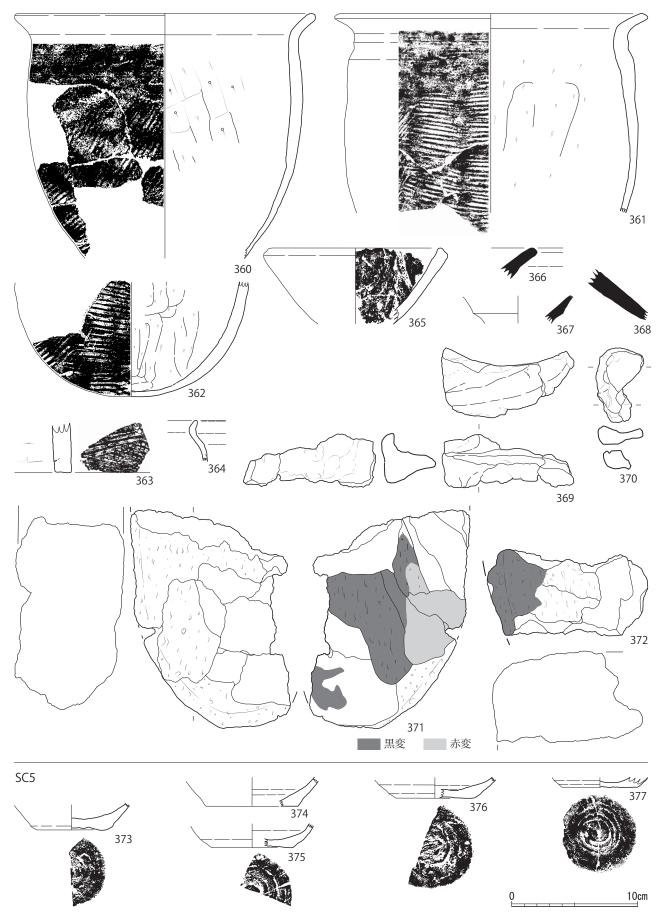
- 62 -



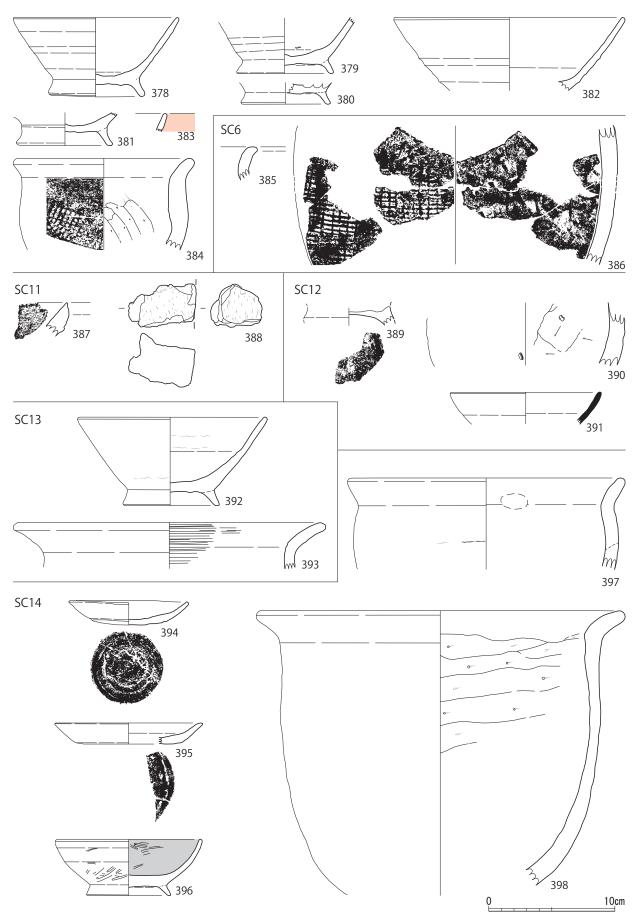
第 47 図 土坑出土遺物実測図 2 (S=1/3)



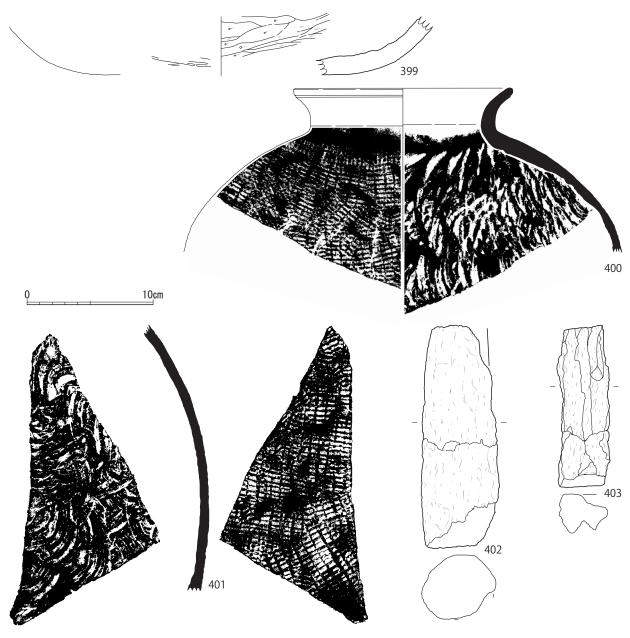
第 48 図 土坑出土遺物実測図 3 (S=1/3)



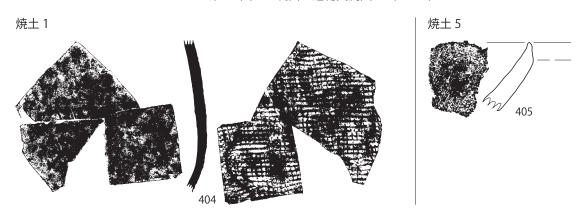
第49図 土坑出土遺物実測図4 (S=1/3)



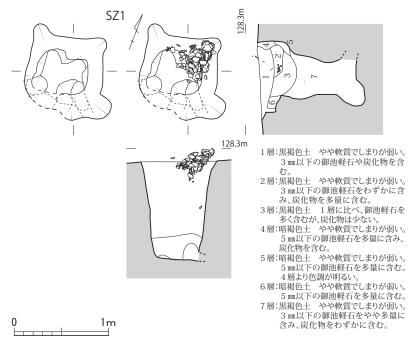
第50図 土坑出土遺物実測図5 (S=1/3)



第 51 図 土坑出土遺物実測図 6 (S=1/3)



第52図 焼土出土遺物実測図(S=1/3)



第53図 SZ1実測図(S=1/40)

である。遺物は、埦(394・395)や黒色土器(396)、甕(397~399)、須恵器の甕(400・401)、 軽石製支柱(402)、軽石製品(403)等が多量に出土している。

S C 15 は、A区B 19 グリッドのVII層上面で検出した。規模は 1.36 m× 0.58 mの長楕円形プラン、 検出面からの深さは 0.3 mである。遺物は出土していない。

SС 16 は、A区B 18 グリッドのV b 層で検出した。規模は $1.45 \text{ m} \times 0.98 \text{ m}$ の長方形プランで、検出面からの深さは 0.1 mであり、遺構内に明黄褐色粘質土が貼られていた。遺構上面で II 層が一部認められることから、後世の可能性が高い。

SС19は、В区Q5グリッド南東端のVIa層で検出した。規模は直径1mの不整な円形プランで、 検出面からの深さは最深で0.26mを測る。埋土には焼土粒を含む暗褐色土で構成されている。

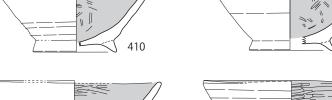
S C 22 は、B 区 V 3 ~ W 3 グリッドにかけて、VI a 層で検出した。北側及び南側、西側はトレンチャー等で削平を受けている。規模は $1.1 \text{ m} + \alpha \times 0.5 \text{ m} + \alpha$ で、検出面からの深さは最深で 0.34 mを測る。埋土には焼土粒を含む暗褐色土が認められる。出土した炭化材ついては、分析の結果、スダジイで 14 C 年代(AMS)は、 1260 ± 20 年 BP(暦年代:AD684 ~ 773 年)の測定値を得ている。なお西側には近接して焼土 7 がある。

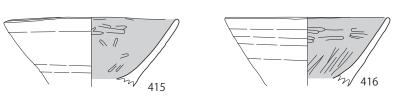
(3) 焼土 (第44 図・第45 図・第52 図404・405)

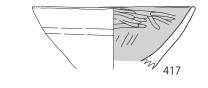
焼土は、11基確認されている。そのうちA区では6基、B区が5基である。

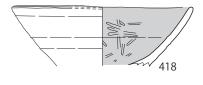
焼土 1 は A 区 D 13 グリッド北東部、VI a 層で検出した。規模は 0.36 $m \times 0.31$ m の円形プランを呈し、検出面からの深さは 9 cm を測る。北西約 0.3 m 先には焼土 5 、南南東約 1 m 先に焼土 4 、南方向 1.5 m に S C 11 が位置する。遺物は須恵器甕の胴部片(404)等が出土している。

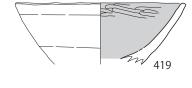
焼土 2 は A 区 E 12 グリッド南東部に位置し、VI a 層で検出した。北西約 2.8 m先には、焼土 3 が隣接する。規模は 0.48 m× 0.34 mの楕円形プランを呈し、検出面からの深さ 5 cmを測る。遺物は確認

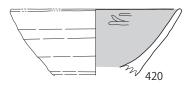


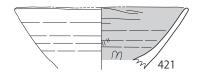




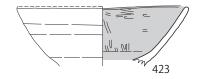


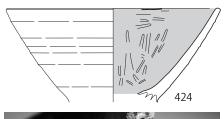


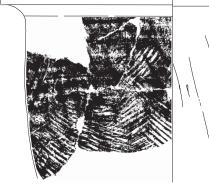


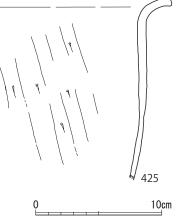














第 54 図 S Z 1 出土遺物実測図(S=1/3)

されていない。

焼土3は焼土2同様、A区E 12 グリッド南東部に位置し、VI a 層で検出した。 $0.42 \text{ m} \times 0.4 \text{ m}$ の円形プランを呈し、検出面からの深さは6 cmを測る。遺物は確認されていない。

焼土 4 は A 区 D 13 グリッド南東部に位置し、VI a 層で検出した。遺構の規模は 0.56 m× 0.22 mの 楕円形プランを呈する。

焼土 5 は焼土 1・焼土 3 同様、A区D 13 グリッド南東部に位置し、VI a 層で検出した。遺構の規模は 0.66 m× 0.47 mの楕円形プランを呈し、検出面からの深さ 8 cmを測る。遺物は布痕土器(405)や金床石(311)等が出土している。

焼土 6 は、A区 I10 グリッド中央東に位置し、VI a 層で検出した。規模は、0.6 m× 0.42 mの楕円形プランを呈し、検出面からの深さは 11 cmを測る。南東 4.3 m先には S C 6 が位置する。遺物は確認されていない。

焼土 7 は、B区 V 3 グリッド南東部に位置し、VI a 層で検出した。遺構の南及び西側はトレンチャーによる削平を受けている。規模は $0.51~\text{m} + \alpha \times 0.23~\text{m} + \alpha$ の楕円形プランを呈するものと考えられる。検出面からの深さ 25~cmを測る。遺物は確認されていない。

焼土 8 は、B 区 U 4~U 5 グリッドにかけて検出した。検出面は VI a 層で、規模は 2.1 m× 1.8 m の不整形プランを呈する。検出面の深さ 10cmを測る。複数の焼土が切り合っている可能性がある。出土した炭化材を分析に出したところ、サカキで 14 C 年代 (AMS) は、1220 ± 20 年 BP(暦年代:AD714~744、765~886 年)の測定値を得ている。なお南方向約 6 m先には、焼土 9 が位置する。

焼土9は、U5グリッド南東部に位置し、VIa 層で検出した。 $0.64 \text{ m} \times 0.37 \text{ m}$ の不整な楕円形プランを呈し、検出面からの深さ6 cmを測る。南南東3.6 m先には焼土10 が位置する。

焼土 10 は、U 6 グリッド中央北側に位置し、VI a 層で検出した。 $0.91 \text{ m} \times 0.27 \text{ m}$ の長楕円形プランを呈し、検出面からの深さ 8 cmを測る。遺物は確認されていない。

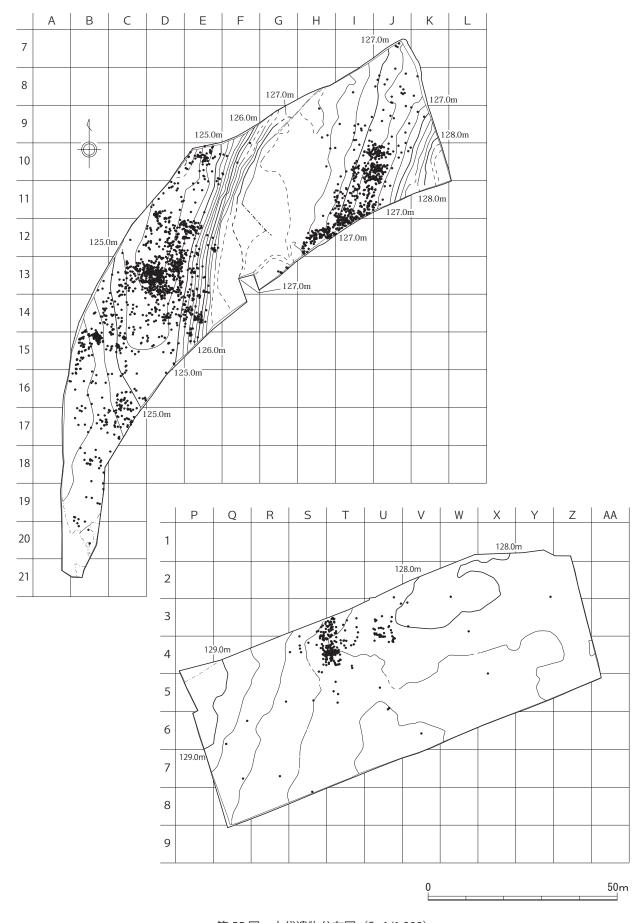
焼土 11 は P 5 グリッドに位置し、VII層上面で検出した。 $0.45 \text{ m} \times 0.35 \text{ m}$ の不整な楕円形プランを呈し、深さ 8 cmを測る。遺物は確認されていない。

(4) 性格不明遺構 (SZ、第53図・第54図406~425)

SZ1はB区U3~U4グリッドにかけて \mbox{VII} 層上面で検出されている。規模は $0.91~\mbox{m} \times 0.83~\mbox{m}$ の不整な円形プランを呈し、深さは最深で $1.08~\mbox{m}$ である。当初は土坑として調査していたが、底面付近では四方に小穴が伸び、大雨等で水が湧くことから水穴の可能性も考えられる。ここでは不明遺構として報告する。

遺物は、遺構上面から中位にかけて出土しており、黒色土器(高台付埦: $406 \sim 423$)や甕(425)等が確認されている。そのうち黒色土器は 21 個体が入れ子状に重なった状態で出土している。8 点のみ完形・もしくは完形に近くものが認められるが、11 点は口縁部から体部まで、2 点は底部(未図化、図版 17、697・698)のみである。1 点のみ口径が 16.7 cmを測るが、他は $12.75 \sim 14.15$ cmの間に収まる。

体部内面には、横位または斜位のミガキを口縁部から底部付近まで施されるが、比較的口縁部から体部中位に密に入るものが目に付く。黒化処理は底部まで及んでいないものも認められた。高台の断面が三角形に近い形状を呈し、退化傾向が顕著である。なお図化を行っていないが、坏底部(図版 17・



第 55 図 古代遺物分布図(S=1/1,000)

699) が 1 点出土している。なお、出土した炭化材の一部を分析に出したところ、スダジイで ¹⁴ C 年代 (AMS) は、1380 ± 20 年 BP (暦年代: AD625 \sim 670 年) の測定値を得ている。

2. 包含層の遺物

これらの遺物はA・B区から出土しているが、特にA区で多く確認されており、全体の約90%を占める。今回の調査から外れた残された包蔵地との関係は詳細に言及できないが、A区の南東方の畑地に古代の集落等が展開する可能性を想起させる出土状況が見られた。

以下、出土した遺物の器種や器形的特徴をもとに、遺物について説明を加える。

(1) 坏(第56図~第59図426~491)

426 は、体部下位の底部からの変化点付近にやや丸みを帯びる。体部外面は丁寧な回転ナデが施され、 調整時に生じる稜が認められない。

427・428・431 は、口縁端部に弱い内湾傾向が見られる。体部の調整痕は内外面ともに丁寧にナデ消されている。429 は、やや不整形な底部から直線的に立ち上がる器形に特徴がある。底部から体部への変化点付近は器壁が厚い。口縁部に見られる弱い歪みは、焼成時に生じたと考えられる。430 は、底部から体部中位までの資料である。底部外面に比較的明瞭に面取された痕が認められる。

432~434は、底部から角度をもって直線的に立ち上がる体部をもつ。434は、器高が前出の2個体より劣るが、厚い器壁を有し体部が同様に直線的に立ち上がる。

 $435 \sim 439$ は、底径がやや小さく、底部から外方に向かい緩やかに開く器形を有する。体部の外面に調整痕が認められる個体もあるが、概ね回転ナデでにより体部外面は稜のない平滑な仕上げとする。 436 には体部下位に墨書が認められる。運筆から判断して倒位に書された文字と判断できる。文字が書された部分は全体が残っておらず、その全体を認識することができないため確実な判読はできない。 $440 \sim 444$ は、底部片の一括資料である。

 $445 \sim 452$ は、5 cm前後の底径で、比較的高い器高を有する一群である。体部は、ほぼ直線的に立ち上がり、体部の調整痕が明瞭に残る。453 は、底部外縁をシャープに仕上げる。454 は体部外面の下位にナデ上げ状の調整が認められる。 $455 \cdot 456$ は、底部から体部への変化点付近に張りがあり、そこから角度をもって立ち上がる器形を呈する。457 は、底部の径に比して大きな口径をもち、体部外面には丁寧な回転ナデによる調整を施す。底部内面の中央に成形時に生じたと考えられる突出部が認められる。 $458 \sim 461$ は、底部片の一括資料である。

462~467 は、円盤様の底部を有する一群である。そのうち 462 は、安定した底部から直線的かつやや立ち気味に外方に向かい立ち上がる器形を呈する。463 は、いわゆる円盤状高台に類した断面形状を呈すが、底部外面付近の調整観察から考えると器形成形時の所産と考えられる。464~467 は、底部から体部への変化点付近に弱い屈曲を有する一群である。464・467 は、内外面ともに丁寧な回転ナデを施す。465 は、他と比して器高と底径に大きな差はないが口径が優越し調整も丁寧である。466 は、口径と底径がやや小さく、外方に角度をもって立ち上がる器形を呈する。

 $468 \sim 483$ は、底部の一括資料である。 $468 \cdot 470 \cdot 472 \cdot 473$ は、底部外縁が鋭角を呈するタイプである。469 は、463 に類似した同様に円盤状高台に類した断面形状を呈す。471 は、底部から体部への変化点に弱い屈曲が認められる個体である。また 465 に類するが底径が小さい。 $474 \sim 477$ は、

底部外縁を回転ナデにより面取りした痕跡が認められる。480・481 は、底部から体部への変化点付近に弱い屈曲を有する。478・479・482・483 は、外方に開く体部を有する底部片である。

484 は、底径 11.5cmを計り、他と比して異質な器形を呈する。底部外面の接地面から一度外方に向かって開き、底部下位から角度をもって立ち上がる。内面調整が丁寧なことから、器高によっては鉢状の器形となる可能性も指摘しておきたい。

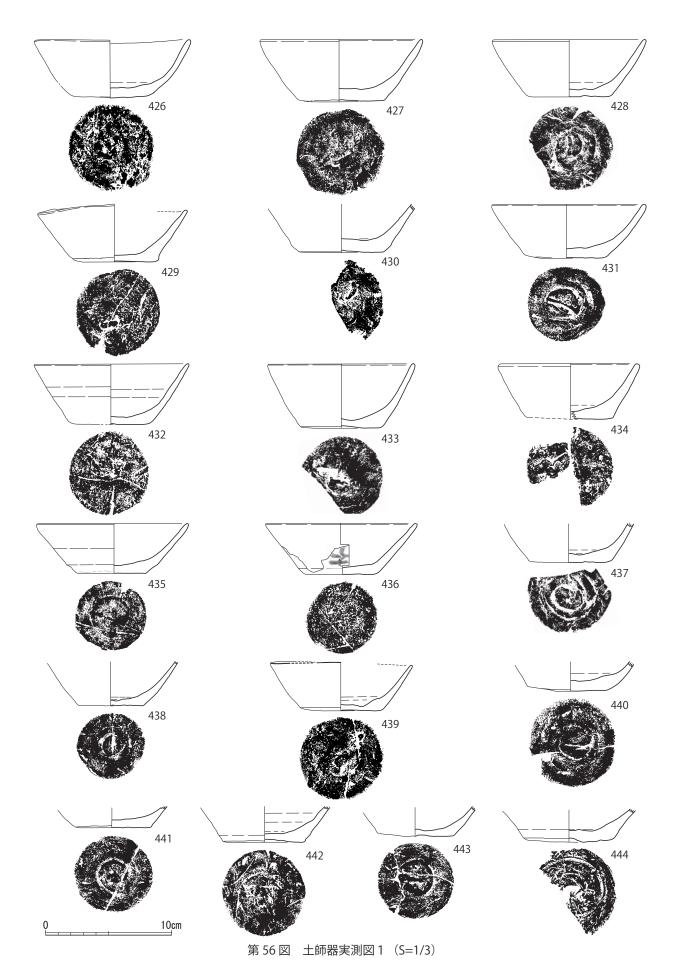
485~488・491 は、器高が3cmに満たない坏である。491 は、口径が大きくやや外反しながら外方に開く器形を呈する。口縁端部がやや肥厚し丸く収める。489 は、安定した底部を有し、体部は一度外方に開き立ち弱い屈曲を持ちながら角度を変えて立ち上がる。口縁端部をやや尖り気味に仕上げる。白磁のVI類に類似した器形を呈する。490 は、小型の坏である。

(2) 埦 (第60図~第61図 492~539)

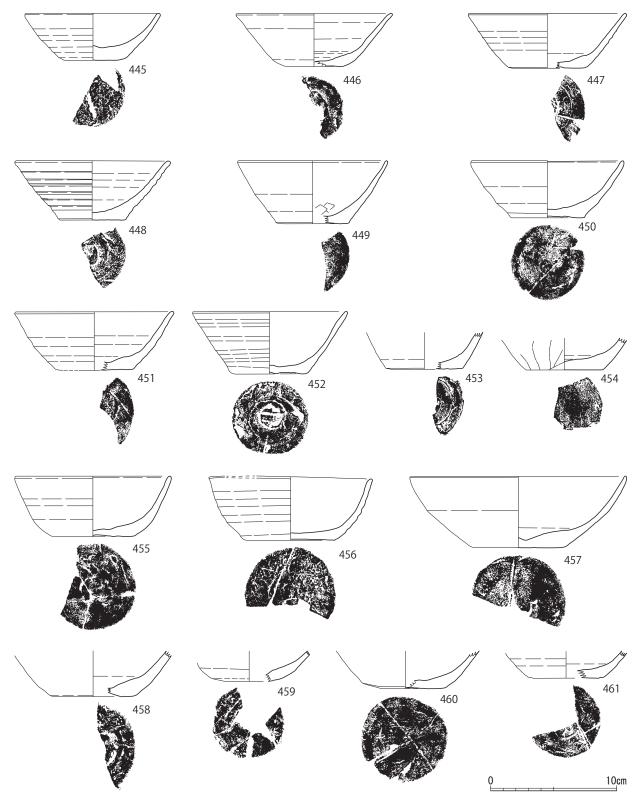
包含層から出土した城については、円盤高台付城の類いは少なく、高台付城が大半を占める。黒色土器にも城類が多く含まれるが、それらについては黒色土器の項で取り上げるものとする。

492 は、外方に向かい直線的に開く体部を有する。高台は外方に開き、接地面を平滑に仕上げる。493 は、器形的に 492 と同様の体部を有するが、底部はかなり肥厚する。高台の接地面は平滑に仕上げるがやや外縁はやや浮き気味となる。494・495 は、体部片である。底部付近の破断面の特徴から高台付境と判断した。494 は、ほぼ直線的に外方に開く器形を呈す。器表面の内外面に成形時の回転ナデによる調整が明瞭に残る。器高的に優越しやや大型の境といえる。495 は、体部の器壁厚がやや不均一である。体部内面に沈線状の調整痕が認められるが、意図的なものでではないと考えられる。496・497 は、高台の接地面がやや浮き気味となる特徴がある。なお 497 の高台外面には、弱い外反が認められる。498 は、高台端部を丸く収める。高台外面の調整は丁寧である。500・501 は、内湾気味に立ち上がる体部に特徴がある。504 は、やや尖り気味の高台端部を有する。高台外縁は、鋭角的かつ接地面を平滑に仕上げている。506 は、やや高めの高台である。弱い外反が認められ、端部を丸く収める。508 の高台外縁には、弱い屈曲が認められる。

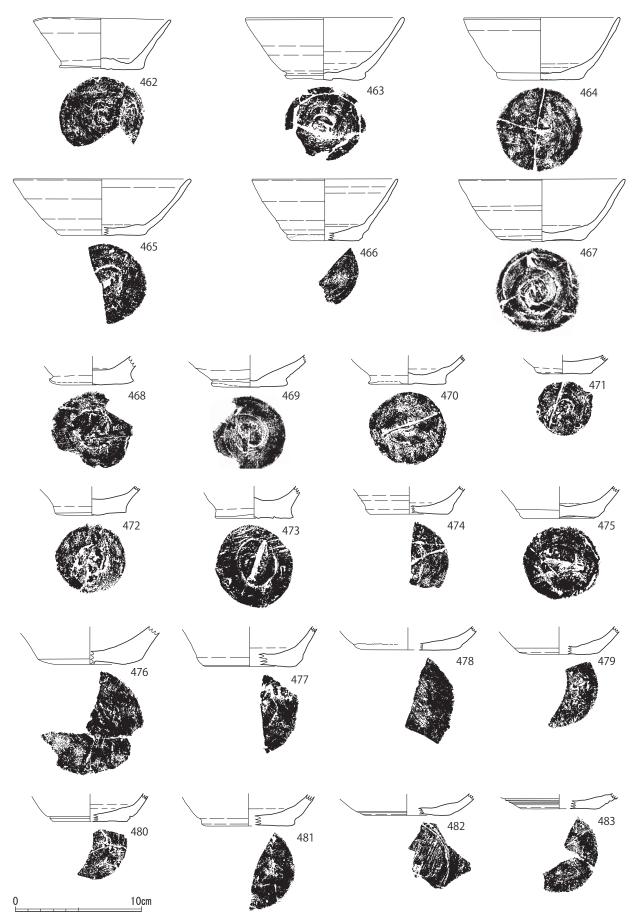
507・509 は器形的に近似すると考えられる。507 は、体部の内外面に比較的密にミガキを施す。底部から一度外方に開き、体部下位から上方に向かい立ち上げる。口縁端部は、わずかに外反する。510 は、507・509 に近い口径を有すると考えられるが、器形的には立ち上がりが507 と比してやや弱く外方に広がる器形を呈すると考えられる。511 は、高台の高さが一定しない不整形な器形である。512 は、鋭角な三角形となる断面形状を呈する高台を有する。底部内面付近に粗密のあるミガキを施す。513・514 は充実した高台を有する個体である。特に514 は、内外面とも丁寧な調整を施す。516 は、高台外面がわずかに膨らみをもつ。519 は、508 と類似した高台である。体部は外方に大きく開き、器高的にはやや低めか。521~526 は低めの高台であり、やや退化傾向にある。529 は、高台付埦の底部片である。底部内面には当て布の痕跡が、高台内面には工具によると考えられる連続する圧痕が認められる。531~534 は高台の断面が三角形に近い形状を呈する。退化傾向が顕著である。536 には底部内面の調整時に残された圧痕が、明瞭に残る。537 は、高台を有する小型の埦である。丁寧な調整を施し、特殊な器形であることから仏器の模倣品の可能性が指摘できる。538・539 も小型の埦であり、537 に類すると考えられる。



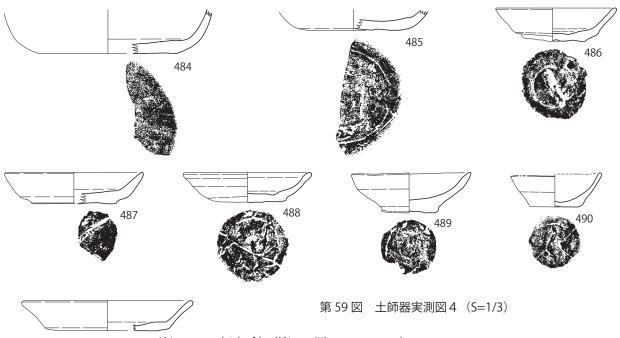
- 74 -



第 57 図 土師器実測図 2 (S=1/3)



第 58 図 土師器実測図 3 (S=1/3)



(3) 鉢 (第61 図 540 ~ 547)

540~546は、鉢である。底部片を確認していないが、平底の 底部と考えられる。540・541は、口縁が外方に開き、口縁直下か ら底部に向かいやや膨らみを持ちながらすぼまる器形を呈する。ま

た540の体部外面には、格子目のタタキ痕が明瞭に残る。内面には工具によるナデ調整が顕著である。 541は、口径が25cm近くあり、鍋的な性格で使用された可能性もある。547は、高台付鉢である。厚めの器壁を有し、口縁端部まで器壁がほぼ均一である。

(4) 坏蓋ほか (第61 図 548・549)

548 は、坏蓋と考えられる。端部が下方に向かい屈曲する。549 は、大きく変形した坏の底部である。 全体のプロポーションが把握できないが、焼成前に意図的に成形されたと考えられる。

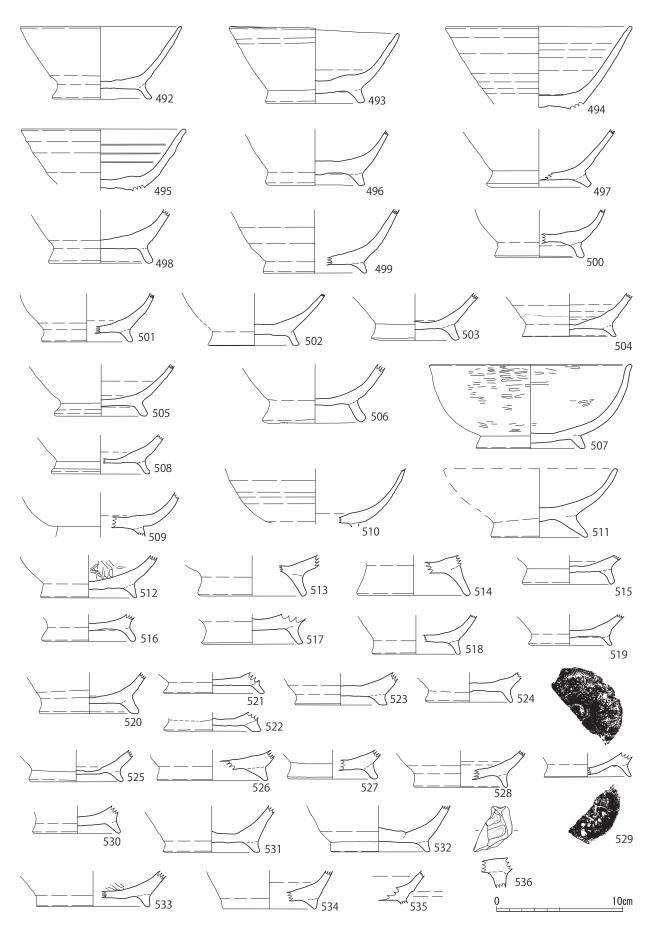
(5) 赤彩のある土器 (第61 図 550~552)

赤彩のある土器は点数は少ないが、A区のSC4やSC5からも出土している。 $550\sim552$ は坏で、内面に赤彩を施している。550は、底部外縁をシャープに仕上げる。内面には横位のミガキが口縁部から体部中位付近まで密に施す。 $551\cdot552$ は、体部片である。ともに内面に横位を中心としたミガキを施す。

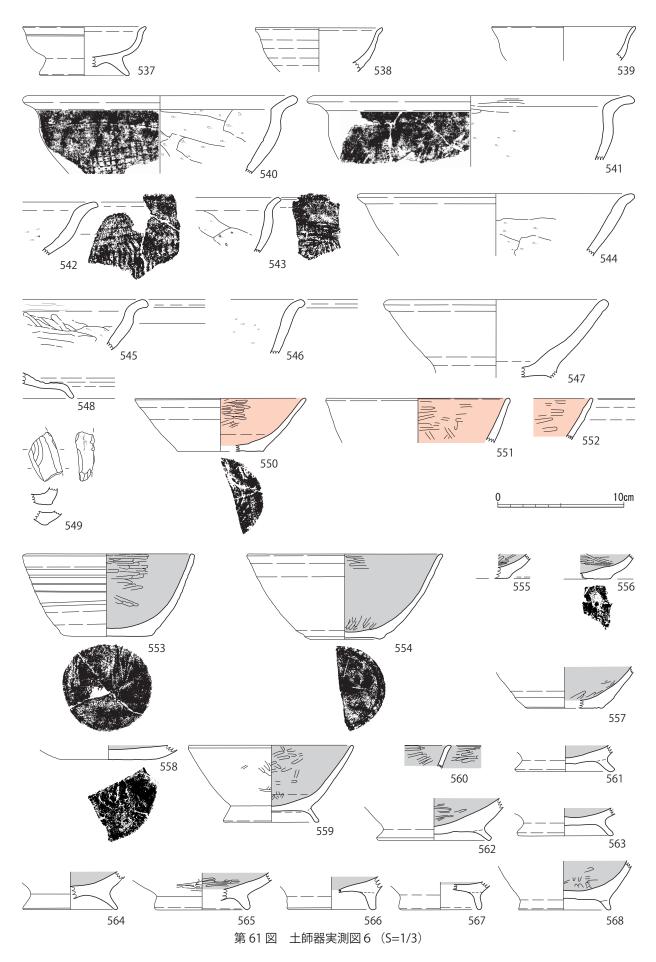
(6) 黒色土器 (第61図 553~568)

黒色土器は、B区のSZ1から入れ子状態で出土するなど、この遺跡の時期を考える上で重要な意味を持つ遺物である。坏と高台付埦があるが、大半は高台付埦である。内外面に黒化処理を施す両黒の個体として560を1点のみ認定するが、口縁部付近の破片であり焼成時の所産の可能性も考えられる。

553・554 は大型の坏である。553 は、底部外面のヘラ切り痕を丁寧にナデ消している。底部から体部への変化点付近の形状は前述の465 等に類似する。体部内面に横位、斜位のミガキを口縁部から体



第 60 図 土師器実測図 5 (S=1/3)



部中位付近まで密に施すが、中位以下では疎となる。また 554 は、底部に高台が外れたと考えられる痕跡を残す。器形としては、本来は高台付埦であろう。内面の口縁部付近と底部付近に横位と斜位のミガキを施す。 $555 \sim 558$ は、坏の底部片である。559 は、底部付近から外方に直線的に開く体部と同じく直線的に開く細身の高台をもつ個体である。内外面にミガキが見られる。内外面ともにミガキの単位は把握できるが方向を一にしていない。

(7) 甕(第62図~第64図 569~602)

饗は、胴部外面の口縁直下から底部付近まで格子目タタキまたは平行タタキを施し、内面には上から下へのケズリ痕を明瞭に残す個体が多い。569 は、胴部中位が球状に張るタイプである。570 もこの器形に類すると考えられる。口縁は水平に近い角度まで大きく外反する。571 は、胴部中位から斜位に方向を一にして平行タタキを施す。572 は、胴部外面の調整がやや不明瞭であるが、水平方向に工具による横方向のハケメが認められる。573 は、丸底の底部から直線的に立ち上がる胴部に特徴がある。575 は、胴部の最大径は、口径をわずかに上回ると考えられる。調整に特徴があり、胴部外面と口縁内部から胴部上位まで密に横方向のハケメを施す。576 ~578 は、比較的小型の甕である。576 は、やや寸胴の器形を呈すると考えられる。579 は、胴部外面上位にヨコナデを施す。明瞭な稜が立つ。585・593 にも同様の特徴が認められる。583 は、口縁が矮小化する特異な器形を呈する。586・587の口縁内部には、周回する工具ナデが顕著に残る。591 ~593 は、ほぼ水平に開く口縁に特徴がある。594 は、口縁が上方に伸び、外面には調整によると考えられる平滑面が認められる。595 は、短い単位の工具ナデを口縁の内外面に施す。胴部外面はナデにより平滑に仕上げる。596 は、短小の口縁を有し、胴部内面に縦方向のケズリを施す。597 は、成形及び調整がやや粗い。粗製である。598・599 は小型の個体である。599 は、口径が 10cmにも満たないが、成形及び調整は丁寧である。

600・601 は底部片の一括資料である。601 は、底部付近全体に格子目タタキによる調整を施す。

(8) 甑 (第65図 603~613)

 $603\cdot604$ は同一個体と考えられる。甑については、口縁を確認した個体は 603 のみである。605 は、球状に胴が張る器形を呈する個体である。外面には密な平行タタキを内面には工具ナデを施す。606 は、甑の底部付近の破片である。外面には密に格子目タタキを施す。 $607\sim609$ は、底部付近が一部欠損した資料であるが、底部の器壁の厚み等から甑と認定した。 $610\sim613$ は、甑の把手と考えられる。

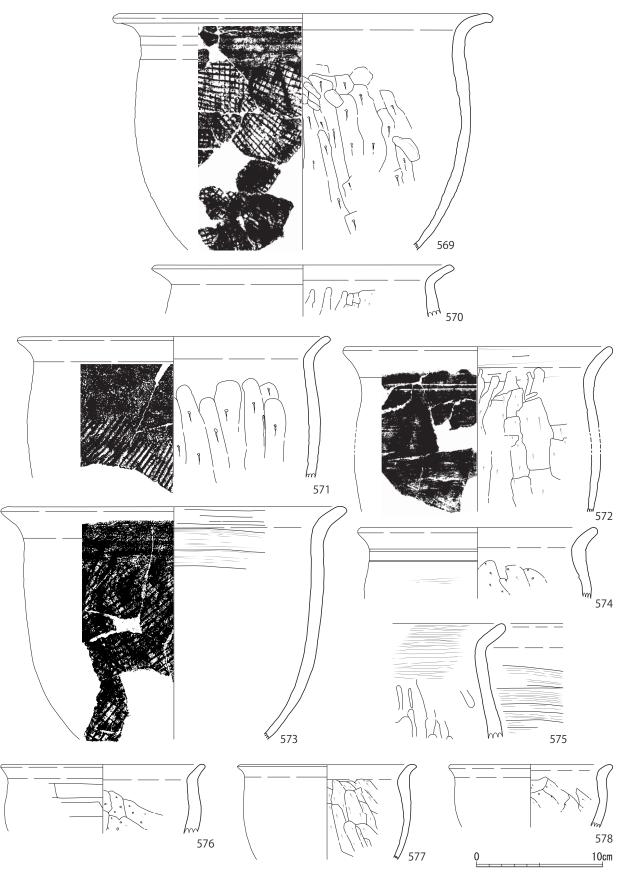
(9) 布痕土器 (第66図 614~625)

布痕土器の破片は数多く出土したが、土器の性質上風化が激しく、口径が復元できた個体は 10 点のみである。口径の最大は 11.8cm (619)、最小は 10.9cmで (618) あり、平均口径は 11.2cmである。口径的には、個体間にさほど大きな差異はなく、法量的にも近しい。

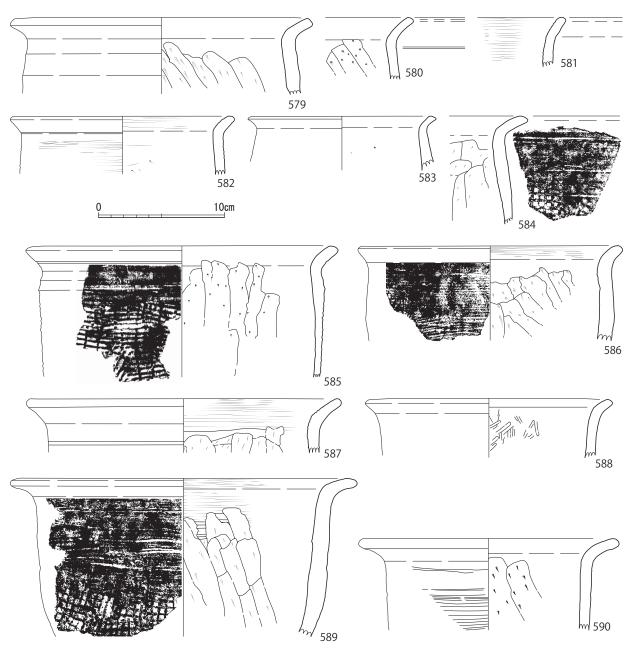
(10) 須恵器 (第67図~第69図626~667)

坏 (第67 図626~632)

626・627 は同一個体と考えられる。体部の内外面に丁寧な調整を施す。628~632 に比して大型



第 62 図 土師器実測図 7 (S=1/3)



第63図 土師器実測図8 (S=1/3)

の器形を呈する。

高台付埦 (第67 図633~647)

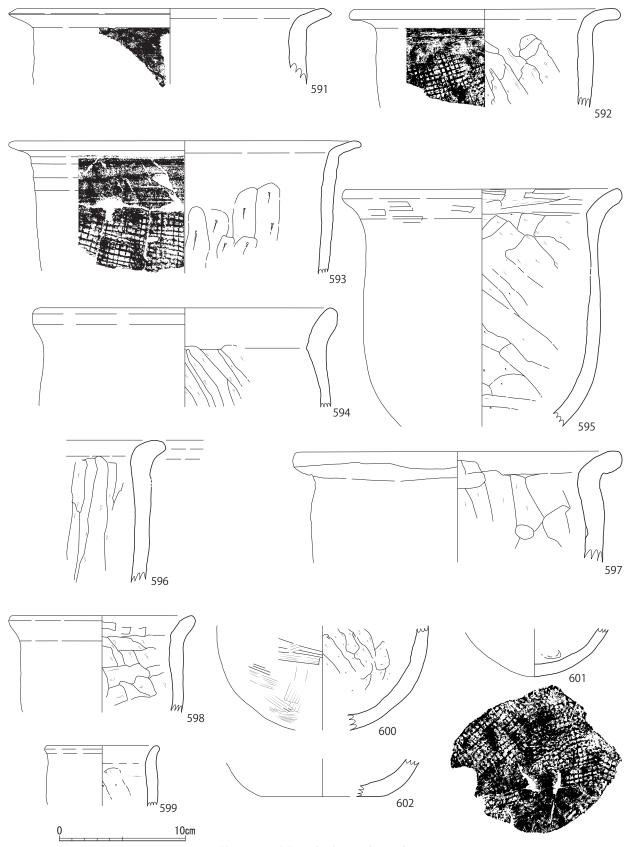
635 は、口縁端部が玉縁状に肥厚し、口径 16.2㎝を計る大型の塊である。641 は、体部下位から緩やかに湾曲しながら立ち上がる器形を呈する。643・644 に見られるように全体的に高台には退化傾向が認められる。640 の内面には、鉄分の沈着が認められるが要因は不明である。

鉢 (第68図648~653)

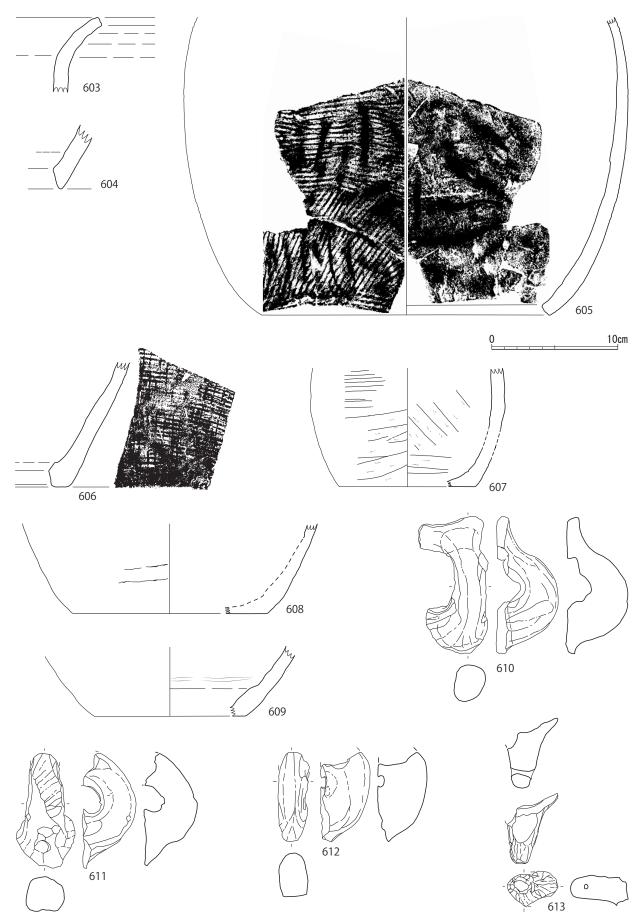
底部を平滑に整え、やや立ち気味に外方に開く器形が共通する。口縁端部は、その上部を平滑に仕上げるもの(648・650)、嘴状に仕上げるもの(649・651・652)がある。

甕 (第68図654)

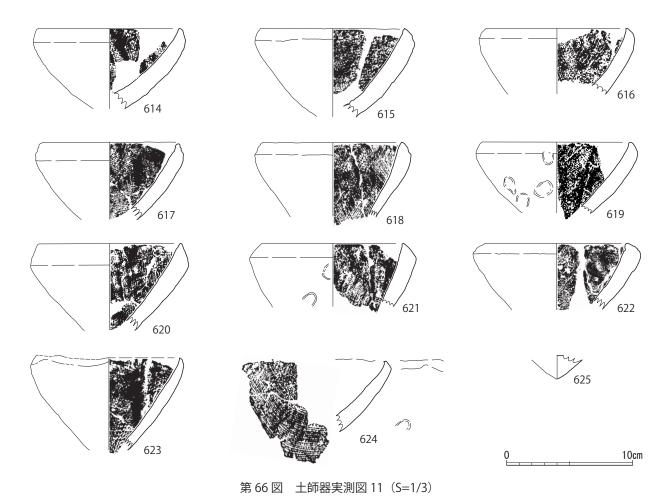
外方に向かい開くやや短い口縁を有する。器形全体は把握できないが、胴部の中位より上に最大径を



第 64 図 土師器実測図 9 (S=1/3)



第 65 図 土師器実測図 10 (S=1/3)



もつと考えられる。胴部外面には格子目タタキを施す。

壺 (第 68 図・第 69 図 655 ~ 667)

 $655 \sim 663$ は、受け口状の二重口縁を有する壺である。 $664 \sim 667$ は、胴部外面に格子目タタキ($664 \cdot 666 \cdot 667$)、平行タタキ(665) を施す。665 は、二耳壺と考えられる。667 は、高台を有する壺である。

(11) 瓦質土器 (第69 図 668 ~ 673)

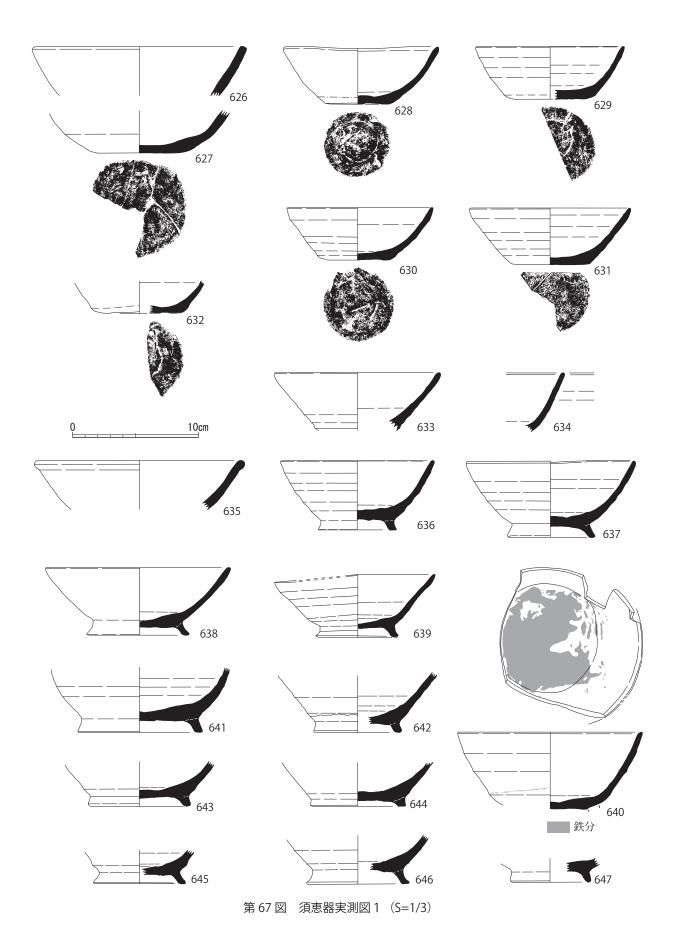
点数は少ないが、高台付埦を中心に出土している。高台付埦の高台は退化傾向が認められる。

(12) 土製品 (第69図 674~682)

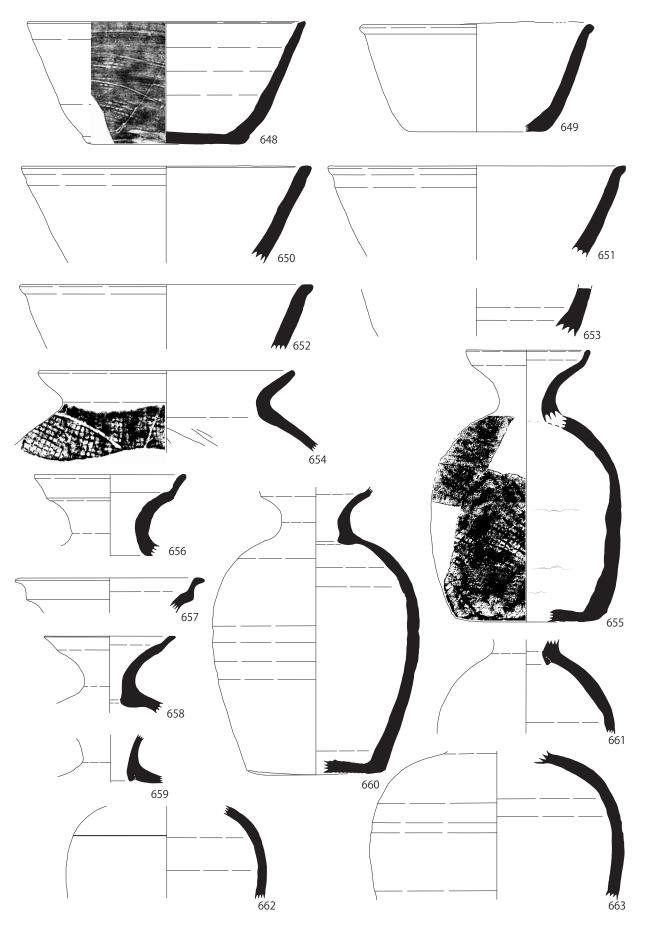
 $674 \cdot 675$ は、鞴羽口の先端付近である。どちらも溶解物が付着している。古墳時代のもの(221・222:径 6 cm)と比べると $7.8 \sim 8.1$ cm と径が一回り大きい。 $676 \sim 679$ は、紡錘車である。円形で中央に穿孔が認められる。このうち 676 は、直径 6 cm、穿孔径 1.4 cm である。 $680 \sim 682$ は、用途不明の土製品である。そのうち 680 は、紡錘形の形状で中央に穿孔が認められる。

(13) 鉄製品 (第70図 683~686)

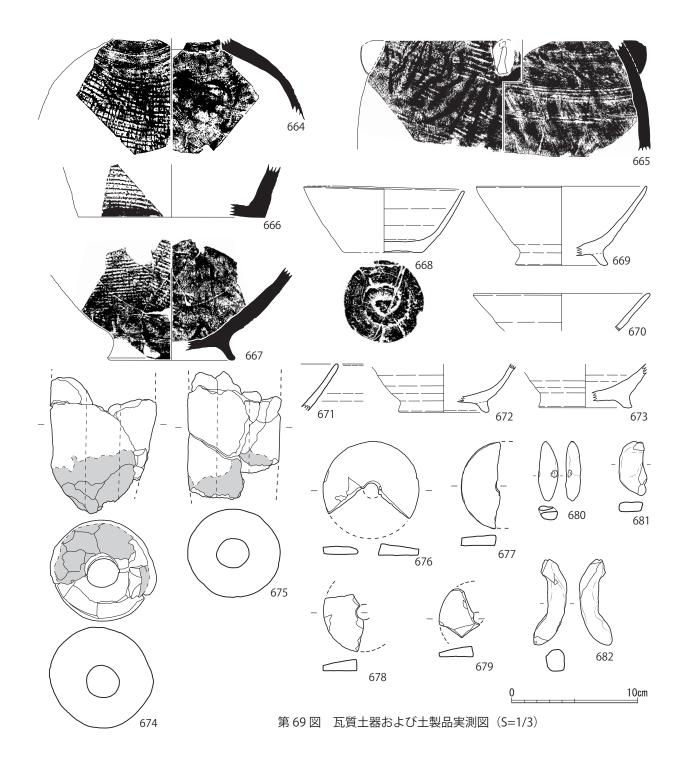
638・684 は、鋤先と考えられる資料である。685 は、先端部が二股に分かれる雁股鏃である。686 は鉄鏃の茎部と考えられる。また図化を行っていないが、A区のVa層中から鉄滓が出土している(図



- 86 -



第 68 図 須恵器実測図 2 (S=1/3)



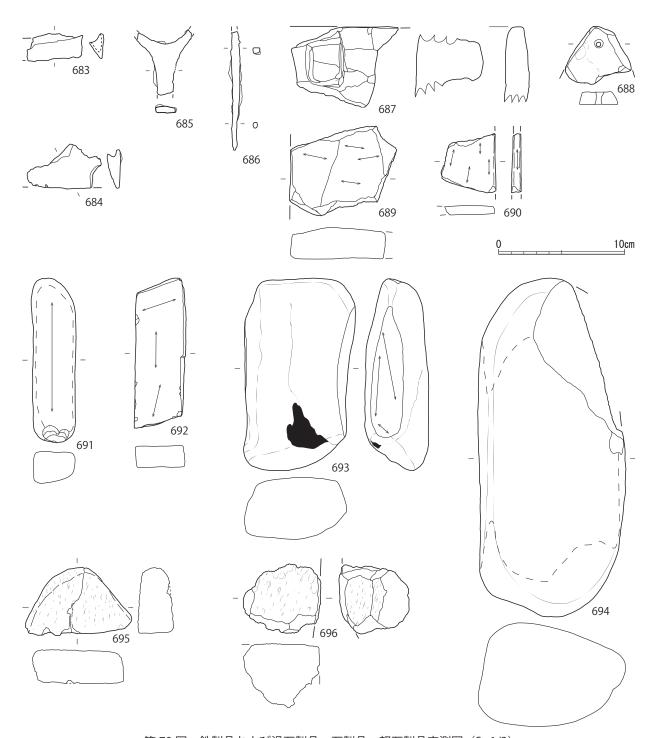
版 22、700 ~ 705)。

(14) 滑石製品 (第70図 687)

687 は、縦方向の瘤状把手いわゆる耳を有する滑石製石鍋片の二次加工品である。上下に削痕が認められることから、把手は本来もう少し大きいものであったと考えられる。

(15) 石製器 (第70図 688~694)

688 は、有孔石製品である。 $689 \sim 694$ は砥石である。そのうち 689 は、砥面は 1 面のみで、表面中央には使用による稜が入る。 $690 \cdot 691$ は表裏側面の 3 面で使用されている。692 は表裏 2 面が砥



第70図 鉄製品および滑石製品・石製品・軽石製品実測図 (S=1/3)

面となる。使用により両面とも光沢がある。693 は右側面が砥面となり、内湾ぎみになっている。694 は大型で表面・左側面が使用されている。

(16) 軽石製品 (第70図 695~696)

 $695 \cdot 696$ は、軽石製品である。そのうち 695 は、三角形状に面取されている。696 は、全体形が不明だが、表面・右側面に面取された痕跡が認められる。

遺物	\$16 FM	器種	出土	교수	手法・調整	・文様ほか	let: -43	色	調	11/2-1- 07 sleft 20th	[;±: -t-r
番号	種別	部位	地点	層序	外 面	内 面	焼成	外 面	内 面	胎土の特徴	備考
		鉢			沈線文	NA AMERICA				ごく微細な透明光沢粒、1mm以下の褐	-
1	縄文土器	口縁部	B 1	_	横方向のナデ	沈線文	良好	灰黄色	灰白色	灰色・黒褐色・灰白色・黒褐光沢・淡	推定口径 16cm
		~胴部	SC17		横・斜方向のミガキ	横・斜方向のミガキ				黄色粒を含む	
		731-31-11-			B4 3/1/31/3/3 4/4 1					ごく微細な透明光沢粒、2mm以下の褐	-
2	縄文土器	鉢	B 1	_	横方向のナデ	ナデ	良好	にぶい	にぶい	色・褐灰色・黒褐色・黒褐色光沢・に	外面:スス付着
2	和4人上107	口縁部	SC17		横方向の貝殻条痕	, ,	1231	黄橙色	黄橙色		76回・ハハ門有
										ぶい赤褐色粒を含む	
	AW -1 - 1 DD	鉢	B 1		貼付突帯	W-4-4-0-1 =*	÷17	にぶい	にぶい	ごく微細な透明光沢粒、2㎜以下の透	HT. 22/136
3	縄文土器	胴部	SC18	_	横方向のナデ	横方向のナデ	良好	黄橙色	橙色	明光沢・黒褐色・黒褐色光沢・灰白色・	外面:人人付看
										褐灰色粒を含む	
4	縄文土器	浅鉢	B 2	_	横方向のナデ	横方向のナデ	良好	にぶい	明黄褐色	2 mm以下の褐色・褐灰色・透明光沢粒	
		口縁部	SC21					黄橙色		を含む	
5	縄文土器	深鉢	B 2	_	ミガキ?	ミガキ	良好	黄灰色	灰黄褐色	3 mm以下の褐灰色・透明光沢粒をわず	
		口縁部	SC20							かに含む	
		深鉢	B 2					にぶい		4 mm以下の透明光沢・灰白色粒を多量	
6	縄文土器	口縁部	SC20	-	貝殼条痕	ミガキ	良好	黄橙色	褐灰色	に含む	外面:スス付着
		~胴部	SC21					典拉巴		12.00	
		2012-04-	D O		RF1+ofe ##					1 mm以下の褐灰色粒、3 mm以下の灰白	
7	縄文土器	深鉢	B 2	_	貼付突帯	横方向のナデ	良好	灰黄褐色	褐灰色	色・淡灰白色・にぶい橙色・黒褐色粒	黒斑
		口縁部	SC20		横方向のナデ					を含む	
					貼付突帯					ごく微細な透明光沢粒、1mm以下の透	7と同一個体
		深鉢	В 2		横方向の貝殻条痕	横方向の貝殻条痕		にぶい		明光沢・淡黄色粒、3 mm以下の明黄褐色・	推定口径 30.9㎝
8	縄文土器	口縁部	SC21	_	横方向のナデ	50313-50001030	良好	黄 色	黄灰色	黒褐色・黒褐色光沢・褐灰色・灰白色	外面:スス付着
		THE PARTY OF THE P	3021		1M/7 Hiv 2 / /			м С			
					貼付突帯					粒を含む ごく微細な透明光沢粒、3mm以下の灰	穿孔あり
		深鉢	В 2			供 烈士力の日却々応					6と同一個体
9	縄文土器	口縁部~	SC20	-	横・斜方向の貝殻条痕、		良好	淡黄色	黄灰色	白色・明黄褐色、軟質赤色粒、4㎜以	推定口径 33cm
		底部付近	SC21		横方向のナデ	一部風化ぎみ				下の褐灰色・にぶい褐色・淡黄色・黒	外面:スス付着
					一部風化ぎみ					褐色・黒褐色光沢粒を含む	
		鉢	B 2			ナデ			にぶい	2 mm以下の灰白色・褐色・黒褐色・浅	
10	縄文土器	胴部	SC20	_	縦方向の条痕	風化気味	良好	明黄褐色	黄橙色	黄橙色・無色透明・黒色光沢粒を含む	内面:スス付着
		MAINE	SC21			/34(16.X4/7K			MIXC	Maria Malan Managara	
		浅鉢	B 2							微細な透明光沢・黒色光沢の粒を少量	穿孔あり
11	縄文土器	口縁部	SC20	-	横・斜方向のミガキ	横・斜方向のミガキ	良好	黒褐色	黒褐色	含む	推定口径 24.1cm
		~頸部	R5Gr	V a						100)
		浅鉢	В 2		口唇部にヒレ状突起						
12	縄文土器	口縁部	SC20	_	横方向のミガキ	横方向のミガキ	良好	褐灰色	褐灰色	1 mm以下の灰白色粒をわずかに含む。	推定口径 24.6cm
		~胴部	SC21		胴部にリボン状突起						
		ΔL	D.O.			> 12.4c				1 ㎜以下の褐灰色・黒褐色・灰白色・	推定底径 14.5cm
13	縄文土器	鉢	B 2	_	ミガキ	ミガキ	良好	明黄褐色	暗灰黄色	褐色粒、2mm以下の灰白色・灰褐色・	外面:一部黒斑
		底部	SC21			風化著しい				褐色・黄橙色粒をわずかに含む	b
			B 2		縦方向のミガキ						
14	縄文土器	浅鉢	SC20	_	横方向のミガキ	横・斜方向のミガキ	良好	黒褐色	黒褐色	1 ㎜以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・	推定底径 4.4cm
	1000000	底部	SC21		ミガキ	377313 - 477 1		黒色	, <i>2</i>	黒褐色光沢の粒を含む	7,77,72,72
		浅鉢	B 2		口唇部にリボン状突			にぶい	にぶい		
15	縄文土器			_	起、横方向のミガキ	ミガキ	良好		黄橙色	微細な透明光沢粒を少量含む	
		口縁部 浅鉢	SC24 B 2		ミガキか			黄橙色	典恒巴		
16	縄文土器			_		風化気味	良好	灰白色	灰白色	微細な透明光沢粒を少量含む	
		口縁部	SC25		風化気味					ブノ微細を添明来辺勢 1以下の甲	
17	縄文土器	深鉢	А3	VI a	沈線文	横方向のナデ	良好	灰黄褐色	橙色	でく微細な透明光沢粒、1㎜以下の黒	内面:スス付着
		口縁部			ナデ					褐色・灰白色・黒色透明光沢粒を含む	
					NI Me I.					ごく微細な透明光沢粒、3mm以下の黒	
18	縄文土器	深鉢	B 2	V a	沈線文	ナデ	良好	にぶい	にぶい	褐色光沢・褐灰色・透明光沢・にぶい	
-0	, 42 4 1 1 1 1 1 1	口縁部	R5Gr		ナデ		~~	黄橙色	黄橙色	黄橙色・橙色・淡灰色・灰白色の粒、	
										6 mm以下の褐灰色粒を含む	
										ごく微細な透明光沢粒、2mm以下の黒	
10	¢m-4- 1 ar	深鉢	В 2	17	沈線文	_L_=2	占 4.7	にぶい	共行力.	褐色・黒褐色光沢・透明光沢・明赤褐色・	
19	縄文土器	口縁部	R7Gr	V a	横方向のナデ	ナデ	良好	褐 色	黄褐色	褐灰色・灰白色・淡黄色・にぶい褐色・	
										橙色粒を含む	
		深鉢	B 2		貝殻刺突文	貝殻条痕				1 mm以下の褐灰色・透明光沢・黒色光	
	縄文土器	口縁部	R5Gr	VI a	貝殼条痕	貝殻条痕の後ナデ	良好	明赤褐色	明赤色	沢粒を多く含む	波状口縁
20			В 1		貝殻刺突文	11/1X/1/1X/ / / /				2 m以下の灰白色・淡灰色・黒褐色・	
20		525.5×	ьı	3.7.1		ナデ	良好	橙色	橙色		
	縄文土器	深鉢	CE . D4C	V b	+="					赤褐色・褐灰色粒を含む	
		深鉢 口縁部	S5 • R4Gr	V D	ナデ						
21	縄文土器		S5 · R4Gr		口唇部に縄文、貼付突	1^	,	10.4	にぶい	2 mm以下の灰白色・黒褐色・黒色光沢・	Salari No. 187
		口縁部 深鉢	B 2			ナデ	良好	褐色		2 ㎜以下の灰白色・黒褐色・黒色光沢・	波状口縁
21	縄文土器	口縁部			口唇部に縄文、貼付突 帯、斜方向の短沈線文、 ナデ、横方向のナデ	ナデ	良好	褐色	にぶい 黄褐色		波状口縁
21	縄文土器	口縁部 深鉢	B 2		口唇部に縄文、貼付突 帯、斜方向の短沈線文、	ナデ	良好良好	褐色にぶい		2 ㎜以下の灰白色・黒褐色・黒色光沢・	波状口縁 外面:スス付着

遺物		器種	出土		手注·調整	・文様ほか		色	調			
番号	種別	部位	地点	層序	外面	内 面	焼成	外面	内 面	胎土の特徴	備	考
24	縄文土器	深鉢口縁部	A 3 K8Gr	V a	ナデ横方向の貝殻刺突文	ナデ	良好	にぶい 褐 色	明褐色	2 mm以下の透明光沢・黒色光沢を多量、 褐灰色・灰白色粒を少量含む		
25	縄文土器	深鉢口縁部	B 1 R4Gr	īV	縦方向の貝殻刺突文 磨消縄文、沈線文 縦方向のミガキか	横方向のナデ 横方向のミガキか	良好	黒褐色	にぶい 褐 色	2 mm以下の褐灰色・にぶい赤褐色粒、 3 mm以下の明褐灰色・黒褐色光沢・透	波状口縁	
26	縄文土器	深鉢	A 2	V a	磨消縄文、沈線文	ナデ	良好	にぶい	にぶい	明光沢・灰白色・浅黄橙色粒を含む 3 ㎜以下の黒色光沢・灰白色・黒褐色・	波状口縁	
		口縁部 深鉢	B14Gr A 2		「×」字状文、ナデ			赤褐色にぶい	黄橙色 にぶい	軟質赤色粒を少量含む 2 mm以下の黒色光沢・灰白色・褐灰色		
27	縄文土器	口縁部	E14Gr	V a	磨消縄文、沈線文、刺 突文、縦方向のミガキ	ナデ	良好	褐色	黄褐色	粒を多く含む	内面:ス	ス付着
		深鉢			沈線文							
28	縄文土器	口縁部 ~胴部	B 2 U5Gr	VI a	連続刺突文ナデ	ナデ	良好	にぶい 赤褐色	にぶい 赤褐色	3 mm以下の透明光沢・黒色光沢・灰白 色粒を多く含む	内外面:	スス付着
			D.O.		沈線文	1*			1- 7°1 .	2 ㎜以下の灰白色・褐灰色・淡黄色・		
29	縄文土器	深鉢 口縁部	B 2 Q6Gr	VI a	連続刺突文 ナデ	ナデ 風化気味	良好	暗褐色	にぶい 褐 色	黒褐色・黒褐色光沢・透明光沢粒を含む		
		W. A.L.			ナデ	1*						
30	縄文土器	深鉢 口縁部	B 1	VI a	疑似縄文(貝殻) 貝殻腹縁刺突文	ナデ 風化気味	良好	褐色	明赤褐色	2 m以下の黒褐色・無色透明光沢・褐灰色・灰白色・淡黄色粒を含む		
		深鉢	B 2		ナデ	ミガキ		にぶい		2 mm以下の黒色光沢・透明光沢粒を少		
31	縄文土器	頸 部 ~胴部	S5Gr	VI a	磨消縄文・沈線文・連 続刺突文	貝殻条痕	良好	黄橙色	黒色	量含む		
		James I			100 1 . 1							
32	縄文土器	深鉢 頸部	A 2 D15Gr	VI a	縦方向のミガキ 連続刺突文	横方向のヘラミガキ	良好	にぶい 褐 色	褐灰色	1 mm以下の灰白色・透明光沢・黒色光沢・ 褐灰色粒、角閃石を多く含む	外面:ス	ス付着
		深鉢	A 3		磨消縄文、沈線文、丁			にぶい	にぶい	1 mm以下の褐灰色・灰白色・透明光沢		
33	縄文土器	胴部	K9Gr	VI a	寧なナデ	ナデ	良好	赤褐色	赤褐色	粒を多く含む		
		深鉢	B 2	V a	ナデ	ナデ		にぶい		3 mm以下の透明光沢粒、4 mm以下の褐	外面:ス	ス付着
34	縄文土器	口縁部	R5 • 07Gr	VI	貝殼条痕	風化著しい	良好	黄橙色	淡黄色	色・褐灰色・灰白色・黒色光沢粒を多	推定口径	
		~胴部		VI a	ナデ	ナデ				く含む 2		
35	縄文土器	深鉢 胴部	A 2 C14Gr	VI a	貝殻条痕	, ,	良好	浅黄色	淡黄色	2 mm以下の灰白色・にぶい黄橙色・黒 色光沢・透明光沢粒を含む	外面:ス	ス付着
		深鉢	А 3	M -							**+-	たギロ
36	縄文土器	頸部 ~胴部	Tr8 J8•J9Gr	V a VI a	貝殼条痕	貝殻条痕の後ナデ	良好	淡黄色	淡黄色	6 mm以下の黄褐色・赤褐色・黒褐色・ 灰白色・淡灰色・褐灰色粒を含む	粘土のつ胴部径 32	
		深鉢					-		1- 70 .	3 mm以下のにぶい黄褐色・灰褐色粒、		
37	縄文土器	口縁部 ~頸部	B 2 T3Gr	V a	貝殼条痕	貝殼条痕	良好	灰黄褐色	にぶい 橙 色	4 mm以下の灰白色・淡灰色・褐色・黒 褐色・軟質赤色粒を含む	推定口径	29cm
		深鉢										
38	縄文土器	口縁部 ~胴部	B 2 Q7Gr	V b	ナデ 条痕	ナデ	良好	浅黄色	浅黄色	2 m以下の黒褐色光沢・透明光沢・に ぶい黄橙色・褐灰色・褐色粒を含む	外面:ス 粘土のつ	
						楼左向のこおさ				ごく微細な透明光沢粒、3㎜以下の明		
39	縄文土器	深鉢 口縁部	В 2	V a	横方向のミガキ	横方向のミガキ 一部条痕	良好	にぶい	にぶい	黄褐色・透明光沢・灰白色・褐灰色・		
00	46×1.111	~胴部	Q6Gr	v a	一部条痕	風化気味	IXA	黄橙色	黄橙色	黒褐色光沢・赤褐色・明赤褐色・黒褐		
										色粒を含む ごく微細な透明光沢粒、2mm以下の灰		
		深鉢	В 2		横方向のミガキ	横方向のミガキ				白色・黒褐色・透明光沢・褐灰色・黒		
40	縄文土器	口縁部	Q6Gr	V a	貝殼条痕	一部風化気味	良好	浅黄色	灰黄色	褐色光沢・淡黄色・にぶい褐色粒を含	外面:一	部黒斑
										む		
	hm 1 . 1	深鉢	В 1		ミガキ		4	にぶい		ごく微細な透明光沢粒、2mm以下の灰		
41	縄文土器	口縁部	S4Gr	VI a	横・斜方向のミガキ	ミガキ?	良好	黄 色	灰黄色	白色・黒褐色光沢・透明光沢・淡灰色・ 淡黄色粒を含む	内面:黒	斑
		深鉢	В 2	V a	ミガキ					微細な透明光沢粒、2 mm以下の灰白色		
42	縄文土器	口縁部 ~胴部	R6 • Q6Gr		貝殻条痕の後ミガキ	ミガキ	良好	淡黄色	灰黄色	粒をわずかに含む	外面:ス	ス付着
		深鉢			口唇部にヒレ状突起、					2 mm以下の黒褐色光沢・透明光沢・黒		
43	縄文土器	口縁部	B 2	VI a	ナデ、貝殻条痕、胴部	貝殼条痕	良好	浅黄色	灰色	褐色・暗灰黄色・にぶい褐色・褐色・ 畑田名・田内名・北井名・井根名料本	外面:ス	ス付着
		~胴部	Q6Gr		に突起、風化気味					褐灰色・灰白色・浅黄色・黄褐色粒を 含む		
										ごく微細な透明光沢粒、2㎜以下の透		
44	縄文土器	深鉢	B 2	VI a	口唇部にヒレ状突起	条痕の後ナデ	良好	灰黄色	浅黄色	明光沢・黒褐色光沢・にぶい黄橙色・	外面:ス	ス付着
		口縁部	Q6Gr		ナデ、条痕					灰白色・明褐色・灰褐色・褐灰色粒を 含む		
45	9⊞-4-1 □□	深鉢	B 2	VП	7 27 2	ミガキか	占して	田护力.	に共和々	3 mm以下の灰白色・黒褐色・黒色光沢・		
45	縄文土器	口縁部	Q7Gr	vı a	ミガキ	風化気味	良好	黒褐色	灰黄褐色	透明光沢粒を多く含む		

第3表 縄文土器観察表2

wit I	種別	器種	出土	層序	手法・調整	・文様ほか	- 焼成 -	色	調	1511年24	I ⁺⁺ :	考
番号	租 別	部位	地点	眉戶	外 面	内 面	- 焼放 -	外 面	内 面	胎土の特徴	備	考
		深鉢								ごく微細な透明光沢粒、2mm以下の透		
46	縄文土器	口縁部	B 2	VI a	貝殼条痕	貝殻条痕の後ナデ	良好	浅黄色	黄灰色	明光沢・黒褐色光沢・灰白色・明黄褐色・	外面: ス.	ス付着
		~胴部	Q6Gr							黒褐色・にぶい褐色・灰色粒を含む		
		深鉢	B 2		貼付突帯				にぶい	3 mm以下の灰白色・黒色光沢・軟質赤色・		
47	縄文土器			VI a	貝殻条痕、ナデ	風化著しい	良好	褐灰色				
		口縁部	Q6Gr		只成来低、アア				黄橙色	透明光沢粒を多く含む		
		深鉢								2 ㎜以下の浅黄色・灰白色・淡灰白色粒、		
48	縄文土器	口縁部	B 2	VI a	貼付突帯	条痕の後、ミガキ	良好	黄灰色	浅黄色	5㎜以下のにぶい黄褐色・にぶい黄橙	外面:黒珠	妊
		~胴部	Q7Gr		条痕の後、ミガキ					色・褐灰色・黒褐色・軟質赤色粒を含		
		HITTE								む		
		深鉢	D 2		H-//		良好		にぶい	ごく微細な透明光沢粒、2mm以下の灰		
49	縄文土器	口縁部	B 2	VI a	貼付突帯	条痕の後、ミガキ?	及好	褐灰色		白色・透明光沢・黒褐色光沢・明黄褐色・	外面:ス	ス付着
		~胴部	P7Gr		条痕の後、ミガキ?				黄橙色	黒褐色・明赤褐色・灰白色を含む		
		深鉢	B 2				良好		にぶい	1 mm以下の灰白色・淡灰白色・黒褐色		
50	縄文土器	口縁部	Q7Gr	V a	条痕の後、ミガキ	条痕の後、ミガキ		黒褐色	黄橙色	粒を含む		
		深鉢	B 2		貼付突帯、ナデ			にぶい	にぶい	2 mm以下の灰白色・透明光沢粒をわず		
51	縄文土器	口縁部	S5Gr	V a	貝殻条痕の後ナデ?	貝殻条痕の後ナデ	良好		黄橙色			
								黄橙色	典恒巴	かに含む		
52	縄文土器	深鉢	B 2	VI a	貼付突帯	ナデ	良好	黄灰色	浅黄色	2㎜以下の灰白色・透明光沢・黒色光沢・	外面:ス	ス付着
		口縁部	Q6Gr		貝殻条痕、ナデ					軟質赤色粒を多く含む		
		深鉢	B 1		ナデ	条痕の後、ミガキ?				2㎜以下の橙色・にぶい橙色粒、		
53	縄文土器	口縁部	V3Gr	V a	ミガキ?	条痕	良好	浅黄色	浅黄色	3 mm以下の褐色・黒褐色光沢・透明光沢・		
		~胴部	VJGI		条痕	風化気味				黒褐色粒を含む		
	AM -1 - 1 DD	深鉢	B 1		貼付突帯	D#14 # 0# 1 #	da 1-7	にぶい	にぶい	2 mm以下の透明光沢・黒色光沢・褐灰		
54	縄文土器	口縁部	V3Gr	V a	貝殻条痕の後ナデ	貝殻条痕の後ナデ	良好	黄橙色	黄橙色	色粒を多く含む		
					貼付突帯、条痕、							
55	縄文土器	深鉢	B 1	V a	ナデ、ナデの後ミガ	条痕	良好	灰黄色	浅黄色	2 mm以下の黒褐色光沢・透明光沢・に	外面:ス	ス付着
33	PEX100	口縁部	V3Gr	v a		風化著しい	15531	ЖЯС	1XMC	ぶい褐色橙色・明黄褐色粒を含む	/rш · ///	\114B
					キ?、風化気味					2 000 以下の圧差視免・透明平泊約 5	り両・フ	フ仕笔
	tm () I nn	深鉢	В 2		da ata - 65 3 m²	4 4 - 4 1 - 3	+ 1=	m/n 6	10-4	2㎜以下の灰黄褐色・透明光沢粒、5	外面:スプ	
56	縄文土器	口縁部	R5Gr	VI a	条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	良好	黒褐色	褐灰色	mm以下の灰白色・淡灰白色・にぶい黄	放射性炭素	
										橙色・黒褐色粒を含む	析試料No.	14
		深鉢	В 2		ナデ					2 mm以下の暗灰黄色粒、3 mm以下のオ		
57	縄文土器			V a	風化気味	ナデ	良好	灰白色	灰白色	リーブ褐色・明黄褐色・黄灰色・灰白色・	外面:ス	ス付着
		口縁部	Q7Gr		貼付突帯					淡灰白色・黒褐色粒を含む		
		深鉢	B 2							微細な光沢粒、1 mm以下の灰白色・淡		
58	縄文土器	口縁部	R8Gr	VI a	横方向のナデ	横方向の工具ナデ	良好	黒褐色	灰黄褐色	灰白色・赤褐色・黒褐色粒を含む		
		深鉢	11001		ミガキ、貝殻条痕					7011 9141 MIGGIL CO		
59	细小上明		B 1	V b		ミガキ	良好	灰黄色	浅黄色	2 mm以下の灰白色・浅黄橙色・透明光沢・	催空口仅	22.0
59	縄文土器	口縁部	S3•4Gr	V D	貝殻条痕の後ミガキ、	風化著しい	及好	灰典巴	戊典巴	黒色光沢粒を多く含む	推定口径	22.9cm
		~胴部			孔列文(未貫通)							
		深鉢			貝殻条痕の後ミガ					2 mm以下の灰褐色粒、3 mm以下の灰白		
60	縄文土器	口縁部	B 2	V a	キ?、貝殻条痕、孔列	ナデ	良好	にぶい	にぶい	色・淡灰白色・にぶい黄褐色・褐灰色・		
		~胴部	P6Gr	上	文 (未貫通)	風化著しい		黄橙色	黄橙色	黒褐色粒を含む		
			1 001							WIGHT CHO		
					風化著しい							
		深鉢								0 NTORAA WRAA BUA		
61	縄文土器	深鉢	B 2	VI a	貝殼条痕	貝殻条痕	良好	灰黄色	暗灰黄色	2 ㎜以下の灰白色・淡灰白色・黒褐色		
61	縄文土器					貝殼条痕	良好	灰黄色	暗灰黄色	2 mi以下の灰白色・淡灰白色・黒褐色 粒を含む		
61	縄文土器	口縁部 ~胴部	B 2 Q6Gr		貝殻条痕 孔列文(未貫通)		良好		暗灰黄色	粒を含む		
		口縁部 ~胴部 深鉢	B 2	VI a	貝殼条痕	貝殻条痕 ミガキ?		灰黄色			外面・フ	ス付差
61	縄文土器	口縁部 ~胴部 深鉢 口縁部	B 2 Q6Gr		貝殻条痕 孔列文(未貫通)		良好良好		暗灰黄色 灰黄色	粒を含む	外面: スン	ス付着
		口縁部 ~胴部 深鉢 口縁部 ~胴部	B 2 Q6Gr B 2 S5Gr	VI a	貝殻条痕 孔列文 (未貫通) ミガキ?、貝殻条痕 孔列文 (未貫通)	ミガキ?風化気味		にぶい 黄橙色	灰黄色	粒を含む 3 m以下の黒色光沢・透明光沢・灰白色・ 褐色粒を多く含む	外面:スン	ス付着
		□縁部 ~胴部 深鉢 □縁部 ~胴部 深鉢	B 2 Q6Gr B 2 S5Gr	VI a	貝殻条痕 孔列文 (未貫通) ミガキ?、貝殻条痕 孔列文 (未貫通) 貼付突帯、ミガキ	ミガキ? 風化気味 ミガキ		にぶい 黄橙色	灰黄色	粒を含む 3 m以下の黒色光沢・透明光沢・灰白色・褐色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色	外面:スン	
62	縄文土器	□縁部 ~胴部 深鉢 □縁部 ~胴部 □縁部 ~胴部	B 2 Q6Gr B 2 S5Gr	VI a	貝殻条痕 孔列文 (未貫通) ミガキ?、貝殻条痕 孔列文 (未貫通) 貼付突帯、ミガキ 孔列文 (未貫通)	ミガキ?風化気味	良好	にぶい 黄橙色	灰黄色	粒を含む 3 m以下の黒色光沢・透明光沢・灰白色・ 褐色粒を多く含む		
62	縄文土器	口縁部 ~胴部 深鉢 口縁部 ~胴部 深縁部 ~胴部 深縁 口縁部	B 2 Q6Gr B 2 S5Gr B 2 T6 • U6Gr	VI a V b	貝殻条痕 孔列文 (未貫通) ミガキ?、貝殻条痕 孔列文 (未貫通) 貼付突帯、ミガキ 孔列文 (未貫通) ナデ、ミガキ、貼付突	ミガキ? 風化気味 ミガキ 風化著しい	良好良好	にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色	灰黄色 にぶい 橙 色	粒を含む 3 m以下の黒色光沢・透明光沢・灰白色・褐色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色		
62	縄文土器	□縁部 ~胴部 深鉢 □縁部 ~胴部 □縁部 ~胴部	B 2 Q6Gr B 2 S5Gr B 2 T6 • U6Gr	VI a V b	貝殻条痕 孔列文 (未貫通) ミガキ?、貝殻条痕 孔列文 (未貫通) 貼付突帯、ミガキ 孔列文 (未貫通)	ミガキ? 風化気味 ミガキ 風化著しい	良好	にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色	灰黄色	粒を含む 3 m以下の黒色光沢・透明光沢・灰白色・褐色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・にぶい		
62	縄文土器	口縁部 ~胴部 深鉢 口縁部 ~胴部 深縁部 ~胴部 深縁 口縁部	B 2 Q6Gr B 2 S5Gr B 2 T6 • U6Gr	VI a V b	貝殻条痕 孔列文 (未貫通) ミガキ?、貝殻条痕 孔列文 (未貫通) 貼付突帯、ミガキ 孔列文 (未貫通) ナデ、ミガキ、貼付突	ミガキ? 風化気味 ミガキ 風化著しい	良好良好	にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色	灰黄色 にぶい 橙 色	粒を含む 3 m以下の黒色光沢・透明光沢・灰白色・褐色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む		
62	縄文土器	口縁部 ~胴部 深鉢 口縁部 ~胴鉢 ~胴鉢 ~胴鉢 ~洞鉢 口縁部	B 2 Q6Gr B 2 S5Gr B 2 T6 • U6Gr B 2 Q6Gr	VI a V b	貝殻条痕 孔列文 (未貫通) ミガキ?、貝殻条痕 孔列文 (未貫通) 貼付突帯、ミガキ 孔列文 (未貫通) ナデ、ミガキ、貼付突 帯、孔列文 (未貫通)、 風化著しい	ミガキ? 風化気味 ミガキ 風化著しい ナデ	良好良好	にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色	灰黄色 にぶい 橙 色	粒を含む 3 m以下の黒色光沢・透明光沢・灰白色・褐色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・にぶい	外面: スン	ス付着
62	縄文土器	□縁部 ~ 下級 部 □ 下級 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和	B 2 Q6Gr B 2 S5Gr B 2 T6 · U6Gr B 2 Q6Gr	VI a V b	貝殻条痕 孔列文 (未貫通) ミガキ?、貝殻条痕 孔列文 (未貫通) 貼付突帯、ミガキ 孔列文 (未貫通) ナデ、ミガキ、貼付突 帯、孔列文 (未貫通)、 風化著しい 刻目突帯、ナデ	ミガキ? 風化気味 ミガキ 風化著しい ナデ	良好良好	にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色 にぶい	灰黄色 にぶい 橙 色	粒を含む 3 m以下の黒色光沢・透明光沢・灰白色・褐色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・にぶい黄褐色粒を多く含む	外面:スン 推定口径	ス付着 22.4cm
62 63 64	縄文土器縄文土器縄文土器	口縁部 ~ 深鉢 部部 ~ 深縁部 ~ 深縁部 ~ 深縁 日本部 ~ 深縁 日本部 ~ 深縁 日本部 ~ 深縁 日本部 ~ 深縁 日本部 ~ 深縁 日本部 ~ 深縁 日本部 ~ 不 ~ 二 ~ 二 ~ 二 ~ 二 ~ 二 ~ 二 ~ 二 ~ 二 ~ 二 ~ 二	B 2 Q6Gr B 2 S5Gr B 2 T6 • U6Gr B 2 Q6Gr	VI a V b V a	貝殻条痕 孔列文 (未貫通) ミガキ?、貝殻条痕 孔列文 (未貫通) 貼付突帯、ミガキ 孔列文 (未貫通) ナデ、ミガキ、貼付突 帯、孔列文 (未貫通)、 風化著しい	ミガキ? 風化気味 ミガキ 風化著しい ナデ	良好良好良好	にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色	灰黄色 にぶい 橙 色 浅黄色	粒を含む 3 m以下の黒色光沢・透明光沢・灰白色・褐色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・にぶい黄褐色粒を多く含む 2 m以下の黒褐色・褐色粒、3 m以下	外面: スン	ス付着 22.4cm
62 63 64	縄文土器縄文土器縄文土器	口縁部部 深縁胴鉢 部部 深縁部 深縁部部 深縁を部部 深縁部部 不縁部部 不縁部部	B 2 Q6Gr B 2 S5Gr B 2 T6 · U6Gr B 2 Q6Gr	VI a V b V a	貝殻条痕 孔列文(未貫通) ミガキ?、貝殻条痕 孔列文(未貫通) 貼付突帯、ミガキ 孔列文(未貫通) ナデ、ミガキ、貼付突 帯、孔列文(未貫通)、 風化著しい 刻目突帯、ナデ 風化気味	ミガキ? 風化気味 ミガキ 風化著しい ナデ ナデ	良好良好良好良好	にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色	灰黄色 にぶい 橙 色 浅黄色	粒を含む 3 m以下の黒色光沢・透明光沢・灰白色・褐色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・にぶい黄褐色粒を多く含む 2 m以下の黒褐色・褐色粒、3 m以下のにぶい黄褐色・黒褐色光沢・透明光沢・褐灰色・にぶい褐色粒を含む	外面:スン 推定口径	ス付着 22.4cm
62 63 64	縄文土器縄文土器縄文土器	口縁部部 深縁 部部 深縁 部部 深縁 部部 深縁 部部 深縁 部部 不深縁 那部 不深緣 那部 不深緣 那部 不深緣 那部 不深緣 那部	B 2 Q6Gr B 2 S5Gr B 2 T6 · U6Gr B 2 Q6Gr B 2 R8Gr	VI a V b V a	貝殻条痕 孔列文(未貫通) ミガキ?、貝殻条痕 孔列文(未貫通) 貼付突帯、ミガキ 孔列文(未貫通) ナデ、ミガキ、貼付突 帯、孔列文(未貫通)、 風化著しい 刻目突帯、ナデ 風化気味	ミガキ? 風化気味 ミガキ 風化著しい ナデ ナデ 風化気味 ナデ	良好良好良好	にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色 にぶい	灰黄色 にぶい 橙 色 浅黄色 にぶい	粒を含む 3 m以下の黒色光沢・透明光沢・灰白色・褐色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・にぶい黄褐色粒を多く含む 2 m以下の黒褐色・褐色粒、3 m以下のにぶい黄褐色・黒褐色光沢・透明光沢・褐灰色・にぶい褐色粒を含む 2 m以下の透明光沢・黒褐色光沢・黒	外面:スン 推定口径	ス付着 22.4cm
62 63 64	縄文土器 縄文土器 縄文土器 縄文土器	□縁部部 深縁部部 □深縁部部 □深縁を部部 □ 深縁を部部 □ 深縁を部部 □ 深縁を部部 □ 深縁を部部	B 2 Q6Gr B 2 S5Gr B 2 T6 · U6Gr B 2 Q6Gr B 2 R8Gr B 1 SG 1	VI a V b V a	貝殻条痕 孔列文(未貫通) ミガキ?、貝殻条痕 孔列文(未貫通) 貼付突帯、ミガキ 孔列文(未貫通) ナデ、ミガキ、貼付突 帯、孔列文(未貫通)、 風化著しい 刻目突帯、ナデ 風化気味	ミガキ? 風化気味 ミガキ 風化著しい ナデ ナデ 風化気味 ナデ	良好良好良好良好	にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色	灰黄色 にぶい 橙色 浅黄色 にぶい色 浅黄色	粒を含む 3 m以下の黒色光沢・透明光沢・灰白色・褐色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・にぶい黄褐色粒を多く含む 2 m以下の黒褐色・褐色粒、3 m以下のにぶい黄褐色・黒褐色光沢・透明光沢・褐灰色・にぶい褐色粒を含む 2 m以下の透明光沢・黒褐色光沢・黒褐色・灰白色・明褐色粒を含む	外面:スン 推定口径	ス付着 22.4cm
62 63 64	縄文土器 縄文土器 縄文土器 縄文土器	□縁部 深縁部部 深縁部部 深縁経部 深縁経部 深縁経 □ 深縁 □ 次縁 □ 次 □ 次縁 □ 次縁 □ 次縁 □ 次縁 □ 次縁 □ 次縁 □ 次縁 □ 次縁 □ 次縁 □ 次 □ 次 □ 次 □ 次 □ 次 □ 次 □ 次 □ 次	B 2 Q6Gr B 2 S5Gr B 2 T6 · U6Gr B 2 Q6Gr B 2 R8Gr B 1 SG 1 B 2	VI a V b V a	貝殻条痕 孔列文(未貫通) ミガキ?、貝殻条痕 孔列文(未貫通) 貼付突帯、ミガキ 孔列文(未貫通) ナデ、ミガキ、貼付突 帯、孔列文(未貫通)、 風化著しい 刻目突帯、ナデ 風化気味 刻目突帯、ナデ 風化気味 ミガキ?、ナデ	ミガキ? 風化気味 ミガキ 風化著しい ナデ 中デ 風化気味 ナデ	良好良好良好良好	にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色 にぶい	灰黄色 にぶい 橙 色 浅黄色 にぶい 黄色にぶい	粒を含む 3 m以下の黒色光沢・透明光沢・灰白色・褐色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・にぶい黄褐色粒を多く含む 2 m以下の黒褐色・褐色粒、3 m以下のにぶい黄褐色・褐色粒、3 m以下のにぶい黄褐色・黒褐色光沢・透明光沢・褐灰色・にぶい褐色粒を含む 2 m以下の透明光沢・黒褐色光沢・黒褐色・灰白色・明褐色粒を含む 4 m以下の灰白色・褐灰色・透明光沢	外面:スン 推定口径	ス付着 22.4cm ス付着
62 63 64 65	縄文土器 縄文土器 縄文土器 縄文土器	□緑部部 深緑胴鉢部 深緑胴鉢部 深緑緑胴鉢部 で深緑胴鉢部部 で深緑胴鉢部部 で深緑胴鉢部部 で深緑脈鉢部部 で深緑が にない。	B 2 Q6Gr B 2 S5Gr B 2 T6 · U6Gr B 2 Q6Gr B 2 R8Gr B 1 SG 1 B 2 X5Gr	VI a V b V a VI a	貝殻条痕 孔列文(未貫通) ミガキ?、貝殻条痕 孔列文(未貫通) 貼付突帯、ミガキ 孔列文(未貫通) ナデ、ミガキ、貼付突 帯、孔列文(未貫通)、 風化著しい 刻目突帯、ナデ 風化気味 刻目突帯、ナデ 風化気味 刻目突帯、ナデ	ミガキ? 風化気味 ミガキ 風化著しい ナデ ナデ 風化気味 ナデ	le de	にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色	灰黄色 にぶい 橙色 浅黄色 にぶい色 浅黄色	粒を含む 3 m以下の黒色光沢・透明光沢・灰白色・褐色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・にぶい黄褐色粒を多く含む 2 m以下の黒褐色・褐色粒、3 m以下のにぶい黄褐色・褐色粒、3 m以下のにぶい黄褐色・黒褐色光沢・透明光沢・褐灰色・にぶい褐色粒を含む 2 m以下の透明光沢・黒褐色光沢・黒褐色・灰白色・明褐色粒を含む 4 m以下の灰白色・褐灰色・透明光沢 粒を多く含む	外面:スン 推定口径 外面:スン	ス付着 22.4cm ス付着
62 63 64 65 66 67	縄文土器 縄文土器 縄文土器 縄文土器 縄文土器	□緑部部 深緑胴鉢 部部 深緑胴鉢 部部 深緑緑胴鉢 部部 深緑緑胴鉢 部部 深緑緑路 深緑 深緑 深緑 深緑 深谷 深谷 深谷 深谷 深谷 深谷 深谷 深谷 深谷 深谷	B 2 Q6Gr B 2 S5Gr B 2 T6 · U6Gr B 2 Q6Gr B 2 R8Gr B 1 SG 1 B 2 X5Gr B 2	VI a V b V a VI a VI a	貝殻条痕 孔列文(未貫通) ミガキ?、貝殻条痕 孔列文(未貫通) 貼付突帯、ミガキ 孔列文(未貫通) ナデ、ミガキ、貼付突 帯、孔列文(未貫通)、 風化著しい 刻目突帯、ナデ 風化気味 刻目突帯、ナデ 風化気味 ミガキ?、ナデ 風化気味	ミガキ?風化気味ミガキ風化苦しいナデ風化気味ナデ風化気味ナデ風化気味リデ風化気味	良好 良好 良好 良好	にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色 にぶ砂色 にぶ橙色 にぶ橙色 にぶ橙色 にが橙色	灰黄色 にぶい 橙色 浅黄色 にぶを色 にぶん色 になる 橙色	粒を含む 3 m以下の黒色光沢・透明光沢・灰白色・褐色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・にぶい黄褐色粒を多く含む 2 m以下の黒褐色・褐色粒、3 m以下のにぶい黄褐色・褐色粒、3 m以下のにぶい黄褐色・黒褐色光沢・透明光沢・褐灰色・にぶい褐色粒を含む 2 m以下の透明光沢・黒褐色光沢・黒褐色・灰白色・明褐色粒を含む 4 m以下の灰白色・褐灰色・透明光沢	外面:スン 推定口径 外面:スン 推定底径	ス付着 22.4cm ス付着 4.3cm
62 63 64 65	縄文土器 縄文土器 縄文土器 縄文土器	□緑部部 深緑胴鉢部 深緑胴鉢部 深緑緑胴鉢部 で深緑胴鉢部部 で深緑胴鉢部部 で深緑胴鉢部部 で深緑脈鉢部部 で深緑が にない。	B 2 Q6Gr B 2 S5Gr B 2 T6 · U6Gr B 2 Q6Gr B 2 R8Gr B 1 SG 1 B 2 X5Gr	VI a V b V a VI a	貝殻条痕 孔列文(未貫通) ミガキ?、貝殻条痕 孔列文(未貫通) 貼付突帯、ミガキ 孔列文(未貫通) ナデ、ミガキ、貼付突 帯、孔列文(未貫通)、 風化著しい 刻目突帯、ナデ 風化気味 刻目突帯、ナデ 風化気味 刻目突帯、ナデ	ミガキ? 風化気味 ミガキ 風化苦しい ナデ 風化気味 ナデ 風化気味 ナデ 風化気味 カボ 剝離のため調整不明	le de	にぶを色 にぶを色 にぶを色 にぶを色 にぶを色 にがを色 にがとり をある。 である。 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、	灰黄色 にぶ 色 浅黄色 に 5 機 に 8 色 に 5 機 に 8 色 に 8 色 と 8 色 に 8 色 に 8 色 に 8 色 に 8 色 に 8 色 た 8 色 に 8 色 と 8 色 に 8 色 と 8 色 8 色 8 色 8 色 8 色 8 色 8 色 8 色 8 色 8 色 8 8	粒を含む 3 m以下の黒色光沢・透明光沢・灰白色・褐色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・にぶい黄褐色粒を多く含む 2 m以下の黒褐色・褐色粒、3 m以下のにぶい黄褐色・褐色粒、3 m以下のにぶい黄褐色・黒褐色光沢・透明光沢・褐灰色・にぶい褐色粒を含む 2 m以下の透明光沢・黒褐色光沢・黒褐色・灰白色・明褐色粒を含む 4 m以下の灰白色・褐灰色・透明光沢 粒を多く含む	外面:スン 推定口径 外面:スン	ス付着 22.4cm ス付着 4.3cm
62 63 64 65 66 67 68	縄文土器 縄文土器 縄文土器 縄文土器 縄文土器 縄文土器	□緑部部 深緑胴鉢 部部 深緑胴鉢 部部 深緑緑胴鉢 部部 深緑緑胴鉢 部部 深緑緑路 深緑 深緑 深緑 深緑 深谷 深谷 深谷 深谷 深谷 深谷 深谷 深谷 深谷 深谷	B 2 Q6Gr B 2 S5Gr B 2 T6 · U6Gr B 2 Q6Gr B 2 R8Gr B 1 SG 1 B 2 X5Gr B 2	VI a V b V a VI a VI a VI a VI a	貝殻条痕 孔列文(未貫通) ミガキ?、貝殻条痕 孔列文(未貫通) 貼付突帯、ミガキ 孔列文(未貫通) ナデ、ミガキ、貼付突 帯、孔列文(未貫通)、 風化著しい 刻目突帯、ナデ 風化気味 刻目突帯、ナデ 風化気味 ミガキ?、ナデ 風化気味	ミガキ?風化気味ミガキ風化苦しいナデ風化気味ナデ風化気味ナデ風化気味リデ風化気味	gy gy gy gy gy	にぶい 黄橙色 にぶい 黄橙色 にぶ砂色 にぶ橙色 にぶ橙色 にぶ橙色 にが橙色	灰黄色 にぶい 橙色 浅黄色 にぶを色 にぶん色 になる 橙色	粒を含む 3 m以下の黒色光沢・透明光沢・灰白色・褐色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・にぶい黄褐色粒を多く含む 2 m以下の黒褐色・褐色粒、3 m以下のにぶい黄褐色・黒褐色光沢・透明光沢・褐灰色・にぶい褐色粒を含む 2 m以下の透明光沢・黒褐色光沢・黒褐色・灰白色・明褐色粒を含む 4 m以下の灰白色・褐灰色・透明光沢粒を多く含む微細な透明光沢粒、3 m以下の灰白色・褐灰色・透明光沢	外面:ス: 推定口径 外面:ス: 推定底径 推定底径	ス付着 22.4cm ス付着 4.3cm 6.6cm
62 63 64 65 66 67	縄文土器 縄文土器 縄文土器 縄文土器 縄文土器	□緑部部 深縁網部 深縁網部 深縁縁 □ 深縁胴鉢 電 深縁胴鉢 電 深縁胴鉢 で 深縁胴鉢 で 深縁網 で 深縁網 で 深縁網 で 深縁 に で に で に で に で に で に で に で に で に で に で	B 2 Q6Gr B 2 S5Gr B 2 T6 · U6Gr B 2 Q6Gr B 1 SG 1 B 2 X5Gr B 2	VI a V b V a VI a VI a	貝殻条痕 孔列文(未貫通) ミガキ?、貝殻条痕 孔列文(未貫通) 貼付突帯、ミガキ 孔列文(末貫通) ナデ、ミガキ、貼付突 帯、孔列文(未貫通)、 風化著しい 刻目突帯、ナデ 風化気味 刻目突帯、ナデ 風化気味 ミガキ?、ナデ 風化をしい ミガキ・ナデ	ミガキ? 風化気味 ミガキ 風化苦しい ナデ 風化気味 ナデ 風化気味 ナデ 風化気味 カボ 剝離のため調整不明	良好 良好 良好 良好	にぶを色 にぶを色 にぶを色 にぶを色 にぶを色 にがを色 にがとり をある。 である。 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、	灰黄色 にぶ 色 浅黄色 に 5 機 に 8 色 に 5 機 に 8 色 に 8 色 と 8 色 に 8 色 に 8 色 に 8 色 に 8 色 に 8 色 た 8 色 に 8 色 と 8 色 に 8 色 と 8 色 8 色 8 色 8 色 8 色 8 色 8 色 8 色 8 色 8 色 8 8	粒を含む 3 m以下の黒色光沢・透明光沢・灰白色・褐色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・にぶい黄褐色粒を多く含む 2 m以下の黒褐色・褐色粒、3 m以下のにぶい黄褐色・褐色粒、3 m以下のにぶい黄褐色・黒褐色光沢・透明光沢・褐灰色・にぶい褐色粒を含む 2 m以下の透明光沢・黒褐色光沢・黒褐色・灰白色・明褐色粒を含む 4 m以下の灰白色・褐灰色・透明光沢粒を多く含む微細な透明光沢粒、3 m以下の灰白色・	外面:スン 推定口径 外面:スン 推定底径	ス付着 22.4cm ス付着 4.3cm 6.6cm
62 63 64 65 66 67 68	縄文土器 縄文土器 縄文土器 縄文土器 縄文土器 縄文土器	□緑部部 深縁胴鉢 部 深縁 解 部 本 部 部 本 部 部 本 部 部 本 部 部 本 部 部 本 部 部 本 和 和 和 和	B 2 Q6Gr B 2 S5Gr B 2 T6 · U6Gr B 2 Q6Gr B 2 R8Gr B 1 SG 1 B 2 X5Gr B 2	VI a V b V a VI a VI a VI a VI a	貝殻条痕 孔列文(未貫通) ミガキ?、貝殻条痕 孔列文(未貫通) 貼付突帯、ミガキ 孔列文(未貫通) ナデ、ミガキ、貼付突 帯、孔列文(未貫通)、 風化著しい 刻目突帯、ナデ 風化気味 刻目突帯、ナデ 風化気味 ミガキ?、ナデ 風化気味 ミガキナナデ	ミガキ?風化気味ミガキ風化苦しいナデ風化気味ナデ風化気味ナデ風化気味ナデカナデ風化気味カナデカナデ大デ大デ大デ大デ大デ大デ大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学<!--</td--><td>gy gy gy gy gy</td><td>にぶ橙色 に 黄橙 に</td><td>灰黄色 にぶ 色 浅黄色 に ぶ 色 浅黄 で 色 に ぶ 色 に ぶ 色 に ぶ 色 に ぶ 色</td><td>粒を含む 3 m以下の黒色光沢・透明光沢・灰白色・褐色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・にぶい黄褐色粒を多く含む 2 m以下の黒褐色・褐色粒、3 m以下のにぶい黄褐色・黒褐色光沢・透明光沢・褐灰色・にぶい褐色粒を含む 2 m以下の透明光沢・黒褐色光沢・黒褐色・灰白色・明褐色粒を含む 4 m以下の灰白色・褐灰色・透明光沢粒を多く含む微細な透明光沢粒、3 m以下の灰白色・褐灰色・透明光沢</td><td>外面:ス: 推定口径 外面:ス: 推定底径 推定底径</td><td>ス付着 22.4cm ス付着 4.3cm 6.6cm</td>	gy gy gy gy gy	にぶ橙色 に 黄橙 に	灰黄色 にぶ 色 浅黄色 に ぶ 色 浅黄 で 色 に ぶ 色 に ぶ 色 に ぶ 色 に ぶ 色	粒を含む 3 m以下の黒色光沢・透明光沢・灰白色・褐色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・にぶい黄褐色粒を多く含む 2 m以下の黒褐色・褐色粒、3 m以下のにぶい黄褐色・黒褐色光沢・透明光沢・褐灰色・にぶい褐色粒を含む 2 m以下の透明光沢・黒褐色光沢・黒褐色・灰白色・明褐色粒を含む 4 m以下の灰白色・褐灰色・透明光沢粒を多く含む微細な透明光沢粒、3 m以下の灰白色・褐灰色・透明光沢	外面:ス: 推定口径 外面:ス: 推定底径 推定底径	ス付着 22.4cm ス付着 4.3cm 6.6cm
62 63 64 65 66 67 68	縄文土器 縄文土器 縄文土器 縄文土器 縄文土器 縄文土器	□緑部部 深縁網部 深縁編部 深縁縁 □ 深縁胴鉢 電 深縁胴鉢 電 深縁編 三 深縁 三 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二	B 2 Q6Gr B 2 S5Gr B 2 T6 · U6Gr B 2 Q6Gr B 2 R8Gr B 1 SG 1 B 2 X5Gr B 2 S5Gr A 2 B16Gr	VI a V b V a VI a VI a VI a VI a	貝殻条痕 孔列文(未貫通) ミガキ?、貝殻条痕 孔列文(未貫通) 貼付突帯、ミガキ 孔列文(未貫通) ナデ、ミガキ、貼付突 帯、孔列文(未貫通)、 風化著しい 刻目突帯、ナデ 風化気味 刻目突帯、ナデ 風化気味 ミガキ?、ナデ 風化をしい ミガキ	ミガキ?風化気味ミガキ風化苦しいナデ風化気味ナデ風化気味ナデ風化気味ナデカナデ風化気味カナデカナデ大デ大デ大デ大デ大デ大デ大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学大学<!--</td--><td>gy gy gy gy gy</td><td>にぶん色にぶん色にぶん色にがん色にがん色にがん色にがん色にがん色にがん色にがん色にがん色にがん色にが</td><td>灰黄色 にぶい色 浅黄色 に黄橙ない色 に蒸橙ない色 黒褐色 に黄色</td><td>粒を含む 3 m以下の黒色光沢・透明光沢・灰白色・褐色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・にぶい黄褐色粒を多く含む 2 m以下の黒褐色・褐色粒、3 m以下のにぶい黄褐色・黒褐色光沢・透明光沢・透明光沢・黒褐色・灰白色・明褐色粒を含む 4 m以下の灰白色・褐灰色・透明光沢粒を多く含む微細な透明光沢粒、3 m以下の灰白色・褐灰色粒を少量含む 2 m以下の灰白色・褐灰色粒を含む</td><td>外面:スン 推定口径 外面:スン 推定底径 推定底径</td><td>22.4cm ス付着 4.3cm 6.6cm</td>	gy gy gy gy gy	にぶん色にぶん色にぶん色にがん色にがん色にがん色にがん色にがん色にがん色にがん色にがん色にがん色にが	灰黄色 にぶい色 浅黄色 に黄橙ない色 に蒸橙ない色 黒褐色 に黄色	粒を含む 3 m以下の黒色光沢・透明光沢・灰白色・褐色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・褐灰色粒を多く含む 2 m以下の透明光沢・灰白色・にぶい黄褐色粒を多く含む 2 m以下の黒褐色・褐色粒、3 m以下のにぶい黄褐色・黒褐色光沢・透明光沢・透明光沢・黒褐色・灰白色・明褐色粒を含む 4 m以下の灰白色・褐灰色・透明光沢粒を多く含む微細な透明光沢粒、3 m以下の灰白色・褐灰色粒を少量含む 2 m以下の灰白色・褐灰色粒を含む	外面:スン 推定口径 外面:スン 推定底径 推定底径	22.4cm ス付着 4.3cm 6.6cm

遺物	Sie Lin	器種	出土	员产	手法・調整	・ 文様ほか	Jejle ,-15	色	調	07. 1 as left All-	1544-	de
番号	種別	部位	地点	層序	外 面	内 面	焼成	外 面	内 面	胎土の特徴	備	考
71	縄文土器	深鉢底部	B 1 Q4Gr	VI a	ナデ 風化気味	ナデ	良好	浅黄色	黄灰色	ごく微細な透明光沢粒を多く、2 m以 下のにぶい褐色・灰白色・黒褐色光沢・ 透明光沢・にぶい黄褐色・褐灰色・に ぶい黄橙色粒を少量含む	底径 8.7㎝	n
72	縄文土器	深鉢 底部	B 1 W2Gr	V a	ナデ、指頭痕 風化著しい	貝殻条痕 ナデ	良好	にぶい 黄橙色	灰白色	微細な透明光沢粒、2 mm以下の黒褐色・ 灰白色粒を含む	推定底径	11cm
73	縄文土器	深鉢 胴 部 ~底部	B 2 R5Gr	V a	貝殻条痕 ナデ 風化著しい	工具ナデの痕ナデ 沈線文	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	3 mm以下の灰白色・褐灰色・黄褐色・ 黒褐色・灰黄褐色粒を含む	推定底径	8.9cm
74	縄文土器	深鉢 底部	B 2 Y5Gr	VI a	横方向のナデ ナデ 風化著しい	ナデ 風化著しい	良好	浅黄色	淡黄色	3 mm以下のにぶい黄褐色・明赤褐色・ 褐灰色・透明光沢・黒褐色・黒褐色光沢・ 灰白色粒を含む	底径 10.6	cm
75	縄文土器	深鉢 底部	B 1 · 2 Z3 · S7Gr	V a	ナデ 風化著しい	ナデ 風化著しい	良好	浅黄色	にぶい 黄 色	微細な透明光沢粒、2mm以下の灰白色・ 暗褐色粒を含む	推定底径	10.7cm
76	縄文土器	浅鉢 口縁付近 ~胴部	B 1 T4Gr	VI a	横方向のミガキ 斜・横方向のミガキ	斜方向のミガキ? 風化気味	良好	黄灰色	黄灰色	微細な光沢粒、1 mm以下の灰白色粒を 含む		
77	縄文土器	浅鉢 口縁部 ~胴部	B 2 Q7Gr	VI a	ミガキ	ミガキ ナデの後ミガキ?	良好	灰褐色	褐灰色	微細な透明光沢粒、3 mm以下の褐灰色・褐色・灰白色粒を含む		
78	縄文土器	浅鉢 口縁部 ~胴部	B 2 Q6Gr		横方向のナデ 横方向のヘラミガキ	横方向のナデ 横方向のヘラミガキ	良好	灰黄褐色	暗灰黄色	微細な透明光沢粒、1 ㎜以下の透明光 沢・黒褐色光沢・灰白色粒をわずかに 含む	内面:黒珠	妊
79	縄文土器	浅鉢 口縁部 ~胴部	B 2 R6Gr	V a	横方向のミガキ	沈線文 横方向のミガキ	良好	灰白色	灰白色	微細な光沢粒、1 mm以下の灰白色・黒 褐色・黄褐色粒を含む		
80	縄文土器	浅鉢口縁部	B 2 P7Gr	VI a	横方向のナデ	沈線文 横方向のナデ	良好	淡黄色	淡黄色	1 mm以下の黒褐色・淡灰白色・暗褐色 粒を含む		
81	縄文土器	浅鉢 口縁部 ~胴部	B 2 R6Gr	V a	横方向のミガキ 一部風化気味	沈線文 横方向のミガキ	良好	浅黄色	灰黄色	微細な淡黄色・透明光沢・黒褐色粒、 1 mm以下の淡黄色・黒褐色粒を含む		
82	縄文土器	浅鉢 口縁部 ~胴部	A 2 E12Gr	V a	沈線文、横方向のヘラ ミガキ、横方向の丁寧 なナデ	沈線文、横方向のナデ、 横方向のヘラミガキ	良好	浅黄色	浅黄色	微細な褐灰色・灰白色粒をわずかに含 む	内面:黒耳	妊
83	縄文土器	浅鉢 口縁部 ~胴部	A 2 C12Gr	VI a	横方向のナデ 横方向のヘラミガキ	沈線文、丁寧なナデ 横方向のヘラミガキの 後丁寧なナデ	良好	浅黄色	浅黄色	微細な褐灰色・灰白色粒をわずかに含 む	外内面:	黒斑
84	縄文土器	浅鉢 口縁部	B 2 X5Gr	V a	沈線文、横方向のミガ キ、風化気味	横方向のミガキ	良好	淡黄色	淡黄色	2 mm以下の黄褐色・黒褐色・淡灰白色・ 黄灰色・灰白色粒、角閃石を含む		
85	縄文土器	浅鉢 口縁部	B 1 ジュコン 8		沈線文、ミガキ 風化気味	ミガキ 風化気味	良好	褐灰色	灰黄色	微細な透明光沢粒をを多く含む		
86	縄文土器	浅鉢 口縁部 ~胴部	B 2 Q6Gr	VI a	横方向のミガキ 横・斜方向のミガキ 風化気味	横方向のミガキ	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	ごく微細な透明光沢粒、1 m以下の透明光沢・黒褐色・褐灰色・灰白色粒を含む		
87	縄文土器	浅鉢 口縁部 ~胴部	B 2 S5Gr	V a	ミガキ風化気味	ミガキ 風化著しい 風化気味	良好	淡黄色	淡黄色	微細な透明光沢粒を多量、1 mm以下の 黒褐色粒をわずかに含む		
88	縄文土器	浅鉢 口縁部 ~胴部	B 1 S3•4Gr	V b	ミガキ	ミガキ	良好	黒色	黒色	微細な透明光沢粒を多量、1 mm以下の 灰白色粒をわずかに含む	波状口縁	
89	縄文土器	浅鉢 口縁部 ~胴部	B 2 T6Gr	V a	横方向のミガキ 風化気味	横方向のミガキ 風化気味	良好	にぶい黄 褐色	にぶい黄 橙色	ごく微細な透明光沢粒、1 mm以下のに ぶい褐色粒、2 mm以下の黒褐色・透明 光沢・褐灰色粒を含む		
90	縄文土器	浅鉢 口縁部 ~胴部	B 2 V6Gr	V a	横方向のミガキ ミガキ	横方向のナデ 横方向のミガキ	良好	橙色	橙色	微細な透明光沢粒、1 mm以下の暗褐色 粒を含む	波状口縁	?
91	縄文土器	浅鉢胴部	B 2 Q7Gr	Va	横方向のヘラミガキの 後、横方向のナデ、横 方向のヘラミガキ 剝離気味	横方向のミガキ? 剝離気味	良好	灰黄色	にぶい 橙 色	1 mm以下の赤褐色・褐灰色・灰白色粒 をわずかに含む	外面:黒珠	妊
92	縄文土器	浅鉢胴部	B 1 · 2 T4 · R7Gr		横方向のミガキ 風化気味	工具ナデの後横方向の ミガキ 風化気味	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	微細な灰白色・黒褐色光沢・褐色粒、 ごく微細な透明光沢粒を含む	外面:赤6	
93	縄文土器	浅鉢	B 2 U6Gr	VI a	横方向のヘラミガキ、 一部縦方向のヘラミガ キ		良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	1 mm以下の灰白色・褐灰色粒を少量含む	外面:赤	 色顔料

第5表 縄文土器観察表4

遺物	種別	器種	出土	層序	手法・調整	೬・ 文様ほか	焼成	色	調	・ 胎土の特徴	備考
番号	性加	部位	地点	眉月	外 面	内 面	が以	外 面	内 面	加工の特徴	1
94	縄文土器	浅鉢 口縁部 ~胴部	B 2 Q7Gr	V a	ナデ	横方向のナデ 横方向のヘラミガキ	良好	灰黄色	黄灰色	微細な褐灰色・透明光沢粒をわずかに 含む	
95	縄文土器	浅鉢 底部	B 1 S3Gr	VI a	ミガキ? ナデ	ミガキ?	良好	褐灰色	褐灰色	微細な透明光沢粒、1 m以下の灰白色 粒、角閃石をわずかに含む	推定底径 7.1cm
96	縄文土器	浅鉢 口縁部	B 1 V3Gr	VI a	横方向のナデ、条痕の 後横方向のナデ、三叉 文?	条痕の後横方向のナデ	良好	浅黄色	浅黄色	1 mm以下の灰白色・褐灰色の粒褐灰色・ 黒灰色・黒色光沢・透明光沢粒をわず かに含む	外内面: 黒斑
97	縄文土器	浅鉢 口縁部 ~胴部	B 2 X3Gr	V b	斜方向のナデ ミガキ?の後ナデ	横方向のヘラミガキの 後ナデ	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	2 ㎜以下の褐色・褐灰色粒を少量含む	外面:スス付着
98	縄文土器	浅鉢 口縁部 ~胴部	B 2 U6Gr	VI a	丁寧なナデ 貝殻条痕?	ミガキ	良好	灰白色	淡黄色	2 mm以下の黒色光沢粒、3 mm以下の灰白色・透明光沢粒を少量含む	推定口径 22.9cm
99	縄文土器	鉢 口縁部 ~胴部	B 2 SC24 Q6 · 7 R7 · S7 U5Gr	V a VI a VI b	条痕組織痕	条痕 横・斜方向のミガキ	良好	にぶい 黄 色	にぶい 黄 色	微細な透明光沢粒、2 mm以下の黒褐色 光沢粒、3 mm以下の黒褐色・淡黄色・ 灰白色・透明光沢・褐灰色粒を含む	推定口径 29.8cm 外面:スス付着 100 と同一個体か
100	縄文土器	浅鉢 口縁部 ~胴部	B 2 SC24 Q6 • 7 R5Gr	V a VI a	条痕、組織痕 一部風化気味	条痕 横・斜方向のミガキ 一部風化気味	良好	浅黄色	浅黄色	ごく微細な透明光沢粒、2mm以下の淡 黄色・灰白色・黒褐色・透明光沢・黒 褐色光沢・黄橙色・褐灰色粒を含む	99 と同一個体か 外面:スス付着推 定口径 33cm
101	縄文土器	鉢 胴部	B 2 Q5Gr	VI a	組織痕	貝殼条痕	良好	浅黄色	浅黄色	2 mm以下の淡灰色・灰白色・灰黄色・ にぶい赤褐色・浅黄色・黒褐色粒を含 む	
102	縄文土器	鉢 胴部	B 2 Z5Gr	V a	組織痕	ナデ	良好	橙色	にぶい 黄褐色	微細な透明光沢粒を多く含む	
103	縄文土器	鉢 胴部	B 2 U4Gr	VI a 下	組織痕	ナデ	良好	灰白色	淡黄色	2 ㎜以下の黒色光沢粒をわずかに含む	内面:スス付着
104	縄文土器	鉢 胴部	B 2 Q6Gr	VI a	組織痕	ナデ	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	3 mm以下の褐灰色・黒色光沢・透明光 沢粒を少量含む	
105	縄文土器	鉢 底部	B 2 Q7Gr	V a VI a	組織痕	ミガキ	良好	浅黄色	浅黄色	2 mm以下のにぶい黄橙色・灰白色・黒 褐色・透明光沢粒を含む	

第6表 縄文土器観察表5

遺物	RP 10E		II J. Mr. E	园.从:		計	則値		- T ++	#± ±z
番号	器 種	i	出土地点	層位	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量(g)	- 石 材	備考
106	石鏃	В 2	Q6Gr	V a	1.3	1.2	0.3	0.3	姫島産黒曜石	
107	石鏃	В 2	Q7Gr	VI a	2.0	1.7	0.4	0.8	竜ヶ水・三船産黒曜石か	
108	石鏃	B 1	R5Gr	VI a	2.9	1.9	0.5	2.5	ホルンフェルス	熱変成が著しい。砂岩源か
109	石鏃	В 2	S6Gr	V a	1.8	1.4	0.7	0.9	チャート	
110	石鏃	В 2	S5Gr	V a	2.0	1.3	0.5	1.0	チャート	
111	石鏃	В 2	T6Gr	V a	1.9	1.9	0.7	2.4	チャート	
112	石鏃	B 1	ジュコン	_	1.4	1.3	0.4	0.5	チャート	
113	石鏃	В2	Q7Gr	VI a	1.4	1.0	0.3	0.4	チャート	
114	石鏃	В 2	R8Gr	VI a	2.9	2.1	0.7	3.4	頁岩	表・裏面中央が摩滅
115	局部磨製石鏃	B 1	U3Gr	V a	4.7	2.6	1.05	15.6	腰岳産黒曜石	片脚欠損
116	石鏃	B 1	SA 4		2.0	1.3	0.4	0.8	チャート	
117	石鏃	В 2	Q6Gr	V a	2.0	1.4	0.4	0.7	チャート	
118	石鏃	В 2	U6Gr	V a	1.4	1.2	0.2	0.3	ガラス質安山岩	
119	石鏃	В 2	Q8Gr	V a	1.6	1.5	0.4	0.8	砂岩	先端部欠損
120	石鏃	В 2	T7Gr	V a	2.2	1.4	0.4	1.0	腰岳産黒曜石	脚部欠損
121	石鏃	В2	_	В 2	2.9	2.0	0.6	2.4	チャート	
122	石鏃	В2	_	В 2	1.9	1.2	0.5	0.8	チャート	
123	石錐	В2	V4Gr	V a	2.7	1.2	0.5	0.8	チャート	
124	石錐	В2	S7Gr	_	4.3	1.0	1.2	5.5	砂岩	
125	石錐	B 1	R4Gr	IV	3.1	1.5	0.8	3.0	チャート	
126	石錐	B 1	S4Gr	VI a	3.7	2.2	1.0	6.9	チャート	
127	石錐	В2	Q6Gr	VI a	2.4	1.4	0.7	1.9	チャート	
128	両面加工石器	В2	S5Gr	V a	2.0	1.7	0.9	3.4	チャート	
129	掻器	В 2	S6Gr	V a	4.8	5.8	1.8	48.3	砂岩(微水晶有り)	
130	掻器	A 2	B15Gr	V a	4.4	6.7	1.2	26.7	流紋岩	
131	掻器	А3	I11Gr	V a	5.7	3.9	1.7	33.9	砂岩	
132	削器	В 2	Y5Gr	VI a	7.8	5.5	1.7	57.0	砂岩	
133	削器	A 2	カクラン		5.2	3.2	1.1	18.8	チャート	
134	削器	А 3	E10Gr	V a	7.3	6.9	2.6	108.2	砂岩	

第7表 縄文時代石器計測表1

遺物							計	則値					
番号	器 和	重	Н	出土地点	層位 -	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量(g)	石	材	備	考
135	掻器	A	2	B14Gr	V a	7.2	6.6	2.2	77.0	砂岩		-	
137	削器	A		D13Gr	V a	7.1	9.0	1.6	91.1	砂岩		左側欠損	
136	削器	В	2	Y3Gr	VI a	6.1	5.9	1.5	53.4	砂岩		上部欠損	
138	石匙	В		U6Gr	V a	5.6	7.6	0.9	37.3	ホルンフェルス	(頁岩源)	表面に磨滅あり	
139	石匙	В	2	Q7Gr	VI a	2.8	3.4	0.7	5.3	ガラス質安山岩		上部~右側欠損	
140	石匙	A	2	C12Gr	V a	4.7	5.7	1.2	22.1	ガラス質安山岩	(多久産か)		
141	石匙	A	3	J10Gr	V a	6.6	5.4	1.3	29.1	黒色チャート		下部欠損	
142	楔形石器	В	1	S4Gr	VI a	3.4	1.5	1.2	4.2	腰岳産黒曜石			
143	楔形石器	В	1	S4Gr	V b	1.9	1.6	0.8	2.4	チャート			
144	楔形石器	В	1	S3Gr	V a	2.0	2.0	0.7	2.0	チャート			
145	尖頭器	В	1	T3Gr	VI a	4.4	3.4	1.3	25.4	頁岩か		先端部・基部欠損	
146	石核	A	3	H9Gr	V a	4.0	5.9	3.0	52.7	泥岩			
147	石核	В	2	Q6Gr	V a	2.6	3.8	1.5	13.7	チャート			
148	石核	В	2	_	_	1.7	3.1	0.9	4.3	チャート			
149	石核	А	3	I11Gr	V a	2.4	4.3	2.0	17.7	チャート			
150	石核	В	2	Q6Gr	VI a	1.6	2.2	1.7	5.8	竜ケ水・三船産業	黒曜石か		
151	石核	А	3	J10Gr	VI a	2.5	3.4	1.4	11.2	チャート			
152	石核	В	2	Q7Gr	VI a	3.5	4.8	1.5	26.7	ホルンフェルス	(泥岩源)	被熱を受け、赤化	
153	磨製石斧	В	2	R8Gr	VI a	15.3	4.9	3.6	374.5	ホルンフェルス	(砂岩源)		
154	磨製石斧	A	2	E11Gr	V a	6.8	5.3	3.3	153.7	砂岩		刃部欠損、上部に再 転用か	加工あり、礫器に
155	磨製石斧	В	2	AA5Gr	V a	9.5	7.2	1.8	150.2	ホルンフェルス	(砂岩堰)	平公/11/3	
156	磨製石斧	В		O7Gr	VI a	8.2	3.4	1.8	68.9	ホルンフェルス		基部欠損、刃部は再	hn T +>
157	磨製石斧	В		Q7Gr Q7Gr	VI a	9.3	3.0	1.4	68.9	ホルンフェルス		一部スリ面あり	MH-1273
158	打製石斧	В		R5Gr	Vi a	11.1	5.6	1.9	123.1	ホルンフェルス		摩滅痕あり、刃部再	加工か
159	打製石斧	В		W5Gr	VI a	5.5	5.6	1.6	63.9	ホルンフェルス		基部・刃部欠損	MI-T-14
160	打製石斧	A		カクラン	VI a	11.5	7.8	2.6	282.0	砂岩	(貝石娜)	至即 7 月即入頂	
161	打製石斧	B	-	O8Gr	VI a	7.6	4.7	1.2	54.5	輝石安山岩		刃部欠損	
162	打製石斧	В		U6Gr	Vi a	14.3	6.8	2.3	207.5	砂岩		力即入頂	
	打製石斧	В		SE 1	v a	7.1	4.4	1.7	53.1	砂岩		刃部欠損	
163	打製石斧	В		S4Gr	V b	4.6	5.4	1.7	59.2	砂岩		刃部欠損、上部に敲 のででである。	trit
						7.5				輝石安山岩		ガ部欠損、上部に 対部欠損	11段
165	打製石斧 打製石斧	A A		E14Gr E14Gr	VI a V a	12.6	9.6	2.4	165.5 184.2	輝石安山石 輝石安山岩 (霧)	卓 在)	基部・刃部欠損	
167	件器	В		S7Gr	V a	6.6	5.6	1.8	93.5	砂岩	切圧丿	巫叫 * 八叩八垻	
168	石錘	В		O7Gr	V a VI a	5.4	3.65	1.4	26.7	砂岩		切目石錘	
169	敲石	В	_	Q6Gr	Vi a	5.8	5.1	2.9	112.9	砂岩		被熱を受け、赤化	
170	敲石	В		Z4Gr	V a VI a	10.0	5.6	4.0	301.0	ホルンフェルス	(政岩浬)	1双点で又り、亦11	
171	磨石	В		V5Gr	Vi a	10.0	7.9	4.7	486.7	砂岩	(形/口(杯)	左側面・表面に敲打	
172	磨石 磨石	В		Q7Gr	V a	9.9	5.6	4.7	413.8	砂岩		た側面・表面に配打 周縁に敲打痕	112
			_			15			952.8	砂岩		表面に敲打痕	
173	磨石	B B		Z4Gr ジュコン 5	V a	11.65	10.3	6.15	952.8	溶結凝灰岩		衣田に取打根	
174		В	_		V a	12.1	7	3.4	485.8	砂岩			
1/3	砥石	В	۷_	V5Gr	v a	12.1	1	3.4	480.8	10년			

第8表 縄文時代石器計測表2

遺物	種別	器種	出土	層位	ì	去量 (cm)		手法・調整	・ 文様ほ	か	- 焼成・		色	調		胎士の特徴	備	考
番号	性別	部位	地点	眉亚	口径	底部	器高	外	面	内	面	涉形以	4	1 面	内	面	加工の付 倒	1月日	与
176	弥生土器	壺 口縁部	B 2 S A 5	_				櫛描波状 横方向の 後ナデ		ナデ 風化著し	い	良好		橙色	明黄袖	曷色	2 mu以下の黒褐色・透明光沢 粒を少量、微細な光沢粒を含 む	複合口約	录
177	弥生土器	高坏 裾部	B 2 S A 5	-				縦方向の横方向の			方向の工 斜方向の 	良好	:	橙色	明黄袖	曷色	微細な光沢粒、2 m以下の黒 褐色・褐灰色・透明光沢粒を 含む		
178	弥生土器	高坏 裾部	B 2 S A 5 Y3Gr	— V а				縦方向の	ミガキ	ナデ		良好		橙色	にぶ 黄橙		微細な光沢粒、2 m以下の黒褐色・灰白色粒を含む	円形の返 孔	雪かし
180	弥生土器	要 口縁部 ~胴部	B 2 U5 • 6 W6Gr	Va	推定 25.0			ナデ、刻l 斜・縦方l 目		横方向の 一部風化 丁寧なナ	気味	良好		こぶい 責橙色	にぶ 黄橙		4 mm以下の褐灰色・黄褐色・ 赤褐色・黒褐色・灰白色・軟 質赤色・灰褐色粒を含む		
181	弥生土器	甕 □縁部 ~胴部	B 2 T6 U6 • 7Gr		推定 32.0			横方向の 貼付突帯、 の工具ナー ナデの後	、斜方向 デ、工具	斜方向の 一部風化	工具ナデ	良好		橙色	にぶ 褐	•	3 mm以下のにぶい赤褐色・透明光沢・褐灰色・黒褐色光沢・ 淡黄色・灰白色粒を含む	外面: 具	具斑
182	弥生土器	妻 口縁部 ~胴部	B 2 U6Gr	V a	推定 32.8			横方向の 圧痕、刻 帯、斜・綿 ハケ目	目貼付突	横・斜方ナデの後	向の工具	良好		こぶい	にぶ黄橙		3 mm以下の褐灰色・灰白色・ 褐色粒を含む	口唇部・ スス付着	

第9表 弥生土器観察表1

遺物	96 DV	器種	出土	<u>ы</u> и.	ž	去量 (cm)	手法・調整・文様に	まか	John - Li	色	調	Bl. L o debald	/± -4-
番号	種別	部位	地点	層位	口径	底部	器高	外 面	内 面	- 焼成	外 面	内 面	胎土の特徴	備考
183	弥生土器	甕 口縁部 ~胴部	B 2 T5 • R7Gr	V a VI a	推定 29.3			横方向のナデ 刻目貼付突帯	ナデ	良好	にぶい 橙 色	にぶい 橙 色	3 m以下の暗褐色・黒褐色・ 灰白色・黒褐色光沢粒を多く 含む	外面:スス付 着内面:黒斑
184	弥生土器	赛 口縁部 ~胴部	B 2 U6Gr	V a	推定 20.1			横方向のナデ 刻目貼付突帯 斜方向のハケ目 一部風化気味	工具ナデ? 一部風化著しい	良好	にぶい 黄橙色	明黄褐色	ごく微細な透明光沢粒、3 mm 以下の黒褐色・褐灰色・灰黄 色・淡灰白色・灰白色の粒、 2 mm以下の黒褐色光沢粒を含む	
185	弥生土器	要口縁部~胴部	B 2 U6Gr	V a	推定 15.6			横方向のナデ 刻目貼付突帯 ハケ目 風化気味	横方向のナデ 工具ナデの後ミガ キ 風化著しい	良好	にぶい 黄橙色	橙色	4 mm以下の灰白色・黒褐色・暗褐色・褐色・褐色・透明光沢粒を含む	外内面: スス 付着
186	弥生土器	甕 口縁部 ~胴部	B 2 T7Gr	VI a				横方向のナデ 貼付突帯 斜方向のハケ目	工具ナデの後ナデ	良好	黒褐色	にぶい 黄橙色	3 m以下の灰白色・黒褐色粒を多く含む	外内面:スス 付着、内面: 黒斑
187	弥生土器	甕口縁部~胴部	B 2 T6Gr	V a				横方向のナデ 貼付突帯 ナデ	ナデ	良好	にぶい 黄橙色	浅黄色	4 mm以下の暗褐色・黒褐色・ 灰白色粒を多く含む	内面:黒斑
188	弥生土器	妻 口縁部 ~底部	A 2 C15•D15 E15Gr	V a	推定 29.6	6.9	32.7	横方向のナデ、指 頭痕、横・斜方向 のハケ目、ナデ、 一部風化気味	横方向のナデ 横・斜方向のハケ 目、指頭痕	良好	にぶい 黄橙色	浅黄色	5 mm以下の黒褐色・透明光沢・ 黒褐色光沢・灰白色・にぶい 赤褐色・褐灰色・暗赤褐色・ 淡黄色粒を含む	外内面: スス 付着
189	弥生土器	妻 口縁部 ~胴部	A 3 I9Gr カクラン	_				ナデ ミガキの後ナデ	ミガキの後丁寧な ナデ ミガキの後ナデ	良好	橙色	橙色	1.5mm以下の黒褐色・褐灰色・ 透明・灰褐色・褐色粒を含み、 3mm以下の明褐色粒を多く含む	
190	弥生土器	甕 胴部~ 底 部	A 2 B16Gr	V a		推定 6.1		ナデ 一部風化著しい	ナデ	良好	明褐色	にぶい 黄橙色	5 mm以下の黒褐色・褐灰色・ 透明光沢粒を多く含む	
191	弥生土器	甕 胴部~ 底 部	B 2 R5Gr	V a		推定 3.4		ナデ 粘土のよれ	ナデ 風化著しい	良好	橙色	橙色	2 m以下の褐灰色・黒褐色・ 灰白色・褐色・淡灰白色粒を 多く含む	外面:黒斑
192	弥生土器	甕 胴部~ 底 部	A 2 E13Gr	V a		推定 3.7		斜・縦方向の工具 ナデ、ナデ	縦方向の工具ナデ	良好	にぶい 黄橙色	浅黄色	2 mm以下の灰白色・褐灰色・暗赤褐色・黒褐色・淡灰白色・透明光沢粒を含む	
193	弥生土器	壺 口縁部 ~胴部	B 1 • B 2 $T4 \sim 6Gr$	V a VI a				斜・横方向のミガ キ、削り出し状の 突帯、貼付突帯	風化が著しく調査 不明	良好	橙色	橙色	3 mm以下の灰白色・褐灰色・暗褐色・黒褐色・淡灰白色・透明光沢粒を含む	内面:炭化物 付着
194	弥生土器	壺 口縁部	A 2 D12Gr	V a				櫛描波状文	横方向のナデ 剥離	良好	にぶい 橙 色	にぶい 橙 色	ごく微細な透明光沢粒、1 mm 以下の褐色・黒褐色光沢・に ぶい褐色・褐灰色粒を含む	複合口縁
195	弥生土器	壺 口縁部 ~胴部	B 2 R6 • S6 • 7 T6 • Z4Gr		推定 20.3			横方向のナデ 縦方向のハケ目 刻目貼付突帯 風化著しい	横方向のナデ 横方向のハケ目 ナデ 風化著しい	良好	暗灰黄色 橙色 黄褐色	橙色	2 mm以下の褐灰色・灰白色・ 褐色・透明光沢粒を多く、 4~5 mmの褐色・褐灰色・灰 白色粒をわずかに含む	内面:黒斑 内面:圧痕あ り
196	弥生土器	壶 胴部~ 底 部	B 2 R7•8 S5•8Gr	V a		推定 7.3		ナデ 風化著しく調整不 明瞭	ナデ 指頭痕	良好	暗灰黄色		1 mm以下の灰白色・褐色・透明光沢粒を多く含む	195 と同一個 体か
197	弥生土器	壺 底部	A 3 I11Gr	V a		推定 4.8		ナデ	剥離	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	ごく微細な透明光沢粒、2mm 以下のにぶい褐色・灰白色・ 褐灰色・黒褐色粒を多く含む	外面:圧痕あ り
198	弥生土器	虚	B 2 Y3Gr	V a		2.4		縦方向の工具ナデ、 ナデ	剥離多い ミガキ?	良好	橙色	明赤褐色	ごく微細な透明光沢粒、2 mm 以下の黒褐色光沢・灰白色・ 淡黄色・黒褐色・褐灰色粒を 含む	外面:黒斑
199	弥生土器	壺 底部	B 2 U6•7Gr	VI a V a		推定 6.8		ナデ 風化著しい	ナデ 風化著しい	良好	にぶい 橙 色	橙色	4 m以下の灰白色・黒褐色・暗褐色粒を多く含む	

第10表 弥生土器観察表2

遺物	99	06		Luker	FR 44		計	則値		T 4	1#1:	-tz
番号	器	種	出	土地点	層位	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量(g)	石 材	備	考
179	砥石		B 2	SA 5	_	15.3	4.3	1.0	135.9	砂岩		
200	磨製石鏃		В 2	U5Gr	V a	2.2	1.7	0.2	0.9	緑色頁岩		
201	磨製石鏃		А 3	I11Gr	V a	3.2	2.1	0.2	1.3	頁岩		
202	磨製石鏃		Α 3	3 J8Gr	V a	3.0	2.3	0.3	1.7	緑色頁岩		
203	磨製石鏃		A 2	西カクラン	_	3.1	2.1	0.3	2.0	緑色頁岩		
204	磨製石鏃		B 1	T4Gr	VI a	3.5	2.1	0.3	2.0	緑色チャート		
205	石包丁		В 2	Y3Gr	VI a	4.6	7.7	0.8	36.4	頁岩		

第11表 弥生時代石器計測表

遺物	26 Dil	器種	出土	層	ì	去量 (cm)	手法・調整	・ 文様ほか	14t -12	色	調	HALO det Mil	t.t.tc	-1×
番号	種別	部位	地点	位	口径	底部	器高	外 面	内 面	焼成	外 面	内 面	胎土の特徴	備	考
206	土師器	甕頸部付近~底部	A 1 SA1	_		推定 1.1		斜方向のナデ 指頭痕	横方向のナデ 指頭痕	良好	橙色	橙色	微細な白色・透明光沢粒、 1 mm大の黒色・灰白色・赤褐色 粒を含む	外内面	: 黒変
207	土師器	要口縁部~胴部	A 1 SA1 B19•20Gr	V a VI a	推定 16.6			ナデ 横方向のナデ	ナデ 横・斜方向の工具 ナデ	良好	浅黄橙色	淡黄色	3 mm以下の褐灰色・褐色・灰白 色粒を含む	外面: 注	スス付
208	土師器	械 □縁部 ~底部	A 1 SA1	_	15.3	2.9	7.5	ナデ 、横方向の ミガキ、指頭痕	横方向のナデ 指頭痕	良好	浅黄橙色	黄橙色	1 mm以下の灰色粒、2~4 mm大 の褐灰色粒を含む		
209	土師器	城 口縁部 ~胴部	A 1 SA1 B19Gr	– VI a	推定 15.0			横方向のミガキ 風化著しい	横方向のナデ 横方向のミガキ	良好	にぶい 黄橙色	黄褐色	2 m以下の褐色・にぶい橙色・ 灰白色粒、3~8 m大の黄褐色 粒を含む	外面:	スス付
211	土師器	変口縁部~底部	A 2 SA1	_	17.2	推定 6.2	19.5	ナデ 横方向のナデ	横方向のナデ	良好	橙色	にぶい 褐 色	1 ㎜以下の白色・灰色粒を含む	外面: 溢着、内i 変	
212	土師器	小型丸底壺 口縁部 ~底部	A 2 SA2	_	推定 7.9	2.2	9.6	丁寧なヨコナデ 横・斜方向のヘラ ミガキ	斜方向のナデ、ナ デ、粘土の絞り・ つなぎ目、指頭痕	良好	明黄褐色	にぶい 黄橙色	微細な光沢粒、1 mm以下の白色 粒を多く含む		
213	土師器	高坏 坏部~ 脚柱部	A 2 SA2	_	推定 22.6			横方向のナデ ハケ目 ミガキ	横方向のナデ	良好	明黄褐色	灰白色 にぶい 黄橙色	4 mm以下の褐色・灰白色の粒を 少量含む		
214	土師器	高坏 坏部	A 2 SA2 E12Gr	— V а	推定 19.3			ヨコナデ 横方向の工具ミガ キ	ヨコナデ 横・縦・斜方向の 丁寧なナデ	良好	橙色	にぶい 黄橙色	1 mm以下の褐灰色粒、2 mm以下の橙色粒を多く含む		
215	土師器	高坏 脚柱部 ~裾部	A 2 SA2	_		推定 21.0		ナデの後へラ状工 具ミガキ	ナデ 指頭痕 横方向のナデ	良好	橙色	黒褐色	5 mm以下の赤褐色粒をわずかに 含む	外面:	黒斑
216	土師器	高坏 脚部	A 2 SA2	_		推定 15.7		ナデの後へラ状工 具ミガキ	ナデの後工具ナデ	良好	橙色	黒褐色	3 mm以下の赤褐色・黒灰色・乳 白色粒をわずかに含む		
217	土師器	高坏脚柱部	A 2 SA3 · Tr3 D12Gr	V a		10.7			ナデの後工具ナデ	良好	橙色	黄灰色	1 mm以下の灰色粒、3 mm以下の 明赤褐色粒をわずかに含む	218 と 体か	司一個
218	土師器	高坏脚部	A 2 SA2	_				ナデ 縦方向のミガキ	指ナデ痕工具ナデ	良好	橙色 浅黄色	淡黄色 にぶい 橙 色	2 mm以下の明赤褐色粒をわずか に含む		
219	土師器	高坏裾部	A 2 SA2 D12Gr	— V а		推定 19.5		ヘラミガキ	ナデ	良好	橙色	黒色	1 mm以下の灰白色・灰褐色・橙 色粒を多く含む	外面: 注 着・黒斑	
220	土師器	小型鉢 口縁部 ~底部	A 2 SA2	_	推定 6.4	推定 2.9	推定 5.0	斜・縦方向の工具 ナデ、ナデ 粘土のつなぎ目	ナデ、指頭痕 横方向のナデ 粘土のつなぎ目	良好	浅黄色	淡黄色	0.5mm以下の灰白色粒、1.5mm以 下の橙色粒を多く含む		
225	土師器	妻 口縁部 ~胴部	A 3 SA3	_	推定 30.0			横方向のナデ、斜 方向の工具ナデ、 刻目突帯 (布目)	縦方向の工具ナ デ、ナデ 指頭痕	良好	にぶい 黄橙色	浅黄色	1 mm以下の黒色粒をわずか、2 mm以下の乳白色・灰色・褐色粒を含む	外面: ご 着・黒珠	
226	土師器	妻 口縁部 ~胴部	A 3 SA3 • Tr7 I10•11Gr	− V a ∼ VI a	推定 24.7			横方向のナデ、斜 方向の工具による ハケ目	横・斜方向のナデ、 斜方向のハケ目、 指頭痕、一部風化 ぎみ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	2 mm以下の黒色・灰白色・褐灰 色粒を多く含む		
227	土師器	妻 口縁部 ~胴部	A 3 SA3	_	推定 27.4			横方向のナデ 横・斜方向の工具 ナデ	横・斜方向の工具 ナデ	良好	浅黄色 灰黄色	にぶい黄 橙色	1 mm以下の褐灰色・灰白色・褐色・透明光沢粒を少し含む	外面: 活 着・黒珠	
228	土師器	妻 口縁部 ~胴部	A 3 SA3	_	推定 14.6			横方向のナデ 斜方向のナデ	横方向のナデ 斜方向のナデ	良好	浅黄色	浅黄色	微細な褐灰色・透明光沢粒をわずかに含む	外面に 着 内面に	

第12表 古墳時代土師器観察表1

遺物	種別	器種	出土	層	ì	去量 (cm))	手法・調整	文様ほか	焼成	色	調	胎土の特徴	備	考
番号	性別	部位	地点	位	口径	底部	器高	外 面	内 面	沙比风	外 面	内 面	加上の付取	7/用	5
229	土師器	甕 胴部~底部	A 3 SA3	— V а		推定 7.6		ナデ	ナデ	良好	浅黄橙色	にぶい 黄橙色	3 mm以下のにぶい赤褐色・赤褐色・乳白色・光沢粒を多く含む		
			J11Gr										4リエのにでいま担任 彩点		
220	土師器	独	A 3	_		7.0		ナデ	ナデ	良好	にぶい	にぶい	4 mm以下のにぶい赤褐色・乳白 色・黒色光沢・透明粒を多く含		
230	工的级	底部	SA3 J10Gr	V a		7.0		, ,	指頭痕	及灯	黄橙色	黄橙色	む・黒色ルバ・透明粒を多くさむ		
		甕	A 3					縦・斜方向の工具	斜方向のナデ				1 mm以下の透明光沢粒、2 mm以		
231	土師器	胴部~	SA3	_		推定		ナデ、粗いヨコナ	ナデ	良好	淡黄色	黄灰色	下の黒色・灰白色・褐灰色粒を		
		底 部	J9Gr	V a		7.4		デ、ナデ、指頭痕	指頭痕				多く含む		
		甕	А 3			推定		斜方向の工具ナ	ナデ				1 mm以下の透明光沢粒、3 mm以		
232	土師器	胴部~	SA3	-		6.6		デ、粗いナデ	指頭痕	良好	淡黄色	淡黄色	下の黒色・灰白色・灰褐色粒を		
		底部	1.2			推定		烈士ウのいたロ				灰白色	多く含む		
233	土師器	甕 底部	A 3 SA3	-		推走 7.8		斜方向のハケ目 ナデ	横・斜方向のハケ 目	良好	浅黄色	黄灰色	2 mm以下の黒色光沢・灰白色粒 を少量含む		
						7.0		丁寧なヨコナデ				A/C			
234	土師器	壺	A 3	_	推定			縦・斜方向のヘラ	丁寧なナデ	良好	灰白色	浅黄橙色	微細な黒色・褐色・透明粒を含		司一個
		口縁部	SA3		10.6			ミガキ	ナデ				む	体	
		壺	А 3					横方向のヘラミガ					2㎜以下の黄色粒をわずか、1	234 と	司一個
235	土師器	底部	SA3	-				+	ナデ	良好	灰白色	灰白色	mm以下の乳白色・灰色粒を多く	体	3 II-4
		小型丸底壺						ナデ、ナデの後横・	楼左向のよご				含む 微細な透明色粒、1 mm以下の灰		
236	土師器	口縁部	А3	_	9.5	2.8	110	斜方向のミガキ、	横方向の粗いナ	良好	黄橙色	橙色	他・灰白色・赤褐色・黒色光沢	从内面	· 田坎
230		~底部	SA3		5.5	2.0	11.0	風化気味	デ、ナデ	IXXI	MIEC	152 (2)	粒を含む) FI JIHI	· 1449/T
		小型丸底壺	4.0												
237	土師器	口縁部	A 3 SA3	_	9.4			ヨコナデ 縦方向のミガキ	ヨコナデ	良好	橙色	浅黄橙色	1 mm以下の赤褐色粒をわずかに 含む		
		~頸部	JAJ					柳の同のスカヤ							
		小型丸底壺	А 3												
238	土師器	頸部~	SA3	_				横方向のミガキ	ナデ	良好	淡黄色	灰白色	1 mm以下の褐色粒を含む		
		胴 部 壺											2 mm以下の黒褐色・淡灰色・褐		
239	土師器	頸部~	А3	_				斜方向の工具痕	横方向のナデ	良好	明黄褐色	明苗褐色	灰色・透明光沢・軟質赤色粒を		
		肩部	SA3					沈線文					含む		
		ミニチュア	А З												
240	土師器	壺	SA3	-				ナデ	ナデ	良好	淡黄色	灰白色	1 mm以下の透明・白色粒を含む	焼成後属	底部穿
210	Теньпп	頸部~	I10•11Gr	V a				, ,	指頭痕	IXA	黄灰色	淡黄色	Tamax (402/1) Helicello	孔	
		底部付近 高坏							横方向のナデ						
241	土師器	坏部~	А 3	_	15.0	12.1	11.1	横方向のナデ、縦・	T具ナデ、ナデ	良好	橙色	明黄褐色	3 mm以下の乳白色・明赤褐色粒		
211	Теньпп	裾 部	SA3		10.0	12.1	11.1	斜方向のミガキ	横方向のミガキ	IXA	明黄褐色	橙色	を含む		
			4.0									1- 7°1 .	4 mm以下の赤褐色粒をわずか、		
242	土師器	高坏 坏部~	A 3 SA3	_				縦方向のミガキ	横方向のミガキ、 横・縦方向のナデ、	白好	橙色	にぶい 橙 色	1 mm以下の褐灰色・透明光沢粒		
242		裾部付近	J10Gr	V a				丁寧なナデ	工具ナデ	IXXI	152 (2)	明黄褐色	を少量、微細な光沢粒を多く含		
		MINFITZ	31001									77,7,19,0	to and the second second		
			1.2	-				ヨコナデ、横方向	ココナゴ 様大向				微細な透明光沢粒、2㎜以下の		
243	土師器	高坏	A 3 SA3	IV	21.7			のナデの後横・斜	ヨコナデ、横方向 のナデの後横・斜	白好	橙色	にぶい	灰白色・透明光沢・褐灰色粒、 3 m以下の軟質赤色・にぶい褐	从内面	· 田坎
243		坏部	I10•11Gr	V a	21.1			方向のミガキ	方向のミガキ	IXXI	152 (2)	黄橙色	色・黒褐色・黒褐色光沢・淡灰) FI JIHI	· 2449/T
				VI a				一部風化気味					白色粒を含む		
		高坏	А 3					ミガキの後横方向	粗いナデ、ナデ		明黄褐色	橙色	微細な灰白色・褐色光沢粒、1		
244	土師器	脚柱部	SA3	-		推定		のナデ、丁寧なナ	ミガキの後ヨコナ	良好	にぶい	にぶい	m以下の透明光沢粒、2m以下		
		~裾部	Tr 7	VI a		19.4		デ、ミガキの後横・	デ		黄橙色	黄橙色	の褐灰色・褐色粒を含む		
								斜方向のナデ					15…以下の土畑各特を小具		
		高坏	А 3	_					ミガキの後ナデ				1.5mm以下の赤褐色粒を少量、 1mm以下の灰色・透明光沢粒を		
245	土師器	坏受部~	SA3	V a				縦方向のミガキ	工具による縦方向	良好	橙色	黄灰色	わずか、微細な光沢粒を多く含		
		脚柱部	I10 • J10Gr						のケズリ				む		
246	4-66-88	高坏	A 3					縦左向のミガキ	ナデ	白松	压苦色	昔压色	1 mm以下の明褐灰色・灰白色粒	外面:	スス付
246	土師器	脚柱部	SA3					縦方向のミガキ	横方向のナデ	良好	灰黄色	黄灰色	を多く含む	着	
0.15	Lavor	高坏	А 3					横・斜方向のミガ	#### ~ 1 -*	rts I	nD#####	にぶい	微細な光沢粒、2㎜以下の灰白		El 144°
247	土師器	裾部	SA3	_				キ、丁寧なナデ、	横方向のナデ	艮好	明黄褐色	黄橙色	色・乳白色・褐灰色・明褐色粒	内面:	悬斑
		鉢	A 3					ナデ	斜方向の工具ナ				を含む		
248	土師器	口縁部	SA3	-				斜方向の工具ナ	デ、ナデ	良好	橙色	浅黄色	5 mm以下の明赤褐色粒を含む	外面:	スス付
_		~胴部	J9Gr	V a				デ、ナデ	粘土のつなぎ目					着	
		小型鉢			排空			縦方向のミガキ	ナデ		洋苦色		3 mm 以下の組名・広白名・添印		
249	土師器	口縁部	A 3 SA3	_	推定8.8	3.3	6.9	靴万回のミガキ ナデ	エリナデ	良好	浅黄色 灰白色	灰黄色	3 mm以下の褐色・灰白色・透明 光沢粒を多く含む	外面:	黒斑
		~底部	5.10		0.0						// I		,		

第13表 古墳時代土師器観察表2

おかけ おお	遺物	種別	器種	出土	層		去量 (cm			・ 文様ほか	- 焼成	色	調	胎土の特徴	備	考						
	番号	性別	部位	地点	位	口径	底部	器高	外 面	内 面	沙比八人	外 面	内 面	加上の付取	1/111	与						
「	250	土師器			_		2.9		ナデ		良好	浅黄色	浅黄色									
20				JA3																		
1848 1848			甕	R 1		推完			ココナデ	ナデ		冰苗石		2 mm以下の黒色粒、3 mm以下の	外面:	スス付						
一	262	土師器	口縁部		-						良好		浅黄橙色	明褐色・褐灰色・灰白色の粒を	着							
28			~胴部	SA4		31.7			上共ノブ	15世7月日107777		伐與巴		多く含む	内面:	黒斑						
18			壺	D 1					別ナウのこおよ	世 タナウのこぶ		1- m,) - >*) \	ごく微細な透明光沢粒、1mm以	ha.	ファム						
一部	263	土師器	口縁部付近		_						良好			下の灰白色・にぶい黄橙色粒を		人人刊						
			~頸部付近	SA4					斜万向のハケ目	丰		黄橙色	黄褐色	含む	者							
1983									ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ												
一般語	264	十師器	□縁部		_	7.9	2.8	5.4	縦・斜方向のミガ	横・斜方向の工具	良好	灰黄色	灰黄色		外内面	:黒斑						
特別				SA4										沢・にぶい黄橙色の粒								
1				A 3						, ,		浅昔色	浅苗色									
	267	十無뫶			V a	32.8	6.5	33.0		ヨコナデ	自好			2 mm以下の透明・白色粒を少量	外面:	スス付						
	201				v a	32.0	0.5	33.0		指頭痕	1231			含む	着							
1			~底部	J8*10Gr								典 巴	160 巴									
10			甕	А 3		W. ch							1- 70	1.5mm以下の明褐色・黒色粒、	hi da T							
	268	土師器	口縁部	I10 ·	V a					横方向のナデ	良好			2 mm以下の灰白色・黒褐色・褐		:						
横				I10Gr		24.0			刻目突帯 (布目)	BO31:3-3 / /		黄橙色	黄色		付着							
28																						
1 日本部 日本 日本			要批	E.	V a				横方向のナデ	構方向のナデ												
一	260	4-6688		B 2	v a	推定			刻目突帯 (布目)		白松	津基存	压装色		从面·!	EE 15/1						
10分子子 10分子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子	209	工品的公司		R7 • S7Gr		24.6			横・斜方向のハケ		及灯	伐與巴	灰黄色		フトIEI ・	杰灯						
1			~胴部		VI a				目の後ナデ	回のハゲ目												
1 日曜日正 1 日曜日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日			-61						横方向のナデ													
日報報			A 3	А 3					刻目突帯 (布目)	横方向のナデ		にぶい		2 mm以下の褐色・灰白色・褐灰		スス付						
一	270	土師器	口縁付近	l縁付近 I10Gr	V a				横・斜方向の工具 エ		良好		灰黄褐色		着							
要 A 2 推定			~胴部	J1001						工共//00///		94122 C			内面:	黒変						
1 日報部			shi	Λ 2						ナデ 様ち向のエ				2 mm以下の腔去現台,匠白色,								
	071	L. ASSER			17 -	推定						にぶい	にぶい									
整 B 2 Va K5 · CGCr	2/1	工印粉			v a	32.7					良好	橙色	黄橙色									
1				C17•18Gr					刻目突帯 (布目)	指頭痕												
RF				В 2	V a				ナデ	ナデ					内面:	スス付						
接 接 接 接 接 接 接 接 接 接	272 土師	土師器	胴部~				4.2				良好	淡黄色 浅黄	浅黄橙色									
273 土崎器 照常 22 · Y2Gr Va 銀化著しい 現化者しい 現代者しい 現代者した 現代的 にぶい 海視色 にぶい 別名色 民口色 : 透明光沢 見									/A(10 10 10 1	,2416 G G				を含む								
273 土崎器 類部 22・Y2Gr 風化省しい 風化省しい 風化者しい 風化者しい 風化者しい 風化有しい 風化有しい 風化有しい 風化石味 投野 投資相色 投資相色 投資相色 投資相色 投資相色 投資相色 投資相色 投資相色 投資相色 大田以下のぶが資報色・にぶ い がん色数・通知との資報色・にぶ い がん色数・通知との資報色・にぶ い がん色数・通知との資報色・ にぶい が、対象を分割 大田以下のぶが資報色・ にぶい が、対象を分割 大田以下のにぶい資報色・ にぶ い がん色数・通知とい の 大田の 大田以下のにぶい 資報色・ にぶい が、対象を分割 大田以下のにぶい 資報色・ にぶい が、対象を分割 大田以下のにぶい 資報色・ 近野光沢・黒 大田以下のにぶい 資報色・ にぶい がまる 大田以下のにぶい 資報色・ にぶい がまる 大田以下のにぶい 資報色・ にぶい がまる 大田以下のにぶい 資報色・ にぶい がまる 大田以下のにぶい 資報色・ がまる 大田以下のにぶい 資報色・ 大田に 大田以下のにぶい 資報色・ 大田に 大田以下のにぶい 資報色・ 大田に 大田以下のにぶい 資報色・ 大田に 大田以下のにぶい 資報色・ 大田以下のにぶい 資報色・ 大田に 大田以下のにぶい 資報色・ 大田に 大田以下のにが、対象色・ 大田以下のにが、対象色・ 大田以下のにが、対象色・ 大田以下のにが、対象色・ 大田以下のにが、対象色・ 大田以下のには、 大田以下のには、 大田以下のには、 大田以下のには、 大田に 大田以下のには、 大田以下のがに、 大田の 大田以下の海に 大田、大田、大田に 大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大				B 1						斜方向のハケ目				4 mm以下の暗褐色・里褐色・褐	外面:	スス付						
2m以下のにぶい黄褐色・にぶい 2m以下のにぶい黄褐色・にぶい 2m以下のにぶい黄褐色・にぶい 2m以下のにぶい黄褐色・にぶい 2m以下のにぶい黄褐色・にぶい 2m以下のにぶい黄褐色・にぶい 2m以下のにがい黄褐色・にぶい 2m以下のにがい黄褐色・にぶい 2m以下のにがい黄褐色・にがい 2m以下のにがい黄褐色・ 2m以下のにがい 黄褐色・ 2m以下のにがい黄褐色・ 2m以下のに白・ 2m以下のに白・ 2m以下の形に色・ 2m以下のに白・ 2m以下のに白・ 2m以下のが同に色・ 2m以下の形に色・ 2m以下のに白・ 2m以下のに白・ 2m以下のに白・ 2m以下のが同に色・ 2m以下の形にかい黄褐色・ 2m以下のにかい黄色・ 2m以下の形に色・ 2m以下のに白・ 2m以下のに白・ 2m以下のに白・ 2m以下のに白・ 2m以下の形に色・ 2m以下のに白・ 2m以下のに白・ 2m以下のにいいずにんったり 2m以下の形に色・ 2m以下のにいいずにんったり 2m以下の形に色・ 2m以下の形に色・ 2m以下の形にかい 2m以下のにいいがでにかいがにがにがにがにがにがにがにがにがにがにがにがにがにがにがにがにがにがにが	273	土師器			V a						良好	橙色	橙色			/ / / / / / /						
変 B 2 km² Va 推定 5.95 風化気味 力デ 良好 浅黄檀色 黄檀色 無視色、透明光沢、黒褐色・灰白色・透明光沢、黒褐色・灰白色・透明光沢、黒褐色・灰白色・透明光沢を含む 3m以下の積灰色・元が、赤褐色 黒褐色・沢丸 内面:黒斑色 沢木 大角面:黒斑 大力デ 上伸器			胴 部	ZZ • YZGF					風に有しい	風化者しい				次日極で多く古む	48							
274 土師器 底部 U7G Va 5.95 風化気味 風化気味 良好 浅黄色 浅黄色 八面:スパー 八面:スパー 八面:スパー 八面:スパー 八面:スパー 八面:黒花 八面: 八面 八面			魏	В2		a								2㎜以下のにぶい黄褐色・にぶ								
政部 U7G 5.95 風化気味 風化気味 異複色・灰白色・透明光沢、黒褐色・灰白色・透明光沢、黒色・灰白色・透明光沢、黒色・灰白色・透明光沢、黒色・灰白色・透明光沢、黒色・灰白色・透明光沢を含む 1 muly におい 表現 2 muly 下の視灰色・原白色・透明光沢を含む 2 muly 下の深の灰白色・透明光沢粒を含む 2 muly 下の灰白色・透明光沢粒を含む 2 muly 下の赤褐色・褐灰色・褐色・透明光沢粒を含む 2 muly 下の赤褐色・褐灰色・褐色・灰白色・透明光沢粒を含む 2 muly 下の湯灰色・灰白色・透明光沢粒を含む 2 muly 下の湯灰色・灰白色・透明光沢粒を含む 2 muly 下の湯灰色・灰白色・透明光沢粒を含む 2 muly 下の褐灰色・灰白色・透明光沢粒を含く含む 2 muly 下の褐灰色・山油色・灰白色・透明光沢 上色・透明光 大子 2 muly 下の褐灰色・山油以 下の 2 muly 下の褐灰色・山油以 下の 2 muly 下の褐灰色・山油以 下の 2 muly 下の褐灰色・山油以 下の 2 muly 下の褐灰色・山油以 下の色・透明と 2 muly 下の褐灰色・山山以 下の 2 muly 下の褐灰色・山山以 下の 2 muly 下の褐灰色・山山以 下の 2 muly 下の褐灰色・山山以 下の 2 muly 下の褐灰色・山山 2 muly 下の褐灰色・小白色・透明光斑 2 muly 下の褐灰色・山山以 下の 2 muly 下の褐灰色・山山以 2 muly 下の褐灰色・山山以 下の 2 muly 下の褐灰色・山山以 下の 2 muly	274	L. ASSER			V a					ナデ	良好	VD +++ 18% ++	にぶい	い褐色粒、3mm以下の黄褐色・								
275 土師器 張 A 3 本 推定 工具ナデの後ナデ 上師器 張 B 2 V a 6.05 縦方向の工具ナ 大デ 上師器 張 B 2 V a 推定 縦方向の工具ナ 大デ 上師器 張 B 2 V a 推定 縦方向の工具ナ 大デ 上師器 張 B 2 V a 推定 縦方向の工具ナ 大デ 上師器 張 B 2 V a 推定 縦方向の工具ナ 大デ 上師器 張 B 2 V a 推定 縦方向の工具ナ 大デ 上師器 張 B 2 V a 推定 縦方向の工具ナ 大デ 上師器 張 B 2 V a 推定 縦方向の工具ナ 大デ 上師器 張 B 2 V a 推定 縦方向の工具ナ 大デ 上師器 張 B 2 V a 推定 縦方向の工具ナ 大	214	工品的公司	底部	U7Gr						風化気味		伐與恒巴	黄橙色	黒褐色・灰白色・透明光沢・黒								
接														褐色光沢粒を含む								
275 土師器 接																						
A 78			独	A 3					工具ナデの後ナデ	ナデ	良好			色、4mm以下のにぶい黄褐色・	外面:	スス付						
振頭痕 透明光沢粒を含む 2m以下の灰白色・淡灰白色・ 複方向の工具ナ	275	土師器			V a	ì			ナデ	風化気味		浅黄色	黄色 淡黄色		着							
276 土師器 東			EXHIP	0001						指頭痕					外内面	:黒斑						
276 土師器 要 B 2																						
Ki	270	L. ASSER	甕	甕 B 2	V.		0.5-		縦方向の工具ナ	J. =2	良好	What to	出北极红									
277 土師器 選 V2・V3Gr V3	210	工印码	底部	底部 S5Gr	S5Gr	S5Gr	v a						6.05		デ、ナデ	ナナ		次典巴	浅 貝恒巴			
投資性 投资性 投资 投资				D 1																		
277		Literan	甕				推定		縦方向の工具ナ		良好	ND dds (m. ds	10-44-4-									
Tr 透明光沢粒を含む 透明光沢粒を含む 接方向の工具ナ 正具ナデ 良好 にぶい 黄灰色 明光沢粒を少量含む 1 mm以下の褐灰色・灰白色・透明光沢粒を少量含む 2 mm以下の褐灰色・灰白色・透明光沢 型色光沢粒を多く含む 4 mm以下の褐灰色・灰白色・透明光沢 を夕く含む 1 mm以下の褐灰色・透色 2 mm以下の褐灰色・透色を多く含む 1 mm以下の褐灰色・透色粒を多く含む 1 mm以下の褐灰色・透色粒を多く含む 2 mm以下の褐灰色・褐色・透明光沢・正紫色 1 mm以下の褐灰色・褐色・透明光沢・黒褐色粒を多く含む 2 mm以下の褐灰色・褐色・透明光沢・黒褐色粒を多く含む 2 mm以下の褐灰色・褐色・透明光沢・黒褐色粒を多く含む 2 mm以下の褐灰色・褐色・透明光沢・黒褐色粒を多く含む 2 mm以下の褐灰色・褐色・透明光沢・黒褐色 1 mm以下の褐灰色・褐色・透明 1 mm以下の褐灰色・灰白色粒を多く含む 2 mm以下の褐灰色・褐色・透明光沢・黒褐色粒を多く含む 2 mm以下の褐灰色・褐色・透明光沢・黒褐色を多く含む 2 mm以下の褐灰色・褐色・透明光沢・黒褐色・透明光沢・黒褐色 1 mm以下の褐灰色・水白色粒を多く 2 mm以下の褐灰色・褐色・透明光沢・黒褐色・灰白色粒を多く 2 mm以下の褐灰色・褐色・透明光沢・黒褐色・灰白色粒を多く 2 mm以下の褐灰色 2 mm以下の褐色 2 mm以下の褐色 2 mm以下の褐色 2 mm以下の褐灰色 2 mm以下の褐色 2 mm以下の褐色 2 mm以下の褐色 2 mm以下の褐灰色 2 mm以下の褐色 2 mm以下の褐色 2 mm以下の 2	277	土帥器		V2 • V3Gr	VI a		5.4		デ、ナデ	」寧なナテ		浅黄橙色	浅黄色									
Table 大子 大子 大子 大子 大子 大子 大子 大				Tr										透明光沢粒を含む								
変 B15Gr Val 6.4 デ、ナデ エ具ナデ 風化気味 黄褐色 黄灰色 頭米沢粒を少量含む 279 土師器 要 B2 収a 推定 エ具ナデの後ナ ナデ 良好 淡黄色 大井戸 風化著しい 25 (验机	Δ 2	V a		推定		縦方向の工具ナ		自好	にぶい		1 mm以下の裾灰色・灰白色・透								
題化気味	278	土師器							デ、ナデ	工具ナデ	1231		黄灰色									
Ref			ECUP	plogr	v a _		0.4		風化気味			與個巴		明尤沢私を少量百む								
底部 T3Gr 6.05 デ、ナデ 風化著しい 白色・透明光沢粒を多く含む 280 土師器 要	270	L. ASSER	甕	B 2	17 -		推定		工具ナデの後ナ	ナデ	良好	ンルキな	ンルコニとな。	4 mm以下の褐灰色・黒褐色・灰	hl chasi	• EE 191						
280 土師器 張 J8・K9Gr Va	219	工印码	底部	T3Gr	v a		6.05		デ、ナデ	風化著しい		次典巴	灰典巴	白色・透明光沢粒を多く含む	外凹曲	- 黒斑						
Reference Re											417											
底部 Tr8 6.0 デ、ナデ 黄橙色 黄橙色 黄橙色 黄橙色 黄橙色 色光沢粒を多く含む 281 土師器 要 B 2 底部 VI a Q7Gr VI a R7.6 目、ナデ	280	土師器		J8 • K9Gr	V a					縦方向のナデ	良好			褐灰色・灰白色・透明光沢・黒								
281 土師器 要 B 2			底部				6.0		デ、ナデ			黄橙色	黄橙色									
281 土師器 張 B 2									縦・斜方向のハケ													
底部 Q7Gr 風化著しい デ、風化気味 黄橙色 色・灰白色粒を多く含む 着 282 土師器 要 B 2 底部 Va 8.9 横・斜方向の工具 ナデ、横方向のナ ナデ 良好 黄橙色 横・斜方向のナ ナデ 東海 東 大デ、指頭痕 世色	281	十師嬰	甕	B 2	VI a		7.6			工具ナデの後ナ	良好	にぶい	浅苗熔色	3 mm以下の褐色・暗褐色・黒褐	外面:	スス付						
変 B 2 Va 8.9 サデ、横方向の工具 ナデ、横方向のナ ナデ 橙色 良好 褐灰色 にぶい 黄橙色 湿m以下の褐灰色・褐色・透明 大沢・黒褐色粒を多く含む 内面: 黒斑 大沢・黒褐色粒を多く含む 283 土師器 変 B 2 推定 横方向のナデ ボナデ 横方向のナデ し好 にぶい 良好 にぶい もだい もだい も変 にぶい またい もだい も変 と加以下の褐灰色・褐色・透明 大沢・黒褐色粒を多く含む 283 土師器 変 B 2 VI a 10.8 ナデ します にぶい も存色 と加以下の褐灰色・褐色・透明 光沢・黒褐色・灰白色粒を多く	201	ը	底部	Q7Gr	vı d		7.0			デ、風化気味	75.21	黄橙色	这只位已	色・灰白色粒を多く含む	着							
282 土師器 要 B 2												₩8.£z.	短げる こうしょう									
Ref Re	000	L Wene	甕	B 2			0.0			1*	da to			2 mm以下の褐灰色・褐色・透明	do en	EH rVr						
デ、ナデ、指頭痕 黄橙色 黄橙色 2 m以下の褐灰色・褐色・透明 2 m以下の褐灰色・褐色・透明 にぶい にぶい とぶい とぶい 光沢・黒褐色・灰白色粒を多く 黄橙色 黄橙色	282	土師器			V a		8.9			ナデ	艮好				内面:	黒斑						
要 B 2 推定 横方向のナデー にぶい にぶい にぶい にぶい にぶい にぶい にぶい にぶい にぶい だがい にぶい だがい とがい とがい とがい とがい とがい とがい とがい とがい とがい と									デ、ナデ、指頭痕			黄橙色	黄橙色									
283 土帥器 V1 V1 ー 良好 光沢・黒褐色・灰日色粒を多く			쾔	R 2			推定		横方向のナデ			にぶい	にぶい	2 mm以下の褐灰色・褐色・透明								
#SIP NOOI 10.0 / / 奥恒E 奥恒E を含む	283	土師器			VI a					_	良好			光沢・黒褐色・灰白色粒を多く								
			生人口り	MOGI			10.0					夾拉巴	見位出	を含む								

第14表 古墳時代土師器観察表3

遺物	番 叫	器種	出土	層	ì	去量 (cm)	手法・調整	・文様ほか	梅出	色	調	BL + O Act 204	/ 些	*
番号	種別	部位	地点	位	口径	底部	器高	外 面	内 面	焼成	外 面	内 面	胎土の特徴	備	考
284	土師器	壶 口縁部 ~胴部	A 3 I10 J10Gr	V a	推定 11.9			ナデ、工具ナデ 丁寧なナデ 風化気味	ナデ 粗い工具ナデ	良好	浅黄橙色 明黄褐色	浅黄橙色	2 mm以下の褐色・黒褐色・明褐 色・白色・透明・褐灰色・灰白 色粒を多く含む		
285	土師器	壶 口縁部	B 2 Z4Gr	V a				横方向のナデ 風化著しい	横方向のナデ 風化著しい	良好	橙色	橙色	1 mm以下の透明光沢・黒褐色・ 灰白色・褐灰色粒を含む	複合口約 内面:注	
286	土師器	壺 口縁部	A 2 D12Gr	V a	推定 23.4			横方向のナデ	横・斜方向のナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	1 mm以下の褐色・褐灰色・透明 光沢粒を多く含む	複合口約	录
287	土師器	壺 頸部~ 胴 部	A 3 H9Gr	V a				横・縦方向のミガキ、縦方向のミガキの後ナデ	横方向のヘラミガ キ、横方向のナデ	良好	橙色	橙色	微細な褐灰色・褐色粒をわずか に含む		
288	土師器	壺 頸部~ 胴 部	A 2 C14·15 D15 E15Gr	V a				刻目貼付突帯 ナデ 風化気味	ナデ 風化気味	良好	浅黄橙色	にぶい 黄橙色 褐灰色	2 m以下の褐色粒、3 m以下の 軟質赤色・黄褐色・黒褐色・暗 褐色・灰白色粒を含む	内面:	黒斑
289	土師器	壺 胴部	B 2 Q6 • R6 R7Gr	V a VI a				縦・斜方向のハケ 目	縦・斜方向のナデ、 剥離	良好	にぶい 橙 色 にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	2 mmの赤褐色粒をわずか、微細な褐灰色粒を少量含む	外面: 2	スス付
290	土師器	壺 頸部~ 胴 部	A 3 J10Gr	V a				横斜め方向ナデ 指頭痕	ナデ 指頭痕	良好	黄橙色	明褐色	1 mm以下の黒色・灰白色粒・金 雲母を含む	外内面	:黒斑
291	土師器	虚部	B 2 W3Gr	VI a		推定 8.0		ナデの後縦方向の ミガキ、ナデ	横・斜方向のハケ 目	良好	明黄褐色	にぶい 黄橙色	微細な褐色・灰白色・透明粒を 含む		
292	土師器	壺 胴部~ 底部付近	B 2 S5 • R5Gr	V a				工具ナデ? 風化著しい ナデ	工具ナデ 風化著しい 指頭痕	良好	にぶい 黄橙色	浅黄橙色	2 mm以下の灰白色・褐灰色・暗 赤褐色・灰赤色・黒褐色・淡灰 白色・透明光沢・軟質赤色粒、 角閃石を含む	内面:鳥	黒斑
293	土師器	小型壺 口縁部 ~胴部	A 3 I10•11Gr	V a	推定 6.7			横方向のナデ ナデ	横・斜・縦方向の ナデ、指頭痕	良好	橙色	橙色	1 mm以下の黒褐色・褐灰色・透明光沢・赤褐色粒を含む		
294	土師器	小型壺 頸部~ 底 部	A 3 I10Gr	V a				ナデ 工具痕	ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	1 mm以下の赤褐色・褐色・褐灰 色・透明光沢粒を含む	外面:	具斑
295	土師器	高坏 坏部	B 2 Y3Gr	V a				ヨコナデ 縦方向のミガキ 一部風化気味	縦・斜方向のミガ キ 風化気味	良好	明黄褐色	明黄褐色	ごく微細な透明光沢粒、2 m以 下の黒褐色光沢・黒褐色・灰白 色・褐灰色・淡黄色粒を含む		
296	土師器	高坏 坏部	A 2 D11•12Gr	V a				横・斜方向のミガ キ、風化著しい	ミガキ? 風化著しい	良好	にぶい 黄橙色	橙色	ごく微細な透明光沢粒、2 m以 下の黒褐色光沢・灰白色・にぶ い黄橙色・褐灰色・透明光沢・ 橙色・黒褐色粒を含む	外面:	具斑
297	土師器	高坏 脚柱部	A 3 J10Gr	V a				縦方向のヘラミガ キ、ナデ、横方向 のナデ、風化気味	ナデ 縦方向のナデ	良好	浅黄橙色	褐灰色	1 mm以下の角閃石、褐灰色・灰 白色粒、2 mm以下の赤褐色粒を 少量含む	内面:	黒斑
298	土師器	高坏脚部	A 3 I10Gr	VI a• V a		推定 11.8		縦・横方向のヘラ ミガキ 横方向のナデ	横・斜方向の工具 ナデ 横方向のナデ	良好	明黄褐色	にぶい 黄橙色	1 mm以下の褐色・褐灰色粒をわずかに含む		
299	土師器	高坏裾部	B 2 Y3Gr	V a		推定 19.9		斜方向のミガキの 後ナデ	横・斜方向のハケ 目	良好	明黄褐色	にぶい 黄橙色	微細な透明光沢粒、1 mm以下の 透明粒、2 mm以下の黒褐色光沢・ 褐灰色・にぶい褐色粒を含む		
300	土師器	小型鉢 口縁部 ~底部	B 2 Q5 • R5Gr	VI a	7.4		4.6	ナデ 指頭痕	ナデ	良好	橙色	橙色	4 mmの黒褐色粒をわずか、 1 mm以下の褐色・褐灰色・灰白 色・透明光沢粒を多く含む		
301	須恵器	有蓋高坏蓋 天井部 ~口縁部	A 3 J8Gr	V a				回転ナデ	回転ナデ	堅緻	灰黄色	黄灰色	微細な灰白色粒、1 mm以下の褐 色・褐灰色粒を少量含む		

第 15 表 古墳時代土師器観察表 4

番号	器	種	出土地点		計 測	1 値		色	調	- 胎士	供	考
借与	00	1生	山上地点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	外面	内面	加工。	1/111	5
221	221 鞴羽口		A 2	9.6	5.8	6	214	浅黄色	灰黄色	1 mm以下の浅黄橙色・灰白色粒、3 mm以下	鉄分・ガラスケ	新什羊
221	明田一一	_	SA2	9.0 5.8		O		にぶい黄橙色	灰黄色	の褐灰色粒を含む	欧月・カノへ!	貝刊相
222	## ਹਹ -	静羽口	A 2 SA2	9.7	C 4	6.3	236	にぶい	浅黄橙色	2 mm以下の灰白色・黒褐色粒、3 mm以下の	ガラス質付着	
222	棚刊工				6.4			黄橙色灰黄色	橙色	にぶい黄橙色・褐灰色粒を含む	ガブ人員刊石	
251	土書	器 A3		10	橙色)っで)、共扱な	微細な透明光沢粒を多く、3mm以下の灰白	外面:斜方向	のミガキ			
251	加工品	加工品	SA3		3.4	0.9	12	恒巴	にぶい黄橙色	色粒をわずかに含む	内面:横方向	のナデ

第 16 表 古墳時代土製品計測表

遺物	99	DE.	di I	ut to	F2 /4-		計	則値				<i>t</i> #:	-tz	
番号	器	種	出工	地点	層位	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重	量(g)		備	考	
252	鉄鏃		А 3	SA3		14.2	3.2	0.5		31	木質残存(最大厚 1.4)			
253	鉄鏃		А3	SA3	_	7.3	2.1	0.4		11				
254	ヤリガンフ	ታ	А3	SA3	_	6.2	1.1	0.4		7	茎部か			
302	鉄鏃		В 2	R7Gr	V a	4.1	2.4	0.3		7	,			
303	不明鉄製品	급	А 3	I12Gr	V a	11.2	3.8	0.4		29				

第 17 表 古墳時代鉄器計測表

番号	器種	出土地点	層位		計	1 値			石	材	備	考	_
借与	石 性	山上地点	眉亚	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量(g)		11	1/1	1/18	与	
210	台石	A 1 SA1Tr	_	7.6	6.5	2.5	156.7	凝灰岩					
223	砥石	A 2 SA2	_	12.1	9.9	1.5	280.7	砂岩					
224	金床石	A 2 SA2 • B15		38.2	35.9	77.5	4,978.0	凝灰岩					
	312/15 [2]	D12 • E12Gr		30.2	55.5	77.0	1,070.0	IMUZZI					
255	敲石	A 3 SA3	_	6.8	5.5	2.9	163.2	砂岩					
256	敲石	A 3 SA3	_	7.6	5.5	3.0	149.0	砂岩					
257	砥石	A 3 SA3	_	15.8	5.6	1.4	115.1	頁岩					
258	砥石 or 敲石	A 3 SA3	_	10.2	7.9	6.5	809.9	砂岩					
259	軽石製品	A 3 SA3	_	2.7	4.9	2.05	5.9						
260	台石	A 3 SA3	_	27.8	20.5	6.4	4,374	砂岩					
261	台石	A 3 SA3	_	21.9	10.5	4.9	1,873.70	砂岩					
265	石錘	B 1 SA4	_	6.2	4.3	1.0	42.8	砂岩					
266	台石	B 1 SA4	_	23.7	24.0	8.4	6,500	砂岩					

第 18 表 古墳時代石器計測表

遺物	種別	器 種	出土	屋丛	ì	去量 (cm)	手法	 調整 	・文様ほか	- 셤朮	色	調		備	考
番号	種 別	部 位	地点	層位	口径	底部	器高	外	面	内 面	- 焼成	外面	内 面	胎工の特徴	11111	亏
304	土師器	坏 口縁部	B 1 SE1	— V а	推定 13.2	推定 6.1		回転ナデ ヘラ切り後	ナデ	回転ナデ	良好	黄橙色	橙色	2 m以下の軟質赤色・灰白色粒をわず かに含む		
306	土師器	<u>~底部</u> 「坏 体部~ 底 部	U3Gr A 2 SC1 D11Gr	– V a		推定 7.7		回転ナデ		回転ナデ	良好	にぶい 橙 色	にぶい 橙 色	微細な光沢粒を少量、2 m以下褐灰色・赤褐色・透明・褐灰色・褐色・黒褐色 粒を含む		
307	土師器	杯底部	A 2 SC1 D11Gr	— V а		6.4		回転ナデ ヘラ切り後	ナデ	回転ナデ	良好	にぶい 橙 色	にぶい 橙 色	1 mm以下の微細な褐色・褐灰色粒をわずかに含む		
308	土師器	高台付塊 口縁部 ~体部	A 2 SC1	-	推定 11.7			回転ナデ		回転ナデ	良好	にぶい 褐 色	にぶい 橙 色	1 mm以下の灰白色粒、2 mm以下の赤褐色・黒褐色粒をわずかに含む		
309	土師器	甕 口縁部	A 2 SC1	_				ヨコナデ		横方向のハケメ 調整、縦方向の ケズリ	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	1mm以下の褐色・褐灰色・黒褐色・透明 粒をわずかに含む		
310	土師器	甕 胴部	A 2 SC1	_				格子目タタ	キ	ナデ	やや 不良	灰黄色 灰色	灰黄色	1 mm以下の赤褐色・褐灰色粒をわずか、 微細な光沢粒を多く含む		
312	土師器	坏 口縁部 ~底部	A 2 SC4 B15Gr	— V а	11.1	5.7	4.1	回転ナデ ヘラ切り		回転ナデ	良好	にぶい 黄橙色	淡黄色	ごく微細な透明光沢粒、2m以下の黒 褐色光沢・軟質赤色・にぶい黄橙色・ 灰白色・褐灰色粒を含む		
313	土師器	坏 体部~底部	A 2 SC4 • 5 C15Gr	— Va上		推定 7.6		回転ナデ、 切り後ナデ		回転ナデの後ナ	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	2 mm以下の赤褐色粒を少量、1 mm以下 の褐灰色・赤褐色粒をごくわずか、微 細な透明光沢粒を含む		
314	土師器	坏 体部~底部	A 2 SC4 C15Gr	-		6.2		回転ナデ、切り後ナデ		回転ナデ	良好	にぶい 黄橙色	橙色	微細な褐色・褐灰色粒をわずかに含む		
315	土師器	坏 口縁部 ~底部	A 2 SC4	-	推定 11.0	5.4	4.4	回転ナデヘラ切り		回転ナデ	良好	浅黄色	浅黄色	ごく微細な透明光沢粒、1 mm以下の灰 白色・黒褐色・にぶい黄橙色・浅黄色 粒を含む		
316	土師器	坏 体部~底部	A 2 SC4 C15Gr	-		推定 6.3		回転ナデ ヘラ切り		回転ナデ	良好	にぶい 黄橙色	浅黄橙色	2 mm以下の灰白色粒をわずか、軟質赤色粒を含む		
317	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 2 SC4	_	推定 12.8	6.0	4.7	回転ナデ		回転ナデ	良好	にぶい 黄橙色	黄橙色	黒色光沢粒をわずか、微細な透明光沢 粒を少量含む		
318	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 2 SC4	-	12.1	6.0	4.7	回転ナデ ヘラ切り後	ナデ	回転ナデ	良好	橙色	黄橙色	2 mm以下の軟質赤色粒・透明光沢粒・ 黒色光沢粒をわずかに含む		
319	土師器	坏 体部~底部	A 2 SC4	-	推定 12.9	6.3	5.3	回転ナデヘラ切り		回転ナデ	良好	にぶい 橙 色	にぶい 橙 色	2 mmの明黄褐色粒をわずか、1 m以下 の赤褐色・褐灰色・にぶい橙色・灰白 色粒をわずか、微細な透明色・黒褐色・ 赤褐色粒を含む		
320	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 2 SC4	_	推定 12.5	5.9	4.6	回転ナデ ヘラ切り		回転ナデ	良好	橙色	浅黄橙色	微細な光沢粒、2 mm以下の軟質赤色・ 灰色粒をわずかに含む		

第19表 古代土師器観察表1

1	Vitalia.		pn						-FM	b		£-	⇒pri			
1 日	遺物	種別	器種	出土	層位						焼成	<u></u> 色	調肉面	- 胎土の特徴	備	考
24 1	番号				-	口径		器局		円 由		外面	円 由	婚姻を実行権 2リエの動所主な		
1	321	土師器	体部~底部	SC4	_		6.1		ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	黒褐色粒を含む		
1.	322	土師器			_					回転ナデ	良好	橙色	橙色			
1	323	土師器			_				回転ナデ	回転ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色			
1 日本語 F	324	土師器			_					回転ナデ	良好	橙色	明黄橙色			
1	328	土師器	坏	A 2	_		推定		回転ナデ	回転ナデ	良好					
1												東恒巴	典恒巴	1 mm以下の表場色・灰白色粒をごくわ		—
1	326	土師器			V a					回転ナデ	良好	灰黄褐色	褐灰色			
1 日	327	土師器			_						良好			微細な黒褐色・褐灰色粒を含む		
一				A 2										2 mm以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・		
1 日曜 1 日曜	328	土帥器	~底部			13.4	7.0	6.7	回転ナテ	回転ナテ	艮好	浅黄橙色	浅黄橙色	黒褐色光沢・軟質赤色粒を含む		
一大学 1.15cr	329	土師器			-	14.1	7.9	6.5			良好	浅黄橙色	浅黄橙色			
1 日					v a				<i>ナ</i> ナ	<i>ア</i> ア 				りかに含む		
18 18 18 18 18 18 18 18	330	土師器			_ V o	13.3	6.9	5.9			良好	橙色	黄橙色			
1 日				B15 • C15Gr	v a				7 7	7.7						
1 m以下の所信色、全血以下の明赤 1 m以下の所信色、全血以下の明赤 2 m以下の明赤 2 m以下の所信色、全血以下の明赤 2 m以下の所信色、全血以下の明赤 2 m以下の所信色、全血以下の明赤 2 m以下の所信色、全血以下の明赤 2 m以下の所信色、全血以下の明赤 2 m以下の所色色、全血以下の所色色、全血以下の所色色、全血以下の所色色、全血以下の所色色、全血以下の所色色、全血以下の所色色、全血以下の所色色、全面以下の所色色、全面以下の所含色、全面以下の所色色、全面以下の所色色、全面以下の所含色、全面以下の所色色、全面以下の所含色、体型、上面以下の测像上型、面型、下面、全面以下的所含色、性色、全面以下的所含色、性色、全面以下的所含色、性白色、温制的皮色全心下的心容、上面以下的所含色、性白色、温度、下面、上面、上面、上面、上面、上面、上面、上面、上面、上面、上面、上面、上面、上面	331	土師器			_					ナデ	良好		浅黄橙色			
1 日曜 1 日曜						13.6	7.5	7.1	不定方向のナデ			黄橙色				
一般の	222	-1-6EBB			_	120			回転ナデ	回転士学	白松	熔布	熔布			
日経部	332				V a	15.5			ナデ	四种人	1231	155 🕒	152 (2)			
大学 10mk	222	_L. AGE RIP			_	155				回転ナデ	±7	47% £z.	47% Zz.	微細な透明光沢粒、1.5mm以下の灰色粒・		
1 日本部	333	工印格			V a	15.5			四転プナ	ナデ	及好	恒巴	恒巴	乳白色粒を含む		
14 miles			高台付埦	A 2					回転ナデ			浅黄橙色		3 mm以下の明赤褐色粒をわずか、微細		
335	334	土師器			-	10.0	8.2			回転ナデ	良好		橙色			
				A 2								132 🚨		2 mm以下の灰白色・黄橙色粒を多く、		
336 土飾器 高合付塊 反名 A 2 内容 推定 回転ナデ 中元 回転ナデ 日転ナデ 日転ナデ 日転ナデ 資料 浅葉色色 元気、 資料の 無限の財産を 透明光沢税を多く・ 無限が実施を多まく・ 無力 ディー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	335	土師器			-		7.0		ナデ	風化著しい	良好	浅黄橙色	浅黄橙色			
上解器 上解器 上解器 上解器 K			直台付協	Λ 2			推完		同転士デ				にてい			
337	336	土師器			-					回転ナデ	良好	浅黄橙色				
			高台付埦	A 2					回転ナデ	回転ナデ	良好		1011101			
1 日報部	337	土師器	胴部~底部	SC4			8.7	3.3	ナデ	ナデ		浅黄橙色	浅黄橙色	粒をわずかに含む		
一体部 SC4 12.6 根 色 程 色 含む 339 上解器 A 2	220	_L. AGE RIF		A 2		推定			ロボルゴ	EIRTH T	⇔ 47	にぶい	にぶい	1 mm以下の褐色・褐灰色粒をわずかに		
339 土師器	338	工師器		SC4	_	12.6			四転アア	四転アア	艮好	橙 色	橙 色	含む		
1 日	-		高台付埦									にぶい	にぶい	2 mm以下の赤褐色・褐灰色粒をわずか		
340 土師器	339	土師器			-	14.0			回転ナデ	回転ナデ	良好					
340 土師器 口縁部						排完								2 mm 以下の去場合・広白台・里場台對		
341 土師器 高台付境 A 2	340	土師器			-				回転ナデ	回転ナデ	良好	橙色	橙色			
13.0 13.0 13.0 14.4 回転ナテ 回転ナテ 良好 橙色 橙色 桜色 桜色 灰白色粒を少量含む 複色・灰白色粒を少量含む 複色・灰白色粒を少量含む 13.0 14.3 回転ナテ 回転ナテ 良好 炭黄橙色 大変 14.3 回転ナテ し転ナテ し転ナテ し好 大変 14.3 回転ナテ しまず				4.0		Atre-								1 ***和中の動脈土仏場 0 以てで甲		
342 土師器 高台付境 A 2	341	土師器			-			4.4	回転ナデ	回転ナデ	良好	橙色	橙色			
342 土師器 口縁部												1		0 NT 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		—
343 土師器 日縁部	342	土師器	口縁部		_				回転ナデ	回転ナデ	良好		浅黄橙色			
343 土師器 口縁部				A 2		Lr								A DIFFERENCE CONTRACTOR		
底部付近 B15Gr 高合付境 A 2	343	土師器							回転ナデ	回転ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色			
344 土師器 口縁部 SC4					, u	19.2										
~体部 B15Gr 高台付境 A 2 A 2 回転ナデ後ナデ、回転ナデの後ミ 良好 橙色 橙色 2 m以下の黒色光沢粒をわずか、微細な透明光沢粒を含む 345 土師器 口縁部	344	土師器							回転ナデ	回転ナデ	良好	浅黄橙色	黄橙色			
345 土師器 口縁部 SC4 一 推定 回転ナア後ナア、回転ナアの後ミ メロー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・					v a	20.0								神な透明尤沢私を言む		
一 本体部 B15Gr 高台付塊 A 2 上解器 推定 4.2 回転ナデ 回転ナデ 良好 苗枠色 にぶい 浅黄色 白粉が少量、微細な光沢粉を含む 2 二十次である。	345	土師器			-						良好	橙色	稻色			
A 2 推定 4.2 回転ナデ 回転ナデ 良好 接黄色 接替色 機細な光沢粉を含む 14.4 14.4 14.5 1			~体部		V a	15.2			ミガキ	ガキ				な透明光沢粒を含む		
SC4 14.4 黄橙色 色粒を少量、微細な光沢粒を含む	346	十師與		A 2	_	推定		42	回転ナデ	回転ナデ	良好	にぶい	浅苗缶	2 mm以下の灰褐色・灰白色粒・軟質赤		
	5-10			SC4		14.4		1.6	— та <i>/</i> /	HTA//	15(7)	黄橙色	14,47 Li	色粒を少量、微細な光沢粒を含む		

第20表 古代土師器観察表2

19	遺物	種 別	器 種	出土	層位		量 (cm			き・文様ほか 一	焼成	色_	調	胎土の特徴	備	考
19 19 19 19 19 19 19 19	番号	135 //1	部 位	地点	76 122	口径	底部	器高	外 面	内 面	7912700	外面	内 面	MIL ON M	MIL	-,
1	347	土師器			_					回転ナデ	良好					
18 18 18 18 18 18 18 18			耳坏様	Δ 2						回転ナデ	良好	にぶい	にぶい	ごく微細な透明光沢粒色・里褐色粒を		
149 14	348	土師器			-				回転ナデ		EXI					
1	349	土師器			-						良好	淡黄色			内面に	こ赤彩
1			III WANTIP						風にこの	風にこの			19.6	世をわりがで占む		
1	350			SC4	– V a				回転ナデ		良好		黒色			
1										回転ナデ後縦・						
	351			SC4	V a						良好	浅黄色	黒色	1 mm以下の黒褐色粒をわずかに含む		
1			4-7101							24.1				1 mm以下の透明光沢粒・黒色光沢粒を		
	050	Lecgs			_	推定	推定		ナデ	7 - 1 -	±2	38 #149 A	SP ## ## /#	わずか、3㎜程度の褐色・褐灰色粒を		
	352	工師器			V a	28.1	20.0		ヨコナデ	ヨコアア	艮好	浅 東恒巴	浅典恒巴	少量、2mm以下の赤褐色・褐灰色・白		
1985				DIOGI										色粒を多く含む		
154 上郊田 156 273 平行タタ本 ア・ケスリ 156 2						推定				横方向の工具ナ	良好	にぶい				
1- 1	353	土師器											明黄橙色			
154 上線器 日緑部 SC4 Val 理形 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日									平行タタキ							
大き球 15-15kg 13-15kg 13-15k	35/	十一年			Val	推定			ヨコナデ	ヨコナデ	白好	にぶい	にぶい			
映	334	1.040				22.9			平行タタキ	縦方向のケズリ	区列	橙 色	黄橙色			
155					v a	W. ch			1 -	1-			1			
一	355	土師器	口縁部		_						良好	明黄褐		多く、2mm以下の灰白色・暗褐色・透明	外面:	黒斑
1 日本部			~胴部	SC4		27.9			平行タタキ	ゲスリ			黄橙色	光沢粒・黒色光沢粒を少量含む		
156			甕	A 2		推定			ヨコナデ	ヨコナデ				4 mm以下の黒褐色・褐灰色・灰白色・		
1 日本語	356	土師器	口縁部		-						良好	橙色	橙色			
1 日本部																
1	050	Lecgs		A 2		推定			ヨコナデ	ヨコナデ	±2	にぶい	にぶい			
類	358	土帥器		SC4	_	18.6			平行タタキ	ケズリ	良好	黄橙色	黄橙色			
1 日報器				-								-	-			
	359	十師器			_				ヨコナデ		良好					
1 日本部				SC4		18.6				ナデ		黄橙色	黄橙色			
1 日縁部 日縁部 SC4			甕	A 2		推宁			ココナデ	ココナデ				1 mm以下の褐灰色・褐色・灰白色粒を		
1861 上 日本 1875 日 日本 18	360	土師器	口縁部	SC4	V a						良好	橙色	橙色	多く、透明光沢粒・角閃石をわずかに		
1 日曜部 SC4					· u	20.2			1112.5.1							
	001	Lecgs				推定			ヨコナデ	ケズリの後ナデ	±2	14% fr.	にぶい			
362 上師器 素 SC4	301	工印格			_	23.8			平行タタキ	ケズリ	良好	恒巴	黄橙色			
接触 接触 接触 大																
B1SGr	362	土師器			_				平行タタキ		良好	浅黄色	浅黄色			
接路 上師器 上 上下 上 L下 上 L下 上 上下 上 上下 上 上下 上 L下 上 L下 上 上下 上 L下 上 LT LT			胴部~低部	B15Gr						指オサエ				褐灰色・黒褐色粒を含む		
364 土師器 A 2	363	土師器			_					ナデ	良好			微細な黒褐色粒をわずかに含む		
364 上師器 日縁部 A 2 与 SC4 ココナデ 良好 植色 浅黄椎色 透明粒、3 mm以下のにぶい橙色粒を含むむ の				SC4					平行タタキ			黄橙色	黄橙色	2 mm以下の複名・用名・複匠名・用複名・		
	364	十師與		A 2	_				ヨコナデ	ココナデ	良好	橙色	浅苗橙色			
存痕土器 A 2	501	Даруни		SC4					11//	12//	ICAI	132 🗀	IXMIXL			
13.4 13.4				4.0		##-) - 7°) \		6 mm以下の明赤褐色・灰白色・褐色粒、		
大塚部 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚	365	土師器	口縁部		_				ヨコナデ	布目痕	良好		橙色	3 ㎜以下の橙色粒・微細な褐灰色・明		
1 回転部 SC4 SC4 SC4 SC4 SC4 SC5						13.4						152 C		赤褐色・黒褐色粒を含む		
367 須恵器 壺 A 2	366	須恵器			_				ナデ	ナデ	堅緻	灰色	灰色	2 mm以下の黒色・灰白色を含む		
回転ナデ 回転ナデ 回転ナデ 回転ナデ 回転ナデ 回転ナデ 回転ナデ 回転ナデ												-				
Fr Fr Fr Fr Fr Fr Fr Fr	367	須恵器			_				回転ナデ	回転ナデ	堅緻	灰白色	灰色			
373 土師器 坏 A 2 底部 推定 5C5 1.7 6.2 回転ナデ 7.3 1.7 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3	368	須恵器			_				ナデ	ナデ?	良好	灰白色	灰白色			
KP SC5 6.2 ヘフ切り 明光沢和を含む 明光沢和を含む 明光沢和を含む 明光沢和を含む 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日							推定		回転ナデ							
K CB SC5 7.3 2.3 ナデ 回転ナデ 良好 黄橙色 黄橙色 微細な赤褐、褐灰色粒をわずかに含む 375 土師器 「水 A 2 推定 回転ナデ 自転ナデ 良好 浅黄橙色 浅黄橙色 秋質赤色粒をわずかに含む 376 土師器 「水 A 2 大デ 自転ナデ 良好 浅黄橙色 浅黄橙色 水質赤色粒をわずかに含む 377 土師器 「水 A 2 推定 回転ナデ 自転ナデ 良好 浅黄橙色 2 mu以下の褐色粒を少量、微細な透明 378 土師器 口縁部 A 2 推定 回転ナデ 自転ナデ 良好 浅黄橙色 浅黄橙色 1 mu以下の褐灰色粒をわずかに含む 近・高台内 378 土師器 口縁部 A 2 推定 自転ナデ 同転ナデ 良好 浅黄橙色 浅黄橙色 1 mu以下の褐灰色粒をわずかに含む 近・高台内 378 土師器 口縁部 A 2 推定 自転ナデ 回転ナデ 良好 浅黄橙色 1 mu以下の褐灰色粒をわずかに含む 近・高台内 387 土師器 口縁部 A 2 推定 自転ナデ 回転ナデ 良好 没黄	373	土師器	底部	SC5	_		6.2	1.7	ヘラ切り	回転ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	明光沢粒を含む		
K部 SC5 7.3 ナデ 黄橙色 黄樹色 黄黄色 黄枝色 大	374	土師器			_			2.3		回転ナデ	良好			微細な赤褐、褐灰色粒をわずかに含む		
大												黄橙色	黄橙色			
376 土師器 坏 A 2	375	土師器			_					回転ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	軟質赤色粒をわずかに含む		
K部 SC5 ヘフ切り 色・褐灰色粒を少量含む 2mm以下の褐色粒を少量、微細な透明 大	270	4-6s:RR								回転ナギ	白 ₩	津基 極4	注基極 力	3 mm以下の赤褐色粒、1 mm以下の灰白		
377 土師器 体部~底部 SC5	310	上即宿								凹転ノナ	及灯	戊典恒巴	伐貝恒巴			
高台付境 ロ縁部付 A 2 推定 回転ナデ 良好 浅黄橙色 浅黄橙色 1 mm以下の褐灰色粒をわずかに含む 近・高台内 SC5 13.05 風化気味	377	土師器			-					回転ナデ	良好	橙色	橙色			
378 土脚器 口縁部 - 6.3 回転ナテ 艮好 浅黄橙色 浅黄橙色 1㎜以下の褐灰色粒をわすかに含む 近・高台内 SC5 13.05 風化気味						46.4	J		/	D# 1. =*					口縁音	形付
~ 底部 13.03 風L 双味 面に付着物	378	土師器	口縁部		-			6.3	回転ナデ		良好	浅黄橙色	浅黄橙色	1 ㎜以下の褐灰色粒をわずかに含む	近·高	高台内
			~底部	303		13.03				旭儿太小水					面に作	付着物

第21表 古代土師器観察表3

## 19	遺物	種別	器 種	出土	層位		去量 (cm			と・文様ほか	焼成	色	調力工	胎土の特徴	備	考
19	番号					口径	底部	器高		内 面		外面	内 面	,		
1	379	土師器			_		7.7	4.1		回転ナデ	及好	浅黄橙色	浅黄橙色	2 mm以下の黒褐色を含む		
	380	土師器			_					回転ナデ	良好					
	381	土師器	高台付埦	A 2	_			2.5	回転ナデ、ナデ、	回転ナデ	良好			1 mm以下の黒褐色・軟質赤色粒を少量		
1																
1	382	土師器	口縁部								良好	浅黄橙色	浅黄橙色			
									同転士デ	同転士学						
1	383	土師器			-						良好	灰白色	灰白色	微細な黒褐色・淡黄色粒を含む	外面:	赤彩
18 18 18 18 18 18 18 18			甕	A 2		推定			ヨコナデ	ヨコナデ		にぶい	にぶい	ごく微細な透明光沢粒、3㎜以下の灰	外面:	スス
	384	土師器			_						良好					,,,,
	385	土師器			-				ヨコナデ	ヨコナデ	良好	明黄褐	明黄褐色			
特別	386	十師묋		A 3			-		格子日々タキ	ナデ	良好	浅苗榕色	にぶい	2 mm以下の透明光沢・黒色光沢・黒色		
1 日													橙色			
日本語	387	土師器			_			2.7		布目痕	良好		橙色			
1											良好					
1988 1988	389	土師器	高台部	SC12			6.5	1.5	痕 (後ナデか?)							
日本語	390	土師器			-			5.0			良好					
	391	須恵器	埦	A 2	_	11.8		2.6			堅緻					
1 日本語		>>0E100		SC12		11.0						//AC		O MANAGEMENT OF THE O		
	392	十師嬰		A 2	_	推定	推定	7.0			良好	にぶい	にぶい	2 mm以下の褐色・褐灰色粒、4 mm大の	内外面	点: 寓
1 日輪が	332			SC13		14.9	7.65	7.0				黄橙色	黄橙色	褐色、褐灰色粒をごくわずかに含む	斑	
1 日報			甕	A 2		推定				ヨコナデ、ナデ	良好		にぶい	2 mm以下の親灰色・褐色粉を小量		
	393	土師器						3.7	ヨコナデ		1231	橙色				
1									回転ナデ	調整						
	394	土師器			_	9.2	5.5	2.0		回転ナデ	良好	橙色	橙色			
1				H12Gr	Va									粒を含む		
1 日					_							にぶい		1 mm以下の灰白色・黒褐色・軟質赤色		
	395	土師器			V a	11.7	8.3	1.7		回転ナデ	良好		浅黄橙色			
1 日報報										斜め方向のミガ				ごく 微細た添肥平沢・浅苦婚色粉		
操性器	396				_						良好	浅黄橙色	黒色			
		(黒色土器)				11.3	4.48	6.7			200				部:馬	具化
1 時報 1 時報 1 日報部 1 日報部 1 日報 1 日			甕			111 of o			一市風化	1 -0						
	397	土師器			_				ナデ		良好	黒褐色	暗褐色			
						22.0			株子立の知り土					黒色儿が・透明儿が極を召む		
大き 大き 大き 大き 大き 大き 大き 大き	398	十師嬰			TV	推定					良好	にぶい	にぶい	1 mm以下の褐灰色・灰白色・透明光沢		
1	000	тънии				28.5					IζΛ	黄橙色	黄橙色	粒を少量、微細な灰白色粒を少量含む		
			Spir	А 3	_						良好			2 mm以下の灰白色・透明光沢・里色光		
接	399	土師器							丁寧なナデ	ケズリ	227	褐色	黒褐色			
400			쾣		VI a							-		3 mm程度の灰白色・褐灰色粒をわずか、		
大田	400	須恵器			_			13.0			良好	灰黄色	暗灰黄色			
## 1			~胴部			17.0			111111111111111111111111111111111111111	円心门コで共振						
R	401	須亩肥	甕		_				枚乙日カカモ	同心円状当て具	野又紹	にぶい	苦烟石			
404 須恵器 漿 焼土 1 Di3・El3Gr Pox	401	ARAZKOO .	胴部		IV				付」ロンノエ	痕	王树	黄褐色	贝彻口			
404 類態 廃土 1 Di3・E13Gr Va Va 格子目タタキ ナデ 精良 灰色 灰色 粒を少量含む 405 土師器 口縁部 人名 口縁部 (異色土器) A 2 口縁部 (原土 5)			Spir	A 2										2 mm以下の灰白色粉・1 mm以下の里色		
405 上師器 布痕土器 口縁部 口縁部 (大化) A 2 以上 (大化) 大デ 布目痕 良好 橙色 橙色 橙色 色光沢粒をわずかに含む 6 m以下の明褐灰色・橙色粒を多、黒色光沢粒をわずかに含む 406 土師器 (黒色土器) 日縁部 (大成) 8 l (大成) 4 l (大成) 5 l (大成)	404	須恵器			V a				格子目タタキ	ナデ	精良	灰色	灰色			
405 土師器 口縁部 へ体部 A 2 検土 5 マー・ 大デ キデ 布目痕 良好 橙色 橙色 橙色 個色 光沢粒をわずかに含む 406 土師器 (黒色土器) 口縁部 (黒色土器) B 1 SZ1 マー 13.4 6.7 6.1 回転ナデ (新向のヘラミガ 良好 上 7) 方向のヘラミガ 良好 上 7 方向のヘラミガ 良好 上 7 方向のペラミガ 良好 大 7 方向のペラミガ と含む 本 7 方向のペラミガ と含む 本 7 方向のペラミガ 良好 大 7 方向のペラミガ と含む 本 7 方向のペラミガ と含む 本 7 方向のペラミガ と含む 本 7 方向のペラミガ と含む 本 7 方向に含む 7 方向に含む 7 方向に含む 7 方向に含む 7 方向に含む 7 方向に多り 7 方の後き 1 方向に多り 7 方向に多り 7 方向に多り 7 方の後き 7 方のと含む 7 方のに多り 7 方のと含む 7 方のと			布痕十器													
本の情報	405	土師器	口縁部		_				ナデ	布目痕	良好	橙色	橙色			
406 土飾器 (黒色出器) 口縁部 へ底部 B 1 SZ1 ー 13.4 6.7 6.1 回転ナデ 方向のヘラミガ 良好 橙色 黒色 色光沢粒をわずか、微細なガラス質粒 キ、ナデ を含む 407 土飾器 (黒色出器) 高台付塊 へ底部 B 1 SZ1 ー 13.7 6.6 6.3 回転ナデ 所も できる。 「回転ナデの後ま」 フェー・ファール・ファール・ファール・ファール・ファール・ファール・ファール・ファー					_					回転ナデの各世						
(黒色土器)	406	土師器		B 1	_	13.4	6.7	6.1	回転ナデ		良好	榕色	里色			
407 上卸器 高台付塊 [黒色土器] B 1 [口縁部 (工縁部 (工縁部 (工縁部 (工縁部 (工縁部 (工縁部 (工縁部 (工		(黒色土器)		SZ1							~~		,			
407 (黒色土器) 口縁部 へ底部 へ底部 SZ1 ー 13.7 6.6 6.3 回転ナデ ガキ ガキ 回転ナデの後ミ 408 土師器 (黒色土器) 日縁部 SZ1 ー 13.0 6.7 6.3 回転ナデ ガキ、ミガキ後 良好 橙色 黒色 ずかに含む がに含む がに黒化		十師器	高台付埦	B 1												
408 上師器 日経常 B 1 日経常 日本	407				-	13.7	6.6	6.3	回転ナデ		良好	橙色	黒色	微細な褐色・褐灰色粒をわずかに含む		
注脚器 上脚器 上脚器 日1 一口縁部 一口 一口 一口 一口 一口 一口 一口 一										回転ナデの後ろ						
(黒色土器) SZ1 がに含む 的に黒化	408				_	13.0	6.7	6.3	回転ナデ		良好	橙色	黒色			
		(黒巴土器)	~底部	SZ1						ナデ				9 かに古び	的に無	#1Ľ

第22表 古代土師器観察表4

番号	種別	器 種	出土	層位		法量 (cm			・文様ほか	焼成	色	調	胎土の特徴	備	考
	作生 万円	部 位	地点	店匹	口径	底部	器高	外 面	内 面	NEAK.	外面	内 面	加工の投放	VHI	75
	1-66688	高台付埦	B 1						ロモナゴの後こ				1 == 以下の匠白色、視匠色、明視色数	hl asi ·	如公
409	土師器	口縁部	SZ1		13.2	6.9	6.3	回転ナデ	回転ナデの後ミ	良好	橙色	黒色	1 mm以下の灰白色・褐灰色・明褐色粒	外面:	
	(黒色土器)	~底部	U3Gr	V a					ガキ、ナデ?				をわずかに含む	的に黒	ML.
		- 소스니바											4 mm以下の軟質赤色粒をわずか、ごく		
	土師器	高台付埦	B 1					回転ナデ、ナデ、	回転ナデの後横・			黒褐色	微細な透明光沢粒、2mm以下の黒褐色・		
410	(黒色土器)	口縁部	SZ1	_	12.98	6.7	6.2	ヘラ切り後ナデ	斜方向のミガキ	良好	橙色	灰黄色	褐灰色・軟質赤色・透明光沢、1 mm以		
	(300 - 12 - 10 1)	~底部	521					12 91 2 127 7	94/31/49 C /4 1			MML	下の黒褐光沢粒を含む		
		古石仕屋	B 1									盐			
	土師器	高台付埦		_				回転ナデ、ナデ、	回転ナデの後横、		un de la	黄	ごく微細な透明光沢粒、3mm以下の		
411	(黒色土器)	口縁部	SZ1	V a	13.23	6.65	6.23	ヘラ切り後ナデ	斜方向のミガキ	良好	明黄褐	にぶい	黒褐、灰黄、軟質赤色粒子、褐灰の粒		
	(2002)	~底部	U3Gr									黄 橙	を含む。		
	土師器	高台付埦	B 1	_	推定			回転ナデ、ナデ、	回転ナデの後横、		にぶい		1 mm 以下の軟質赤色粒子、黒褐色粒		
412		口縁部	SZ1	17 -		7.0	6.0	ヘラ切りの後ナ		良好		黒			
	(黒色土器)	~底部	U3Gr	v a	13.25			デ	縦方向のミガキ		黄 橙		を少量含む。		
	Literan	高台付埦				UI -t-	111		回転ナデの後横		にぶい	にぶい	Mariant with later to		
413	土師器	口縁部	B 1	_	13.5	推定		回転ナデ	方向のヘラミガ	良好	黄橙色	黄橙色	微細な褐灰色・灰白色・褐色粒を少量		
	(黒色土器)	~底部	SZ1			6.9	6.1	ナデ	キ、ナデ	200	橙色	黒色	含む		
		高台付埦							横方向のヘラミ	-	152 🗀	黒色			
414	土師器		B 1		10.75					± 47	478. £z.		郷畑を知る。 圧白な些なとずかに合わ		
414	(黒色土器)	口縁部	SZ1	_	13.75			回転ナデ	ガキ、ミガキの	良好	橙色	にぶい	微細な褐色・灰白色粒をわずかに含む		
		~体部							後ナデ			黄橙色			
	土師器	高台付埦	B 1						斜、横方向のへ			黒色	微細な褐灰色・灰白色・褐色粒を少量		
415	(黒色土器)	口縁部	SZ1	_	12.75			回転ナデ	ラミガキ	良好	橙色	にぶい	含む		
	(州口上部)	~体部	JL I						/ NT			黄橙色			
	L Arenn	高台付埦							横方向のヘラミ			黒色	Month that proteins the		
416	土師器	口縁部	B 1	_	13.0			回転ナデ	ガキ、工具ナデ	良好	明黄褐色	にぶい	微細な赤褐色・灰白色・褐灰色粒を少量、		
	(黒色土器)	~体部	SZ1						の後ナデ			黄橙色	高師小僧を含む		
		高台付埦							50077			94124	ごく微細な透明光沢粒・1 mm以下の淡		
117	土師器		B 1		1260			同転子ご	回転ナデの後横・	白松	阳基铜色	田石			
417	(黒色土器)	口縁部	SZ1	_	13.68			回転ナデ	斜方向のミガキ	良好	明黄褐色	黒色	黄色・黒褐色・軟質赤色、浅黄褐灰色		
		~体部											粒を含む		
	土師器	高台付埦	B 1						回転ナデの後横・				ごく微細な透明光沢粒・2㎜以下の黒		
418	(黒色土器)	口縁部	SZ1	_	14.15			回転ナデ	斜方向のミガキ	良好	明黄褐色	黒色	褐色・灰白色・軟質赤色粒・淡黄色粒、		
	(~体部	32.1						料力回のミカヤ				高師小僧を含む		
	L Arenn	高台付埦							W-1-1-0		las Ar		Milante Lieft Inc. Land Control (1971)		
419	土師器	口縁部	B 1	_	13.25			回転ナデ	横方向のヘラミ	良好	橙色	黒褐色	微細な赤褐色・褐灰白色粒をわずかに		
	(黒色土器)	~体部	SZ1						ガキ、ミガキ	200	明黄褐色	, <u>_</u>	含む		
		高台付埦													
400	土師器		B 1		1005			m#= 1. =*	横方向のヘラミ	良好	橙色	田知力	微細な赤褐色・灰白、褐灰色粒を少量		
420	(黒色土器)	口縁部	SZ1	_	13.35			回転ナデ	ガキ、ミガキ		明黄褐色	黒褐色	含む		
		~体部													
	土師器	高台付埦	B 1						回転ナデの後横・	良好	にぶい		2 mm以下の軟質赤色・黒褐色・淡い灰		
421	(黒色土器)	口縁部	SZ1	_	13.7		4.9	回転ナデ	斜方向のミガキ	200	黄橙色	黒色	白色粒を少量含む		
	(#KLT-00)	~体部	JLI						ががいいっく		MITC		口に極心ク重日も		
	1.62388	高台付埦	B 1						ロボナゴの外供	±7			2		
422	土師器	口縁部	SZ1		13.65		5.1	回転ナデ	回転ナデの後横・	良好	橙色	黒色	2 mm以下の軟質赤色・灰白色・黒褐色		
	(黒色土器)	~体部	U3Gr	IV					斜方向のミガキ				粒を含む		
		高台付埦	B 1										ごく微細な透明光沢粒、1 mm以下の軟		
423	土師器	口縁部	SZ1	_	13.4			回転ナデ	回転ナデの後横・	良好	にぶい	黒色	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒を		
120	(黒色土器)	~体部	U3Gr	V a	10.1			EHA//	斜方向のミガキ		黄橙色	L	含む		
		高台付埦											ごく微細な透明光沢粒、1mm以下の軟		
	L forms	回口口りが										用名			
424	土師器	一つもまかけ	B 1 · 2	_	推定				回転ナデの後横・	良好	478.tz.	黒色			
424	土 助器 (黒色土器)	口縁部	SZ1		推定 16.7			回転ナデ	回転ナデの後横・ 斜方向のミガキ	良好	橙色	にぶい	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・		
424		~体部	SZ1 W4Gr					回転ナデ		良好	橙色		質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・ 淡黄色粒を含む		
424			SZ1	V a	16.7				斜方向のミガキ		橙色	にぶい	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・		
		~体部	SZ1 W4Gr	V a	16.7			ヨコナデ	斜方向のミガキ ヨコナデ	良好良好	橙色橙色	にぶい	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・ 淡黄色粒を含む		
	(黒色土器)	~体部 甕	SZ1 W4Gr B 1	V a	16.7				斜方向のミガキ			にぶい 黄橙色	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・ 淡黄色粒を含む 2 mm以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・		
	(黒色土器)	~体部 甕 口縁部	SZ1 W4Gr B 1 SZ1 U4Gr	V a	16.7 推定 26.9			ヨコナデ 平行タタキ	斜方向のミガキ ヨコナデ			にぶい 黄橙色	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・ 淡黄色粒を含む 2mm以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・ 黒褐色光沢・淡い灰白色・赤褐色粒を 多く含む		
425	(黒色土器) 土師器	~体部 甕 □縁部 ~胴部 杯	SZ1 W4Gr B 1 SZ1	V a	16.7 推定 26.9 推定	7.05	4.7	ヨコナデ 平行タタキ 回転ナデ	斜方向のミガキ ヨコナデ 斜方向のケズリ	良好	橙色	にぶい 黄橙色 橙色	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・淡黄色粒を含む 2mm以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・黒褐色光沢・淡い灰白色・赤褐色粒を多く含む 3mm以下の灰白色・暗褐色・褐灰色・		
425	(黒色土器)	~体部赛□縁部~胴部杯□縁部	SZ1 W4Gr B 1 SZ1 U4Gr	V a	16.7 推定 26.9	7.05	4.7	ヨコナデ 平行タタキ	斜方向のミガキ ヨコナデ			にぶい 黄橙色	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・ 淡黄色粒を含む 2mm以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・ 黒褐色光沢・淡い灰白色・赤褐色粒を 多く含む		
424 425 426	(黒色土器) 土師器	~体部费□縁部~胴部杯□縁部~底部	SZ1 W4Gr B 1 SZ1 U4Gr	V a	16.7 推定 26.9 推定	7.05	4.7	ヨコナデ 平行タタキ 回転ナデ	斜方向のミガキ ヨコナデ 斜方向のケズリ	良好	橙色	にぶい 黄橙色 橙色	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・淡黄色粒を含む 2mm以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・黒褐色光沢・淡い灰白色・赤褐色粒を多く含む 3mm以下の灰白色・暗褐色・褐灰色・		
425 426	(黒色土器) 土師器 土師器	~体部 费 口縁部 ~胴部 杯 二條部 不 K	SZ1 W4Gr B 1 SZ1 U4Gr	V a V a V a	16.7 推定 26.9 推定			ヨコナデ 平行タタキ 回転ナデ	斜方向のミガキ ヨコナデ 斜方向のケズリ 回転ナデ	良好良好	橙色	にぶい 黄橙色 橙色	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・淡黄色粒を含む 2mm以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・黒褐色光沢・淡い灰白色・赤褐色粒を多く含む 3mm以下の灰白色・暗褐色・褐灰色・		
425 426	(黒色土器) 土師器	~体部 觀 口線 下級 不 一條 不 工 不 工 不 工 不 工 不 工 不 工	SZ1 W4Gr B 1 SZ1 U4Gr A 2 B15Gr	V a	16.7 推定 26.9 推定 12.2	7.05	4.7	ヨコナデ 平行タタキ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ	斜方向のミガキ ヨコナデ 斜方向のケズリ	良好	橙色 浅黄橙色 浅黄橙色	にぶい 黄橙色 橙色 浅黄橙色	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・淡黄色粒を含む 2 m以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・黒褐色・黒褐色光沢・淡い灰白色・赤褐色粒を多く含む 3 m以下の灰白色・暗褐色・褐灰色・黒色光沢粒・透明光沢粒を多く含む 2 m以下の褐灰色・灰白色・黒褐色・		
425 426	(黒色土器) 土師器 土師器	~体部 選 口線部 ~胴杯 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	SZ1 W4Gr B 1 SZ1 U4Gr A 2 B15Gr	V a V a V a	16.7 推定 26.9 推定 12.2			ヨコナデ 平行タタキ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ	斜方向のミガキ ヨコナデ 斜方向のケズリ 回転ナデ	良好良好	橙色 浅黄橙色	にぶい 黄橙色 橙色 浅黄橙色	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・淡黄色粒を含む 2 m以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・黒褐色・黒褐色光沢・淡い灰白色・赤褐色粒を多く含む 3 m以下の灰白色・暗褐色・褐灰色・黒色光沢粒・透明光沢粒を多く含む		
425 426	(黒色土器) 土師器 土師器	~体部 觀 口線 下級 不 一條 不 工 不 工 不 工 不 工 不 工 不 工	SZ1 W4Gr B 1 SZ1 U4Gr A 2 B15Gr A 2 D13Gr	V a V a V a	16.7 推定 26.9 推定 12.2 推定 12.75	6.8		ヨコナデ 平行タタキ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ	斜方向のミガキ ヨコナデ 斜方向のケズリ 回転ナデ	良好良好	橙色 浅黄橙色 浅黄橙色	にぶい 黄橙色 橙色 浅黄橙色 にぶい 橙	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・淡黄色粒を含む 2 m以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・黒褐色・黒褐色光沢・淡い灰白色・赤褐色粒を多く含む 3 m以下の灰白色・暗褐色・褐灰色・黒色光沢粒・透明光沢粒を多く含む 2 m以下の褐灰色・灰白色・黒褐色・軟質赤色粒を含む		
425 426 427	(黒色土器) 土師器 土師器	~体部 選 口線部 ~胴杯 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	SZ1 W4Gr B 1 SZ1 U4Gr A 2 B15Gr A 2 D13Gr	V a V a V a	16.7 推定 26.9 推定 12.2 推定 12.75	6.8		ココナデ 平行タタキ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ 回転ナデ	斜方向のミガキ ヨコナデ 斜方向のケズリ 回転ナデ	良好良好	橙色 浅黄橙色 浅黄橙色	にぶい 黄橙色 橙色 浅黄橙色 にぶい 橙 色	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・淡黄色粒を含む 2 m以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・黒褐色・黒褐色光沢・淡い灰白色・赤褐色粒を多く含む 3 m以下の灰白色・暗褐色・褐灰色・黒色光沢粒・透明光沢粒を多く含む 2 m以下の褐灰色・灰白色・黒褐色・軟質赤色粒を含む 2 m以下の褐灰色粒、微細な透明光沢		
425 426 427	(黒色土器) 土師器 土師器	~体部 喪 口縁 下 ~ 下 ~ K ~ K ~ K ~ K C K C K C K C K C	SZ1 W4Gr B 1 SZ1 U4Gr A 2 B15Gr A 2 D13Gr	V a V a V a	16.7 推定 26.9 推定 12.2 推定 12.75	6.8	5.0	ヨコナデ 平行タタキ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ	斜方向のミガキ ヨコナデ 斜方向のケズリ 回転ナデ 回転ナデ	良好良好	橙色 浅黄橙色 浅黄橙色 褐灰色	にぶい 黄橙色 橙色 浅黄橙色 にぶい 橙 色	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・淡黄色粒を含む 2 m以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・黒褐色・黒褐色光沢・淡い灰白色・赤褐色粒を多く含む 3 m以下の灰白色・暗褐色・褐灰色・黒色光沢粒・透明光沢粒を多く含む 2 m以下の褐灰色・灰白色・黒褐色・軟質赤色粒を含む		
425 426 427	(黒色土器) 土師器 土師器	~体部 型 部部 杯 部 部 杯 标 部 部 杯 标 部 部 杯 杯 和 服 杯 和 服 杯 和 服 杯 和 服 杯 和 服 杯 和 服 杯 和 和 和 和	SZ1 W4Gr B 1 SZ1 U4Gr A 2 B15Gr A 2 D13Gr A 2	V a V a V a	16.7 推定 26.9 推定 12.2 推定 12.75 推定 11.9	6.8	5.0	ヨコナデ 平行タタキ回転ナデ ヘラ切り後ナデ回転ナデ ヘラ切り後ナデロ転ナデ ヘラ切り後ナデ一回転ナデ ヘラ切り後ナデ	斜方向のミガキ ヨコナデ 斜方向のケズリ 回転ナデ 回転ナデ	良好良好	橙色 浅黄橙色 浅黄橙色 褐灰色	にぶい 黄橙色 橙色 浅黄橙色 にぶい 橙 色	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・淡黄色粒を含む 2 m以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・黒褐色・黒褐色光沢・淡い灰白色・赤褐色粒を多く含む 3 m以下の灰白色・暗褐色・褐灰色・黒色光沢粒・透明光沢粒を多く含む 2 m以下の褐灰色・灰白色・黒褐色・軟質赤色粒を含む 2 m以下の褐灰色粒、微細な透明光沢		
425 426 427 428	(黑色土器)土師器土師器土師器土師器	~体部 類 □ 縁 部 部 杯 □ 縁 底 杯 部 部 部 不 縁 底 杯 □ 縁 底 杯 □ 森 底 杯 □ 森 底 杯 杯 □ 森 底 杯	SZ1 W4Gr B 1 SZ1 U4Gr A 2 B15Gr A 2 D13Gr	V a V a V a V a	16.7 推定 26.9 推定 12.2 推定 12.75 推定 11.9	6.8 推定 6.8	5.0	ヨコナデ 平行タタキ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ 回転ナデ	斜方向のミガキ ヨコナデ 斜方向のケズリ 回転ナデ 回転ナデ	良好良好良好	機色 浅黄橙色 褐灰色	にぶい 黄橙色 橙色 浅黄橙色 にぶい色 にぶい色	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・淡黄色粒を含む 2 m以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・黒褐色・黒褐色光沢・淡い灰白色・赤褐色粒を多く含む 3 m以下の灰白色・暗褐色・褐灰色・黒色光沢粒・透明光沢粒を多く含む 2 m以下の褐灰色・灰白色・黒褐色・軟質赤色粒を含む 2 m以下の褐灰色粒、微細な透明光沢粒をわずかに含む 3 m以下の赤褐色・褐灰色粒を多く、		
425 426 427 428	(黒色土器) 土師器 土師器	~体部 理縁部の 一体を 一体を 一体を 一体を 一体を 一体を 一体を 一体を 一体を 一体を	SZ1 W4Gr B 1 SZ1 U4Gr A 2 B15Gr A 2 D13Gr A 2	V a V a V a	16.7 推定 26.9 推定 12.2 推定 12.75 推定 11.9	6.8	5.0	ヨコナデ 平行タタキ回転ナデ ヘラ切り後ナデ回転ナデ ヘラ切り後ナデロ転ナデ ヘラ切り後ナデ一回転ナデ ヘラ切り後ナデ	斜方向のミガキ ヨコナデ 斜方向のケズリ 回転ナデ 回転ナデ	良好良好	橙色 浅黄橙色 浅黄橙色 褐灰色	にぶい 黄橙色 橙色 浅黄橙色 にぶい 橙 色	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・淡黄色粒を含む 2 m以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・黒褐色・黒褐色光沢・淡い灰白色・赤褐色粒を多く含む 3 m以下の灰白色・暗褐色・褐灰色・黒色光沢粒・透明光沢粒を多く含む 2 m以下の褐灰色・灰白色・黒褐色・軟質赤色粒を含む 2 m以下の褐灰色粒、微細な透明光沢粒をわずかに含む 3 m以下の赤褐色・褐灰色粒を多く、3 m以下の赤褐色・褐灰色粒を多く、3 m以下の白色粒をわずか、1 m以下		
425 426 427 428	(黑色土器)土師器土師器土師器土師器	体部機部一体要一体要一体要一体一体一体一体一体一体一体一体一体一体一体一体一体一体一体一体一体一体一体一体中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域<l>中域中域中域中域中域中域<l< td=""><td>SZ1 W4Gr B 1 SZ1 U4Gr A 2 B15Gr A 2 D13Gr A 2 D11·12Gr</td><td>V a V a V a V a</td><td>16.7 推定 26.9 推定 12.2 推定 12.75 推定 11.9</td><td>6.8 推定 6.8</td><td>5.0</td><td>ヨコナデ 平行タタキ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ 回転ナデ</td><td>斜方向のミガキ ヨコナデ 斜方向のケズリ 回転ナデ 回転ナデ</td><td>良好良好良好</td><td>機色 浅黄橙色 褐灰色</td><td>にぶい 黄橙色 橙色 浅黄橙色 にぶい色 にぶい色</td><td>質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・淡黄色粒を含む 2 m以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・黒褐色・黒褐色光沢・淡い灰白色・希褐色粒を多く含む 3 m以下の灰白色・暗褐色・褐灰色・黒色光沢粒・透明光沢粒を多く含む 2 m以下の褐灰色・灰白色・黒褐色・軟質赤色粒を含む 2 m以下の褐灰色粒、微細な透明光沢粒をわずかに含む 3 m以下の赤褐色・褐灰色粒を多く、3 m以下の赤褐色・褐灰色粒をわずか、1 m以下の透明色・黒褐色粒を多く含む</td><td></td><td></td></l<></l>	SZ1 W4Gr B 1 SZ1 U4Gr A 2 B15Gr A 2 D13Gr A 2 D11·12Gr	V a V a V a V a	16.7 推定 26.9 推定 12.2 推定 12.75 推定 11.9	6.8 推定 6.8	5.0	ヨコナデ 平行タタキ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ 回転ナデ	斜方向のミガキ ヨコナデ 斜方向のケズリ 回転ナデ 回転ナデ	良好良好良好	機色 浅黄橙色 褐灰色	にぶい 黄橙色 橙色 浅黄橙色 にぶい色 にぶい色	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・淡黄色粒を含む 2 m以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・黒褐色・黒褐色光沢・淡い灰白色・希褐色粒を多く含む 3 m以下の灰白色・暗褐色・褐灰色・黒色光沢粒・透明光沢粒を多く含む 2 m以下の褐灰色・灰白色・黒褐色・軟質赤色粒を含む 2 m以下の褐灰色粒、微細な透明光沢粒をわずかに含む 3 m以下の赤褐色・褐灰色粒を多く、3 m以下の赤褐色・褐灰色粒をわずか、1 m以下の透明色・黒褐色粒を多く含む		
425 426 427 428 429	(黑色土器) 土師器 土師器 土師器 土師器	~体部 型縁部部 不縁底杯 一体を 不縁底杯 一体を 不縁底杯 一体を 不縁底杯 一体を 不縁底杯 一体を 不縁を 不縁を 不縁を 不縁を 不縁を 不縁を 不縁を 不縁	SZ1 W4Gr B 1 SZ1 U4Gr A 2 B15Gr A 2 D13Gr A 2 D11 · 12Gr	Va Va Va Va	16.7 推定 26.9 推定 12.2 推定 12.75 推定 11.9	6.8 推定 6.8	5.0	ヨコナデ 平行タタキ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ	斜方向のミガキ ヨコナデ 斜方向のケズリ 回転ナデ 回転ナデ	良好 良好 良好	橙色 浅黄橙色 浅黄橙色 褐灰色 橙色	にぶい 黄橙色 浅黄橙色 になん をいい をしたが をしが をしたが をしが	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・淡黄色粒を含む 2 m以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・黒褐色・黒褐色光沢・淡い灰白色・森褐色粒を多く含む 3 m以下の灰白色・暗褐色・褐灰色・黒色光沢粒・透明光沢粒を多く含む 2 m以下の褐灰色・灰白色・黒褐色・軟質赤色粒を含む 2 m以下の褐灰色粒、微細な透明光沢粒をわずかに含む 3 m以下の赤褐色・褐灰色粒を多く、3 m以下の赤褐色・褐灰色粒をおずか、1 m以下の透明色・黒褐色粒を多く含む 3 m以下の褐灰色・灰黄褐色・にぶい		
425 426 427 428 429	(黑色土器)土師器土師器土師器土師器	体部機部一体要一体要一体要一体一体一体一体一体一体一体一体一体一体一体一体一体一体一体一体一体一体一体一体中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域中域<l>中域中域中域中域中域中域<l< td=""><td>SZ1 W4Gr B 1 SZ1 U4Gr A 2 B15Gr A 2 D13Gr A 2 D11 · 12Gr A 2 B15Gr</td><td>V a V a V a V a</td><td>16.7 推定 26.9 推定 12.2 推定 12.75 推定 11.9</td><td>6.8 推定 6.8 6.8</td><td>5.0</td><td>ヨコナデ 平行タタキ 回転ナデ へラ切り後ナデ 回転ナデ へラ切り後ナデ 回転ナデ へラ切り後ナデ 回転ナデ へラ切り後ナデ 回転ナデ で見りをナデ 回転ナデ</td><td>斜方向のミガキ ヨコナデ 斜方向のケズリ 回転ナデ 回転ナデ</td><td>良好良好良好</td><td>機色 浅黄橙色 褐灰色</td><td>にぶい 黄橙色 浅黄橙色 にぶい 橙色 にぶい 橙色 にぶい 橙色 にぶか 橙色 にぶか 色 にが 色 にが の の の の の の の の の の の の の</td><td>質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・淡黄色粒を含む 2 m以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・黒褐色・黒褐色光沢・淡い灰白色・希褐色粒を多く含む 3 m以下の灰白色・暗褐色・褐灰色・黒色光沢粒・透明光沢粒を多く含む 2 m以下の褐灰色・灰白色・黒褐色・軟質赤色粒を含む 2 m以下の褐灰色粒、微細な透明光沢粒をわずかに含む 3 m以下の赤褐色・褐灰色粒を多く、3 m以下の赤褐色・褐灰色粒をわずか、1 m以下の透明色・黒褐色粒を多く含む</td><td></td><td></td></l<></l>	SZ1 W4Gr B 1 SZ1 U4Gr A 2 B15Gr A 2 D13Gr A 2 D11 · 12Gr A 2 B15Gr	V a V a V a V a	16.7 推定 26.9 推定 12.2 推定 12.75 推定 11.9	6.8 推定 6.8 6.8	5.0	ヨコナデ 平行タタキ 回転ナデ へラ切り後ナデ 回転ナデ へラ切り後ナデ 回転ナデ へラ切り後ナデ 回転ナデ へラ切り後ナデ 回転ナデ で見りをナデ 回転ナデ	斜方向のミガキ ヨコナデ 斜方向のケズリ 回転ナデ 回転ナデ	良好良好良好	機色 浅黄橙色 褐灰色	にぶい 黄橙色 浅黄橙色 にぶい 橙色 にぶい 橙色 にぶい 橙色 にぶか 橙色 にぶか 色 にが 色 にが の の の の の の の の の の の の の	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・淡黄色粒を含む 2 m以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・黒褐色・黒褐色光沢・淡い灰白色・希褐色粒を多く含む 3 m以下の灰白色・暗褐色・褐灰色・黒色光沢粒・透明光沢粒を多く含む 2 m以下の褐灰色・灰白色・黒褐色・軟質赤色粒を含む 2 m以下の褐灰色粒、微細な透明光沢粒をわずかに含む 3 m以下の赤褐色・褐灰色粒を多く、3 m以下の赤褐色・褐灰色粒をわずか、1 m以下の透明色・黒褐色粒を多く含む		
425	(黑色土器) 土師器 土師器 土師器 土師器	~体部 型縁部部 不縁底杯 一体を 不縁底杯 一体を 不縁底杯 一体を 不縁底杯 一体を 不縁底杯 一体を 不縁を 不縁を 不縁を 不縁を 不縁を 不縁を 不縁を 不縁	SZ1 W4Gr B 1 SZ1 U4Gr A 2 B15Gr A 2 D13Gr A 2 D11 · 12Gr	Va Va Va Va	16.7 推定 26.9 推定 12.2 推定 12.75 推定 11.9	6.8 推定 6.8	5.0	ヨコナデ 平行タタキ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ	斜方向のミガキ ヨコナデ 斜方向のケズリ 回転ナデ 回転ナデ	良好 良好 良好	橙色 浅黄橙色 浅黄橙色 褐灰色 橙色	にぶい 黄橙色 浅黄橙色 になん をいい をしたが をしが をしたが をしが	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・淡黄色粒を含む 2 m以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・黒褐色・黒褐色光沢・淡い灰白色・森褐色粒を多く含む 3 m以下の灰白色・暗褐色・褐灰色・黒色光沢粒・透明光沢粒を多く含む 2 m以下の褐灰色・灰白色・黒褐色・軟質赤色粒を含む 2 m以下の褐灰色粒、微細な透明光沢粒をわずかに含む 3 m以下の赤褐色・褐灰色粒を多く、3 m以下の赤褐色・褐灰色粒をおずか、1 m以下の透明色・黒褐色粒を多く含む 3 m以下の褐灰色・灰黄褐色・にぶい		
425 426 427 428 429	(黑色土器) 土師器 土師器 土師器 土師器	体部機部機線部部杯縁底杯一次本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底本線底	SZ1 W4Gr B 1 SZ1 U4Gr A 2 B15Gr A 2 D13Gr A 2 D11·12Gr A 2 B15Gr A 2	Va Va Va Va	16.7 推定 26.9 推定 12.2 推定 12.75 推定 11.9 推定	6.8 推定 6.8 6.8	5.0	ココナデ 平行タタキ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ 回転ナデ ヘラ切り後ナデ	斜方向のミガキ ヨコナデ 斜方向のケズリ 回転ナデ 回転ナデ	良好 良好 良好	橙色 浅黄橙色 浅黄橙色 褐灰色 橙色	にぶい 黄橙色 浅黄橙色 にぶい 橙色 にぶい 橙色 にぶい 橙色 にぶか 橙色 にぶか 色 にが 色 にが の の の の の の の の の の の の の	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・淡黄色粒を含む 2 m以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・黒褐色・黒褐色光沢・淡い灰白色・赤褐色粒を多く含む 3 m以下の灰白色・暗褐色・褐灰色・黒色光沢粒・透明光沢粒を多く含む 2 m以下の褐灰色・灰白色・黒褐色・軟質赤色粒を含む 2 m以下の褐灰色粒、微細な透明光沢粒をわずかに含む 3 m以下の赤褐色・褐灰色粒を多く、3 m以下の赤褐色・褐灰色粒を含む 3 m以下の高いたの透明色・黒褐色粒を多く含む 3 m以下の褐灰色、灰黄褐色・にぶい黄橙色・にぶい褐色・黒褐色光沢・透明光沢粒を含む		
425 426 427 428 429	(黑色土器) 土師器 土師器 土師器 土師器	〜体票 部部 不縁底杯 部部 でいる 本線 原本 の でいる でいる でいま	SZ1 W4Gr B 1 SZ1 U4Gr A 2 B15Gr A 2 D13Gr A 2 D11 · 12Gr A 2 B15Gr	Va Va Va Va	16.7 推定 26.9 推定 12.2 推定 12.75 推定 11.9	6.8 推定 6.8 6.8	5.0	ヨコナデ 平行タタキ 回転ナデ へラ切り後ナデ 回転ナデ へラ切り後ナデ 回転ナデ へラ切り後ナデ 回転ナデ へラ切り後ナデ 回転ナデ で見りをナデ 回転ナデ	斜方向のミガキ ヨコナデ 斜方向のケズリ 回転ナデ 回転ナデ	良好 良好 良好	橙色 浅黄橙色 浅黄橙色 褐灰色 橙色	にぶい 黄橙色 浅黄橙色 にぶい 橙色 にぶい 橙色 にぶい 橙色 にぶか 橙色 にぶか 色 にが 色 にが の の の の の の の の の の の の の	質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒・淡黄色粒を含む 2㎜以下の灰白色・褐灰色・黒褐色・黒褐色・黒褐色光沢・淡い灰白色・赤褐色粒を多く含む 3㎜以下の灰白色・暗褐色・褐灰色・黒色光沢粒・透明光沢粒を多く含む 2㎜以下の褐灰色・灰白色・黒褐色・軟質赤色粒を含む 2㎜以下の褐灰色粒、微細な透明光沢粒をわずかに含む 3㎜以下の赤褐色・褐灰色粒を多く、3㎜以下の赤褐色・褐灰色粒を含む 3㎜以下の赤褐色・褐灰色粒を多く、3㎜以下の透明色・黒褐色粒を多く含む 3㎜以下の褐灰色・灰黄褐色・にぶい黄橙色・にぶい褐色・黒褐色光沢・透		

第23表 古代土師器観察表5

遺物	種別	器 種	出土	層位	治	法量 (cm)	手法・調整	ě・文様ほか	焼成	色	調		備	考
番号	性 別	部 位	地点	眉亚	口径	底部	器高	外 面	内 面	が加入	外 面	内 面		1/18	-5
432	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 2 B15Gr	V a	推定 12.1	推定 6.25		回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	浅黄橙色	黄橙色	2 mm以下の褐灰色・灰白色・軟質赤色 粒を少量、黒色光沢・透明光沢粒を多 く含む		
433	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 2 E12Gr	V a 上	推定 11.5	推定 6.5	5.1	回転ナデ後ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデの後ナ デ	良好	橙色 にぶい 黄橙色	橙色	微細な赤褐色・褐灰色粒をわずか、2 mm大の褐灰礫をごくわずかに含む		
434	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 2 D13Gr	V a	推定 10.88	推定 6.8	4.41	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	4 mm以下のにぶい橙色・黒褐色光沢・ 軟質赤色粒・橙色・褐灰色粒・にぶい 赤褐色・透明光沢・淡黄色粒を含む		
435	土師器	杯 口縁部 ~底部	B 1 • 2 S4 • T3Gr	V a	推定 11.8	5.6	4.0	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	黄橙色	橙色	2 mm以下の灰白色・褐灰色粒を多く、 微細な透明光沢粒を少量含む		
436	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 2 B15 • D14 E14 • 15Gr		推定 11.85	5.55	4.1	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	橙色	橙色	2 mm以下の軟質赤色粒をわずか、1 mm 以下の黒褐色・淡い灰白色粒を含む	外面:	墨書
437	土師器	坏 体部~底部	A 3 E10Gr	V a		6.6		回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	橙色	橙色	微細な褐色・褐灰色・光沢粒を多く含む		
438	土師器	坏 体部~底部	A 2 B15Gr	V a		5.2		回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	浅黄橙色	橙色	1 mm程度の褐灰色粒をわずか、微細な 赤褐色・褐灰色粒を少量含む		
439	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 2 B15Gr	V a	11.15	6.4	4.0	回転ナデ後斜方 向の工具ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	ごく微細な透明光沢粒・3 m以下の軟質赤色粒・黒褐色・灰白色粒、2 m以下の黒褐色光沢・褐灰色粒を含む		
440	土師器	坏 体部~底部	A 2 E12Gr	V a		6.6	2.4	回転ナデ へラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	黄橙色	橙色	1 m以下の透明光沢粒を少量、軟質赤色粒をわずかに含む		
441	土師器	坏 体部~底部	A 2 B15Gr	V a		6.1		回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	2 mm以下の暗赤褐色・黒褐色・軟質赤色粒を少量含む		
442	土師器	坏 体部~底部	A 3 I10Gr	IV		6.6		回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	浅黄橙色 にぶい 橙 色	浅黄橙色	微細な赤褐色・褐灰色粒をわずかに含む		
443	土師器	坏 体部~底部	A 2 C15Gr	V a		6.1		回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	にぶい 橙 色	浅黄橙色	2 mm以下の黒褐色・にぶい赤褐色・灰 褐色・黒褐光沢色・灰白色粒・軟質赤 色粒を含む		
444	土師器	坏 体部~底部	A 2 D12Gr	V a		推定 7.2		回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	褐灰色	灰黄褐色	微細な褐灰色粒をわずかに含む		
445	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 3 E10Gr	V a	推定 11.0	推定 5.8	4.8	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	1 mm以下の褐灰色・明褐色粒、微細な 透明光沢粒を含む		
446	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 3 I11Gr	V a	推定 12.2	推定 4.8	4.2	回転ナデ、一部 斜方向のナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	微細な褐灰色・灰白色粒を少量含む		
447	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 2 C14Gr	V a	推定 12.4	推定 6.2	4.4	回転ナデヘラ切り	回転ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	4 mmの褐灰色粒をわずか、微細な透明 光沢粒、2 mm以下の軟質赤色・黒褐色 光沢・褐灰色・灰白色粒を含む		
448	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 2 B15Gr SC4	V a —	推定 12.6	推定 5.8	4.7	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	橙色	橙色	3 mm以下の赤褐色・灰白色粒をごくわずか、1 mm以下の赤褐色・黒褐色・褐灰色粒をわずかに含む		
449	土師器	杯 口縁部 ~底部	B 1 T4Gr	IV	推定 11.8	推定 5.8	5.0	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ 回転ナデ後ナデ	良好	にぶい橙 色	浅黄橙色	1 mm以下の灰白色・褐灰色・褐色・褐 灰色粒をわずかに含む		
450	土師器	杯 口縁部 ~底部	B 2 U2 • T4Gr	V a	推定 12.0	5.9		回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	1 mm以下の明褐色・灰白色粒を多く含み、褐灰色・明褐色粒、微細な透明光 沢粒を含む		
451	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 2 B16Gr	V a	推定 12.4	推定 6.2	4.7	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	にぶい 黄橙色 橙色	にぶい 黄橙色 橙色	1 mm以下の褐色・褐灰色粒をわずかに 含む		
452	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 2 C14Gr	V a	推定 12.2	6.1	5.0	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	橙色	浅黄橙色	1 mm以下の黒褐色・灰白色・明褐色粒を含む		
453	土師器	坏 体部~底部	A 2 D13Gr	V a		推定 6.1		回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	浅黄橙色	にぶい 黄橙色	微細な透明光沢粒が多く、1 mm以下の 赤褐色軟質粒をわずかに含む		
454	土師器	坏 体部~底部	A 2 E12Gr	V a			推定 6.1	回転ナデ後削り 状の調整、ヘラ 切り後粗いナデ	回転ナデ	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 橙 色	1 mm以下の灰白色・橙色・褐灰色・透明光沢粒を多く含む		
455	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 2 E15Gr	V a	推定 12.1	6.6	4.8	回転ナデヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	橙色	橙色	1 mm以下の黒褐色・褐灰色・灰白色粒 を含む		
456	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 2 B15Gr SC4	V a	13.0	7.2	5.1	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデの後ナ	良好	にぶい 橙 色	橙色	3 mm以下の灰白色・明褐色粒、1 mm以 下の褐灰色粒をわずか、2 mm以下の明 褐色・褐灰色・灰白色粒を含む		
457	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 3 H12Gr SC14	V a	推定 17.0	推定 7.6	5.7	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 橙 色	2 mm以下の褐灰色・黒色光沢粒・透明 光沢粒を少量含む		

第24表 古代土師器観察表6

遺物	種 別	器 種	出土	層位		量 (cm			・文様ほか	- 焼成	色	調	胎土の特徴	備	考
番号	111 // /	部 位	地点	/8122	口径	底部	器高	外 面	内 面	//L/A	外面	内 面		I/III	
458	土師器	坏 体部~底部	A 2 D14Gr	V a		推定 6.8		回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	にぶい 橙 色	にぶい 黄橙色	ごく微細な透明光沢粒、2 mm以下の黒 褐色・にぶい赤褐色・淡黄粒・褐灰色・ 淡黄色粒を含む		
459	土師器	坏 体部~底部	A 2 C12Gr	Va上		5.7		回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	浅黄橙色	橙色	ごく微細な透明光沢粒、3 mm以下の軟質赤色・黒褐色・灰白色粒を含む		
460	土師器	坏 体部~底部	A 2 C13 • D13Gr	V a		6.7	3.0	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	浅黄色	浅黄色	2 mm以下の軟質赤色粒をわずか、1 mm 以下の黒褐色・灰白色粒を含む		
461	土師器	坏 体部~底部	A 3 I11Gr	V a		推定 6.0		回転ナデ	回転ナデ	良好	橙色	浅黄橙色	2 mm以下の透明光沢粒を少量含む		
462	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 2 B15Gr SC4	-	推定 10.8	6.7	4.2	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	にぶい 黄橙色	橙色	2 mm以下の黒褐灰色・褐色・灰白色粒を多く含む黒色の光沢粒もわずかに含む		
463	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 2 D13Gr		推定 12.5	6.5	5.0	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	にぶい 橙 色	橙色	2 mm~1 mmの褐、褐灰色・白色不透明 粒を含む		
464	土師器	杯 口縁部 ~底部	B 1 S4 T3 • 4Gr	IV V a VI a	推定 12.35	6.8	5.0	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	橙色	橙色	1 mm以下の灰白色・橙色・黒褐色粒を わずかに含む		
465	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 2 D13Gr	V a	推定 13.9	推定 7.1		回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	橙色 にぶい 橙 色	橙色 浅黄橙色	1 mm以下の赤褐色・褐灰色粒を多く含む		
466	土師器	杯 口縁部 ~底部	B 1 T3 • 4Gr	V a	推定 12.5	推定 6.5	4.9	回転ナデ、ナデ、 ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	にぶい 橙 色	橙色	1 mm以下の褐灰色・灰白色粒をわずか に含む		
467	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 2 C14Gr	V a	推定 13.1	6.5	5.0	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	橙色	橙色	2 mm以下の灰白色・褐灰色・黒色光沢粒・ 軟質赤色粒を少量含む微細な透明光沢 粒を少量含む		
468	土師器	坏 体部~底部	A 2 C16Gr	V a		6.5		回転ナデ	回転ナデ	良好	橙色	橙色	ごく微細な透明光沢・淡黄色粒・2mm 以下の黒褐色・灰白色粒を含む		
469	土師器	坏 体部~底部	A 2 D11Gr	V a		推定 5.95		回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	浅黄色	浅黄色	ごく微細な透明光沢粒・2mm以下の軟質赤色粒・黒褐色光沢粒を含む		
470	土師器	杯 底部	A 2 B18Gr	V a		6.2		回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	浅黄色	浅黄色	微細な透明光沢粒をわずかに含む		
471	土師器	杯 底部	A 2 D12Gr	V a		4.4		回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	にぶい 黄橙色	浅黄橙色	2 mm以下の軟質赤色粒・微細な透明光 沢粒を少量含む		
472	土師器	杯 底部	A 2 B15Gr	V a		5.6	2.3	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	1 mm以下の褐灰色・黒褐色・灰白色粒・ 軟質赤色粒を含む		
473	土師器	杯底部	A 2 C16Gr	V a		6.2	2.6	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	1 mm以下の黒褐色粒を含む微細な透明 光沢粒を含む		
474	土師器	底部	A 2 C15Gr	V a		推定 6.2		回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	微細な褐灰色粒、1 mm以下の褐色・褐 灰色粒をわずかに含む		
475	土師器	杯 底部	A 2 C17Gr	V a		6.0		回転ナデ、面取 り、ヘラ切り	回転ナデ	良好	浅黄色	浅黄色	微細な灰白色・褐色粒をわずかに含む		
476	土師器	坏 体部~底部	A 2 D13Gr	V a		推定 8.2		回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	にぶい 黄 色	にぶい 黄橙色	3 mm以下の暗灰黄色・黒褐色光沢・に ぶい赤褐色・褐灰色粒、4 mm以下のに ぶい黄褐色・透明光沢粒を含む		
477	土師器	坏 体部~底部	A 2 D13Gr	V a		推定 7.4		回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	橙色	にぶい 黄橙色	2 mm~1 mmの明褐色・黒褐色粒をわずか、微細な透明光沢粒を含む		
478	土師器	底部	A 2 C14Gr	V a		推定 8.3		回転ナデ	回転ナデ	良好	浅黄橙色	橙色	3 mm以下の軟質赤色・褐灰色・透明光 沢粒を多く含む		
479	土師器	底部	B 1	V b		6.3		回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	明黄褐色	明黄褐色	2 m以下の軟質赤色粒、1 m以下の黒褐色・灰白色・褐灰色粒を含む	底部:	黒斑
480	土師器	杯 底部	B 1 U4Gr	V a		推定 5.8		回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデの後一部工具痕あり	良好	明褐色	明褐色	1 mm以下の黒色光沢粒・軟質赤色粒をわずか、微細な透明光沢粒を少量含む		
481	土師器	底部	B 2 S8Gr	V a		推定 7.3		回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデの後一 部工具痕あり	良好	橙色	橙色	1 ㎜以下の軟質赤色粒・微細な透明光 沢粒をわずかに含む		
482	土師器	杯 底部	A 2 Tr1			6.9		回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	橙色	橙色	1 ㎜以下の軟質赤色粒・灰白色・黒褐色粒を含む		
483	土師器	杯底部	B 1	V a		推定 6.6		回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	にぶい 黄橙色	橙色	6 mmのにぶい黄橙粒をごくわずか、 2 mm以下の褐灰色・褐色・橙色・黒褐色・ 透明光沢粒を多く含む	外面:	
484	土師器	坏 体部~底部	A 2 E14Gr	V a 上		推定 11.5		回転ナデナデ	回転ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	5 mm以下の軽石をごくわずか、微細な透明光沢粒を少量、2 mm以下の軟質赤色粒をわずかに含む		
485	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 3 H12Gr	IV	9. 5	5.05	2.7	回転ナデヘラ切り	回転ナデ	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	1 m以下の赤褐色・褐灰色・灰白色・透明粒をわずかに含む微細な褐灰色・ 灰白色粒を少量含む		
486	土師器	体部~底部	A 1 B19Gr	V a 上		推定 8.7		回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	1 m以下の透明光沢・黒褐色・灰白色 粒をわずかに含む		
487	土師器	杯 口縁部	A 2 D13Gr	V a	推定 10.7	推定 6.8	2.5	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	灰白色	灰黄色	2 mm以下の灰白色粒、微細な透明光沢 粒をわずかに含む		

第25表 古代土師器観察表7

遺物	種別	器 種	出土	層位		法量 (cm			・文様ほか	焼成	色	調	胎土の特徴	備	考
番号	作生 万寸	部 位	地点	眉匹	口径	底部	器高	外 面	内 面	NEAK	外 面	内 面	加工。列亞政	VHI	75
488	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 3 H12Gr	IV	推定 9.9	6.0	2.4	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	にぶい 黄橙色 橙色	橙色	1 mm以下の褐灰色・褐色粒を多く、 1 mm以下の透明光沢粒をわずかに含む		
489	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 3 層位横転 1	_	9.4	4.5	3.2	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	橙色	橙色	4 mm以下の赤褐色粒、1 mm以下の黒色・ 灰色粒を含む		
490	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 2 E14Gr	Va上 Va	7.0	4.1	2.7	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	浅黄橙色	橙色	2 mm以下の灰白色・黒褐色粒をわずか、 微細な透明光沢粒を少量含む		
491	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 2 B18Gr	V a	推定 13.1	推定 9.9	2.4	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	にぶい 橙 色	にぶい 黄橙色	ごく微細な透明光沢粒、1 mm以下の黒褐色・黒褐色光沢粒を含む		
492	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 2 B14Gr	V a	12.8	7.9	5.8	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	2 mm以下の軟質赤色・透明光沢・黒褐色・ 灰白色粒を含む		
493	土師器	高台付塊 口縁部 ~底部	A 2 D11Gr SC1	_	13.3	7.8	6.1	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	橙色	橙色	ごく微細な透明光沢粒、2 mm以下の軟質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒を含む		
494	土師器	高台付塊 口縁部 ~底部	A 2 D11 · 12 14Gr		推定 14.7			回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	橙色	黄橙色	2 m以下の褐灰色粒をごくわずかに含む		
495	土師器	高台付塊 口縁部 ~底部	A 2 B15Gr		推定 12.95			回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	ごく微細な透明光沢粒、2 mm以下の軟質赤色粒・黒褐色・黒褐色光沢・透明 光沢・灰褐色粒を含む		
496	土師器	高台付埦 胴部~底部	A 2 E12Gr	V a		7.9		回転ナデ、ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	橙色	橙色	3 mmの軟質赤色粒をごくわずか、1 mm 以下の軟質赤色粒・暗赤褐色・黒褐色・ 灰白色・透明光沢粒を含む		
497	土師器	高台付境 体部~底部	A 2 D11Gr	V a		推定 8.3		回転ナデ、ナデ ヘラ切り	回転ナデ後ミガ キ	良好	明黄橙色	にぶい 黄橙色	1 mm以下の褐色・褐灰色・黒褐色粒を 含む		
498	土師器	高台付埦 体部~底部	B 1 T4Gr	IV		推定 8.1		回転ナデ、ナデ 風化著しい ヘラ切り	回転ナデ後工具 ナデ	良好	にぶい 黄橙色 浅黄橙色	にぶい 黄橙色	ごく微細な透明光沢粒 1 mm以下の灰 白色・黒褐色・褐灰色粒を含む		
499	土師器	高台付境 体部~底部	A 2 E13 • 14Gr	V a		推定 8.2		回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ後丁寧 なナデ	良好	にぶい 橙 色	橙色	1 mm以下の褐色・褐灰色、微細な灰白色・ 透明光沢・褐灰色を含む		
500	土師器	高台付埦 体部~底部	A 2 D15 • E15Gr	V a		推定 7.1		回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ風化ぎみ	良好	浅黄橙色	明黄褐色	微細な透明光沢粒、2 mm以下の灰白・ 褐灰色・軟質赤色粒をわずかに含む		
501	土師器	高台付塊 体部~底部	A 3 F10Gr	V a		推定 7.2		回転ナデ、ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	淡黄色	淡黄色	微細な透明光沢粒をわずかに含む		
502	土師器	高台付境 体部~底部	A 2 B17 · 18Gr	V a		4.2		回転ナデ、ナデヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	橙色	橙色	2 ㎜以下の軟質赤色・灰白色・黒褐色・透明光沢粒を含む		
503	土師器	高台付塊 体部~底部	A 2 B15Gr	V a		7.0		回転ナデ、ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	橙色	橙色	1 ㎜以下の灰白色・軟質赤色・透明光 沢粒をわずかに含む		
504	土師器	高台付埦 体部~底部	A 2 D12Gr	V a		推定 7.44		回転ナデ、ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	浅黄橙色	橙色	2 mm以下の灰白色・黒褐色光沢・軟質 赤色粒・褐灰色、ごく微細な透明光沢 粒を含む		
505	土師器	高台付埦 体部~底部	A 3 J10Gr	V a		7.4		回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	淡黄橙色	淡黄橙色	1 mm以下の橙粒、2 mm以下の灰白色・ にぶい橙色をごくわずかに含む		
506	土師器	高台付埦 体部~底部	B 1 T3Gr	IV		推定 7.8		回転ナデ 風化気味 ヘラ切り後ナデ	回転ナデ 風化気味	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	微細な赤褐色・褐灰色粒をわずか、8 mm以下の軟質赤色粒をごくわずかに含む		
507	土師器	高台付埦 体部~底部	A 3 I11Gr	V a		8.2		回転ナデ、ナデ ヘラ切り 風化著しい	回転ナデ 風化著しい	良好	橙色	浅黄橙色	2 mm以下の黒色光沢・透明光沢・軟質 赤色粒を少量含む		
508	土師器	高台付塊 口縁部 ~底部	A 2 C1Gr	V a 上	15.7	8.7	6.7	回転ナデ、ミガ キ、ナデ、ヘラ 切り後ナデ	回転ナデ、横方 向のミガキ	良好	浅黄色	浅黄色	3 mmの灰褐色粒をこくわずか、1 mm以 下の灰白色・褐灰色・黒褐色粒を含む	外面: 的に黒 SC12丿	l/L
509	土師器	高台付境体部~底部	A 3 I11 · 12Gr	IV				回転ナデ、ナデ風化気味	回転ナデ、一部 縦方向のナデ?	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	微細な黒褐色・褐灰色粒をわずかに含む	/	3,000
510	土師器	高台付塊体部~底部	A 3 H12 • I12Gr	IV				回転ナデー部風化気味へラ切り	回転ナデ風化著しい	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	2 mm程度の褐色・褐灰色粒をごくわず か、微細な褐灰色粒をわずか、1 mm以 下の褐色・灰褐色粒を少量含む		
511	土師器	高台付塊 口縁部 ~底部	A 2 D12Gr	Va上	推定 13.53	7.7	5.43	回転ナデ、ナデ 風化著しい ヘラ切り	回転ナデ 風化著しい	良好	にぶい 黄橙色	浅黄色	ごく微細な透明光沢粒 2 m以下の軟質赤色・黒褐色・黒褐色・黒褐色が沢・褐灰色・灰白色粒を含む		
512	土師器	高台付埦 体部~底部	A 2 D13Gr	V a		推定 7.6		回転ナデ、ナデ ヘラ切り後ナデ	ミガキ	良好	橙色	にぶい 橙 色	微細な透明光沢粒、1 mm以下の軟質赤 色粒をわずかに含む		
		高台付埦	A 2			推定		回転ナデ?			にぶい		1 mm以下の淡い灰白色・褐灰色・黒褐色・		

第26表 古代土師器観察表8

遺物	種別	器 種	出土	層位	法量 (cm			・文様ほか	- 焼成	色	調	- 胎土の特徴	備	考
番号	1± //1	部 位	地点	/H ILL	口径 底部	器高	外 面	内 面	//LAA	外面	内 面		νm	
514	土師器	高台付塊 底部	A 3 H12Gr	IV	推定 8.7		ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	にぶい 橙 色	にぶい 橙 色	1 m以下の淡い灰白色・灰白色・透明 光沢・褐灰色・黒褐色・赤褐色粒・軟 質赤色粒を含む		
515	土師器	高台付埦 体部~底部	A 2 C14Gr	V a	7.35		回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	にぶい 黄橙色 橙色	にぶい 黄橙色	1 mm以下の黒褐色粒を少量含む		
516	土師器	高台付埦 底部	A 2 B15Gr	V a	推定 7.4		ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	浅黄色	浅黄色	3 m以下の軟質赤色・暗赤褐色・暗灰 黄色・黒褐色粒を含む		
517	土師器	高台付塊底部	A 2 B15Gr	V a	推定 8.0		回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	3 mmの灰黄粒、2 mmの軟質赤色粒をごくわずか、微細な明褐色・黒褐色・透		
518	土師器	高台付塊体部~底部	A 2 B14 • C14Gr	Va± Va	推定 7.0		回転ナデ へラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	明光沢粒を含む 1 mm以下の褐灰色・褐色粒をわずかに 含む		
519	土師器	高台付塊底部	A 2 C15Gr	V a	推定 6.6		<u>いかりは</u> カケ 回転ナデ、ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	浅黄橙色	にぶい 黄橙色	3 m以下の黒褐色粒をごくわずか、 1 mm以下の褐灰色・灰白色粒を含む		
520	土師器	高台付塊	A 2 E11Gr	V a	8.0		回転ナデ	回転ナデ	良好	橙色	橙色	1 m以下の褐色・褐灰色粒をごくわずかに含む		
521	土師器	高台付塊底部	A 3 I10Gr	V a	推定 8.0		ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ後ナデ	良好	浅黄橙色	淡黄色	微細な軟質赤色・透明光沢粒をわずか に含む		
522	土師器	高台付塊底部	A 3 I9Gr	V a	8.7		ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	2m以下の黒色光沢・軟質赤色粒をわずかに含む		
523	土師器	高台付塊底部	A 2 D14Gr	V a	推定 7.3		回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ後ナデ	良好	橙色	橙色	微細な灰褐色・灰白色・明褐色・透明 光沢粒をわずかに含む		
524	土師器	高台付埦 体部~底部	A 2 B15Gr	V a	6.9		回転ナデ	回転ナデ	良好	にぶい 黄橙色	浅黄橙色	1 mm以下の黒褐色粒を少量含む		
525	土師器	高台付塊体部~底部	A 2 D13Gr	V a	7.5		回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	にぶい 橙 色	浅黄橙色	微細な褐灰色粒をわずかに含む		
526	土師器	高台付塊	A 2	V a	推定		ナデ	回転ナデ	良好	橙色 浅黄橙色	浅黄色	軟質赤色粒、微細な透明光沢粒をわず		
527	土師器	底部 高台付埦	D13Gr A 2	Va上	8.8 推定		ヘラ切り後ナデ 回転ナデ、ナデ	回転ナデ	良好	黄橙色	橙色	かに含む 2 mm以下の黒褐色・灰白色・透明光沢・		
528	土師器	底部 高台付塊	C15Gr A 2	V a	7.15 推定		ヘラ切り後ナデ 回転ナデ、ナデ	回転ナデ	良好	浅黄色	灰黄色	軟質赤色粒をわずかに含む 微細な透明光沢・軟質赤色粒を含む		
		底部 高台付埦	G13Gr A 3		7.4		ヘラ切り後ナデ 回転ナデ	回転ナデ				ごく微細な透明光沢粒、2㎜以下の軟	内面:	布目
529	土師器	底部	H12Gr	V a	6.9		ヘラ切り	布目痕あり	良好	灰黄色	灰黄色	色粒を含む	痕、追 放射状	
530	土師器	高台付埦 体部~底部	B 1 T3Gr	V a	推定 6.98		回転ナデ ナデ、ヘラ切り	回転ナデの後ナ デ後工具ナデ	良好	橙色	橙色	でく微細な透明光沢粒、1 m以下の黒褐色・黒褐色光沢・褐色・軟質赤色・ 淡黄色粒を含む		
531	土師器	高台付埦 体部~底部	A 2 D12 · C14Gr	V a上 V a	推定 7.7		回転ナデ、ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	橙色	橙色	1 mm以下の黒褐色・褐灰色・灰白色・ 黒褐色光沢・軟質赤色粒を含む		
532	土師器	高台付埦 体部~底部	A 2 C13 • D13Gr	V a	推定 7.35		回転ナデ、ナデ ヘラ切り	回転ナデ	良好	にぶい 黄橙色 橙色	にぶい 橙 色	1 mm以下の黒褐色粒を少量含む		
533	土師器	高台付埦 体部~底部	A 2 E11Gr	V a	推定 9.0		回転ナデ、ナデ ヘラ切り	ミガキ	良好	明褐色	にぶい 黄橙色	微細な透明光沢粒、3 mm以下の軟質赤 色粒をわずかに含む		
		高台付埦	A 2	V a	推定		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、風化		にぶい		ごく微細な透明光沢粒、2mm以下の軟		
534	土師器	体部~底部	D13Gr	上	7.68		風化著しい ヘラ切り	著しい	良好	黄橙色		質赤色・黒褐色・褐灰色・灰白色粒を 含む		
535	土師器	高台付埦 体部~底部	A 3 J10Gr	V a			回転ナデ	回転ナデ	良好	橙色	にぶい 褐 色	微細な褐灰色粒をわずかに含む		
536	土師器	高台付塊 底部	A 3 H12Gr	IV V a			回転ナデ	回転ナデ	良好	浅黄色	浅黄色 暗灰黄色	微細な褐灰色粒をわずかに含む		
537	土師器	高台付塊 口縁部 ~底部	A 2 G13Gr	V a	推定 推定 9.6 7.1	3.9	回転ナデ ヘラ切り 沈線	回転ナデ	良好	にぶい 橙 色	にぶい 橙 色	微細な褐灰色・灰白色・透明光沢粒を わずかに含む		
538	土師器	高台付境 口縁部 ~体部	A 3 H12Gr	IV	推定 10.0		回転ナデ	回転ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	1 mm程度の赤褐色粒をごくわずか、微細な褐色・褐灰色粒をわずかに含む		
539	土師器	高台付塊口縁部~体部	A 3 H12Gr	IV	推定 11.4		回転ナデ	回転ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	1 mm程度の赤褐色粒をごくわずかに含む		
540	土師器	鉢 口縁部 ~胴部	A 3 I10 • J10Gr	IV V a	推定 21.0		ヨコナデ 格子目タタキ	ヨコナデ 斜方向のケズリ	良好	浅黄橙色	橙色	3 mm以下のにぶい褐色粒、4 mm以下の 黒褐色・にぶい赤褐色・透明光沢・褐 灰色・灰白色粒を含む		
541	土師器	鉢 口縁部 ~胴部	B 1 S4Gr	V a	推定 25.0		ヨコナデ 平行タタキ	横方向のミガキ ケズリ	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	3 mm以下の暗褐色・淡い灰白色・透明 光沢・黒褐色粒を含む		
542	土師器	→ 本 □縁部	A 2 B15Gr	V a			ナデ 平行タタキ	ヨコナデ 横方向のケズリ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	2 mm以下の褐色・褐灰色・黒褐色・透明光沢粒・黒色光沢粒を多く含む		

第27表 古代土師器観察表9

遺物	種 別	器種	出土	層位		法量 (cm		手法・調整		焼成	<u></u> 色	調力を	胎土の特徴	備	考
番号		部 位 鉢	地点		口径	底部	器高	外 面	内面		外面	内 面	2 000 リエの現在・短口を持ちわずか		
543	土師器		A 2 B15Gr	V a				ヨコナデ 平行タタキ	ヨコナデ、一部 縦方向のナデ 斜方向のケズリ	良好	黄橙色	浅黄橙色	3 mm以下の褐色・褐灰色粒をわずか、 1 mm以下の褐色・褐灰色粒を多く、黒 褐色・透明光沢粒をわずかに含む		
544	土師器	鉢 口縁部	B 1 T4Gr	V a	推定 21.4			ヨコナデ	ヨコナデ 横方向のケズリ	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	ごく微細な透明光沢粒、5mm以下の浅 黄色・黒褐色光沢・灰白色・褐灰色・		
545	土師器	~胴部 鉢 □縁部	A 2	Va上				ヨコナデ	横方向のハケメ 調整、ヨコナデ	良好	にぶい	にぶい	透明光沢粒、3 m以下の橙色粒を含む 1 mm以下の褐灰色・褐色・透明光沢粒		
		~胴部		V a					斜方向のミガキ		黄橙色	黄橙色	をわずかに含む 微細な光沢・褐灰色粒、1 mm以下の軟		
546	土師器	口縁部 ~胴部	B 1 T4Gr	V a				ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄色	浅黄橙色	質赤色粒をわずか、2 mm以下の灰白色・ 灰白色光沢・黒褐色光沢粒を含む		
547	土師器	台付鉢 口縁部 ~底部	A 2 D15 • 16Gr	V a	推定 17.0			回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	4 mm以下の褐灰色・赤褐色・暗赤褐色・ 淡い灰白色・黒褐色・灰白色・灰黄色・ ・透明光沢粒を多く含む		
548	土師器	蓋口縁部	A 2 E13Gr	V a				回転ナデ	回転ナデ	良好	橙色	橙色	微細な赤褐色・褐灰色・褐色・透明光 沢粒をわずかに含む		
549	土師器	耳坏様 口縁部 ~底部	A 2 B15Gr	Va上				ナデ	回転ナデ	良好	にぶい 橙 色	にぶい 褐 色	1 mm以下の褐色・褐灰色粒をわずかに 含む		
550	土師器	杯 口縁部 ~底部	A 2 C15 • D14 15Gr	V a	推定 13.3	推定 6.8	4.2	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	ミガキ	良好	浅黄橙色	赤褐色	2 mm以下の褐灰色・透明光沢粒を少量 含む	内面:	赤彩
551	土師器	杯または塊 口縁部	A 2 C13 • D13Gr	V a	推定 14.44			回転ナデ	回転ナデ後ミガ キ	良好	にぶい 橙 色	にぶい 褐 色	ごく微細な透明光沢粒、2m以下のに ぶい褐色・黒褐色・灰白色粒を含む	内面:	赤彩
552	土師器	杯または塊 口縁部 杯	A 2 E12Gr	_				回転ナデ	回転ナデの後横	良好	橙色	明赤褐色	ごく微細な透明光沢粒、1 mm以下の黒 褐色粒を含む	内面:	赤彩
553	土師器 (黒色土器)	口縁部 ~底部	A 2 E13Gr	V a	推定 13.2	7.3	6.6	回転ナデ ナデ	方向のヘラミガキ	良好	にぶい 黄橙色	黒褐色	1 mm以下の褐灰色・黒褐色・褐色粒を わずかに含む		
554	土師器 (黒色土器)	杯 口縁部 ~底部	A 2 C14Gr	V a	推定 15.4	推定 6.4	6.8	回転ナデ 丁寧なナデ	回転ナデの後へ ラミガキ	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄 色	微細な黒褐色・灰白色・褐灰色粒を少量含む	底部:	<u>- →</u>
555	土師器 (黒色土器)	坏 体部~底部	A 2 C16Gr	V a				回転ナデ ヘラ切り	回転ナデの後へ ラミガキ	良好	浅黄色	黒色	ごく微細な透明光沢粒、1 mm以下の黒 褐色・にぶい褐色粒を含む。		
556	土師器	坏	A 2	V a				回転ナデ	回転ナデの後へ	良好	にぶい	黒色	ごく微細な透明光沢粒、1㎜以下の軟		
557	(黒色土器) 土師器 (黒色土器)	体部~底部 坏 体部~底部	E14Gr A 2 E14Gr	V a		推定 5.9		ヘラ切り 回転ナデ、粗い ナデ、ヘラ切り	ラミガキ 回転ナデの後ミ ガキ	良好	黄橙色 にぶい 黄橙色	黒色	質赤色・黒褐色・淡黄色粒を含む。 微細な褐灰色・にぶい褐色・透明光沢 粒が少量含む		
558	土師器 (黒色土器)	坏体部~底部	A 2 D14Gr	Va上		推定 7.5		回転ナデ後ミガ キ?、ヘラ切り	回転ナデの後ミ ガキ	良好	にぶい 黄橙色	褐灰色	ごく微細な透明光沢粒、1mm以下の黒 褐色光沢・透明光沢・褐灰色粒、2mm		
559	土師器 (黒色土器)	高台付塊口縁部	A 3 J10Gr	V a	推定 13.0	推定 7.57	6.12	回転ナデ後ミガ キ、ヘラ切り後	回転ナデの後ミガキ	良好	にぶい 黄橙色	褐灰色	以下の黒褐色粒を含む。 ごく微細な透明光沢粒、1 mm以下の黒 褐色・淡黄色・褐灰色粒を含む		
560	土師器 (黒色土器)	〜底部 高台付塊 □縁部	A 1 B20Gr	V a				ナデ 回転ナデ	回転ナデ	良好	褐灰色	黒色	微細な透明光沢粒をわずかに含む		
561	土師器 (黒色土器)	高台付埦底部	A 2 D12Gr	V a		7.9		回転ナデ、ナデ、 ヘラ切り後ナデ		良好	にぶい 橙 色	黒色	1 mm以下の黒褐色・透明光沢粒を含む		
562	土師器 (黒色土器)	高台付埦 体部~底部	A 3 E10Gr	V a		推定 9.1		回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデの後ミ ガキ	良好	浅黄色	黒褐色	ごく微細な透明光沢粒、1 mm以下の黒褐色・黒褐色光沢・褐灰色粒を含む		
563	土師器 (黒色土器)	高台付塊 底部	A 2 E15Gr	V a		7.6		回転ナデ 丁寧なナデ	回転ナデ 一部ヘラミガキ	良好	橙色	黄橙色 黒色	微細な透明光沢粒、1 mm以下の褐色・ 褐灰色をわずかに含む		
564	土師器 (黒色土器) 土師器	高台付塊 底部 高台付塊	A 2 B17Gr A 3	Va上		推定 7.5 推定		回転ナデ ナデ 回転ナデ、ヘラ	回転ナデ 一部ヘラミガキ 回転ナデの後へ	良好	浅黄橙色	黒色 浅黄橙色 黒色	1 mm以下の黒褐色・透明光沢粒を含む 微細な褐灰色粒をわずか、角閃石ごく		
565	(黒色土器)	底部高台付塊	A 3	VI a		7.6		ミガキ、ナデ	ラミガキ 回転ナデの後ミ	良好	黄橙色	灰黄色	わずかに含む	高台内	9外:
566 567	(黒色土器) 土師器	底部 高台付埦	A 2	IV V a		7.2 推定		回転ナデ 回転ナデ	ガキ 回転ナデの後ミ	良好良好	橙 色	黒色 黒色	1 mm以下の黒褐色・透明光沢粒を含む 1 mm以下の微細な黒褐色・褐灰色・灰	ススケ	措。
568	(黒色土器) 土師器	底部 高台付塊	A 2	V a		6.5 推定		回転ナデ、ナデ、	ガキ回転ナデの後ミ	良好	<u>橙色</u> 橙色	黒色	白色粒をわずか、微細な光沢粒を含む 1m以下の黒褐色・褐灰色・灰白色粒		
569	(黒色土器) 土師器	体部~底部 雲 □縁部 ~胴部	C13 · E12Gr A 2 C13 D11 ~ 13Gr		推定 29.0	7.35		ヘラ切り後ナデヨコナデ格子目タタキ	ガキ ヨコナデ 縦方向のケズリ	良好	橙色	にぶい 黄橙色 灰黄色	を含む 1 mm以下の赤褐色・褐灰色・褐色・黒褐色粒を多く、1 mm以下の角閃石・透明光沢・黒色光沢粒をわずかに含む	焼土郡	半周辺
570	土師器	一類部 〜頸部	A 3 J11Gr	V a	推定 23.1			ヨコナデ	ヨコナデ ケズリのナデ	良好	橙色	橙色	でく微細な透明光沢粒、2 mm以下の軟質赤色粒・褐灰色・灰白色・黒褐色粒を含む		
		甕	A 2		推定			ヨコナデ	ヨコナデ				3 mm以下の淡い灰白色・灰白色・灰褐	外面:	

第 28 表 古代土師器観察表 10

遺物	種別	器 種	出土	層位	'n	去量 (cm)	手法・調整	・文様ほか	- 焼成	色	調	- 胎土の特徴	備	考
番号	種 別	部 位	地点	眉怔	口径	底部 器高	外 面	内 面	7. 洗放	外 面	内 面	胎工の特徴	1月	考
		甕	A 2				ヨコナデ	横方向のハケメ						
572	土師器	口縁部	D13 • 14	Va上	推定		横方向のハケメ	調整、ケズリの	良好	橙色	橙色	2 mm以下の灰褐色粒を少量、3 mm以下		
312		~胴部	C13 • E12Gr	V a	21.0		調整	後にミガキか?	区列	124 (2)	150 (2)	の黒褐色・褐色・灰白色粒を多く含む		
		- 100 1013	Tr1B				門定	技にマカール・!						
		甕	A 2		推定		ヨコナデ	ヨコナデ		にぶい		2 mm以下の黒褐色・褐灰色粒、3 mm以		
573	土師器	口縁部	D13 • 14Gr	V a	26.4		格子目タタキ	丁寧なナデ	良好	橙色	橙色	下の褐灰色・灰赤色・黒褐色光沢粒を		
		~胴部	D13 - 1461		20.4			1 学体 / /		152 C		含む		
		甕	A 2		推定		ヨコナデ	ヨコナデ				2 mm以下の褐灰色・黒褐色・褐色・白		
574	土師器	口縁部	B15Gr	V a	20.4		横方向のハケメ	縦方向のケズリ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	色透明粒を多く、1㎜以下のにぶい褐		
		~胴部	D1561		20.4		調整?	MIC/J PIOS / / / /				色粒を含む		
		甕	A 2				ヨコナデ	横方向のハケメ			にぶい	2 ㎜以下の褐灰色・黒褐色・褐色粒を		
575	土師器	口縁部	B16Gr	IV			横方向のハケメ	調整、ナデ	良好	橙色	黄橙色	少量、1 mm以下の透明光沢粒をわずか		
			D1001				調整	縦方向のミガキ			MIEC	に含む		
		甕	A 2		推定			ヨコナデ		にぶい	にぶい	微細な黒褐色粒をわずか、2mm以下の		
576	土師器	口縁部	D15Gr	V a	15.9		ヨコナデ	斜方向のケズリ	良好	黄橙色	橙 色	褐色・褐灰色・透明光沢粒を多く含む		
		~胴部								71				
		甕	А 3		推定			ヨコナデ				2 mm以下の灰白色・褐色粒を多く、1		
577	土師器	口縁部	J10Gr	V a	13.8		ヨコナデ	縦方向のケズリ	良好	橙色	橙色	mm以下の黒色光沢・透明光沢粒を少量		
		~胴部										含む		
	Liferna	甕	A 2		推定		den	ヨコナデ	4.13	にぶい	Little da	1 mm以下の褐灰白色・赤褐色・透明光		
578	土師器	口縁部	D11Gr	V a	12.5		粗いヨコナデ	斜方向のケズリ	良好	橙色	橙色	沢粒をわずかに含む		
		~胴部												
570	Lecon	甕	А 3	n.,	推定		ヨコナデ	ヨコナデ	ė 47	SP #5466 /2	SP #1497 /r.	5 m以下のにぶい赤褐色粒を、3 m以		
579	土師器	口縁部	I10 • 11Gr	IV	23.4		指頭痕あり	斜方向のケズリ	良好	浅黄橙色	浅典恒巴	下の黒褐色光沢・透明光沢・褐灰色・		
		~胴部	4.0				ヨコナデ	ヨコナデ		にぶい		灰白色粒を含む	内面:	₩/\
580	土師器	甕	A 2	V a				ココナテ 斜方向のケズリ	良好		橙色	2 mm以下の褐灰色・褐色・黒色光沢粒		
		四縁部	B15Gr A 2				沈線 ヨコナデ	横方向のハケメ	良好	黄橙色 にぶい	にぶい	を多く含む 1 mm以下の透明光沢粒、2 mm以下の褐	的に黒	(DE
581	土師器	口縁部	D13Gr	V a			33//	調整	LCXI	黄橙色	黄橙色	灰色・黒褐色粒をわずかに含む		
		甕	D1361				ヨコナデ	横方向のハケメ		9412 C	MIEC	1 m以下の褐色・褐灰色・黒褐色粒を		
582	土師器	口縁部	A 2	V a	推定		横方向のハケメ	調整、斜方向の	良好	にぶい	浅苗榕色	多く、黒色光沢・透明光沢粒をわずか、		
002		~胴部	B15Gr		17.4		調整	ケズリの後ナデ		黄橙色	IXXIII C	3 mm大の黒褐色粒をごくわずかに含む		
		類					hate	777751277				2 m以下の黒褐色・黒褐色光沢・褐灰色・		
583	土師器	口縁部	А 3	V a	推定		ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙色	橙色	透明光沢・にぶい赤褐色・灰白粒を含		
		~胴部	I11Gr		14.2							t		
		甕					横方向の工具ナ	ヨコナデ				1 mm以下の黒色光沢粒を少量、1 mm以		
584	土師器	口縁部	A 2	V a			デ、格子目タタ	縦・斜方向のケ	良好	にぶい	にぶい	下の赤褐色・褐灰色・灰白色・透明光		
		~胴部	C13 • D13Gr				牛	ズリ後ナデ		橙色	橙色	沢粒を多く、高師小僧をわずかに含む		
		甕	A 1		##-45		斜方向のナデ、横	ヨコナデ	± 47			2 mm以下の透明粒を少量、1 mm以下の		
585	土師器	口縁部	A 1	V a	推定		方向の工具ナデ、	縦方向のケズリ	良好	橙色	橙色	褐灰色・褐色粒を多く、角閃石・黒褐色・		
		~胴部	B19Gr		23.7		格子目タタキ	ナデ				褐色粒を少量含む		
		甕	A 2		推定		ナデ、横方向の	横方向のハケメ		にぶい		1 mm以下の透明光沢粒を少量、2 mm以		
586	土師器	口縁部	D13Gr	V a	20.4		ハケメ調整	調整、斜方向の	良好		浅黄色			
		~胴部	DISGI		20.4		ハワグ調室	ケズリ		黄橙色		下の褐灰色・淡い灰白色粒を多く含む		
		甕	A 2		推定		ヨコナデ、横方	横方向のハケメ		にぶい		微細な透明光沢粒をわずか、1 mm以下		
587	土師器	口縁部	C13 • D12Gr	V a	24.4		向のハケメ調整	調整、縦方向の	良好	黄橙色	橙色	の褐灰色・灰白色粒を含む		
		~頸部	C13 - D1261		24.4		同のハイノブ明証	ケズリ		典位已		の相次日・大口日担で日も		
		甕	A 2		推定			ヨコナデの後ミ		にぶい	にぶい	ごく微細な透明光沢粒、3㎜以下のに		
588	土師器	胴部	D13	V a	18.8		ヨコナデ	ガキ	良好	黄 色	黄 色	ぶい黄褐色・灰白色・褐灰色・明褐色・		
			E12 • 13Gr		10.0					~ -		黒褐色光沢粒を含む		
		甕	A 2	Val	推定		ヨコナデ、横方	横方向のハケメ		にぶい		ごく微細な透明光沢粒、5㎜以下の灰		
589	土師器	口縁部	C13		26		向のハケメ調整	調整、斜方向の	良好	黄橙色	橙色	褐色・黒褐色・透明光沢・褐灰色・に		
		~胴部	D12 • 13Gr	v u	20		格子目タタキ	ケズリ		MIN C		ぶい赤褐色・灰白色粒を含む		
		甕	A 2		推定		ヨコナデ	ヨコナデ			にぶい	4 mmの褐色粒をごくわずか、1.5 mm以下		
590	土師器	口縁部	E13Gr	V a	21.9		ハケメ調整	ナデの後縦方向	良好	橙色	黄橙色	の微細な褐灰色・褐色・灰白色・透明		
		~胴部					ナデ	のケズリ				光沢粒を多く含む		
		甕	A 2		推定		ヨコナデ					2 mm以下の黒褐色・淡い灰白色・褐灰色・		
591	土師器	口縁部	D12 • E12Gr	V a	24.1		格子目タタキ	ヨコナデ	良好	橙色	橙色	透明光沢・灰白色粒を含む		
		~頸部												
		独	A 2		推定		ヨコナデ	ヨコナデ			にぶい	6 ㎜以下の暗褐色・灰白色・黒褐色粒		
592	土師器	口縁部	E12Gr	V a	20.7		格子目タタキ	縦方向のケズリ	良好	橙色	黄橙色	を多く、微細な透明光沢粒を少量含む		
		~胴部									橙色			
		独	A 2	Val	推定		ヨコナデ	ヨコナデ				1 ㎜以下の褐灰色・黒褐を多く、透明		
593	土師器	口縁部	C13 • 14		26.9		格子目タタキ	縦方向のケズリ	良好	橙色	橙色	光沢粒・黒色光沢、褐色・灰白色粒を		
		~胴部	D13 • E13Gr		0					tore *:		少量含む		
		独	A 2		推定		横方向の粗いナ	ヨコナデ		橙色	にぶい	1 mm以下の褐色・褐灰色・黒色光沢・		
594	土師器	口縁部	C17Gr	V a	23.0		デ、ヨコナデ、一	縦方向のケズリ	良好	にぶい		透明光沢粒をわずかに含む		
		~胴部					部斜方向のナデ			黄橙色				
F.C. F	Lecon	甕	A 2		推定	推定	ヨコナデ	N++1	rt. 1-	mily more while the	545-44-4-	ごく微細な透明光沢粒、3㎜以下の灰		
595	土師器	口縁部	B18Gr	V a		18.8	横方向の工具ナ	斜方向のケズリ	良好	暗灰黄色	浅 页色	白色・黒褐色・褐灰色・にぶい赤褐色・		
		~胴部					デ、ナデ					黒褐色光沢粒を含む		

第29表 古代土師器観察表11

遺物	種別	器種	出土	層位	法量(と・文様ほか	焼成	<u>色</u>	調中面	胎土の特徴	備	考
番号		部位	地点		口径 底部	部 器高	外 面	内 面		外面	内 面			
596	土師器	要 口縁部 ~胴部	A 2 B18Gr	V a			ヨコナデ	縦方向のケズリ	良好	褐色	橙色	2 mm以下の灰白色・褐灰色・透明光沢 粒を多く含む	外面: 付着	スス
597	土師器	要 口縁部 ~胴部	A 2 B18Gr	V a	推定 23.8		工具による粗い ナデ	工具によるナデ	良好	黒色	黄灰色	1 mm以下の灰白色・褐灰色・透明色・ 浅黄橙粒を含む		
598	土師器	変 口縁部 ~胴部	A 2 C16Gr	Va上	推定 14.3		ヨコナデ ナデ	工具によるナデ ケズリ	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	2 mm以下の黒褐色粒、微細な透明光沢 粒を少量含む		
599	土師器	類 口縁部 ~胴部	A 2 E13 • 14 D13Gr	V a	推定 8.8		ヨコナデ	ヨコナデ 斜方向のケズリ	良好	橙色	橙色	3 m以下のにぶい赤褐色・赤褐色・に ぶい褐色・褐灰色・灰白色・黒褐色光沢・ 透明光沢粒を含む		
600	土師器	甕 胴部~底部	A 2 C13Gr	V a			横・斜方向のハ ケメ調整	斜方向のケズリ	良好	浅黄色	浅黄色	3 mm以下の黒褐色光沢・透明光沢・に ぶい褐色・橙色・褐灰色・灰白色・に ぶい橙粒を含む		
601	土師器	甕 底部	A 2 E14Gr	V a			格子目タタキ	ナデ 指頭痕	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	微細な光沢粒、1 m以下の黒褐色・灰白・透明光沢粒を含む		
602	土師器	甕 底部	A 3 H12Gr	IV	推舞10.		ナデ	ナデ	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	2 mm以下の角閃石、ごく微細な光沢粒 を含む	外面: 付着、 炭化物	内面:
603	土師器	甑 口縁部	A 2 B16Gr	IV			ヨコナデ	ヨコナデ	良好	にぶい橙 色	にぶい橙 色	3 mm以下の褐灰色粒、2 mm以下の褐色・ 黒褐色粒を多く含む	個体カ	þ
604	土師器	甑 底部	A 2 C16Gr	V a			ヨコナデ	ヨコナデ	良好	褐灰色	黒色	1 mm以下の褐色粒、2 mm以下のにぶい 褐色・褐灰色粒を含む	603 と 個体か スス付	、内面:
605	土師器	甑 胴部~底部	A 2 B14Gr	Va上 Va	推5 22.		平行タタキ	工具ナデ	良好	明黄褐	明黄褐色	3 m以下の暗褐色・灰白色・褐色粒を 多く含む		
606	土師器	甑 胴部~底部	A 3 I11Gr	V a			格子目タタキ	ナデ、斜方向の 工具ナデ	良好	橙色	浅黄橙色	2 mm以下の灰白色・褐灰色・橙色・透明粒を含む		
607	土師器	甑 胴部~底部	A 2 D12 · E12Gr Tr3B	IV V a	推舞 10.	Ē 8	横方向のハケメ 調整、横方向の ケズリ、ナデ	斜方向のケズリ	良好	にぶい 黄橙色	橙色	2 mm以下の赤褐色・褐灰色粒を多く含む 1 mm以下の角閃石・透明光沢粒をわずかに含む		
608	土師器	甕 胴部~底部	A 2 C16 • D13Gr	Va上 Va	推5 15.		ナデ		良好	橙色	明褐色	5 mm以下の暗赤褐色・褐灰色・黒褐色・ 透明光沢粒・灰白色粒を多く含む		
607	土師器	甕 胴部~底部	A 2 C13 · D13Gr Tr2	Va上 Va	推5 12.		ヨコナデ	ヨコナデ 縦方向のナデ	良好	灰黄褐色	橙色	微細な赤褐色粒を少量、1 mm以下の褐灰色・灰白色・黒褐色・褐色粒をわずかに含む		
610	土師器	甑 把手	A 3 E10 · F10Gr	V a			ナデ		良好	橙色	橙色	2 mm以下の褐色・褐灰色粒・透明光沢粒・ 黒色光沢粒を多く含む		
611	土師器	甑 把手	A 2 B14Gr	Va上			ナデ		良好	橙色 にぶい 黄橙色	橙色 にぶい 黄橙色	2 mm以下の褐色・褐灰色・黒褐色粒を 多く含む		
612	土師器	甑 把手	A 3 J10Gr	IV			ナデ		良好	浅黄橙色	浅黄橙色	1 mm以下の褐灰色・黒褐色粒を多く含む		
613	土師器	甑 把手	A 2 C15Gr	V a			ナデ		良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	1 mm以下の赤褐色・褐灰色粒をわずか に含む		
614	土師器	布痕土器 口縁部 ~体部	A 2 C13 · D13 14Gr	Va上 Va			ナデ 風化著しい	布目痕 風化気味	良好	にぶい 黄橙色	橙色	6 m以下のにぶい黄橙色粒ごくわずか、 3 mm以下のにぶい赤褐色・橙色・灰白 色粒を含む		
615	土師器	布痕土器 口縁部 ~体部	A 2 D13 • 14 C13 • E13Gr	V a	11.4		ナデ 風化著しい	布目痕	良好	橙色	橙色	1 mm以下の褐灰色・灰白色・透明光沢 粒を多く含む		
616	土師器	布痕土器 口縁部 ~体部	A 2 D13 • E12Gr	V a	推定 11.2		ナデ 風化著しい	布目痕 風化著しい	良好	にぶい 橙 色	橙色	1 mm以下のにぶい赤褐色粒、3 mm以下のにぶい橙色・褐灰色・黒褐色光沢粒を含む		
617	土師器	布痕土器 口縁部 ~体部	A 2 D13Gr	V a	推定 11		ナデ 丁寧なナデ	布目痕	良好	橙色	橙色	3 mm以下の褐灰色粒をごくわずか、1 mm以下の橙色・にぶい赤褐色粒を含む		
618	土師器	布痕土器 口縁部 ~体部	A 3 I10 · J10Gr	V a	推定 10.9		粗いナデ ナデ	布目痕	良好	橙色	橙色	1 mm以下の灰白色・褐灰色・黒褐色粒 を含む		
619	土師器	布痕土器 口縁部 ~体部	A 2 C13Gr	V a	推定 11.8		ナデ、指頭痕 風化著しい	布目痕 風化著しい	良好	橙色 にぶい橙 色	橙色 にぶい橙 色	微細な無色透明光沢・灰白色粒、1 mm 以下の黒褐色光沢・淡黄色・褐灰色・ 明赤褐色粒を含む		
620	土師器	布痕土器 口縁部 ~体部	A 2 D13Gr Tr2	V a	推定 11.2		ナデ 風化著しい	布目痕	良好	明赤褐色	橙色	ごく微細な灰白色粒、2mm以下の黒色 光沢粒を含む	焼」	上群
621	土師器	布痕土器口縁部~体部	A 3 I11Gr	V a	推定 11.2		ナデ 指頭痕	布目痕 風化著しい	良好	橙色	橙色	2 mm以下の橙色・褐灰色・淡黄色粒を含む		
622	土師器	布痕土器 口縁部	A 3 I11 • 12Gr	V a	推定 11		<u>風化著しい</u> 粗いナデ ナデ	布目痕	良好	にぶい黄 橙色	浅黄色	1 mm以下の明赤褐色・褐色・褐灰色粒 を含む	外面:	—— スス

第 30 表 古代土師器観察表 12

遺物	種別	器 種	出土	層位	ì	去量 (cm)		・文様ほか	焼成	色	調	胎土の特徴	備	考
番号	作里 万门	部 位	地点	眉世	口径	底部	器高	外 面	内 面	NENX	外 面	内 面	加工の行政	νн	75
623	土師器	布痕土器 口縁部 ~体部	A 2 D13Gr	V a	推定 11.3			ナデ 風化著しい	布目痕	良好	橙色	橙色	9 mm以下の褐灰色・灰白色・褐灰色粒 をわずかに含む		
624	土師器	布痕土器 口縁部	A 2 C13	V a				ナデ 指頭痕	布目痕 風化気味	良好	橙色	橙色	2 mm以下の褐灰色・灰白色・黒褐色光沢・ 橙色粒、1 mm以下の黒褐色粒を含む		
625	土師器	~体部 布痕土器 底部	D13 · 14Gr A 2 D13Gr	V a				風化著しい ナデ 風化気味	布目痕 風化気味	良好	にぶい黄 橙色	にぶい黄 橙色	ごく微細な黒褐色粒、2mm以下の灰黄 褐色・にぶい黄橙色・灰白色粒を含む		
626	須恵器	坏	A 3	V a	推定			ナデ	回転ナデ	やや	灰白色	灰白色	2 mm以下の灰白色・黒褐色粒をわずか		と同一
		口縁部	I11Gr	-	16.6			回転ナデ	風化気味	不良やや	-		に含む	個体 627	と同一
627	須恵器	坏 体部~底部	A 3 I11 • J10Gr	IV V a		推定6.5		回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ後ナデ	不良	灰白色	灰白色	3 ㎜以下の黒褐色粒をわずかに含む		外面:
628	須恵器	坏 口縁部 ~底部	A 3 J 10Gr	IV V a	推定 12.2	5.4	4.6	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	堅緻	灰黄色	灰黄色	微細な褐灰色粒をわずかに含む	外面	:黒斑
629	須恵器	坏 口縁部 ~底部	A 2 B15Gr SC4 • 5	V a	推定 11.6	推定 6.5	4.2	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ 回転ナデの後ナ デ	堅緻	灰色	灰色	微細な黒褐色粒、1 mm以下の褐灰色・ 灰白色・淡黄色粒を含む		
630	須恵器	「 「 「 「 「 「 「 に が 。 で に が 。 で に の に に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に 。 に る に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に に に に に に に 。 に に に に に に に に に 。 に 。 に 。 に に に に に に に に に に に に に	B 1 S4 • T4Gr	IV ~ VI a	推定 11.4	5.6	4.15	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	堅緻	灰色	灰色	1 mm以下の金雲母、2 mm以下の灰白色・ 黒褐色・暗褐色粒をわずか、微細な灰 白色・黒褐色・灰褐色粒を多く含む		
631	須恵器	好 口縁部 ~底部	A 3 I10Gr	IV	推定 12.5	推定 6.2	4.5	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、回転 ナデの後ナデ	堅緻	灰黄色	灰黄色	微細な灰白色粒、1 m以下の褐灰色粒を多く含む	外面に	こ黒斑
632	須恵器	好 体部~底部	A 2 B15Gr	V a		推定 7		回転ナデ、ヘラ切 り、風化著しい	回転ナデ風化著しい	やや不良	灰黄色	灰色	1 mm以下の褐灰色・褐色粒を多く、角 閃石・透明光沢粒をわずかに含む		
633	須恵器	高台付境 口縁部~ 底部付近	A 2 D12Gr	V a	推定 12.9			回転ナデ	回転ナデ	堅緻	灰黄色	灰黄色	1 mm以下の褐灰色・灰白色粒をわずかに含む		
634	須恵器	高台付塊 口縁部~ 底部付近	A 2 Tr1B D13	V a				回転ナデ	回転ナデ	堅緻	黒褐色	灰色	1 mm以下の黒色・褐灰色・灰白色粒を含む		面:口
635	須恵器	高台付塊 口縁部 ~体部	A 3 I10 · J10Gr	V a	推定 16.2	,		回転ナデ	回転ナデの後ナ デ 風化気味	堅緻	灰白色	灰白色	1 mm以下の灰白色粒、2 mm以下の褐灰色粒を含む	ли	
636	須恵器	高台付塊口縁部~底部	A 2 D13 • 14 E13 • 14Gr	V a	推定 11.9	推定 6.2	5.5	回転ナデ ヘラ切り後ナデ ナデ	回転ナデ	堅緻	灰白色	灰白色	1 mm以下の黒褐色・褐灰色粒を含む	高台 付着	: 鉄粒
637	須恵器	高台付塊口縁部~底部	A 3 SA3 J10Gr	IV V a	推定 13.25	6.95	6.05	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	やや 不良	灰白色	灰白色	微細な褐灰色粒を少量含む		
638	須恵器	高台付塊口縁部~底部	B 1 T3Gr	VI a	推定 14.45	8.05	5.35	回転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	やや不良	灰白色	灰白色	2 mm以下の黄褐色・褐灰色・黒褐色・ 灰黄色粒を含む		
639	須恵器	高台付塊 口縁部 ~底部	A 3 J10Gr	V a	12.7	6.7	5.0	回転ナデ	回転ナデ	堅緻	灰色	灰白色	1 mm以下の灰色粒を少量、2 mm以下の 灰白色・黄灰色粒を含む		: 口縁 自然釉
640	須恵器	高台付塊 口縁部 ~底部	A 2 C13 • D13Gr	Va 上 Va	推定 14.58			回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	堅緻	灰オリー ブ色	灰オリー ブ色	2 mm以下のにぶい黄褐色・黒褐色光沢・ 褐色・淡黄色・暗灰黄色・黒褐色粒を 含む		内面:
641	須恵器	高台付塊 体部~底部	A 2 D14Gr	V a		9.9		回転ナデ、ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	やや 不良	淡黄色	淡黄色	2 mm以下の灰白色粒をわずかに含む		
642	須恵器	高台付埦 体部~底部	A 3 J10Gr	V a		6.75		回転ナデ、ナデ ヘラ切り	回転ナデ	やや 不良	灰白色	灰白色	1 mm以下の褐灰色粒をわずかに含む		
643	須恵器	高台付埦 体部~底部	A 2 C12Gr	V a 上		推定 8.1		回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	やや 不良	灰白色	灰白色	1 mm以下の褐灰色粒をわずかに含む		
644	須恵器	高台付埦 体部~底部	A 2 C13 D12 • 13Gr	V a上 V a		7.55		回転ナデ、ナデ ヘラ切り後ナデ 風化著しい	回転ナデ 風化著しい	やや不良	淡黄色	淡黄色	微細な透明光沢粒をわずかに含む		
645	須恵器	高台付塊 底部	A 3 J10Gr	V a		推定 7.2		回転ナデ ヘラ切り	回転ナデの後ナ デ	堅緻	灰色 灰白色	灰白色	1 mm以下の灰色・灰白色粒をわずかに 含む		
646	須恵器	高台付塊体部~底部	B 1	Va上		推定 8.12		回転ナデ、ナデ ヘラ切り 風化著しい	ク 回転ナデ 風化気味	堅緻	灰黄色	灰黄色	1 mm以下の淡黄色・黒褐色・褐灰色・ 灰白色粒を含む		
647	須恵器	高台付埦 底部	A 2 D13Gr	V a		推定 6.4		回転ナデ 丁寧なナデ	回転ナデ	堅緻	灰色	灰色	1 m以下の黒褐色・灰白色・褐色・黄褐色の粒を少量含む		:自然
		压部	D13Gr			б.4		」 写な アプ					恂巴の私を少量含む	釉	

第31表 古代土師器観察表13

	種 別	器種	出土	層位		走量 (cm			と・文様ほか	焼成	色	調力工	胎土の特徴	備	考
番号		<u>部位</u> 鉢	地点		口径	底部	器高	外 面	内 面		外面	内 面			_
648	須恵器	→ □縁部 ~底部	A 2 D12 • 13Gr	V a	推定 22.0	推定 12.5	9.8	格子目タタキの 後ナデ、ナデ	横斜方向のナデ 多方向のナデ	堅緻	灰色	灰 灰が-7色	1 mm以下の黒褐色・褐灰色・灰白色粒をわずかに含む	外内面 ダスキ	
649	須恵器	鉢 口縁部	A 2 B15Gr	V a	推定 18.0	推定 11.0	8.6	横斜方向の粗い	ヨコナデ	堅緻	灰黄	灰黄	1 mm以下の黒褐色・灰白色・褐灰色粒をわずかに含む		
650	須恵器	~底部 鉢 □縁部~	A 2 C12 · 13		推定			ヨコナデ	ヨコナデ	やや不良	灰白	灰色	微細な灰白色・褐灰色粒を少量含む		
	Ast-t-nn	底部付近 鉢	D13Gr A 2		22.8				1-	良好	灰	rei da fa	1 mm以下の灰白色・黒褐色・褐灰色粒		
651	須恵器	□縁部 <u>~胴部</u> 鉢	D13 • E12Gr	V a	23.6			ヨコナデ	ヨコナデ	+13	浅黄色	灰白色	を含む		
652	須恵器	口縁部~胴部	A 2 E12Gr	V a	推定 22.9			ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄色	灰白 黒	1 mm以下の灰白色・黒褐色粒を含む		
653	須恵器	鉢 底部付近 甕	A 2 D13Gr A 2	V a				回転ナデ	回転ナデ	良好やや	灰色	灰色	微細な灰白色粒をわずかに含む		
654	須恵器	受 口縁部 ~胴部	B18 • D13gr	V a	推定 20.1			ヨコナデ 格子目タタキ	ヨコナデ 工具痕あり	不良	灰白色	灰白色	微細な黒褐色、2mm以下の白灰色・灰 白色粒を含む		
655	須恵器	壺 口縁部 ~底部	A 2 D12 ~ 14 E11 · 12Gr		推定 9.85	推定 21.55		格子目タタキの 後、横方向の粗 いナデ、ナデ	横方向の粗いナ	堅緻	灰色 灰白色	灰白色	1 mm以下の灰白色・褐白色粒を少量含む	外面: ジケ	熱ハ
656	須恵器	壺 口縁部 ~頸部	A 2 D14Gr	Va上 Va	推定 12			回転ナデ	回転ナデ	堅緻	灰が一が色	灰色	1 ㎜以下の灰白色粒をわずかに含む	外内面 然釉	: 自
657	須恵器	壺口縁部	A 2 B15Gr	Va上 Va	推定 14.3			回転ナデ	回転ナデ	堅緻	灰色	灰白色	2 mm以下の黒褐色粒をわずかに含む	外内面 然釉	: 自
658	須恵器	壺 □縁部 ~頸部	A 2 D15 • E14Gr	V a	10.2			回転ナデ	回転ナデ	堅緻	灰色	灰色	1 mm以下の灰白色・黒褐色粒をわずかに含む	外内面 然釉	:自
659	須恵器	壺 頸部	A 2 D13Gr	V a				回転ナデ	回転ナデ	堅緻	灰色	灰色	1 mm以下の灰白色・黒褐色粒を含む。 発泡物が見られる。	外面に自 頸部完	
660	須恵器	壺 頸部~底部	A 3 J8 • 11 H11 • I11Gr	Ⅳ ~ Va		推定 11		丁寧なナデ 回転ナデ ナデ	回転ナデ	堅緻	灰色	灰色	2 mm以下の黒褐色・灰白色・褐色粒を含む	底部内熱ハジ	
661	須恵器	壺 頸部~胴部	B 2 カクラン	_				回転ナデ	回転ナデ	堅緻	黄灰色	灰色	微細な淡黄色粒、2mm以下の黒褐色・ 灰白色粒を含む。発泡物が見られる。		
662	須恵器	壺 肩部~胴部		V a				回転ナデ	回転ナデ	堅緻	灰色	灰色	3㎜以下の黒褐色粒を少量含む	外面:	自然
663	須恵器	壺 肩部~胴部 壺	A 2 E14 · 15Gr	V a				回転ナデ	回転ナデ	堅緻	灰白色	灰色	微細な灰白色粒を少量、1 mm以下の褐灰色・黒褐色粒をわずかに含む		
664	須恵器	型 頸部付近 ~肩部	A 2 E15Gr	V a				回転ナデ 格子目タタキ	回転ナデ ナデ	堅緻	灰色	灰色	3 mm以下の灰白色・黒褐色・淡黄粒を含む	外面: 着	
665	須恵器	壺 肩部~胴部	A 3 E10Gr	V a				平行タタキ ナデ	回転ナデ、斜方 向の工具ナデ	堅緻	黄灰色	黄灰色	2 mm以下の灰白色・黒褐色・褐灰色粒を含む	外面: 釉、肩 把手	
666	須恵器	壺 底部	A 2 Tr2 D14Gr	V a		推定 14.8		格子目タタキ ナデ	ナデ	堅緻	灰色	灰色	2 ㎜以下の灰白色粒をわずかに含む		
667	須恵器	壺 胴部~底部	A 3 I11 • J10Gr	V a VI		推定 10.1		格子目タタキ ヨコナデ ナデ	斜方向のナデ	堅緻	灰色 黄灰色 黒褐色	灰色	微細な褐灰色・灰白色粒を少量含む	外面:	自然
668	瓦質土器	坏 口縁部 ~底部	A 2 Tr2B D13 • 14Gr	IV V a	12.6	6.4	5.3	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	堅緻	灰色	灰白色	2 mm以下の灰黄色・灰白色・黒褐色粒を含む		
669	瓦質土器	高台付塊 口縁部 ~底部	A 3 J10Gr	IV V a	推定 13.3	推定 7.3	推定 6.3	回転ナデ ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ ナデ	堅緻	灰色	灰白色	2 m以下の黒褐色・黄褐色・灰白色粒を少量含む		
670	瓦質土器	高台付塊	A 2 D12Gr	V a	推定 13.8			回転ナデ	回転ナデ	堅緻	黄灰色	淡黄色	1 ㎜以下の黄灰色・黒褐色粒を含む		
671	瓦質土器	高台付塊 口縁部	A 3 J10Gr	V a				回転ナデ	回転ナデ	堅緻	灰色	灰色	4 mm以下の灰色粒をわずかに含む		
672	瓦質土器	高台付埦 胴部~底部	A 2 C12Gr	V a 上		推定 7.2		回転ナデ、ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	堅緻	灰色	灰白色	1 m以下の灰白色・黒褐色粒をわずか に含む		
		高台付埦	A 2			推定		回転ナデ、ナデ							

第32表 古代土師器観察表14

遺物		出土			計	測値		色	調		***	-14
番号	器 種	地点	層位	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量(g)	外面	内面	胎土.	備	考
221	土製品	A 2 SC4	_	5.9	3.6	1.6	21.1	浅黄橙色		2mm以下の軟質赤色・黒色・灰色粒を少量 含む。		
222	土製品	A 2 SC4	-	10.5	4.6	4.1	94.1	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	2 mm 以下の軟質赤色・黒色光沢・透明光沢 粒を含む。		
674	鞴羽口	A 2 D12 • 13Gr	Va上 Va	10.8	8.4	8.1	300.0	浅黄橙色 にぶい 黄橙色	にぶい橙色	3 mm 以下の赤色粒, 1 mm 以下の白色・褐色・赤褐色粒を含む。にぶい橙色と明褐色土がマーブル状になっている	ガラス	質付着
675	鞴羽口	A 2 B19 • D13Gr	V a	9.9	7.5	7.8	384.0	浅黄橙色 灰黄色	浅黄橙色	4 mm の赤褐色粒・2 mm 以下の褐灰・灰褐 色粒・1 mm 以下の灰色粒を含む。	鉄分・ガラ	ス質付着
676	紡錘車	A 2 B13 • D14Gr	V a	7.6	7.6	0.9	36.0	橙色	橙色	3 mm 以下の軟質赤色粒子をわずか、1 mm 以下の透明光沢粒・黒色光沢粒を少量含む。	穿孔径 1.4	cm、欠損
677	紡錘車	A 2 D12Gr	V a	6.9	3.1	0.8	18	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	2 mm 以下の軟質赤色・灰白粒、微細な透明 光沢粒を少量含む。		
678	紡錘車	A 2 D13Gr	V a	4.6	3.2	0.9	11	にぶい 橙 色	にぶい 黄橙色	2 mm 以下の軟質赤色粒、微細な透明光沢粒を少量含む。高師小僧を含む		
679	紡錘車	A 2 D13Gr	V a	3.4	3.3	0.8	6	にぶい 黄 色	にぶい 黄橙色	1 mm 以下の褐灰・微細な透明光沢粒を少量 含む。		
680	土製品	A 2 D15Gr	V a	4.7	1.7	1.2	5.7	浅黄橙色	-	1 mm 以下の黒色・灰白色粒をわずかに含む。	中央に径5 有	
681	土製品	A 2 C13Gr	V a	4.2	2.1	0.8	8.8	明黄褐	=	1 mm 以下の軟質赤色・灰白粒・黒色・透明 光沢粒を少量含む。		
682	土製品	A 2 C13Gr	V a	7.8	1.9	1.7	18.2	橙色	_	1 mm 以下の灰白粒・黒色・透明光沢粒を少量含む。		

第33表 古代土製品計測表

遺物	nn 16	ata table be	E 4.		計	則 値		
番号	器 種	出土地点	層位	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量(g)	備考
305	鉄鏃	B 1 SE1	_	9.3	1.7	1.6	20	茎部か。全体が木質で覆われている。
683	鋤先	A 2 B16Gr	Va上	6.2	3.2	1.05	16.0	
684	鋤先	B 1	_	6.2	3.2	1.05	16	
685	鉄鏃	A 2 C14Gr	V a	4.1	2.2	0.55	16.0	
686	鉄鏃	_	_	9.3	0.6	0.4	31.0	茎部か

第34表 古代鉄製品計測表

遺物	46 Dil	器種	rtr alabate	屋丛		計	則 値		/#= ±z
番号	種別	部位	出土地点	層位	口 径(cm)	底 部(cm)	器 高(cm)	重 量(g)	備 考
687	滑石製品	石 鍋	A 2 C14Gr	V a	=	_	_	226.2	把手

第 35 表 古代滑石製品計測表

遺物	00 66	tti Lak E	R 4		計(則値		- H	ttt: +x
番号	器 種	出土地点	層位	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量(g)	石 材	備考
		A 2 SC1 • SC11							
311	金床石	焼土 5・C13・		27.5	17.5	3.95	1,890	凝灰岩	
		D12 • 13Gr	V a						
671	軽石製品	A 2 SC4	_	16.1	12.2	8.6	354.5	軽石	上右部欠損、面取
672	軽石製品	A 2 SC4	_	6.9	12.7	7.1	139.1	軽石	上下右部欠損、面取
388	軽石製品	A 2 SC11	_	3.1	5.3	3.6	15	軽石	面取
402	軽石製品	A 3 SC14	_	12.7	4.1	3.1	44.1	軽石	上右部欠損、面取
403	支柱	A 3 SC14	_	17.75	6	5	172	軽石	風化ぎみ
688	有孔石製品	A 2 C17Gr	V a	4.6	5.2	1.0	32	砂岩	穿孔径 0.75cm、下部欠損
689	砥石	A 3 H12Gr	IV	6.1	8.5	2.5	226	砂岩	上下右部欠損
690	砥石	A 2 E13Gr	Va上	4.5	4.3	0.8	25	砂岩	上下左部欠損
691	砥石	A 2 D15Gr	V a	12.9	3.5	2.6	202	砂岩	
692	砥石	B 2 Y2Gr	V a	11.2	4.0	1.7	178	砂岩	
693	砥石	A 3 J9Gr	V a	15.2	8.8	4.9	930	砂岩	
694	砥石	A 2 D11Gr	V a	26.8	11.6	9.1	3432	砂岩	
695	軽石製品	A 2 D12Gr	V a	5.3	8.5	2.8	35	軽石	面取、下部欠損
696	軽石製品	A 3 H12Gr	IV	5.5	6.1	5.1	43	軽石	面取

第36表 古代石製品計測表

第IV章 自然科学分析

株式会社 古環境研究所

第1節 顏料分析(蛍光X線分析)

1. はじめに

物質にX線を照射すると、その物質を構成している元素に固有のエネルギー(蛍光X線)が放出され、この蛍光X線を分光して波長と強度を測定することで、物質に含まれる元素の種類や量を調べることができる。

この方法を用いて、考古学分野では朱やベンガラなどの顔料分析、金属製品の素材分析、リン - カルシウム分析などが行われている。また、指標となる特定の元素の検出パターンの比較から、土器(須恵器など)の生産地推定や石器(黒曜石など)の産地推定も行われている。

古代の赤色顔料としては、一般的に水銀朱(硫化水銀:HgS)、ベンガラ(酸化第二鉄: Fe_2O_3)、鉛丹(酸化鉛: Pb_3O_4)が知られている(市毛、1998、本田、1995)。蛍光X線分析では、水銀(Hg)・イオウ(S)、鉄(Fe)、鉛(Pb)の元素の検出状況から赤色顔料の種類を推定することが可能である。

2. 試料

分析試料は、SA 3 竪穴建物跡から採取された赤色物の塊である(写真参照)。なお、試料の赤色部分と非赤色部分の 2 箇所を測定して比較検討を行った。

3. 分析方法

エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置(日本電子(料製, JSX3100R II)を用いて、元素の同定およびファンダメンタルパラメータ法(FP 法)による定量分析を行った。測定の条件は、測定時間 240 秒、照射径 7.0mm、電圧 30kV、試料室内真空、プロレンフィルム使用である。また、光学顕微鏡下(1000倍相当)で赤色物の粒子形状を観察した。

4. 分析結果

第35表に各元素の定量分析結果(wt%)を示す。定量分析 結果は、慣例により代表的な酸化物名で表記した。なお、測 定に際してプロレンフィルムを使用していることから、定量 分析結果の数値は必ずしも正確なものとはいえない。

5. 考察

蛍光 X線分析の結果、試料の赤色部分では鉄(Fe)の明瞭なピークが認められた。鉄(Fe_2O_3)の含量は、赤色部分では 40.3%、非赤色部分では 20.7%であり、赤色部分では比較

赤色物の塊 試料 原子No. 化学式 赤色部 非赤色部 MgO 12 0.713 0.395 13 Al203 16.795 22.199 SiO2 36.068 49.247 14 19 K20 1.284 1.590 20 CaO 2.834 3.695 TiO2 1.260 1.528 25 MnO 0.508 0.407 26 Fe203 40.348 20.747 30 ZnO 0.053 0.038 37 Rb2O 0.038 0.018 38 SrO 0.042 0.049 ZrO2 0.068 40 0.056 0.003 0.017 80 HgO PbO 0.000 0.004

第37表 赤色物の蛍光 X線分析結果

試料の約2倍と明らかに高い値である。また、赤色部分では顕微鏡観察によりパイプ状粒子が確認され

た(写真参照)。なお、水銀(Hg)や鉛(Pb)はほとんど検出されなかった。

以上の結果から、赤色物の塊はパイプ状粒子が密集したパイプ状ベンガラ(岡田,1997)と考えられる。 パイプ状ベンガラは、沼沢地などに生育する鉄バクテリアの生産物 (パイプ状の鞘細胞) を焼成して生産されたと考えられている (大久保,2000,内山ほか,2012)。

文献

市毛 勲(1998)新版朱の考古学. 考古学選書. 雄山閣出版

内山伸明・橋本英樹・古谷充章・團野瑛章・辻広美・高田潤(2012)赤色顔料の原料採取地を求めて一鹿児島県上水流遺跡・関山遺跡の例から一. 鹿児島県立埋蔵文化財センター研究紀要第5号, p.47-54.

大久保浩二 (2000) 鹿児島県出土の赤色顔料-日本最古の赤彩土器をはじめとして. 人類史研究 12, p.163-169. 岡田文男 (1997) パイプ状ベンガラ粒子の復元. 日本文化材科学会研究発表要旨集, 14. p.38-39.

本田光子(1995) 古墳時代の赤色顔料. 考古学と自然科学. 31·32, p.63-79.

本田光子(2003)「朱」から見た弥生時代の文化交流-博多湾沿岸地域に残された辰砂の謎-. 日本文化財科学会報, 46, p.25-32.

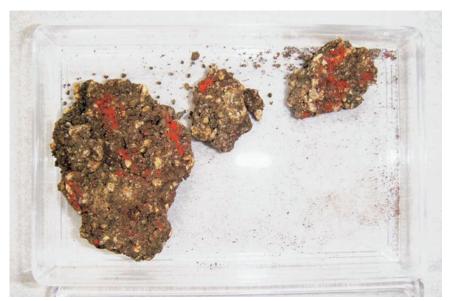


写真1 SA3から出土した赤色物塊写真

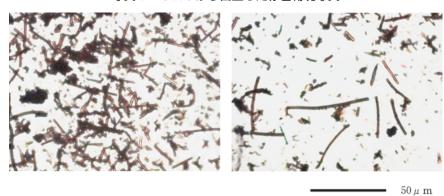


写真 2 赤色物の顕微鏡写真

第2節 種実同定

1. はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物や遺構内などに残存している場合がある。堆積物や遺構埋土などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や植物利用の実態を明らかにすることができる。

2. 試料

試料は、竪穴建物跡(SA 2、SA 4)や土坑(SC 4、SC17)から採取された炭化種実類である。試料の詳細を分析結果表に示す。

3. 方法

種実類について肉眼および双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同 定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

4. 結果

(1) 分類群

種実同定の結果、樹木 4、草本 8 の計 12 分類群が同定された(第 36 表)。以下に同定根拠となる形態的特徴を記載し、主要な分類群について写真を示す。

試料	416	z = bioloi	分類群		÷17 / L	/r=146L	/+t: -+x
番号	灯》	象試料	学名	和名	部位	個数	備考
番号	SA2						種実無し
3	SA4	1					種実無し
		2	Zanthoxylum	サンショウ属	種子	1	
			Polygonum	タデ属	果実	1	
			Chenopodium	アカザ属	種子	1	
		4	Swida controversa Hemsl.	ミズキ	核 (破片)	1	
			Cornus brachypoda C.A. Mey.	クマノミズキ	核 (破片)	1	
			Polygonum	タデ属	果実	3	
			Cocculus orbiculatus DC.	アオツヅラフジ	種子	1	
			Rubiaceae	アカネ科	種子	1	
			Perilla frutescens var. japonica Hara	エゴマ	果実	17	
4	SC17						種実無し
5	SC4		Cornus brachypoda C.A. Mey.	クマノミズキ	核 (破片)	2	
			Oryza sativa L.	イネ	果実	4	
			Hordeum-Triticum	ムギ類	果実(破片)	3	
			Vigna	ササゲ属	子葉(破片)	3	
		262	Prunus persica Batsch	モモ	核	2	同一個体の破片
					(破片)	6	有り

第38表 炭化種実同定結果

[樹木]

モモ Prunus persica Batsch 核(完形・破片) バラ科

黄褐色〜黒褐色で楕円形を呈し、側面に縫合線が発達する。表面にはモモ特有の隆起がある。長さ×幅:21.54mm×13.74mm

サンショウ属 Zanthozylum 種子 ミカン科

黒色で楕円形を呈し、側面にへそがある。表面には網目模様がある。この分類群はへそが欠落し破片のため、属レベルの同定までである。長さ×幅:2.88mm×2.55mm

ミズキ Cornus controversa Hemsl. 核(破片) ミズキ科

黒褐色で横長の楕円形を呈す。表面には縦方向に深い筋が走る。

クマノミズキ Cornus brachypoda C. A. Mey. 核(破片) ミズキ科

淡褐色で球形を呈す。表面に一本の広い溝がめぐり、数本の細い縦筋が走る。

[草本]

イネ Oryza sativa L. 果実 イネ科

炭化しているため黒色である。長楕円形を呈し、胚の部分がくぼむ。表面には数本の筋が走る。長さ \times 幅: $4.00m\times2.70m$ 、 $4.26m\times2.81m$

ムギ類 (オオムギ - コムギ) Hordeum-Triticum 果実(破片) イネ科

オオムギもしくはコムギと思われるが、発泡しているためムギ類とした。長さ×幅:4.81mm× 2.85mm タデ属 Polygonum 果実 タデ科

黒褐色で頂端の尖る広卵形を呈す。断面は三角形、表面には光沢がある。長さ×幅:1.69mm× 1.16mm アカザ属 Chenopodium 種子 アカザ科

黒色で光沢があり円形を呈し、片面の中央から周縁まで浅い溝が走る。長さ×幅:1.13mm×1.22mm アオツヅラフジ Cocculus trilobus DC. 種子 ツヅラフジ科

茶褐色で円形を呈し、中央部は大きくくぼむ。縁は隆起し、隆起上には放射状の模様がある。長さ×幅:3.18mm×3.40mm

ササゲ属 Vigna 子葉 マメ科

黒色で楕円形を呈す。へそは縦に細長い。長さ×幅:4.21mm× 2.76mm× 2.63mm

ササゲ属にはリョクトウ、アズキ、ササゲなどの栽培植物が含まれるが、現状では識別は困難である。 アカネ科 Rubiaceae 種子

偏球形を呈し、背面は広楕円状円形である。中央に円形の穴がある。長さ×幅:2.19㎜× 1.86㎜ エゴマ Perilla frutescens var. japonica Hara 果実 シソ科

黒褐色〜灰褐色で球形を呈し、下端はわずかに突出する。表面に大きい網目模様がある。径 $2.2 \sim 2.4 \,\mathrm{mm}$ 。径 $2.2 \,\mathrm{mm}$ 以上をエゴマとした。長さ×幅: $1.83 \,\mathrm{mm} \times 1.34 \,\mathrm{mm}$ 、 $1.80 \,\mathrm{mm} \times 1.35 \,\mathrm{mm}$

(2) 種実群集の特徴

SA 2 (試料 2)
 種実は認められなかった。

SA 4① (試料3)
 種実は認められなかった。

3) SA 4② (試料3)

樹木種実のサンショウ属1、草本種実のタデ属1、アカザ属1が認められた。

4) SA 4 ④ (試料3)

樹木種実のミズキ1、クマノミズキ1、草本種実のタデ属3、アオツヅラフジ1、アカネ科1、エゴマ17が認められた。

5) SC17 (試料4)

種実は認められなかった。

6) SC 4 (試料5)

樹木種実のクマノミズキ2、草本種実のイネ4、ムギ類3、ササゲ属3が認められた。

7) SC 4·262 (試料5)

樹木種実のモモ8が認められた。

5. 種実同定から推定される植生と農耕

種実同定の結果、SA 4の②ではサンショウ属、タデ属、アカザ属、SA 4の④ではミズキ、クマノミズキ、タデ属、アオツヅラフジ、アカネ科、エゴマ、SC 4ではイネ、ムギ類、ササゲ属、クマノミズキ、箱内 262 ではモモが認められた。なお、SA 2、SA 4の①、SC17 では種実は認められなかった。

SA 4の④で認められたエゴマ、SC 4で認められたイネ、ムギ類、ササゲ属、モモは栽培植物である。 SA 4で認められたサンショウ属、ミズキ、クマノミズキは、二次林や集落周辺に多い樹木であり、タデ属、アカザ属、アオツヅラフジ、アカネ科は、集落や畑およびその周辺のやや乾燥した人為地に生育する草本である。

文献

笠原安夫(1985)日本雑草図説,養賢堂,494p.

笠原安夫(1988)作物および田畑雑草種類. 弥生文化の研究第2巻生業, 雄山閣出版, p.131-139.

金原正明(1996) 古代モモの形態と品種. 月刊考古学ジャーナル No.409, ニューサイエンス社, p.15 - 19.

吉崎昌一(1992) 古代雑穀の検出. 月刊考古学ジャーナルNo. 355, ニューサイエンス社, p.2-14.

第3節 樹種同定

1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

2. 試料

試料は、竪穴建物跡(SA 2、SA 3)、土坑(SC 1、SC 4、SC 5、SC22)、不明遺構(SZ 1)、焼土(焼土8)から採取された炭化材 8 点である。なお、試料はいずれも軟質の消し炭 (からけし) の状態である。

3. 方法

以下の手順で樹種同定を行った。

- 1) 試料を洗浄して付着した異物を除去
- 2) 試料を割折して、木材の基本的三断面(横断面:木口,放射断面:柾目,接線断面:板目)を作成
- 3) 落射顕微鏡(40~1000倍)で観察し、木材の解剖学的形質や現生標本との対比で樹種を同定

4. 結果

第37表に同定結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

試料番号	対象	試料	結果(学名/和	1名)	状態	復元径
6	SA2	炭化材	Melia azedarach L. var. subtripinnata Miq.	センダン	消し炭	約 10cm
7	SA3	炭化材	Castanopsis sieboldii Hatusima	スダジイ	消し炭	約 10cm
8	SC1	炭化材	Melia azedarach L. var. subtripinnata Miq.	センダン	消し炭	約 10cm
9	SC4	炭化材	Lauraceae	クスノキ科	消し炭	5-10cm
10	SC5	炭化材	Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属	消し炭	約 10cm
11	SC22	炭化材	Castanopsis sieboldii Hatusima	スダジイ	消し炭	10cm 以上
12	SZ1	炭化材	Castanopsis sieboldii Hatusima	スダジイ	消し炭	15cm 以上
13	焼土8	炭化材	Cleyera japonica Thunb.	サカキ	消し炭	5-10cm

第39表 樹種同定結果

スダジイ Castanopsis sieboldii Hatusima ブナ科 試料7、11、12

年輪のはじめに中型から大型の道管がやや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。放射組織は単列の同性放射組織型を示す。

以上の特徴からスダジイに同定される。スダジイは本州(福島県、新潟県佐渡以南)、四国、九州に 分布する。常緑の高木で、高さ 20 m、径 1.5 mに達する。材は耐朽・保存性やや低く、建築、器具な どに用いられる。

コナラ属アカガシ亜属 Quercus subgen. Cyclobalanopsis ブナ科 試料 10

横断面では、中型から大型の道管が1~数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。道管の穿孔は単穿孔、放射組織は同性放射組織型で単列のものと大型の 広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の特徴からコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ30 m、径1.5 m以上に達する。材は堅硬で強靭、弾力性強く耐湿性も高い。特に農耕具に用いられる。

クスノキ科 Lauraceae 試料 9

中型から小型の道管が単独および2~数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の周囲を 鞘状に軸方向柔細胞が取り囲んでいる。道管の穿孔は単穿孔のものが存在する。放射組織はほとんどが 平伏細胞で上下の縁辺部のみ直立細胞からなる。放射組織は異性放射組織型で1~3細胞幅である。上 下の縁辺部のみ直立細胞である。

以上の特徴よりクスノキ科に同定される。クスノキ科には、クスノキ、ヤブニッケイ、タブノキ、カゴノキ、シロダモ属などがあり、道管径の大きさ、多孔穿孔および道管内壁のらせん肥厚の有無などで 細分できるが、道管径以外の点が不明瞭なためクスノキ科の同定までである。なお、道管径の大きさか らクスノキ以外のクスノキ科の樹種のいずれかである。

センダン Melia azedarach L. var. subtripinnata Miq. センダン科 試料 6、8

年輪のはじめに大型の道管がやや疎に配列する環孔材である。孔圏部外の道管は単独または2~3個複合して散在し、年輪界付近の小道管は群状に複合する。道管の径は徐々に減少する。道管の穿孔は単穿孔で、小道管および中型の道管の内壁にらせん肥厚が存在する。放射組織は平伏細胞である。放射組織は同性放射組織型で、1~6細胞幅である。小道管および中型の道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

以上の特徴よりセンダンに同定される。センダンは、四国、九州に分布する。落葉の高木で、高さ30m、径1mに達する。材は強さ中庸で、建築、家具、器具などに用いられる。

サカキ Cleyera japonica Thunb. ツバキ科 試料 13

横断面では小型の道管が単独ないし2個複合して密に散在する散孔材である。放射断面では道管の穿孔が階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は多く60を越えるものも観察される。放射組織は平伏細胞、方形細胞、直立細胞からなる異性である。接線断面では、放射組織が異性放射組織型で単列を示す。

以上の特徴よりサカキに同定される。サカキは関東以西の本州、四国、九州、沖縄に分布する。常緑高木で、通常高さ8~10 m、径 20~30cmである。材は強靭、堅硬で、建築、器具などに用いられる。

5. 所見

樹種同定の結果、スダジイ3点、センダン2点、コナラ属アカガシ亜属1点、クスノキ科1点、サカキ1点が認められた。

SA3、SC22、SZ1で認められたスダジイは、やや重厚で耐久・保存性は低い材であり、温帯下部の暖温帯に分布する照葉樹林の主要構成要素あるいは二次林要素である。九州において古くからシイ属を木地として容器に利用するなどの例は多いが、スダジイの同定例はやや少ない。なお、縄文時代および弥生時代の九州においてスダジイには礎板や柱などの建築部材、自然木や用途不明品の他に板や棒などの施設材、刳物の鉢などの同定例がある。試料7と試料11は復元径が約10cm、試料12は復元径15cm以上であり、中木から高木程度でいずれも柱材としての利用も考えられる大きさである。

SA2 と SC1 で認められたセンダンは、強さ中庸の材であり、暖地の海辺沿いや山地に自生する落葉高木である。九州における同定例は少ないが、建築部材、杭、板材などの例が見られる。センダンは暖地の海岸沿いに多く、地域的に特有な樹木である。試料6と試料8は、ともに年輪が比較的平行であることから中木以上の大きさの木材とみられ、建築部材としての利用も考えられる。

SC5 で認められたコナラ属アカガシ亜属は、硬堅な材であり建築材などに広く用いられるが、西南日本では弥生時代以降になると特に農耕具を中心に用いられる傾向にあり、薪炭としての利用もある。コナラ属アカガシ亜属は、一般にカシと総称されるが、イチイガシ、アラカシなど多くの種があり、温帯下部の暖温帯の照葉樹林を形成する主要高木である。

SC4 で認められたクスノキ科は、クスノキ、タブノキ、ヤブニッケイなどがあり、概して強さ耐久性ともに中庸な樹木である。九州では鋤、鍬、燃料材、柱などの同定例があり、弥生時代においてはクス

ノキとタブノキ属が容器として利用される例が多い。温帯下部の温暖な暖温帯に分布し、照葉樹林の主要構成要素を含む常緑高木である。なお、クスノキ科の中でクスノキは、九州や瀬戸内の沿岸の遺跡に特有に多い選材である。

焼土8で認められたサカキは、強靱、堅硬な材で、現代では建築部材や器具、薪炭などに利用され、 枝葉は神事に利用される。縄文時代の九州では報告例は少なく用途の確かなものはほとんどない。縄文 時代後・晩期になると用途は杓子、杭、建築部材など多様になり、九州北部では斧柄が目立ち、九州南 部では例は少ないが鍬柄、弓、杭などがあり、また燃料材としての利用も見られる。サカキは常緑高木 で温帯ないし暖温帯に生育する照葉樹林の構成要素である。

木材の復元径は、10cmないしそれ以上に達するものがほとんどで、柱などの建築材としての利用も可能な木材である。なお、試料はいずれもやや柔らかく焼き膨れの多い燃焼した消し炭(からけし)状態であり、火災で燃焼したか燃料材として利用されたと考えられる。

スダジイ、コナラ属アカガシ亜属、サカキは温帯ないし暖温帯に生育する照葉樹林の構成要素であり、センダン、クスノキ科は海岸沿いに生育する樹木である。いずれも温暖な西南日本に分布する樹種であり、当時の遺跡周辺もしくは近隣の地域で採取可能であったと考えられる。

体文

伊東隆夫・山田昌久(2012)木の考古学. 出土木製品用材データベース. 海青社, 449p.

島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司(1985)木材の構造. 文永堂出版, 290p. 島地 謙・伊東隆夫(1988)日本の遺跡出土木製品総覧. 雄山閣, 296p.

山田昌久(1993)日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成-用材から見た人間・植物関係史. 植生史研究 特別1号. 植生史研究会, 242p.

第4節 放射性炭素年代測定

1. はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素(14 C)の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壌、土器付着炭化物などが測定対象となり、約5万年前までの年代測定が可能である(中村,2003)。

2. 試料と方法

第38表に、測定試料の詳細と前処理・調整法および測定法を示す。

3. 測定結果

加速器質量分析法(AMS:Accelerator Mass Spectrometry)によって得られた 14 C 濃度について同位体分別効果の補正を行い、放射性炭素(14 C)年代および暦年代(較正年代)を算出した。表 4 にこれらの結果を示し、第 72 図・第 73 図に暦年較正結果(較正曲線)を示す。

(1) δ^{rhg} 13 C 測定値

試料の測定 14 C $/^{12}$ C 比を補正するための炭素安定同位体比 (13 C $/^{12}$ C)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。試料の δ 13 C 値を -25(‰) に標準化することで同位体分別 効果を補正している。

(2) 放射性炭素(14 C) 年代測定値

試料の 14 C 12 C 比から、現在(AD1950 年基点)から何年前かを計算した値。 14 C の半減期は 5730 年であるが、国際的慣例により Libby の 5568 年を用いている。統計誤差(±)は 16 (68.2% 確率)である。 14 C 年代値は下 14 桁を丸めて表記するのが慣例であるが、暦年較正曲線が更新された場合のために下 14 桁を丸めない暦年較正用年代値も併記した。

(3) 暦年代 (Calendar Years)

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中 14 C 濃度の変動および 14 C の半減期の違いを較正することで、放射性炭素 (14 C) 年代をより実際の年代値に近づけることができる。暦年代較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な 14 C 測定値およびサンゴの U/Th (ウラン / トリウム) 年代と 14 C 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。較正曲線のデータは IntCal 13、較正プログラムは OxCal 4.2である。

暦年代(較正年代)は、 14 C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅で表し、OxCal の確率法により 10

⇒_Dyled a r	1104V 57 244M	1		2014-24
試料No.	試料の詳細	種類	前処理・調整法	測定法
No. 6	SA 2	炭化材(センダン)	超音波洗浄,酸 - アルカリ - 酸処理	AMS
No. 7	SA 3	炭化材(スダジイ)	超音波洗浄,酸 - アルカリ - 酸処理	AMS
No. 8	SC 1	炭化材(センダン)	超音波洗浄,酸 - アルカリ - 酸処理	AMS
No. 9	SC 4	炭化材(クスノキ科)	超音波洗浄,酸 - アルカリ - 酸処理	AMS
No. 10	SC 5	炭化材(コナラ属アカガシ亜属)	超音波洗浄,酸 - アルカリ - 酸処理	AMS
No. 11	SC22	炭化材(スダジイ)	超音波洗浄,酸 - アルカリ - 酸処理	AMS
No. 12	SZ 1	炭化材(スダジイ)	超音波洗浄,酸 - アルカリ - 酸処理	AMS
No. 13	焼土8	炭化材(サカキ)	超音波洗浄,酸 - アルカリ - 酸処理	AMS
No. 14	土器片	土器付着炭化物	超音波洗浄,酸 - アルカリ - 酸処理	AMS

第 40 表 放射性炭素年代測定試料一覧

4. 所見

加速器質量分析法(AMS)による放射性炭素年代測定の結果、No.6では 1670 ± 20 年 BP(2σ の 暦年代で AD $337\sim417$ 年)、No.7では 1700 ± 20 年 BP(AD $257\sim285$, $290\sim295$, $321\sim400$ 年)、No.8 では 1220 ± 20 年 BP(AD $721\sim741$, $766\sim882$ 年)、No.9 では 1300 ± 20 年 BP(AD $663\sim719$, $742\sim767$ 年)、No. 10 では 1190 ± 20 年 BP(AD $775\sim886$ 年)、No. 11 では 1260 ± 20 年 BP(AD $684\sim773$ 年)、No. 12 では 1380 ± 20 年 BP(AD $625\sim670$ 年)、No. 13 では 1220 ± 20 年 BP(AD $714\sim744$, $765\sim886$ 年)、No. 14 では 2805 ± 20 年 BP(BC $1007\sim907$ 年)の年代値が得られた。

文献

中村俊夫(2000)放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の 14C 年代編集委員会編「日本先史時代の 14C 年代」. 日本第四紀学会, p.3-20.

中村俊夫(2003)放射性炭素年代測定法と暦年代較正.環境考古学マニュアル. 同成社, p.301-322.

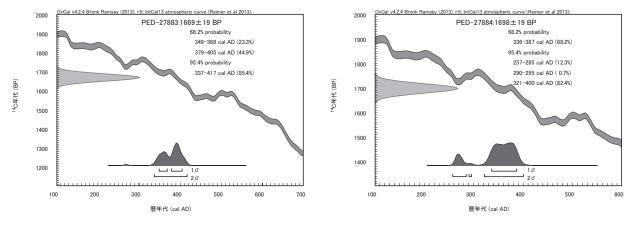
Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

Paula J Reimer et al., (2013) IntCal 13 and Marine 13 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55, p.1869-1887.

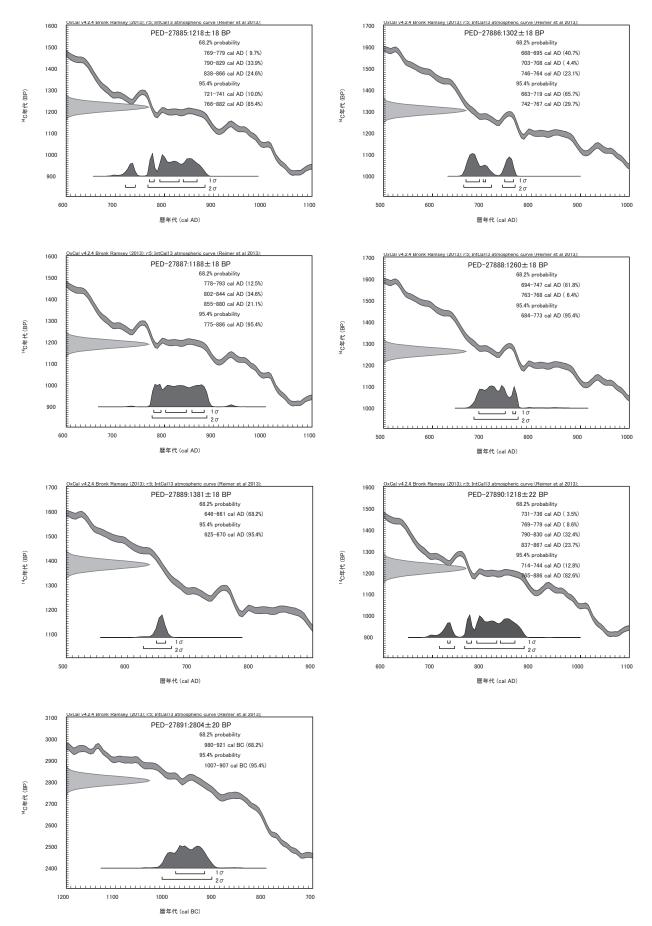
試料No.	測定No.	δ 13C	14C 年代:年 BP	暦年代	(較正年代):cal-
市八个十100.	(PED-)	(‰)	(暦年較正用)	1 σ (68.2%確率)	2 σ (95.4%確率)
No. 6	27883	-25.00 ± 0.18	1670 ± 20	AD 349-368 (23.3%)	AD 337-417 (95.4%)
IVO. O			(1669 ± 19)	AD 379-405 (44.9%)	
	27884	-30.12 ± 0.17	1700 ± 20	AD 336-387 (68.2%)	AD 257-285 (12.3%)
No. 7			(1698 ± 19)		AD 290-295 (0.7%)
					AD 321-400 (82.4%)
	27885	-25.62 ± 0.16	1220 ± 20	AD 769-779 (9.7%)	AD 721-741 (10.0%)
No. 8			(1218 ± 18)	AD 790-829 (33.9%)	AD 766-882 (85.4%)
				AD 838-866 (24.6%)	
	27886	-25.72 ± 0.14	1300 ± 20	AD 668-695 (40.7%)	AD 663-719 (65.7%)
No. 9			(1302 ± 18)	AD 703-708 (4.4%)	AD 742-767 (29.7%)
				AD 746-764 (23.1%)	
	27887	-27.35 ± 0.15	1190 ± 20	AD 778-793 (12.5%)	AD 775-886 (95.4%)
No. 10			(1188 ± 18)	AD 802-844 (34.6%)	
				AD 855-880 (21.1%)	
N 11	27888	-28.04 ± 0.14	1260 ± 20	AD 694-747 (61.8%)	AD 684-773 (95.4%)
No. 11			(1260 ± 18)	AD 763-768 (6.4%)	
N 10	27889	-29.00 ± 0.14	1380 ± 20	AD 646-661 (68.2%)	AD 625-670 (95.4%)
No. 12			(1381 ± 18)		
	27890	-31.94 ± 0.29	1220 ± 20	AD 731-736 (3.5%)	AD 714-744 (12.8%)
N- 10			(1218 ± 22)	AD 769-779 (8.6%)	AD 765-886 (82.6%)
No. 13				AD 790-830 (32.4%)	
				AD 837-867 (23.7%)	
No. 14	27891	-26.77 ± 0.16	2805 ± 20 (2804 \pm 20)	BC 980-921 (68.2%)	BC 1007-907(95.4%)

BP:Before Physics (Present), cal:calibrated, BC:紀元前, AD:西暦

第 41 表 放射性炭素年代測定結果



第71図 暦年較正結果1



第72図 暦年較正結果2

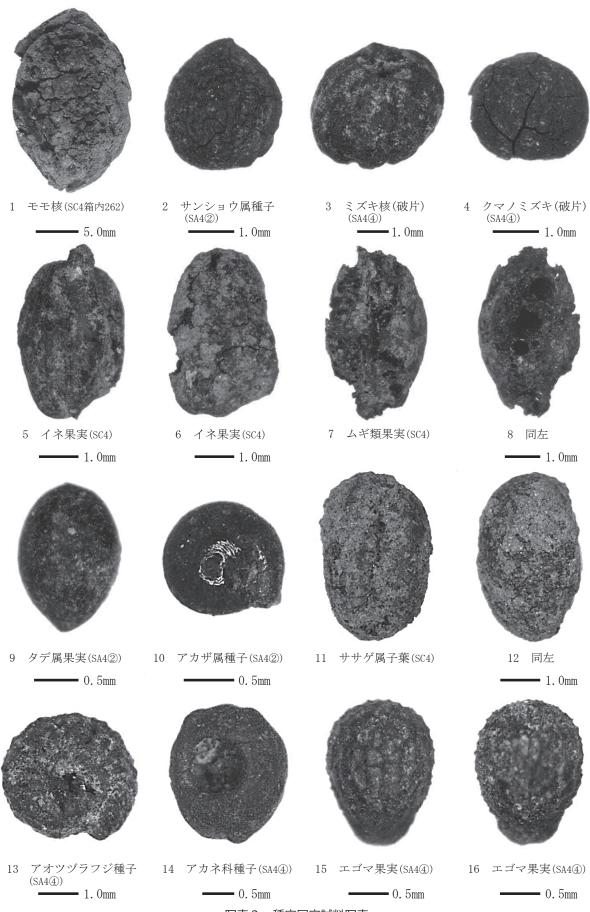


写真 3 種実同定試料写真

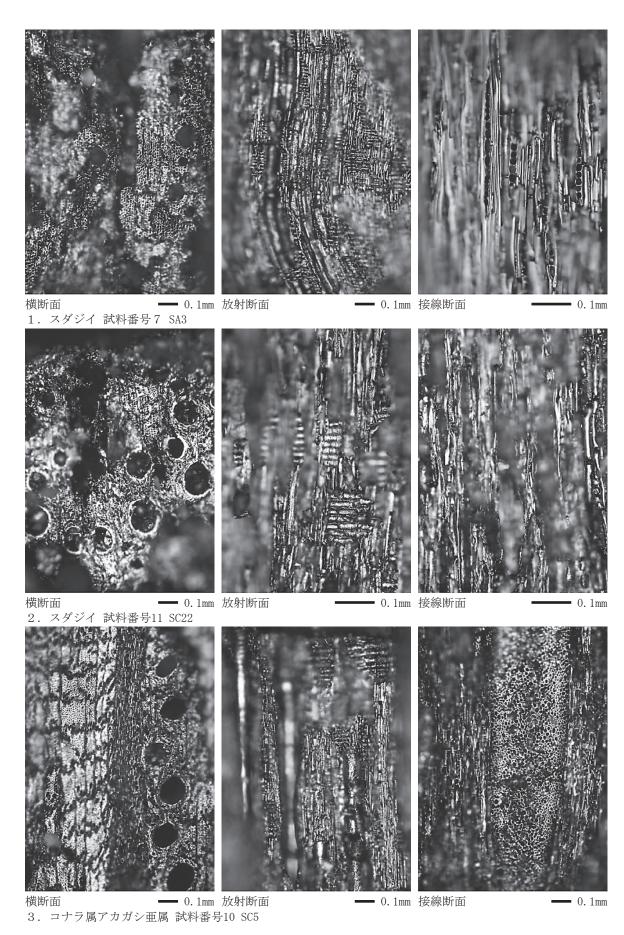


写真 4 樹種同定試料写真 1

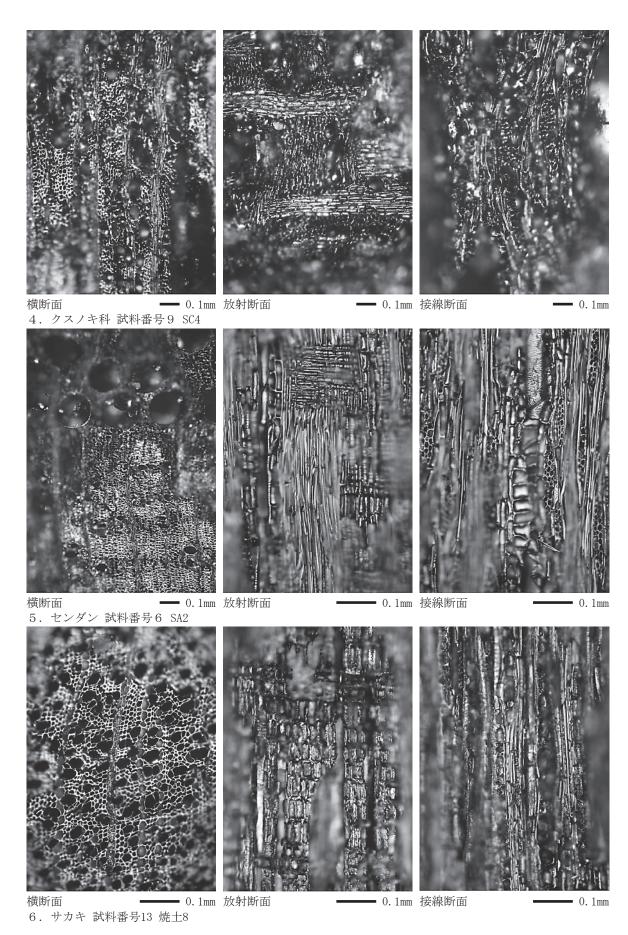


写真 5 樹種同定試料写真 2

第V章 総括

大窪第1遺跡は、大淀川右岸に発達した標高約131mの河岸段丘上に立地する遺跡で縄文時代晩期の土坑や弥生時代の竪穴建物跡、古墳時代の竪穴建物跡、古代の溝状遺構や土坑、焼土、性格不明遺構が確認されている。また遺物では、縄文土器や弥生土器、古墳時代~古代の土師器、須恵器、瓦質土器、土製品、滑石製品、石器・石製品、軽石製品などが出土している。ここでは、これらの遺構・遺物について、時代毎にまとめていきたい。

縄文時代

縄文時代では、B区を中心に後期~晩期の遺物が出土している。そのうち後期では、17の沈線文による区画等から後期前葉の指宿式土器の可能性がある。20~33は後期中葉の所産で、そのうち20・21・23・24は文様の特徴から20・21は丸尾式土器、23・24は納曽式土器である。22は口縁部を肥厚させ、口唇部に刻目が入る等、北久根山式土器の特徴をもつ。25~29、31~33は、球状の胴部から頸部でくびれ、口縁部に向かって大きく開き、逆「く」の字に屈折する口縁部をもつ器形で磨消縄文等を有することから西平式系土器と考えられる。これらのことから後期前葉から徐々に人々の生活が確認できるようになる。

晩期なると遺物の出土量が多くなり、人々の生活が活発になる。一部で晩期前葉の入佐式土器(34・76)並行のものや晩期後葉の刻目突帯文土器が認められるものの、大半が晩期中葉の黒川式土器期のもので、深鉢や鉢・浅鉢など様々なバリエーションが認められる。そのうち黒川式の新段階(宮地2008)に位置付けられる無刻目突帯文土器(57)の外面に付着した炭化物の 14 C 年代(A M S)は 2805 ± 20 年 B P(暦年代:B C $1007\sim907$ 年、 σ 13 C :-26.77 \pm 0.16‰)の測定値を得ており、藤尾氏のいう刻目突帯文土器が併行する黒川式新(藤尾ほか 2006)に測定値に近い。この時期までこのタイプの土器が残るのか資料の蓄積を待ちたい。

石器では、狩猟具(石鏃・尖頭器)、調理具(石匙・スクレイパー)、製粉具(磨石・敲石)、土掘り具(打製石斧)、工具(磨製石斧・石錐・楔形石器・敲石)、漁撈具(石錘)、等が出土しており、石鏃や打製石斧の出土が比較的多い。また石核や二次加工剥片、調整剥片(石斧)、砕片等も認められることから、石器製作が行われていたことが窺われる。なお石錘については、川沿いに立地するため漁撈が盛んなイメージがあったが、ほとんど見られず、他の時代でも古墳時代のものが1点と少ない。一方で河川敷には石錘に利用できそうな扁平礫もあることから、それらを直接利用したのか、この地域では漁撈があまり盛んではなかったのか、今後の検討課題である。

遺構については、土坑が確認されているのみで竪穴住居跡は確認されていないことからB区の南側に 集落が展開していた可能性がある。一方で東側に伸びる台地上(細井地区)では山城第1遺跡(後期前 葉〜晩期59軒)や上原第1遺跡(後期中葉8軒)や同第2遺跡(後期中葉1軒)、同第3遺跡(後期 前葉〜晩期4軒)で竪穴建物跡が確認されており、集落の中心は、台地上で形成されていたものと考え られる。

弥生時代

弥生時代では数が少ないものの、前期〜後期の遺物が出土している。そのうち前期〜中期にかけては、 B区で出土しており、前期後半の壺(193)、前期末〜中期初頭の甕(180・181)や中期の入来 I 式(182)、 入来 II 式(183)、下城式系土器(184・185)の甕が確認されている。

 $188 \sim 192$ 、 $195 \sim 197 \cdot 199$ は後期後半の土器群で、A 区でもみられるようになる。198 は底部の形状より終末期のものと考えられる。

遺構は、B区竪穴建物跡が1軒確認されている。遺物が少ないが、二重口縁壺の口縁部が出土していることから、後期のものと考えられる。遺構と遺物の出土範囲からB区の南側に集落が展開していた可能性がある。

古墳時代

古墳時代になるとA区に生活の場が移動する。当該期の竪穴建物跡が4軒(うち1軒はB区)を確認したが、うち3軒(A区2軒、B区1軒)については4m規模の方形プランもしくは方形プランに張り出しを持つもので、残り1軒は7m規模の台形状プランと大型である。そのなかでSA2については、北東部に長方形の張り出しを有しているが、貼床下の状況から構築時の建物跡に伴うコーナー部分の存在や南側段差の存在により建物を拡張した可能性が考えられる。また横穴状遺構については、建物床面と開口部の高さを同じくしていることや建物壁面から構築されていることから建物に伴う可能性がある。用途として墓(小児用)や祭祀、倉庫等考えられるが横穴内での遺物は確認されていないため、類例を待ちたい。遺物では、土器以外で鞴羽口(専用品)や金床石が出土している。鉄滓等は確認できなかったが、鋳造を行っていた可能性がある。なお、細井地区の上原第1遺跡では、後期の竪穴建物跡(12号)から高坏を転用した鞴羽口が出土しており興味深い。

SA3についても、複数の地床炉と貼床・硬化面下の柱穴や段差の存在から建物を拡張した可能性が 指摘できる。段差をもとに見ていくと北西部は不明瞭ながら約5.3 m×約4.6 mの長方形プランで南東 部張り出しを持つタイプの建物跡だったことが窺える。貼床下の遺物は、土器小片がわずかに出土した のみで時期差については不明だが、おそらく短期間に拡張したものと考えられる。

遺跡で出土した遺物のうち、竪穴建物跡について、概ね中期から後期にかけての時期と考えられる。時期については、今塩屋・松永編年(今塩屋・松永 2002)や近年提示された都城盆地における土師器編年(近沢 2016)を基に見ていくと、SA3では、口縁部が緩やかに外反しながら開き、頸部に刻目突帯を有する甕(225)が出土しているほか、高坏では坏部の稜が緩いもの(243)やエンタシス状の脚柱部(242・244)をもつもの、坏部と脚柱部の接続手法には円錐粘土塊による充填法がとられていること(242・243・245)、口径と胴部最大径がほぼ同規模の小型丸底壺(236)の存在から中期前半頃と考えられる。

SA2についても、高坏はSA3同様、坏部の稜が緩いもの(213)やエンタシス状の脚柱部をもつ(213・215・216)特徴が認められ、小型丸底壺(212)についても口径と胴部最大径がほぼ同規模なことから中期前半になると考えられる。

SA4は、遺物量が少ないが、口縁部に向かって緩やかに外反する甕(262)の特徴がSA2出土の甕(211)に近いことから中期頃と考えられる。

SA1については、尖底に近い丸底を呈し、口縁部は打ち欠かれているが、おそらく「く」の字に外反すると思われる甕(206)で宮崎平野部の特徴をもつものや胴部径が口縁部径よりも大きいもの(207)がみられる。また埦については口縁部が直立気味に立ち上がる(208・209)より、後期後半(今塩屋・松永編年の7期)のものと考えられる。

古 代

古代の遺構としては、溝状遺構 1 条、土坑 18 基、焼土 11 基、性格不明遺構 1 基が確認され、これらの遺構に共伴して 9 世紀~ 10 世紀を中心とする土器が出土している。また、土坑 9 基、焼土 11 基の遺構については焼成を伴う作業の痕跡と考えられる。いずれも炭化物が出土しているほか、焼成粘土塊が $SC4 \sim 6 \cdot 11$ や焼土 $1 \cdot 2$ の遺構内や周辺等で認められている。

このうちSС4・SС5については隣接して確認されている。SС4については、底面(VII層御池軽石層)が被熱を受けて著しく赤化しているほか、焼けはじけた土器片や変形した坏も認められることから土器焼成土坑と考えられる。また土器片が多量に出土していることから、土器焼成土坑としての機能がなくなった後、廃棄場として使用されたものと考えられる。

また遺構内には、モモ核やイネ、ムギ属、ササゲ属(リョクトウ、アズキ、ササゲが含まれる)等の 種実が出土している。このうちモモの実は祭祀で使用された例があることから、土器焼成土坑を廃棄す る際に地鎮などの祭祀が行われた可能性がある。

SC5については、遺物量が少ないもののSC4と同様、底面(VIII層御池軽石層)が被熱を受けて著しく赤化しているほか、焼土上に褐灰色~にぶい黄橙色粘土が堆積していることから土器焼成土坑として使用された後、粘土を貯蔵するために再利用されていたものと考えられる。SC4とSC5の関係については、出土土器の接合関係やSC4上に褐灰色粘土が部分的に堆積していることからSC4廃棄後にSC5を構築、その後、粘土貯蔵用に転用されたものと考えられる。

都城市では、高城町穂満坊地区の真米田 (まめだ)遺跡で古代の土器焼成土坑が 2 基確認されている。どちらも 1 m規模の隅丸方形を呈しており、うち 1 基からは坏、もう 1 基からは甕のみが出土しており、器種別に焼成が行われていたことが指摘されている。本遺跡のものは、坏や高台付埦、赤彩のある土器、黒色土器、高台付鉢、甕、甑、須恵器、軽石製品等が廃棄されており、器種別なのか複数器種が焼成されていたのか不明である。時期について坏から見ていくと口径が $11\,\text{cm}\sim 12.9\,\text{cm}$ 、底径が $5.4\,\text{cm}\sim 6.3\,\text{cm}$ 、器高が $4.1\,\text{cm}\sim 5.3\,\text{cm}$ になり、底径の割合が口径に対して低く、馬渡遺跡の坏 II 群のものと類似すると考えられ、都城編年(近沢 2011)の 9 世紀第 3 四半期に相当する。甕については、ハケ目調整が入るものやタタキ調整、ナデ調整のものが見られるが、割合的にはタタキ調整ものが多い。

一方、SC 11 やSC 16、焼土 1・4・5を検出したD 13 グリッドやSC 12 周辺等で鉄滓が出土しているほか、鞴羽口についてもSC 11 やSC 16 周辺、金床石はSC 1 やSC 11・焼土5 で確認されており、これらの遺構等で鋳造が行われていた可能性が高い。

このように古代になると住居の跡等が検出されなかったことから生業の場へと変化したことが窺える。河川近くに配置していることから火災や煙などに対応したものと考えられ、集落はA区南東方もしくはB区南方に展開したものと考えられる。

またB区で確認された性格不明遺構については、黒色土器(高台付埦等)が入れ子状に重なって出土

している。前述のとおり、遺構の可能性は低く、水穴など自然陥没したものの可能性があり、ある程度埋没した段階で地鎮などの祭祀を行った可能性がある。近隣では、山城第1遺跡(第3次調査)A区の古代1号掘立柱建物跡の柱穴の一つに土器等が一括投棄された事例もあり、この時期の祭祀の在り方を示すものとして重要である。なお黒色土器については、真米田遺跡等9世紀第3四半期の高台付埦で類似する器形が認められるが、本遺跡のものは高台が退化し三角形を呈することから9世紀第3四半期から10世紀まで下がる可能性がある。

参考文献

石川悦夫 1984「宮崎平野部における弥生土器編年試案-素描(Mk.Ⅱ)」『宮崎考古第9号』宮崎考古学会

今塩屋毅行・松永幸寿 2002「日向における古墳時代中〜後期の土師器」一宮崎平野部を中心にして― 『古墳時代中・後期の土師器―その編年と地域性― 第5回九州前方後円墳研究会』九州前方後円墳研究会 実行委員会

宇土市 2003『新宇土市史』通史編第一巻 自然・原始古代

岡元武憲 1991「日向における古代末の土器」『中近世土器の基礎研究VII』日本中世土器研究会

岡元武憲 1995「13. 九州南部」『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社

高城町教育委員会 2004『細井地区遺跡群』高城町文化財調査報告書第14集

近沢恒典 2016「都城盆地における古墳時代の土師器について」『第 27 年度宮崎考古学会研究会 宮崎県央地域の考古資料に関する編年的研究 II 』宮崎考古学会

近沢恒典 2016「都城盆地の古代土師器の編年について」『第 23 年度埋蔵文化財文化財担当専門職員研修会』 宮崎県埋蔵文化財文化財センター

堂込秀人 1997「南九州縄文晩期土器の再検討―入佐式と黒川式の細分―」『鹿児島考古第 31 号』鹿児島県考古学会

戸沢充則編 1994『縄文時代研究事典』株式会社東京堂出版

藤尾慎一郎 2009「弥生時代の実年代」『弥生農耕のはじまりとその年代 新弥生時代のはじまり第4巻』雄山 閣

堀田孝博 2014「宮崎平野部における平安時代の土器について - 土師器供膳具を中心に-」『宮崎考古第 23 号 日髙正晴先生追悼記念号(上巻)』宮崎考古学会

松永幸寿 2001「宮崎平野部における弥生後期中葉~古墳時代中期の土器編年」『宮崎考古第 17 号』宮崎考古 学会

水ノ江和同 2009「黒川式土器の再検討―九州の縄文時代晩期土器―」『弥生農耕のはじまりとその年代 新弥 生時代のはじまり第4巻』雄山閣

宮地聡一郎 2008「黒色磨研土器」『総覧 縄文土器』アム・プロポーション

都城市教育委員会 2004『馬渡遺跡』都城市文化財調査報告書第62集

都城市教育委員会 2006 『坂元 A 遺跡 坂元 B 遺跡』都城市文化財調査報告書第71集

都城市教育委員会 2007『今房遺跡』都城市文化財調査報告書第80集

都城市教育委員会 2007 『加治屋 B 遺跡(縄文時代・弥生時代編)』都城市文化財調査報告書第81集

都城市教育委員会 2008 『加治屋 B遺跡(平安時代~近世編)』都城市文化財調査報告書第86集

都城市教育委員会 2010『中尾下遺跡』都城市文化財調查報告書第98集

都城市教育委員会 2014『真米田遺跡 七日市前遺跡』都城市文化財調査報告書第 111 集

宮崎県埋蔵文化財センター 2000『右葛ヶ迫遺跡』宮崎県埋蔵文化財文化財センター発掘調査報告書第 21 集

宮崎県埋蔵文化財センター 2008『筆無遺跡』宮崎県埋蔵文化財文化財センター発掘調査報告書第 166 集

宮崎県埋蔵文化財センター 2008『国指定史跡 大島畠田遺跡』宮崎県埋蔵文化財文化財センター発掘調査報告書第 178 集

宮崎県埋蔵文化財センター 2011『板平遺跡(第3・4次調査)』宮崎県埋蔵文化財文化財センター発掘調査報告書第199集

宮崎県埋蔵文化財センター 2012『平峰遺跡(1次・2次調査)』宮崎県埋蔵文化財文化財センター発掘調査報告書第211集

宮崎県埋蔵文化財センター 2012『平峰遺跡 (3次調査)』宮崎県埋蔵文化財文化財センター発掘調査報告書第 219集

宮崎県埋蔵文化財センター 2013『宮ケ迫遺跡』宮崎県埋蔵文化財文化財センター発掘調査報告書第 228 集

宮崎市教育委員会 2008『下村窯跡群報告書Ⅱ』〈遺物編〉宮崎市文化財調査報告書第72集

宮崎市教育委員会 2014『宮ケ迫遺跡』宮崎市文化財調査報告書第 100 集

森隆 1990「西日本の黒色土器生産(上)」『考古学研究』第37巻第2号

森隆 1990「西日本の黒色土器生産(中)」『考古学研究』第37巻第3号

森隆 1991「西日本の黒色土器生産(下)」『考古学研究』第37巻第4号

写真図版

図版 1



大窪第1遺跡 調査区(モザイク合成)



大窪第1遺跡 遺跡遠景1(北東より)



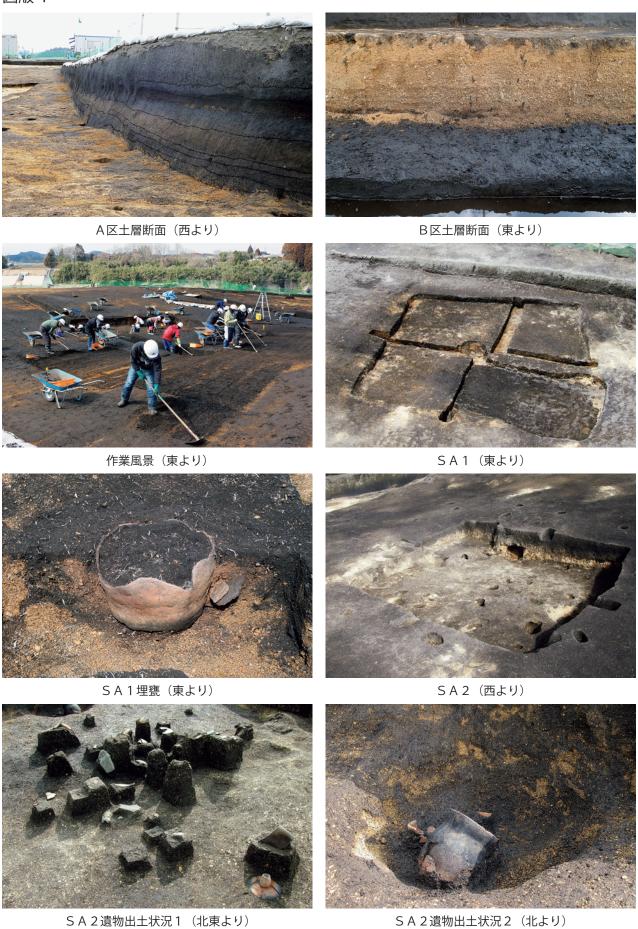
大窪第1遺跡 調査区遺跡遠景2 (西より)



A区(モザイク合成)



B区(モザイク合成)

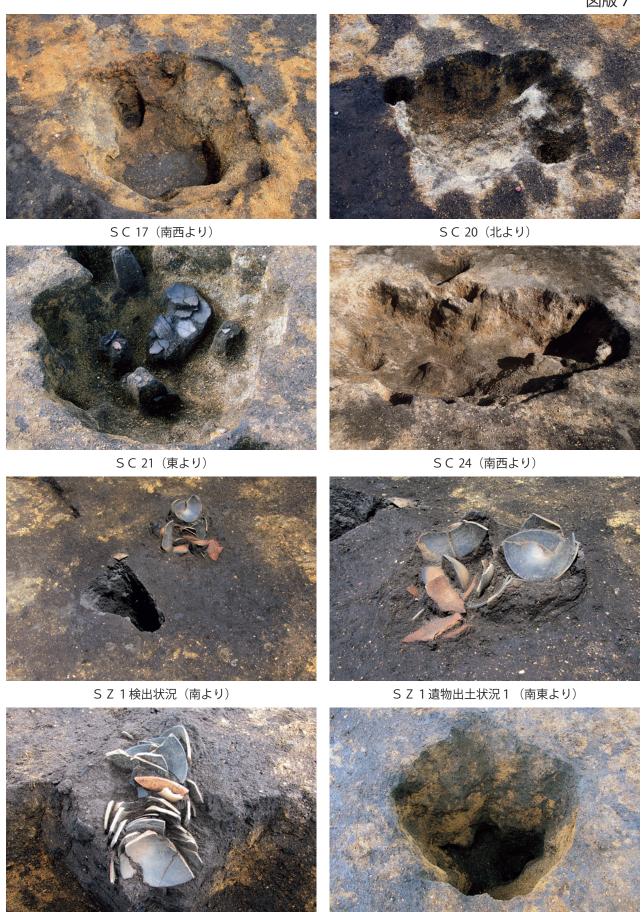


- 138 -





- 140 -



- 141 -

S Z 1 完掘状況(南より)

SZ1遺物出土状況2(上部を外した状態、南より)



縄文土器6 縄文土器 5



掻器・削器

137

石匙・楔形石器・尖頭器・石核

152



弥生土器 2

磨製石鏃・石庖丁



SA1出土遺物



SA2出土遺物







S A 3 出土遺物 1



SA3出土遺物2



SA3出土遺物3



SA4出土遺物



古墳時代土師器 (甕)





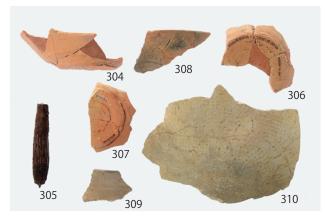
古墳時代土師器(小型壺・小型鉢・須恵器)



古墳時代土師器 (高坏)



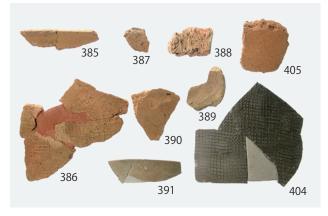
鉄製品



SE1・SC1出土遺物



SC5出土遺物



SC6・11・12・焼土出土遺物



SC13出土遺物



S C 14 出土遺物



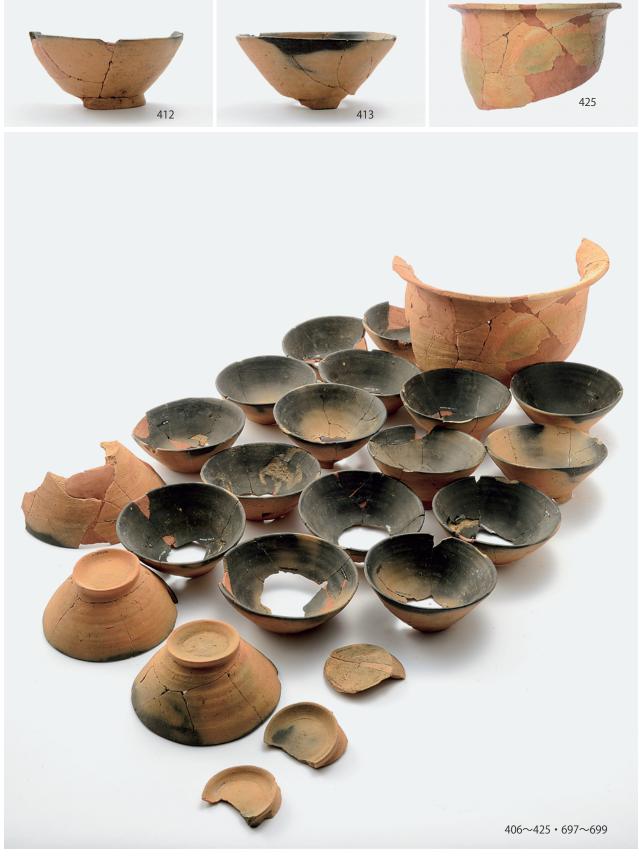


S C 4 出土遺物 1 - 149 -

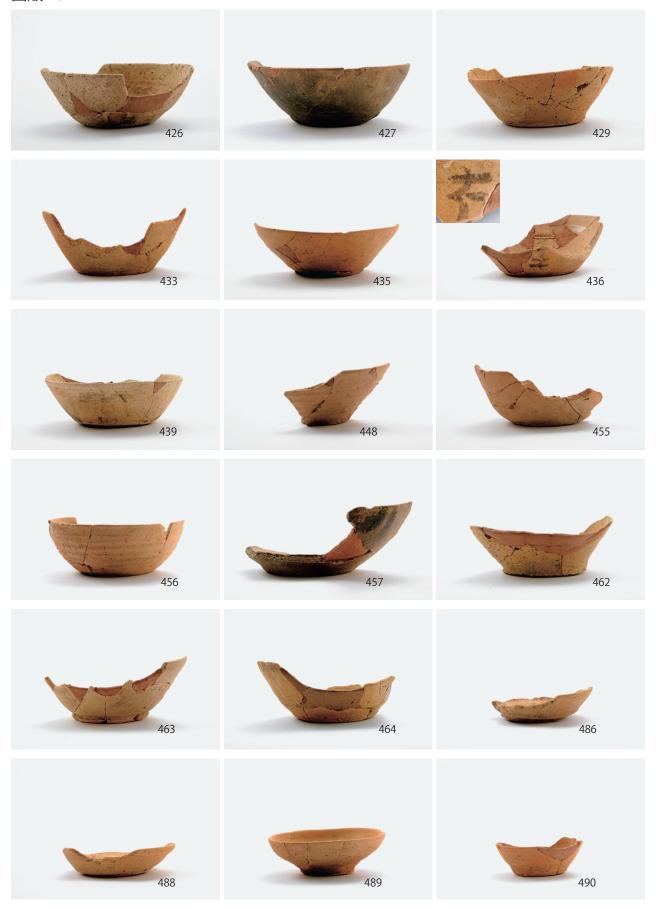
図版 16



S Z 1 出土遺物 1



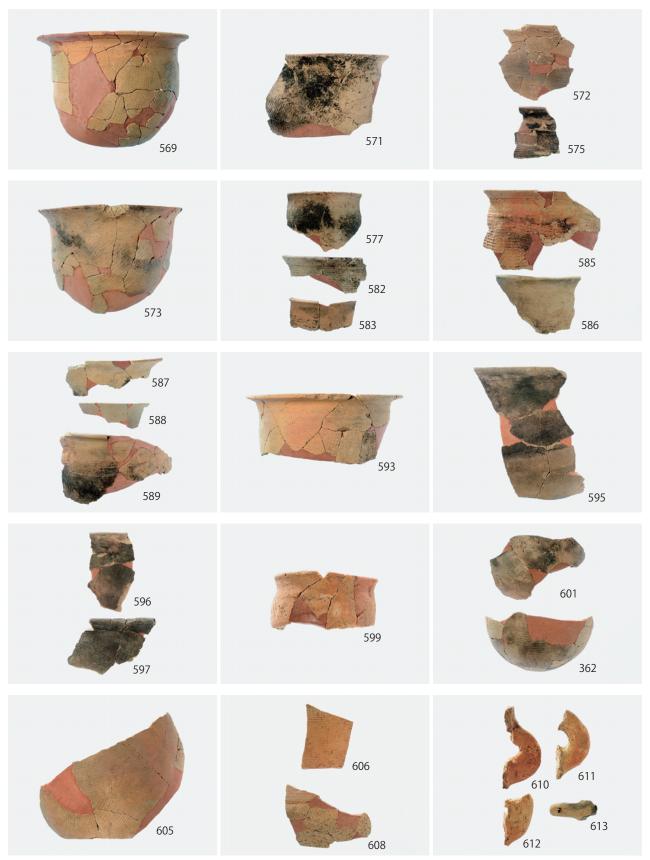
SZ1出土遺物2



古代土師器 (坏)



古代土師器(高台付埦・鉢・赤彩のある土器・黒色土器)



古代土師器(甕・甑)



古代土師器(布痕土器)

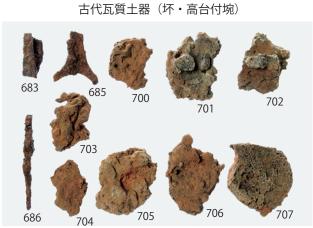


古代須恵器(坏・高台付埦)

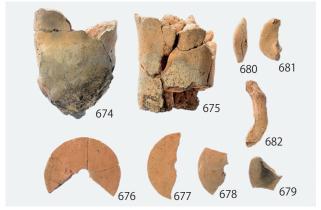


古代須恵器(鉢・甕・壺)





古代鉄製品・鉄滓



古代土製品



古代滑石製品・石製品・軽石製品

報告書抄録

				1 1	<u>^ </u>	ゴ リノ ÷						
ふりぇ	がな	おおくほ	おおくぼだい 1 いせき									
書	名	大窪第1遺跡										
副書名		西久保地区河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書										
シリーズ名		宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書										
シリーズ番号		第238集										
編著者名		日髙 広人 吉本 正典										
発行機関		宮崎県埋蔵文化財センター										
所 在 地		〒 880-0212 宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地 TEL 0985-36-1172										
発行年	月日	2016年3月25日										
ふりがな 所収遺跡名		が 方 不	まりがな 所 在 地		ード 遺跡番号	北緯	東 経	調査期間	調査面	積	調査原因	
大窪第1遺跡		海やざきけんみやこのじょうし 宮崎県都城市 たかじょうちょうありみず 高城町有水 1223 — 36 ほか		45202	TJ5027	31 度 52 分 5秒 付近	131 度 6分 58 秒 付近	20130410 ~ 20140314	10,000㎡		記録保存調査	
種別主な時代		な時代	主な遺構			主な遺物				特記事項		
縄文時 弥生時		代	土坑9基			縄文土器、石器						
		代 竪穴建物路		亦 1 軒		弥生土器、石器						
集 落散布地	古墳時代		竪穴建物跡 4 軒			土師器、須恵器、土製品、鉄製品、石器、 軽石製品				竪穴建物跡内から鞴羽口と金床 石が出土		
	古代以降		溝状遺構 1 条、土坑 18 基 焼土 11 基、 性格不明遺構 1 基			土師器、須恵器、瓦質土器、土製品、 滑石製品、石製品、軽石製品				土器燒成土坑		
要約		査の結果、 竪穴建物 また古代	縄文時代 跡 4 軒を確	~古代以 認し、そ 焼成土切	(降にかけ そのうちの たや鞴羽口	トての遺構 O 1 軒から	と遺物が は鞴羽口	確認されいる Iと金床石とい	。なか いった鉄	でも _{詩造関}	跡である。調 古墳時代では 関係の遺物が、 なつかるなど、	

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第238集 大窪第1遺跡

西久保地区河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2016年3月

発行 宮崎県埋蔵文化財センター

〒 880-0212 宮崎市佐土原町大字下那珂 4019 番地

TEL 0985(36)1171 FAX 0985(76)0660

印刷 ダイヤモンド秀巧社印刷株式会社 宮崎支店

〒 880-0803 宮崎市旭 1-8-14 旭ビル3階

TEL 0985(24)1072 FAX 0985(26)0925

Miyakonojo City

OKUBO 1 Site

The Excavational Investigation Report of Miyazaki Prefecture Archaeological Center vol.238

2016

Miyazaki Prefecture Archaeological Center